

2023年度 点検評価改善報告書
[教育研究活動報告]



西南女学院大学
西南女学院大学短期大学部

大 学

保健福祉学部

看護学科

学長・教授

浅野 嘉延

■ 学歴

1. 1983 年 山口大学医学部卒業

■ 学位

1. 1989 年 医学博士（九州大学）

■ 研究分野

1. 内科学
2. 看護教育学
3. 疫学・保健統計学
4. 大学運営学

■ 研究キーワード

1. 血液内科
2. 看護教育
3. 疫学・保健統計
4. 大学運営

■ 研究課題

1. 2007 年に本学に奉職して依頼、医療現場での臨床医と看護大学における教員の経験を同時に有する立場を生かして、看護学生に臨床現場で実際に必要となる知識・技術を、適切かつ効率的に教授する教育法の確立を目指してきた。これまで、患者サンプルを用いた実践的な教材の利用や、統計学の専門家ではない視線などから、6 冊のテキストを出版してきた（現在、200 校以上で教科書採用されている）。
2. 2021 年度 4 月より学長に就任し、本学が社会から求められる大学であり続けるための大学運営の在り方を模索している。

■ 担当授業科目

1. キリスト教と西南女学院のあゆみ（前期）（看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科、観光文化学科）
2. 疾病学各論Ⅰ（前期）（看護学科）
3. 疾病学各論Ⅱ（前期）（看護学科）
4. 保健統計学（後期）（看護学科）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【キリスト教と西南女学院のあゆみ】 5学科の1年生に対して、本学の歴史とキリスト教主義教育について解説した。複数の教員によるオムニバス形式で進行したが、私は学長として初回到西南女学院の歴史を紹介し、本学の学生であることに自信と矜持を持つように強調した。「感恩奉仕」という共通の精神基盤のうえで学部学科を超えて高めあうことの大切さにも言及した。
2.	授業科目名【疾病学各論Ⅰ・Ⅱ】 臨床経験が豊かな専門医によってオムニバス形式で行った。私（内科医）は内科疾患30コマを担当した。自著の教科書「看護のための臨床病態学（改訂5版）」を使用して、内科疾患の系統的な講義を行った。学生が興味を持てるように臨床現場での経験なども紹介した。また、看護師国家試験で出題頻度が高い分野であるため、国家試験の過去問題の解説も行った。 小児科疾患8コマは笹月教授（小児科医）が担当し、外科疾患6コマ・麻酔科疾患1コマ、婦人科疾患3コマ・精神科疾患8コマ、耳鼻科1コマなどは医療機関に勤務する専門医の外部講師が担当した。最新の医療知識を教授できたと考える。 疾患に関する知識を伝えるだけでなく、病める患者と向き合う医療者としての心構えも教授するように心がけた。
3.	授業科目名【保健統計学】 看護学科の学生にとって数少ない社会医学の系統講義である。馴染みの薄い分野であるので、自著の教科書「看護学生のための疫学保健統計（改訂4版）」を使用して、基礎から分かりやすく解説した。毎回の授業の最初に前回の復習を行い、繰り返し説明を行うようにした。また、保健師国家試験で出題頻度が高い分野であるため、国家試験の過去問題の解説も行った。 授業中に統計データから「社会問題を考察する」「表をグラフ化する」などのレポートを課した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1983年6月～現在	日本内科学会	指導医・認定医（1993年9月～現在） 専門医（1993年10月～現在） 認定医・専門医試験の病歴評価担当
2.	1985年6月～現在	日本血液学会	指導医・認定医（1993年9月～現在） 専門医（1993年10月～現在） 功労会員（2023年4月～現在） 九州支部評議員（2011年4月～現在）
3.	1986年6月～現在	日本癌学会	
4.	1998年12月～現在	アメリカ内科学会	上級会員 FACP（2000年1月～現在）
6.	1995年4月～現在	日本医師会	認定産業医（2001年5月～現在）

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の 別	発行所、発表雑誌 等又は発表学会 等の名称	概 要
(教科書／単独執筆)					
1.	2023 年 9 月	看護学生のため の疫学・保健 統計（改訂 4 版）	単著	南山堂（全 206 ページ）	著者：浅野嘉延 疫学・保健統計学の基礎を分かりやす く解説した。
(教科書／分担執筆)					
2.	2023 年 4 月	救急医療	単著	看護のための臨 床病態学（改訂 5 版） p808- 817、南山堂	救急医療の知識と技術を解説した。
3.	2023 年 4 月	内科診療の実 際	単著	なるほどなっ とく！内科学（改 訂 3 版） p2- 23、南山堂	チーム医療、医療面接、身体診察など を解説した。
(教科書／編集)					
4.	2023 年 4 月	看護のための 臨床病態学 （改訂 5 版）	共同	南山堂（全 855 ページ）	編集：浅野嘉延、吉山直樹 医学の進歩や社会状況の変化にともな い改訂 4 版よりアップデートした。
5.	2023 年 4 月	なるほどなっ とく！内科学 （改訂 3 版）	単独	南山堂（全 668 ページ）	編集：浅野嘉延 医学の進歩や社会状況の変化にともな い改訂 2 版よりアップデートした。
(雑誌)					
6.	2023 年 4 月	検査値まるわ かりカード	共同	プチナース 4 月 号付録, 照林社	看護学生に必要な検査値をコンパクト にまとめた。
(その他の執筆)					
7.	2023 年	西南女学院 100 年のあゆ み	共同	ゼンリンプリン ティックス （全 240 ペー ジ）	編集：西南女学院創立 100 周年記念誌 編集委員会（編集委員長：浅野嘉延） 西南女学院の 100 年のあゆみを記念誌 として発刊した。
8.	2023 年	「感恩奉仕」 の精神を未来 につなぐ	単著	西南女学院 100 年のあゆみ p.12	学長としての挨拶
9.	2023 年	編集後記	単著	西南女学院 100 年のあゆみ p239	編集委員長としての編集後記
10.	2023 年 4	巻頭言	単著	看護のための臨	編集者としての巻頭言

	月			床病態学（改訂 5 版）	
11.	2023 年 4 月	巻頭言	単著	なるほどなっと く！内科学（改 訂 3 版）	編集者としての巻頭言
12.	2023 年	学長メッセー ジ	単著	西南女学院大学 2024 入学案内 5	高校生を対象とした大学の紹介とメッ セージ。
13.	2023 年 4 月	学長メッセー ジ	単著	西南女学院大学 ホームページ	新年度における学内外への学長メッセ ージ
14.	2023 年 5 月	修養が広くな ければ完全な 士と云ふ可か れ	単著	西南女学院月報 709:2	巻頭言
15.	2023 年 7 月	ChatGTP の 利用について	単著	西南女学院大学 ホームページ	生成系 AI の利用に関する学長メッセー ジ
16.	2023 年 8 月	100 周年記念 誌「西南女学 院 100 年のあ ゆみ」を発刊 しました	単著	広報西南女学院 104, 2	100 周年記念誌発刊の報告
17.	2023 年 8 月	ウクライナか らの留学生に ついて	単著	西南女学院大学 ホームページ	ウクライナ留学生の報告
18.	2023 年 10 月	地球温暖化と 健康被害	単著	しおんのそのあ ゆみ 10 月号	巻頭言
19.	2023 年 11 月	医療制度の崩 壊	単著	西南女学院月報 715, 2	巻頭言
20.	2023 年 11 月	女子大学の教 員となって	単著	九州大学第一内 科同門会報 2023	学長就任の報告
21.	2024 年 1 月	能登半島地震 により被災さ れた皆さまへ	単著	西南女学院大学 ホームページ	地震被災者へのメッセージ
(学術論文)					
(翻訳)					
(学会発表)					
(講演)					

1.	2023 年 7 月	社会問題と医療		2022 年度シニアサマーカレッジ（北九州）	高齢者を対象に医療問題を解説
2.	2023 年 9 月	命の大切さ		あおぞら高校講演（北九州）	高校生を対象に命の大切さを講演
（挨拶）					
1.	2023 年 4 月	入学式式辞		西南女学院大学入学式（2023.4.4）	学長式辞
2.	2023 年 4 月	入園式式辞		シオン山幼稚園入園式（2023.4.13）	学長式辞
3.	2023 年 5 月	開講式式辞		ファーストレベル開講式（2023.5.13）	学長式辞
4.	2023 年 8 月	閉講式式辞		ファーストレベル閉講式（2023.8.26）	学長式辞
5.	2023 年 9 月	卒業式式辞		秋の卒業式（2023.9.22）	学長式辞
6.	2023 年 12 月	閉講式式辞		セカンドレベル閉講式（2023.12.16）	学長式辞
7.	2023 年 1 月	年頭所感（西南女学院の危機と改革）		全教職員との集会（2024.1.4）	財政状態と今後の方針を報告
8.	2023 年 3 月	卒業式式辞		西南女学院大学卒業式（2024.3.19）	学長式辞
（メール配信）					
1.	2023 年 4 月	学長メッセージ		全教職員へメール（2023.4.7）	年度初めのメッセージ
2.	2023 年 6 月	学長メッセージ（臨時）		全教職員へメール（2023.6.12）	大学改革などのメッセージ
3.	2023 年 9 月	学長メッセージ		全教職員へメール（2023.9.27）	後期始めのメッセージ
4.	2024 年 1 月	学長メッセージ		全教職員へメール（2024.1.5）	年頭のメッセージ

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	なし			

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	なし			

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2016 年 6 月～現在	医療法人起生会 大原病院	産業医
2.	2015 年 4 月～現在	北九州市立医療センター	医の倫理委員
3.	2021 年 4 月～現在	九州労災病院	治験審査委員会委員
4.	2021 年 4 月～現在		研究倫理委員会委員
5.	2021 年 4 月～現在		臨床研修管理委員
6.	2021 年 4 月～現在	社会福祉法人 福音会	理事長

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2011 年 4 月～現在	西南女学院評議員会	評議員
2.	2016 年 8 月～現在	地域連携室運営協議会	委員
3.	2019 年 4 月～現在	西南女学院理事会	理事
4.	2021 年 4 月～現在	西南女学院大学・大学短期大学部	学長
5.	2021 年 4 月～現在	西南女学院理事会	常任理事
6.	2021 年 4 月～現在	将来計画検討プロジェクト	メンバー
7.	2021 年 4 月～現在	公的研究費運営管理部門	最高管理責任者
8.	2023 年 10 月～現在	将来計画委員会	委員長

教授

伊藤 直子

■ 学歴

1. 1976 年 九州大学医療技術短期大学部看護科 卒業
2. 1977 年 福岡県立看護専門学科保健婦助産婦科 卒業
3. 1987 年 国立公衆衛生院専攻課程看護コース 修了
4. 1996 年 佛教大学社会学部社会学科 卒業

■ 学位

1. 1996 年 学士（社会学）

■ 研究分野

1. 公衆衛生看護学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 公衆衛生看護
2. 地域包括ケア
- 3.

■ 研究課題

1. 行政における看護職である保健師の機能と役割について、考察する。また、それらの機能を学ぶための学士課程実習での教育方法を検討する。
2. 地域包括ケアシステムにおける看護職の機能について検討する。

■ 担当授業科目

1. 公衆衛生看護学概論（前期） 必須
2. 保健福祉学入門（前期） 必須
3. 保健医療福祉行政と政策（前期） 選択
4. 公衆衛生看護管理演習（後期） 選択
5. 公衆衛生看護学実習（前期） 選択
6. 地域母子保健（助産別科）（前期） 必須
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【公衆衛生看護学概論】 公衆衛生看護学概論は、2023年度より2年生の前期必修科目として配置された。 第1回の授業では、本科目を学ぶ意義について、生活者としての視点をおいた説明を行い、毎時の授業では、講義開始の冒頭で本時の学習目的を学生の理解しやすい言葉で説明した。毎時のコメントカードで得られた学習内容への質問・意見等は次の講義冒頭に還元し、学習内容の理解に努めた。講義形式ではあるが、学生と教員の双方向コミュニケーションを心掛け、授業成果を共有することに努めた。
2.	授業科目名【保健医療福祉行政と政策】 保健医療福祉行政と政策は、3年生前期に配置された選択科目である。保健師課程の学生には必修科目となっているが、保健師課程を選択していないが科目内容に関心があり受講した学生もいる。 科目内容は、既習した保健医療福祉の知識を基盤に、行政の施策及び政策の策定まで学習する内容となっているため、現存する日本における制度について具体的事例を通して、思考する構成としているため、クラスルームを活用し、アクティブラーニングを実施した。 結果、授業評価の質評価において、意図した主体的学習を促すための教育方法については、一定の成果を上げたと評価できる。
3.	授業科目名【保健福祉学入門】 保健福祉学入門は、1年生前期に配置された必修科目である。保健福祉学部教育への導入科目となっている。看護学科、福祉学科及び栄養学科における学びをスタートするにあたり、保健・医療・福祉の専門性を理解するために本学教員の学問領域にふれ、多職種協働の意義を理解し、社会の期待に応えるための課題の認識を深めていくものである。 オムニバス形式の講義となるため、講義開始前の導入について、担当講師との打合せおよび調整を行った。各々の学科の学生は、他学科の教員の講義を聴くことで、自身の学ぶ学問領域の関心を深め、他職種と協働していくことの重要性を考えていくこと目的としている。
4.	授業科目名【公衆衛生看護学実習】 公衆衛生看護学実習は、2023年度においてもコロナ禍の影響を受ける状況の中での実習ではあったが、学生の学習意欲及び効果が得られるよう教員間の情報交換を密に行いながら、教育支援を行ったことにより、学生の教育支援が効果的に運営された。実習環境は行政の対応により異なるが、学習成果の達成状況に大きく差は見られず、全員の学生が到達レベルに達することができた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1979年4月～現在に至る	日本公衆衛生学会	
2.	1989年4月～現在に至る	日本地域看護学会	
3.	2000年9月～現在に至る	日本在宅ケア学会	
4.	2002年9月～現在に至る	日本医療・病院管理学会	
5.	2003年2月～現在に至る	日本看護学教育学会	
6.	2003年8月～現在に至る	日本高齢者虐待防止学会	

7.	2005 年 6 月～現在に至る	日本健康教育学会	
8.	2008 年 4 月～現在に至る	日本看護研究学会	
9.	2008 年 4 月～現在に至る	日本看護科学学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.				
2.				
3.				

（2） 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
1.				

2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2005 年 4 月～現在に至る	日本看護系大学協会	会員
2.	2005 年 4 月～現在に至る	粕屋町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定協議会	委員
3.	2006 年 4 月～現在に至る	粕屋町地域包括支援センター・地域密着型介護サービス運営協議会	委員
4.	2007 年 4 月～現在に至る	福岡県介護保険審査会	専門調査員
5.	2015 年 4 月～現在に至る	全国保健師教育機関協議会	社員
6.	2016 年 4 月～現在に至る	福岡県総合計画審議会	委員
7.	2018 年 2 月～現在に至る	行橋市地域保健計画推進委員会	委員
8.	2021 年 4 月～現在に至る	日本看護学会学術集会	抄録選考委員
9.	2023 年 4 月～現在に至る	北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議 介護予防・活躍推進に関する会議	座長
10.	2023 年 4 月～現在に至る	北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議 調整会議	副座長
11.	2023 年 4 月～現在に至る	北九州市健康づくり懇話会	座長

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2021 年 4 月～現在に至る	大学保健福祉学部	学部長
2.	2021 年 4 月～現在に至る	学校法人西南女学院	理事・評議員
3.	2022 年 4 月～現在に至る	大学・短期大学部	副学長

教授
梶原 江美

■ 学歴

1. 2003 年 佐賀医科大学大学院医学系研究科看護学専攻修士課程修了

■ 学位

1. 2003 年 修士（看護学）

■ 研究分野

1. 基礎看護学
2. 看護教育学
- 3.

■ 研究キーワード

1. ラテックスアレルギー
2. 看護基礎教育
3. ケアリング

■ 研究課題

1. ラテックスアレルギーの予防に関する研究
2. 看護基礎教育における効果的な教育方法に関する研究
3. ケアリングに関する研究

■ 担当授業科目

1. 看護技術論演習（前期）（看護学科）必修
2. 生活援助技術論演習（後期）（看護学科）必修
3. ヘルスアセスメント演習（後期）（看護学科）必修
4. 診療関連技術論演習（前期）（看護学科）必修
5. 看護過程論（前期）（看護学科）必修
6. 基礎看護学実習Ⅰ（後期）（看護学科）必修
7. 基礎看護学実習Ⅱ（前期）（看護学科）必修
8. 看護総合演習（前期・後期）（看護学科）必修
9. 看護総合実習（前期・後期）（看護学科）必修

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|----------------|
| 1. | 授業科目名【看護技術論演習】 |
|----|----------------|

	演習では、事前の動画視聴を促すとともに実際にデモンストレーションでの要点の確認と身体の使い方について解説をしたのちに学生の実施に入るよう構成した。また、学生の実施の状況を見ながら、適宜、AV 機器を活用して技術の実際について解説を加えた。看護技術の原則の他、看護技術のコツについても実際に教員がやって見せながら指導することを心がけた。
2.	授業科目名【生活援助技術論演習】 前期で学修した内容を相互演習での声かけやボディメカニクスでの活用、動画教材を予習として取り入れ、自分の日常生活行動の振り返りをして演習に臨む、演習開始時に要点を押さえて、実際に教員がやって見せながら助言を行い指導に活かした。Google フォームを活用し、学生から質問や意見を求めて必要時解説した。
3.	授業科目名【ヘルスアセスメント演習】 演習指導や実技試験の評価を通して、看護形態機能学の知識に基づいたアセスメントの考え方を説明し、理解を深めていけるよう努めた。また、実技試験項目であるバイタルサインは、技術面として①コロトコフ音の聴取、②減圧時の指の巧緻性、③値の読み取りが学生の苦手部分となるため、重点的に助言をするよう心がけた。
4.	授業科目名【診療関連技術論演習】 AV 機器を活用して要点を押さえる他、学生自身のピア学習の助言について学生の理解を確認しながら説明が不足する部分の助言を行った。また、無菌操作や酸素の取扱いが患者の命に直結することを意識して助言を行った。
5.	授業科目名【看護過程論】 基礎看護学実習Ⅱと連動し、看護過程の基本的な考え方の他、地域包括ケアシステムの中に存在する患者として退院後の患者の生活を意識するように授業やワークを行う記録用紙に反映した。記録については記録要領を作成し理解を促した。また、授業での学習の理解度や進度に合わせて、授業の時間に教員のフィードバックを新たに設けるほか、学生の質問には個別に対応して理解を促した。
6.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 基礎看護学実習Ⅰは、1 年次後期必修科目 1 単位の実習形式で行う。 1 週間ずつ 2 施設での実習施設との調整を経て、実習指導を行った。初めて担当患者をもって患者と接する実習であるため、学生の不安をやわらげながらも適度の緊張を持ちつつ、実習が円滑に進むよう実習指導者との調整を行った。
7.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 基礎看護学実習Ⅱは、2 年次前期必修科目 2 単位の実習形式で行う。 他領域の助教助手の支援も仰ぎ、2 週間にわたって担当患者（学生 2 名に対して 1 名の患者）の看護過程の展開の指導を行った。看護過程論での学びを活かし、日々変化する患者の状態についての解説を行うなど実習指導者と調整しながら実習を進めた。
8.	授業科目名【看護総合演習】 ゼミ生 6 名に対して、看護総合実習に向けて、テーマ選択から文献収集、文献を用いた抄読会を実施し、実習目的を達成するための学習力や発信力（プレゼンおよび討議）を意図した関わりを行った。また、実習後は、実習成果の発表に向けた資料準備などを通して実習を通して関心を持った自分のテーマについての思考を整理につなげた。併せて、次年度は看護師として働いていることを想定した意識づけや国家試験対策についても支援した。
9.	授業科目名【看護総合実習】

	学生が複数の患者を受け持つ、実習の中で自ら看護師と調整をする、チーム医療を考える機会とするなど目的意識を持って自ら学ぶ実習にすることを目指して支援した。
--	---

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1996 年 4 月～現在に至る	日本看護協会会員	
2.	2000 年 9 月～現在に至る	日本看護研究学会会員	
3.	2003 年 3 月～現在に至る	日本看護科学学会会員	
	2003 年 5 月～現在に至る	日本看護診断学会会員	
	2005 年 4 月～現在に至る	日本看護学教育学会会員	
	2010 年 4 月～現在に至る	日本看護技術学会会員	選挙管理委員会委員(2021 年 7 月～2023 年)
	2011 年 2 月～現在に至る	日本看護倫理学会会員	
	2011 年 12 月～現在に至る	STTI 会員	
	2012 年 7 月～現在に至る	日本看護管理学会会員	
	2015 年 4 月～現在に至る	日本ラテックスアレルギー研究会会員	
	2019 年～現在に至る	特定非営利活動法人日本コ克蘭センター	
	2018 年 5 月～現在に至る	日本看護福祉学会	
	2020 年 2 月～現在に至る	日本医療・病院管理学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	2023. 4	看護師との関わりを通して得た患者のケアリング体験	共	日本看護倫理学会誌 15 巻 1 号 P.31～P.39	看護師との関わりにおける患者のケアリング体験を明らかにするために、入院経験のある対象者に半構造的面接を行い分析した。テーマ分析の結果、4 つのテーマおよび 7 つのサブテーマが生成された。患者のケアリング体験を深化させるためには、個の看護師の態度や専門性の向上に加え、組織的スキルの向上が必

					要であることが示唆された。 共著者：小野聡子，伊東美佐江，村上京子，梶原江美 本人担当部分：研究代表者や共同研究者とともに結果考察の検討を行った。
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1.	ラテックスアレルギー予防に向けたタンパク質フリー天然ゴム素材の開発	文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究（C）	○梶原江美 （山本祥正、飯野英親）	4,290,000 円
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

任期 期間等	団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等
-----------	--------------------	------

1.	2023 年 12 月	第 43 回日本看護科学学会学術集会	座長
2.	2023 年 12 月	第 43 回日本看護科学学会学術集会	実行委員
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2022 年 4 月～現在に至る	入学試験会議	
2.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	紀要委員会	委員長
3.	2023 年 10 月～現在に至る	大学将来構想ワーキンググループ	
4.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	内部監査委員会	責任者
5.	2022 年 4 月～2024 年 3 月	外部資金導入促進プロジェクト	
6.	2022 年 4 月～現在に至る	学科プロジェクト	科目運営リーダー
7.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	入学前課題検討会	
8.	2022 年 4 月～2024 年 3 月	1 年生アドバイザー	リーダー
9.	2022 年 4 月～現在に至る	4 年生アドバイザー	

教授

金山正子

■ 学歴

1. 1997 年 山口大学大学院経済学研究科修士課程修了

■ 学位

1. 1997 年 修士(経済学)

■ 研究分野

1. 基礎看護学
2. 看護教育
- 3.

■ 研究キーワード

1. 看護教育
2. 看護倫理
3. 看護学生

■ 研究課題

1. 看護学生の看護倫理に対する意識についての教育効果に関する研究
- 2.

■ 担当授業科目

1. 看護学概論 (前期) (看護学科) 必修
2. 看護倫理 (後期) (看護学科) 必修
3. 看護技術論演習 (前期) (看護学科) 必修
4. 生活援助技術論演習 (後期) (看護学科) 必修
5. 診療関連技術論演習 (前期) (看護学科) 必修
6. ヘルスアセスメント演習 (後期) (看護学科) 必修
7. 看護過程論 (前期) (看護学科) 必修
8. 看護理論 (前期) (看護学科) 選択
9. 看護キャリア形成論 (前期) (看護学科) 必修
10. 看護学特論 (後期) (看護学科) 選択
11. 基礎看護学実習 I
12. 基礎看護学実習 II (前期) (看護学科) 必修
13. 看護総合演習 (前期) (看護学科) 必修
14. 看護総合実習 (前期) (看護学科) 必修

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【看護学概論】 入学してすぐに学ぶ基礎看護学の科目であり、主体的な学習態度と、看護観を修得する方法として、看護概念の学習では、学生が事前課題レポートを作成し、講義で意見交換や発表をするグループ学習を導入した。また、看護専門用語や看護関係の法律等についてわかりやすく理解できるように、教科書・配布資料により、学生の理解が進むように努めた。さらに、最新の看護の動向を講義内容に含めるように努めた。
2.	授業科目名【看護倫理】 2年次の学生に対して、看護倫理の基礎的知識の修得と臨床の看護現場で起こりうる倫理的課題と対応について考えるため、グループ学習による事例検討をとおして、看護倫理の考え方を相互に学び、理解できるように努めた。
3.	授業科目名【看護キャリア形成論】 2年次の学生に対して、看護専門職として、将来のキャリアプラン、ライフプランを考え、卒業までの学習や卒業後の進路を考える機会とした。第一回目に学生が受けた就職課実施のSPI性格検査の結果を基に、学生自身の強みと弱みを自己分析し、自己理解の一助とした。次に、働き方改革やワーク・ライフ・バランスについて課題レポートを提示し、将来の働き方を考える資料とした。また、看護専門職の先輩3人(①認定看護管理者(サードレベル)、看護部長の経験者、②精神科専門看護師の経験を持つ看護教員、③開業助産師)より、「看護キャリア形成の実際」の講演を導入し、学生が先輩から学びキャリアについて考える機会となった。
4.	授業科目名【看護理論】 看護理論のテキストにそって、主要な看護理論家の看護理論の特徴と看護実践への活用について概説し、課題レポートで理論の特徴と活用について考える機会を作った。
5.	授業科目名【看護過程論】 グループ学習への指導では、学生の学習内容を把握し、事例患者の理解や情報整理、アセスメント、全体像の把握、問題の抽出、計画立案などのプロセスに従って、助言や指導、提出物へのコメントなどを行い、学生の個別性に応じた指導を工夫した。
6.	授業科目名【看護技術論演習】 コミュニケーションと記録・報告の講義では、DVDや教科書と資料を活用して、視聴覚をとおして理解がすすむようにした。また、ベッドメイキングやシーツ交換の看護技術の演習においては、学生が技術を修得する様に助言、指導した。
7.	授業科目名【生活援助技術論演習】 看護技術の演習では、手順だけでなく、根拠を考えると、患者への安全、安楽、自立に十分配慮することや、対象への愛護的なかわり、声掛け、説明の方法やプライバシーへの配慮など、看護の基本技術に必要な助言・指導を行うように工夫した。
8.	授業科目名【ヘルスアセスメント演習】

	看護技術の演習では、手順だけでなく、根拠を考えると、患者への安全、安楽、自立に十分配慮することや、対象への愛護的なかわり、声掛け、説明の方法やプライバシーへの配慮など、看護の基本技術に必要な助言・指導を行うように工夫した。
9.	授業科目名【診療関連技術論演習】 診療関連の看護技術の演習については、手順だけでなく、根拠を考えると、患者への安全、安楽、自立に十分配慮することや、対象への愛護的なかわり、声掛け、説明の方法やプライバシーへの配慮など、看護の基本技術に必要な助言・指導を行うように工夫した。
10.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 1年次生2月の1週間の実習である。事前に病院と調整し、感染予防策を厳重に行い、学生が受持ち患者の看護について見学・実施を行い、電子カルテを参照することができるように配慮した。また、学生の情報収集やコミュニケーションの取り方、実習記録の作成などについて、助言や指導を行った。
11.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 事前に病院と調整し、感染予防策を厳重に行い、学生のグループを調整して実習した。電子カルテと観察から受持ち患者の情報収集と整理、アセスメント、全体像の把握、問題の抽出、計画立案、実施、評価のプロセスに従って、思考過程を学ぶ実習が円滑に進むように工夫し、助言・指導を行った。
12.	授業科目名【看護総合演習】 看護総合実習前の4月から8月までは、テーマの設定と設定理由についてレポートを作成し、実習計画を作成した。また、実習室では、シミュレータのフィジカルアセスメントモデル人形やシナリオを使用して、観察技術を修得できるように練習し、助言・指導を行った。実習後は、実習体験後の学びを発表する機会を持ち、また、テーマにそって実習体験を基にレポートを作成することについて、助言・指導を行った。
13.	授業科目名【看護総合実習】 事前に病院と調整し、感染予防対策を厳重にして病院で実習した。4年生であり、主体的に既習の看護の専門知識・技術を活用して、受持ち患者の看護を実践し、さらにチームリーダーや看護チームのシャドー実習、多職種連携やカンファレンスなどの実際から、看護師の役割について学び、看護観を形成することができるように、助言・指導を行った。
14.	授業科目名【看護学特論】 「看護実践と倫理」のテーマで、基礎的知識と最新の看護の動向(看護職の倫理綱領など)を取り入れて、講義を行った。また、事例を提供して倫理の視点から倫理的課題と対応について考える機会を持った。講義の終わりにミニテストを行い、国家試験の出題問題を意識して、知識の確認を行った。

■ 学会における活動

加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
------	----------	----------

1.	1990 年 4 月～現在に至る	日本看護研究学会	
2.	1990 年 4 月～2012 年、2014 年 4 月～現在に至る	日本看護科学学会	
3.			

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.				
2.				
3.				

（2） 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
1.				

2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～現在に至る	日本私立看護系大学協会	正会員
2.	2023 年 (ファーストレベル) 7 月 (セカンドレベル) 9 月	西南女学院大学看護キャリア支援センター 認定看護管理者教育課程	講師
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	就職委員会	委員
2.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	看護学科教務係	教務係
3.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	看護学科 2 年生アドバイザー、 4 年生アドバイザー	看護学科 2 年生アドバイザー長
4.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	看護学科共用試験導入対策係	共用試験導入対策係
5.	2023 年 4 月	その他:【文科省】「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業(メニュー2A)実習等に資するシミュレータ等の DX 設備整備」(9,592 千円)に関するシミュレータ等の設備整備と活用	2022 年度実績報告書の提出

教授
木村 政伸

■ 学歴

1. 九州大学大学院教育学研究科教育学専攻博士後期課程単位取得後退学

■ 学位

1. 博士（教育学）

■ 研究分野

1. 近世教育史
2. 近代学校社会史
- 3.

■ 研究キーワード

1. 識字教育
2. 文字社会
3. 運動会

■ 研究課題

1. 近世社会における文字学習の社会史的研究
2. 明治期中等教育における運動会・運動部の社会史的研究

■ 担当授業科目

1. 教育原理
2. 教職概論
3. 教育課程論
4. 教育方法論
5. 教育実習事前事後指導
6. 教職実践演習
7. 初年次セミナー I、II
8. 看護総合演習
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|-------------------------------------|
| 1. | 授業科目名【教育原理・教職概論・教育課程論・教育方法論】 |
| | ・毎回の授業の感想を書いてもらい、その内容を次回にフィードバックした。 |

	・多くの視聴覚教材を準備し、授業にリアリティを持たせるようにした。
2.	授業科目名【教職概論・教育課程論・教育方法論】 ・おおよそ半分の授業でグループワークを実施し、その成果を報告書として提出するようにした。 ・グループワークでのデータや意見の集約方法について指導し、報告書も箇条書きではなく図解するように求めることで理解を深めるようにした。 ・視聴覚教材やグループワークの成果を事前にクラスルームを通じて提示し、それを予習してくることを前提とした反転授業を複数回実施した。
3.	授業科目名【初年次セミナーⅠ・Ⅱ】 ・レポートの書き方について、段落分け、接続詞などに注意をして、論理的な文章を書けるように指導した。 ・多様な個性が集うことで新しい視野が広がるように、グループワークを広く取り入れた。特にⅡの最初の授業では5学科混成の授業を行い、多様な学生が集えるように工夫した。
4.	授業科目名【看護総合演習】 ・一人一人の学生の興味や関心を基本的な問いから始めることにより、より深く広い視野から課題に取り組めるように努めた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1981年～現在に至る	教育史学会	理事（～2025）
2.	1981年～現在に至る	九州教育学会	会長（～2023年11月）
3.	1981年～現在に至る	全国地方教育史学会	幹事（～2025）
4.	1987年～現在に至る	日本教育学会	理事（～2023年8月）

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	2024.3.31	「箇条書き」から「図解」	単著	西南女学院大学、教職論集、	グループワークにおける構成員の意見などをどう集約するかによって、学び

		へー思考を 深めるグル ープワーク の手法の探 究一		第2号	の深まりが違ってくる。多くの場合は、 箇条書きでとどまっている意見を、図解 することを通して整理・分類し、各ファ クター間の関係性を考えることで、より 深い学びにつながることを示した。
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 (単位：円)	
1.					
2.					
3.					

(2) 個人研究					
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考	
1.					
2.					
3.					

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	なし	自主夜間中学・福岡よみかき教室	代表
2.	～2024年度	日田市	咸宜園教育研究センター専門委

			員
2.	～2023 年度	北九州市	北九州市教員育成協議会委員
3.	～2024 年度	備前市	教育遺産世界遺産登録推進協議 会専門委員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2022 年度～現在に至る	教職課程委員会	委員長
2.			
3.			

教授
定永 敦司

■ 学歴

1. 2007 年 3 月 九州大学大学院医学系学府博士課程卒業

■ 学位

1. 2007 年 3 月 医学博士（臓器機能医学）

■ 研究分野

1. 膠原病
2.
3.

■ 研究キーワード

1. 膠原病
2.
3.

■ 研究課題

1. 膠原病とライフイベント
2.

■ 担当授業科目

※該当なし（2024 年度入職）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※該当なし（2024 年度入職）

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2000 年 5 月	日本内科学会	内科学会認定総合内科専門医
2.	2003 年 11 月	日本リウマチ学会	リウマチ専門医、指導医
3.			

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要

(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.			
2.			

3.			
----	--	--	--

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

※該当なし（2024 年度入職）

教授

原 頼子

■ 学歴

1. 2011 年 久留米大学大学院医学研究科博士課程 修了

■ 学位

1. 2011年 博士（医学）

■ 研究分野

1. 慢性期看護学
2. がん看護学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 糖尿病患者の QOL
2. 自己管理行動
3. がん治療中の糖尿病患者

■ 研究課題

1. がんを併存する糖尿病患者は、優先されるがんの治療薬や副作用によって、血糖コントロールが困難になる体験をする、その時にどのような思いを抱くのか、そのなかで、どのような対処をしているのかを知り、患者の自己効力感を低下させない支援方法について検討する。
- 2.

■ 担当授業科目

※該当なし（2024 年度入職）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※該当なし（2024 年度入職）

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2002 年 4 月～現在に至る	日本糖尿病教育・看護学会	学会誌査読委員（2018 年～2022 年）

2.	2004 年 4 月～現在に至る	日本看護科学学会	
3.	2008 年 4 月～現在に至る	日本糖尿病学会	
4.	2010 年 4 月～現在に至る	日本がん看護学会	評議員（2013 年～2016 年） 学会誌査読員（2016 年～2018 年）
5.	2010 年 4 月～現在に至る	日本緩和医療学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.	2023.2	緩和ケア病 棟看護師の ターミナル ケア態度に 影響する要 因-看護師の レジリエン スに着目し た分析	共同発表	第 37 回日本が ん看護学会学術 集会	① 緩和ケア病棟看護師のレジリエンス 得点は高く、終末期看護に影響して いた ② 共同発表者：太郎良純香、 <u>原 頼子</u> ③ 第 37 回日本がん看護学科抄録集 終末期看護（P ）
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者	交付決定額

			○代表者()内は学外者	(単位：円)
1.	喉頭全摘出者の退院後のQOL向上を目指す継続看護チームの介入: RCT による縦断調査	科学研究費	(○小竹久実子、鈴鴨よしみ、甲斐 一郎, 岩永 和代, 高橋 綾, 羽場 香織, 栗田 麻美, 石橋 曜子), 原 頼子, (新 裕紀子, 太田 一郎, 上村 裕和)	18,460,000 円
2.	高齢糖尿病患者における座位行動改善への介入方法の開発と検証	科学研究費	(○前野里子、藤田君支)、原 頼子	4,290,000 円
3.	腹膜透析を受ける高齢者と家族を支えるテレナーシングシステムの構築と検証	科学研究費	(○桐明あゆみ)、原 頼子、(河原田康貴、姫野深雪)	4,680,000 円

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	がん治療中の糖尿病患者のセルフケアを支援する領域間連携システムの構築	科学研究費	2,860,000 円	
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2008 年～2023 年	福岡県糖尿病療養指導士協会養成講習会	認定委員
2.	2015 年～2022 年	市民公開講座「グリーフケア」	講師
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

※該当なし（2024 年度入職）

教授

布花原 明子

■ 学歴

1. 2001 年 兵庫県立看護大学大学院看護学研究科地域看護学専攻 修了

■ 学位

1. 看護学修士

■ 研究分野

1. 公衆衛生看護学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 健康危機管理
2. 地域組織活動（地域開発）
3. 高年・若年妊産婦の育児ニーズと支援

■ 研究課題

1. 公衆衛生看護学に関して、感染症の健康危機管理において、特に行政管理職である保健師に求められる役割・機能を考察する。
2. 公衆衛生看護学に関して、母子（親子）保健におけるポピュレーションアプローチを中心に考察する。また、ハイリスクアプローチとの関連についても考察する。

■ 担当授業科目

1. 公衆衛生学（後期） 必修
2. 公衆衛生看護技術論（後期） 保健師課程必修・看護師課程選択
3. 災害看護学（後期） 4 年生必修
4. 災害看護学（後期） 2 年生選択
5. 公衆衛生看護活動演習（前期） 保健師課程必修
6. 看護総合演習（通年） 必修
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【公衆衛生学】 本科目が新設開講されて2年目である。2022年度は講義ノートを作成し、復習できるよう工夫したものの、定期試験の結果、再試験者数が約2割を超えた。そのため、授業の最後に毎回の授業のキーワードや公衆衛生の指標について、() 埋め問題を提示し、知識を再確認する時間を設けるよう工夫した。また、学びの個別化を促進するために、毎回の授業後の質問は、その日のうちにメール等で回答した。それらの結果、定期試験の結果、再試験者は半分以上に減少した。
2.	授業科目名【公衆衛生看護技術論】 公衆衛生看護の対人支援に関する知識、理論、技術について講義を中心に授業を実施した。毎回、講義のキーワードを提示し、基本的な知識、理論を講義した後に事例を提示し、学生が知識や理論を事例に活用して考える機会をつくり、理解を深められるように工夫した。教材動画コンテンツを活用し、講義、視聴、ワークを組み合わせ進めた。
3.	授業科目名【災害看護学】4年生 災害看護に関する基本的な知識と実践活動を紹介し、学生が卒後の進路を意識して、災害看護への関心、意欲を高めることができるように工夫した。地域、病院、災害支援組織における災害看護活動の実際と看護の役割について、災害看護の活動経験をもつ医療者を講師に招き実践的な授業を進めた。
4.	授業科目名【災害看護学】2年生 新カリキュラムでは低学年開講に変更されたため、対象特性に応じた災害看護技術や、疾病をもつ人を対象とした災害看護の特徴に関しては調べ学習課題とした。それに変わり、生活者として防災意識を高められるよう、大学近隣の防災マップの作製を行う参加型授業を実施し、災害看護への関心、意欲を高められるよう工夫した。また、災害看護事例を用いて災害に求められる看護職の役割を自覚できるよう工夫した。
5.	授業科目名【看護総合演習・実習】 実習では、実習企業の現場で生じている事象に関して、健康課題の分析を行い、課題と施策を立案し、福利厚生を担当部署役職者へのプレゼンテーションを実践した。実習指導者が、学生の実習指導をスムーズに行えるよう、情報共有しながら役割を分担し工夫した。実習前後の演習では、学生主体の進行に対してファシリテートできるよう心掛けた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1995年4月～現在に至る	日本公衆衛生学会	
2.	2001年3月～現在に至る	日本看護科学学会	
3.	2001年10月～現在に至る	日本地域看護学学会	
4.	2002年3月～現在に至る	日本看護学教育学会	
5.	2014年4月～現在に至る	日本公衆衛生看護学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学	概 要
---------------	-----------------	-------------	--------------------	-----

				会等の名称	
(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2010年4月～現在に至る	北九州市保健所運営協議会	委員

2.	2017 年 4 月～現在に至る	北九州市介護保険認定審査会	審査委員
3.	2020 年 4 月～現在に至る	北九州市社会福祉法人審査会	審査委員
4.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	北九州市健康危機対処計画検討会	委員
5.	2023 年 4 月～現在に至る	認定看護管理者教育課程	講師

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2022 年 4 月～2024 年 3 月	看護学科国家試験対策担当	責任者
2.	2022 年 4 月～2024 年 3 月	看護学科プロジェクト「学力向上」チーム運用担当	リーダー
3.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	看護学科 3 年生アドバイザー	

教授
前田 由紀子

■ 学歴

1. 2010 年 福岡大学博士課程修了

■ 学位

1. 2010 年 博士（教育学）

■ 研究分野

1. 精神看護学
2. 看護教育学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 精神科看護師
2. リカバリー
3. ストレングス

■ 研究課題

1. 精神科看護におけるリカバリーに関する研究
2. 精神科看護師のキャリア形成に関する研究

■ 担当授業科目

1. 精神看護学概論（後期）必須
2. 精神看護方法論（後期）必須
3. 精神看護学演習（前期）必須
4. 精神看護学実習（通年）必須
5. 看護総合演習（通年）必須
6. 看護総合実習（通年）必須
7. 看護学特論（後期）選択
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|---|
| 1. | 授業科目名【精神看護学概論】 |
| | 心の健康を保持・増進するための援助法の基礎を教授した。人との関わりがケアの基本となる精神看 |

	護を理解し、精神疾患を持つ人に限らず精神的援助のあり方を強調した。学生の能動的な学習を促すために、「発達段階と危機」の講義後に「ライフサイクルの危機とその支援」というテーマでグループワークの取り組みを行った。自らの危機と支援された状況について考察させ、精神の発達について理解を図った。学生の反応として、メンタルヘルスに関心が深まったという感想が多く聞かれた。発表会ではパワーポイントを使用し、プレゼンテーションの方法を学ぶ機会にもなった。
2.	授業科目名【精神看護方法論】 精神看護学概論で学んだ基礎知識を活用しながら、精神の健康の維持および精神疾患からの回復を援助するための原理と方法を教授した。精神障害は、イメージがしにくいため視聴覚教材を活用することで理解が図られる。今年度は「ツレがうつになりまして」という映画を教材に取り入れ、うつ病についてグループワークに取り組んだ。発表方法はポスターセッションとし、対話形式でディスカッションできるようにし、プレゼンテーションの方法を学ぶ機会になった。精神疾患についてノート整理、国家試験問題を解く、精神科関連の著作を読むなどの課題を出し、ポートフォリオの作成を行った。課題は、複数回に分けて提出させ、内容の不備がある場合、適宜指導を行った。
3.	授業科目名【精神看護学演習】 精神疾患、症状、治療など基礎的知識を確認後、統合失調症の事例をグループで展開した。精神に障がいをもつ人の援助に適切とされるオレム・アンダーウッドの理論とストレングスモデルを用い、精神障がい者やその家族のケアについてグループで十分にディスカッションを行った。精神科における地域包括医療を推進していくために、地域生活フォローアップシートを新しく取り入れ、社会資源活用への柔軟な思考を気づかせた。また、プロセスレコードの考察について資料の工夫を行なうことで自己洞察への理解が向上した
4.	授業科目名【精神看護学実習】 実習前の事前学習では、精神疾患や治療、精神保健福祉法に限らず、精神科看護に興味を持ってもらうように工夫した。「精神科ナースになったわけ」等、漫画を使ったものを教材に取り入れ精神看護学実習への関心を高めた。前年度まで新型コロナウイルス感染症の影響で、実習ができない施設もあったが、今年度は現地オリエンテーション・臨地実習とすべて現地で実施することができた。3施設の実習指導者は、カンファレンスにほぼ毎日参加していただき、臨地における学生の学びの到達度は高かったと思われる。病棟と教員の連携もスムーズであった。
5.	授業科目名【看護総合演習】 5人の学生を担当し、精神看護領域の看護総合演習に取り組んだ。今年度は、精神障がい者の訪問看護と精神科病院の慢性期病棟を総合実習の施設として展開した。精神科デイケアを実習施設として使えなかったが、病棟における地域生活支援の取り組みを学び、精神障がい者の地域生活の理解が深まったと考える。演習では、精神障がい者の在宅看護や就労支援、デイケアに関する文献検討を行い、当番制で文献クリティーク、ディスカッションを行い、思考を深めることに努めた。学生の問題意識に沿ったテーマで論文を作成し、研究的思考が反映されるように支援した。論文完成後は、パワーポイントを作成しゼミで発表会を行った。精神障害者の地域ケアについて考察を深めることができた。
6.	授業科目名【看護総合実習】 5人の学生を担当し、精神看護領域の看護総合実習に取り組んだ。今年度は、精神障がい者の訪問看護と精神科病院の慢性期病棟を総合実習の施設として展開した。本来、精神科デイケアを実習施設として予定していたが新型コロナ感染症の影響でデイケアを使うことができなかった。デイケア実習

	はできなかったが、病棟看護師の地域生活支援の取り組みについて考察を深めることができた。本科目は4年間の統合の科目となるため、学生の自主性を重視し、学習を進めた。病棟へのアポイント、実習の説明などメンバーで協力して実施することができた。
7.	授業科目名【看護学特論】 本科目は、成人看護学（急性期・慢性期）、母性看護学、小児看護学、精神看護学、老年看護学、在宅看護論、基礎看護学の8つの領域でオムニバスで実施した。そのうちの精神看護学を担当した。精神科ファーストエイドの講義後に最近のトピックスや国家試験に関連ある内容を講義した。対象学生が少数であったので次年度はもっと多くの学生が受講するよう、本科目の意義を説明したい。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1984年4月～現在に至る	日本看護学会	
2.	2003年4月～現在に至る	日本看護科学学会	
3.	2003年4月～現在に至る	日本看護研究学会	
4.	2007年10月～現在に至る	日本精神保健看護学会	
5.	2007年10月～現在に至る	日本医学看護学教育学会	
6.	2008年4月～現在に至る	日本精神科看護技術協会	
7.	2008年4月～現在に至る	日本看護学教育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					

3.					
----	--	--	--	--	--

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2023年11月	南ヶ丘病院職員研修	講師
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2023年4月～2024年3月	将来構想委員会	委員
2.			
3.			

教授
溝部 昌子

■ 学歴

1. 2002 年 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 博士課程単位取得退学

■ 学位

1. 1999 年 修士（保健学）
2. 2003 年 博士（保健学）

■ 研究分野

1. 臨床看護学 Clinical Nursing
2. 高齢者看護学 Geriatric Nursing
3. 血管看護 Vascular Nursing
4. 異文化看護 Transcultural Nursing 文化能力 Cultural Competency
5. 看護管理学 Nursing Administration

■ 研究キーワード

1. 血管看護、血管障害患者の看護方法、高濃度炭酸水を用いた足浴
2. 看護エコー、深部静脈血栓症予防、排泄ケアと看護エコー
3. 文化看護、異なる文化背景対象への看護、文化能力開発プログラム
4. タクティールケア、触れる看護

■ 研究課題

1. 看護観察へのハンディエコーの活用成果とスキル修得に関する研究
2. 血管看護学教育の体系化に関する研究
3. グラフィックレコーディングの学修活動やヘルスコミュニケーションに及ぼす影響に関する研究
4. タクティールケアの手技の言語化と修得方法に関する研究
5. 文化背景が異なる対象の看護、看護師の文化能力の醸成に関する研究

■ 担当授業科目

1. 老年看護学実習 （通年）（看護学科）必修
2. 看護総合演習 （通年）（看護学科）必修
3. 看護総合実習 （通年）（看護学科）必修
4. 老年看護学概論 （前期）（看護学科）必修
5. 老年看護学演習 （前期）（看護学科）必修
6. 看護研究の基礎 （前期）（看護学科）必修
7. 老年看護方法論 （後期）（看護学科）必修
8. 国際看護学 （後期）（看護学科）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【老年看護学概論】2年生前期 ・2023年度も採用教科書を見直し、分量が少ないものに変更した。 ・老年看護学の基礎知識、加齢性の心身変化を第1～4回で集中的に扱い、2回の小テストを実施することで、早い段階で知識に触れるような計画とした。 ・高齢者の生活に潜む危険については、加齢性の心身変化を関連付けるよう、方法論から概論に移動した。危険予知トレーニングを用いて講義・ディスカッションしたのち、学生の祖父母の自宅についてグラフィックレコーディングの作成を課題とした。 ・小テストにより、老年看護学で記憶すべき事柄がわかり、定期テストの準備を行えたものとする。 ・全体として、身近な事柄から高齢者看護の将来について検討できる構成となった。
2.	授業科目名【老年看護方法論】2年生後期 ・前期の概論同様に、平易な記述の分量が少ない教科書を用いた。 ・ゴードンの健康の11パターンの枠組みに沿って、高齢者看護に必要な観察、アセスメント方法、看護ケア技術を教授した。 ・看護師国家試験や老年看護学実習の内容を鑑みても、老年看護学教育構成内容が過不足ないものとなった。 ・配布資料をパワーポイントA41ページに2枚印刷、カラー両面としたことで、様々なスケールや資料をそのまま判読し、活用できるようになった。 ・老年看護方法論での内容は多く、複雑であるため、定期試験よりも課題提出の評価配分を多くした。これにより、単元ごとの取り組み方を全員が取り組むことができ、学修方法の習得につながったと考える。
3.	授業科目名【老年看護学演習】3年生前期 ・看護過程のアセスメントでは、健康パターンごとの講義で、記載すべき要点を示し、学生はそれに基づいて自身で課題を完成し、翌週提出した。グループごとにボックスを用意し、グループでまとめて提出・返却した。 ・提出時には、評価表にセルフチェックし、教員からは4段階評価を付し返却した。 ・看護計画EPはグラフィックレコーディングで制作した。 ・未提出や提出遅れはなく、講義であらかじめ要点を示していたことから、課題に取り組む時間は従来に比べて短縮され、負担は軽減されたと考える。学生によって取り組みや成果に差があった。看護計画のEPが具体的に記載されていた。
4.	授業科目名【看護研究の基礎】3年生前期 ・感染予防対策上、特に制限のない状態での開講であり、従来通り、質問紙調査を前提とした研究計画の策定、調査の実施、研究成果報告会を実施した。 ・授業時間内で、質的データ分析、量的データ分析と図表の作成、調査の実施、エクセルデータの集計、研究に必要な文書の作成を行うことで、グループワークに伴う負担や学生間トラブルや少なかったと考える。 ・研究のプロセスで必要となる作業について、情報検索、研究計画書の作成、研究説明文書の作成などを、実践的に学ぶことができ、研究についての基礎知識の習得につながったと考える。

	・内容が少ない教科書を採用していたが、補足資料や説明が多く必要になったため、今年度、再度教科書を変更した。
5.	授業科目名【国際看護学】2年生後期・選択 ・外部講師の講義をオンデマンドで取り入れ、英国における看護師資格取得や勤務、ボランティアの仕組みや実際について講義を受けた。看護では技術や知識だけでなく、制度や価値観によりことなるものであること、様々なキャリアの発展があることなど見聞を広めることができた。 ・国際看護の基礎知識としての講義のほかに、「聖地巡礼」、「映画バベル」を教材として、暮らしている場所による人々の文化的背景や価値観の違いなどについてディスカッションし、検討することができた。
6.	授業科目名【看護総合演習】4年生通年 ・臨地実習からの学びを深めるために「ヘルス・エスノグラフィー」を輪読し、研究方法について学んだ。 ・看護総合実習では、タクティールケアまたは深部静脈血栓症予防のための圧迫療法をテーマとしていたため、文献検討、手技の修得をおこなった。 ・タクティールケアまたは圧迫療法について、オープンキャンパス模擬講義において、来学した高校生に対し、デモンストレーションを行った。 ・市民講座「あなたのあしはお元気ですか」に参加した中高年に対し、血管マッピング支援を行った。
7.	授業科目名【看護総合実習】4年生通年 ・A病院では、女性患者2名に対し、複数回タクティールケアを行った。心身の変化といった看護の成果が実感できる実習となった。 ・B病院では、血管外科医の臨床講義、外来見学、検査の見学、手術見学、術前術後の看護の見学を行った。血管障害とその治療、患者について幅広く学修する機会が得られ、結果的に、血管看護を学ぶ包括的なプログラムとなった。
8.	授業科目名【老年看護学実習Ⅰ】3年生後期 ・D病院で新規に臨地実習が可能となった。 ・回復期、亜急性期、急性期、療養過程にある高齢者が老年看護学実習Ⅰの対象となっており、いずれも治療の過程にある。学内での老年看護学概論、老年看護方法論、老年看護学演習の教育内容を踏まえて、実践的に学ぶ環境が整っていると確認できた。 ・患者の病態が複雑であり、情報収集や理解のために教員が支持的にかかわり、病態看護問題関連図がどの事例でも完成度が高く出来上がり、アセスメントが十分に行えていたと判断できた。 ・「豊かな生を支える看護」においては、患者の強みを生かしたアクティビティーや、タクティールケア、生活や療養の指導など、多彩な計画を実施することにつながった。このために実習指導者、病棟管理者、多職種の方々にはご協力いただき、学生の実習を支援していただいた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1999年～現在に至る	日本看護科学学会	
2.	2003年～現在に至る	日本看護管理学会	

3.	2011 年～現在に至る	日本看護評価学会	2022 年より編集委員会委員長 20223 年度学術集会プログラム委員長
4.	2014 年～現在に至る	日本血管外科学会	2014 年よりチーム医療推進委員会委員
5.	2014 年～現在に至る	日本循環器看護学会	
6.	2016 年～現在に至る	日本看護理工学会	
7.	2015 年～現在に至る	日本血管看護研究会	2015 年より代表世話人 2015 年より毎年プログラム委員 2015、2022 年大会長 2024 年より血管看護研修コース運営委員会副委員長、運営事務局、B1 解剖、診断・治療（手術、IVR）統括責任者
8.	2016 年～現在に至る	日本リンパ浮腫治療学会	2016 年より評議員
9.	2018 年～現在に至る	日本老年看護学会	
10.	2019 年～現在に至る	国際臨床医学会	
11.	2022 年～現在に至る	日本静脈学会	2023 年度学術集会プログラム委員
12.		日本フットケア・足病学会	2023 年度九州沖縄地方大会プログラム委員

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名 称	単著・ 共著 の別	発行所、発表 雑誌等又は 発表学会等 の名称	概 要
(著書)					
	なし				
(学術論文)					
1.	2023 年 12 月	深部静脈血栓症予防に 対する看護エコーの活 用可能性	単著	日 本 看 護 評 価学会 13 巻 1 号	深部静脈血栓症予防ケアにおけ る成果指標として、POCUS (現場 即時検査)としての、ハンディエ コーを看護師が活用する意義につ いて、患者安全の観点から示した。 A4 版 総 63 頁、p27-31 著者：溝部昌子
2.	2024 年 3 月	看護師の触れるケアに 関する文献的研究-ス ウェーデン式マッサー ジ・タクティールケア をめぐって-	単著	西 南 女 学 院 大 学 紀 要 Vol.28	看護における触れるケアについ て、タクティールケア、スウェー デン式マッサージをキーワードと して、歴史、原理、効果の指標、手技、 看護への適用など幅広い資料から 整理して、看護における触れるケ アの意義と手技の習得に関する課 題を提示した。方法の変更、工夫に ついて、実習目標に対する妥当性 から整理して述べた。 A4 版総頁数:46 頁、p1-13 溝部昌子

(その他)					
1.	2024 年 2 月	パネルディスカッション 3 深部静脈血栓症の看護-発症の予防とケア、看護計画	共著	日本静脈学会ニュースレターNo.26	深部静脈血栓症の看護に関するパネルディスカッションの座長を務め、7 演題の発表とディスカッションについて示した。 1 DVT/PE 予防における看護師の役割、2 下肢静脈灌流促進のためのケアの実践、3 DVT/PE 早期発見のための POCUS 活用可能性、4 対象の生活場所に応じた DVT/PE の包括的予防策を担う人材の育成 A4 版総頁数：20 頁、p10-11 <u>溝部昌子</u>,八杉巧
2.	2024 年 2 月	グラフィックレコーディング 「病院と看護の国際化ガイドラインの普及と活用-文化多様性の包摂と医療格差の解消-」	単著	野地科研リサーチミーティング (姫路)	研究課題について、背景・方法等ミーティング内容をリアルタイムにグラフィックレコーディングし、ディスカッションの進行、記録をおこなった。 3×8 メートル <u>溝部昌子</u>
(学会発表)					
1.	2023 年 5 月	看護基礎教育における高齢者看護技術演習の取り組み	共著	第 8 回日本血管看護研究会 (於 新宿)	看護基礎教育課程、老年看護学で修得すべき看護技術とその演習方法についての実践報告。 金子由里,<u>溝部昌子</u>,吉原悦子
2.	2023 年 6 月	もしバナゲームを活用したカンファレンスにおける看護学生の学びレポート分析を通して	共著	第 28 回日本老年看護学学会学術集会 (於 横浜)	「もしバナゲーム」を実施した学生が記載したレポートから、死生観についての学びについて分析したもの。 吉原悦子,<u>溝部昌子</u>,金子由里,北原一子
3.	2023 年 6 月	深部静脈血栓症のリスク評価と予防対策について-介護老人保健施設の調査結果を通して -	共著	第 28 回日本老年看護学学会学術集会 (於 横浜)	介護老人保健施設を対象に、深部静脈血栓症の実態と、予防の取り組みについて質問紙調査を行った結果として、医療機関とのリスク情報の共有が十分に行われていない、行われているとしても紙ベースの一方方向のものであったことを示した。 <u>溝部昌子</u>,吉原悦子,金子由里
4.	2023 年 7 月	パネルディスカッション 3 深部静脈血栓症の看護-発症の予防とケア、-看護計画 深部静脈血栓症ハイリスク患者としての手術経験	共著 座長	第 43 回日本静脈学会総会 (於 松山)	外傷後 CRPS を合併し、人工股関節全置換術を受けた体験から、リスク評価、予防、周術期管理、症状観察についての経験と意見を述べた。発表資料の作成、グラフィックレコーディング制作で協力した 妻島和恵,<u>溝部昌子</u>

5.	2023 年 9 月	シンポジウム患者安全の可視化技術としての看護エコー	単著 座長	第 13 回日本看護評価学会学術集会 (於 京都)	末梢静脈穿刺、浮腫看護、排泄ケア、深部静脈血栓症予防に対するエコーを用いた看護師の観察がもたらすものについて話題提供、ディスカッションを深めた。 <u>溝部昌子</u>
6.	2023 年 10 月	教育講演 4 血管看護に活かすエビデンス・診療ガイドラインの活用	単著	第 5 回日本フットケア・足病医学会学術集会九州・沖縄地方会	血管障害患者の看護に際して、ガイドラインやエビデンスを活用することの意義と、SDM への活用方法について示した。 <u>溝部昌子</u>
7.	2023 年 10 月	北九州市民カレッジ あなたの“あし”はお元気ですか	単著	北九州市民カレッジ 西南女学院大学	“あし”にまつわる様々な疾患を紹介し、動脈・静脈の障害による虚血性下肢痛、静脈瘤、静脈血栓についてその予防法や観察方法を解説した。 <u>溝部昌子</u>
8.	2023 年 11 月	An Examination of the Reliability and Validity of the Japanese Version of the Individualized Care Scale (ICS-J) Using an Internet Survey	共著	INC2023 14th International Nursing Conference (Seoul)	ケアの個別性について患者が評価に用いる尺度 ICS 日本語版妥当性を検証し示したもので、構成する二つの調査票とその下位尺度はいずれもクロンバック α は 0.9 以上と高値であった。 Sachiko Iijima, Ariko Noji, Mari Kondo, <u>Akiko Mizobe</u> , Sayaka Kodera, Taisuke Togari, Ritta Suhonen
9.	2023 年 12 月	〈査読あり〉老年看護学教育におけるグラフィックレコーディングの活用—説明マトリックスを用いた学修体験—	共著	第 43 回日本看護科学学会学術集会 (於 下関)	老年看護学教育において、グラフィックレコーディングを用いて学生の祖父母の自宅の危険度マップを制作する課題において、その学修体験をマクガイアの説得モデルをもとに構成した質問項目への回答から分析し記述したもの。 <u>溝部昌子</u> , 吉原悦子
10.	2023 年 6 月	KAKENHI 科研費獲得のための計画調書の作成	単著	西南女学院大学外部資金導入促進プロジェクト研修会	科学研究費の申請、獲得、審査の経験から科学研究費核のための申請書の作成方法について本学教職員を対象に説明した。 <u>溝部昌子</u>

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位: 円)
1.	看護師による POCUS 活用	文部科学省	○溝部昌子、吉原悦子、	910,000 円

	に関する研究-DVT 予防対策と安全なケアへの効果-」	科学研究費補助金 基盤（B）	（宮田哲郎、重松邦広、 岩倉真由美）	
2.	「病院と看護の国際化ガイドラインの普及と活用-文化多様性の包摂と医療格差の解消-」	文部科学省科学研究費補助金 基盤（C）	（○野地有子、）溝部昌子	50,000 円

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	なし			

■ 社会における活動

	任 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年～現在に至る	北九州市国民健康保険運営協議会	公益代表委員
2.	2018 年～現在に至る	西南女学院看護キャリア支援センター認定 看護管理者コースセカンドレベル	講師

コメントの追加 [y1]: 現在に至る？

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2018 年～現在に至る	西南女学院看護キャリア支援センター認定 看護管理者研修コース運営委員会	運営委員
2.	2018 年～現在に至る	国際交流委員会	委員
3.	2022 年～2023 年	図書委員会 ・雑誌購読見直し	委員
4.	2023 年～現在に至る	看護学科実習コーディネーター ・「できごとレポート」と報告フローの作成 ・看護学科 30 周年記念新ユニフォームデザインプロジェクト	責任者

		・実習オリエンテーション卒業生招聘 ・実習携行品（バッグ、擦式消毒剤）の変更 ・予防接種手帳の Google フォーム提出 ・実習コーディネーター年間活動ガントチャートの作成	
5.	2023 年～現在に至る	看護学科 3 年生アドバイザー ・ゼミ交流会	責任者
6.	2022 年～2023 年	看護学科将来計画プロジェクト社会人基礎力グループ ・3 年生社会人基礎力調査とその報告	責任者

教授

目野 郁子

■ 学歴

1. 1982 年 福岡県立福岡女子大学家政学部 卒業

■ 学位

1. 1994 年 九州大学 博士 (医学)

■ 研究分野

1. 病原微生物学
2. 免疫学

■ 研究キーワード

1. 病原微生物
2. 感染症
3. 感染対策
4. ワクチン
5. 免疫

■ 研究課題

1. 本学 1 年生を対象に健康管理カルテを作成しその有用性について検討を行う。
2. 保育園をモデルに感染症流行を制御するために効果的な感染症予防対策について検討する。

■ 担当授業科目

1. 感染と免疫（前期）（看護学科）必須
2. 生物と生命科学（前期）（看護学科）選択
3. 生物と生命科学（前期）（福祉学科）選択
4. 初年次セミナーI（前期）（看護学科）必須
5. 初年次セミナーII（後期）（看護学科）必須
6. 微生物学（後期）（福祉学科）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名 【感染と免疫】 ①例年、初回講義では、本科目の CP における位置付けを説明し、科目で得た知識を形態機能学・疾病学・基礎看護学・薬理学に連携させるよう説明した。 ②講義で知識を習得させ、並行して実習を行った。自身の体をつかい検体を採取する技法や顕微鏡下で検体を観察する技法を習得し、学内において医療現場を想起できるよう工夫した。 ③講義内容を整理するプリント「ポイント整理」を講義進行に伴い配布し、小テストを組み合わせることで主体的学習を促し、また、学習への姿勢を確認した。「ポイント整理」は、紙面配布だけでなく、Classroom にも掲載して学生がいつでも取り組める環境を作った。 ④質問を受ける際には、「ポイント整理」を持参させ、学生の習熟度を確認した。
2.	授業科目名 【生物と生命科学（看護）】 ①高校で学ぶ生物の基礎知識をもとに学科特性に合わせて、ヒトの生体に焦点をあてた講義内容にした。常に生体の正常なものと異常を（疾患）を組み合わせ、事例を展開しながら形態機能学や疾病学に関連づけ講義を行った。 ②講義内容を整理するための「ポイント整理の提示」は、主体的な学習を促す意味で実施した。今年度は、Classroom にも掲載し、学生がいつでも取り組めるようにした。また、「ポイントの整理」と「小テスト」を組み合わせることで学生の学習姿勢を把握した。 ③理解が難しい講義内容については、学生同士で話しあいの場を設けて、理解できない点は質問を受けた。質問とそれに対する応答・講義の学び直しは、受講生全員と共有した。
3.	授業科目名 【生物と生命科学（福祉）】 ①講義内容は、高校で学ぶ生物の基礎知識をもとに学科特性に合わせてヒトの生体に焦点をあてたものとした。生体の正常なものと異常（疾患）を組み合わせ、事例を展開しながら講義を行った。 ②講義内容を整理するための「ポイント整理の提示」は、主体的な学習を促す意味で実施した。今年度は、Classroom にも掲載し学生がいつでも取り組めるようにした。また、「ポイントの整理」と「小テスト」を組み合わせることで学生の学習姿勢を把握した。 ③講義開始時には、前回の講義内容の復習を行い、また、講義資料を使って学生に自ら発表させる場、質問を受ける場を設けた。
4.	授業科目名 【初年次セミナーⅠ（看護）】 ①講義、課題などのスケジュールを自己管理するために、ポートフォリオを毎回持参させシラバスで確認するよう指導した。 ②ミニレポート・レポート作成にあたり以下の点について改善を行った。 ・学生が苦手とする「問いの発見」については、問いだてを理解しやすいようにシートの改善を行った。 ・文献検索法を繰り返し説明、実践させることで、情報の入手法の習熟度を上げる取り組みをした ・ミニレポートの課題文は、難易度を考慮した。また、課題文をモデルに問いだての仕方や文献の読み方を講義した。
5.	授業科目名 【初年次セミナーⅡ（看護）】

	①プレゼンテーションにウェイトを置き、従来よりもプレゼンテーション準備に充てる時間を1コマ増やし、「発表する」「討論する」力の強化に努めた。 ②初回の全体講義は他学科と合同開催とし、異なる学科のメンバーとグループワークを行うことで交流の機会とした。 ③グループ力の強化に重点を置き、ユニット（3人）を二つ組み合わせたグループ（6人）を編成し、ユニットやグループ内で討論・推敲しながら協力して創り上げるプロセスを経験できるように工夫した。メンバー間のコミュニケーションをとりやすいように、メンバー編成は他科目と連動したものとした。 ④個々人の役割を明確にして、全員が何らかのリーダー役割、メンバー役割を経験できるような仕組みを構築した。 ⑤評価は個人評価、ユニット評価、グループ評価を組み合わせ、学生にもあらかじめ周知したうえで能動的に取り組むように働きかけた。 ⑥作業が効率よく進められるように、毎回PCを持参するように呼びかけた。
6.	授業科目名【微生物学（福祉）】 ①今年度は、学生の意見を参考に、講義の進め方を工夫した。昨年度とかえ、パワーポイントによるスライドの講義の後、教科書に戻り講義のまとめを行った。 ②小テストのスケジュールや試験範囲を早くからclassroomに掲載して早期からの復習を促した。また、例年提示するポイントの整理は、自学を促進する意味で効果を認めているため講義重要項目として講義進行にあわせて随時classroomにアップした。 ③将来の就職現場において、この科目がどのような役割を果たすのかをイメージできるように事例などのトピックスを展開し、学生の学習に対するモチベーションアップを目指した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1987年4月～現在に至る	日本細菌学会	
2.	1996年4月～現在に至る	日本感染症学会	
3.	2000年4月～現在に至る	日本小児保健協会	
4.	2004年4月～現在に至る	日本環境感染学会	
5.	2016年4月～現在に至る	日本ワクチン学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.	なし				
（学術論文）					

1.	なし				
(翻訳)					
1.	なし				
(学会発表)					
1.	2023.11	A 女子大学における「健康管理カルテ」の作成と配付ー学生の自己管理能力向上をめざしてー	共	第 69 回 日本学校保健学会学術大会 (於 聖心女子大学)	①概要：本学 1、2 年生を対象に配布した「健康管理カルテ」の利用状況を調査した。その結果から、入学直後に配布した学生はあらゆる場面で利用しており、自身の健康に関心を持ち、健康意識が高まるよう入学直後の配布が望ましいこと、また、今後の利用意志のない学生も一定数いたことから、配布後も定期的に働きかけをする必要があることが分かった。 ②共同発表者名：山田恵、水貝洵子、樋口由貴子、目野郁子、高崎智子 ③日本学校保健学会 第 69 回学術大会講演集(P130)

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)	
1.	なし				

(2) 個人研究					
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考	
1.	なし				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2023 年 5 月 1 日～2025 年 4 月 30 日	福岡県食品安全・安心委員会	有識者委員

2.	2023 年 10 月 4 日	遠賀・中間地区保育協会： 会員を対象に「全身感染症：麻疹・風疹・水痘/带状疱疹」というテーマでe-ランニングによる 研修会講師を務める。	研修会講師
3.	2024 年 2 月 18 日	公益財団法人予防接種リサーチ センター:「予防接種に関する研 究報告会」において「百日咳」 研究発表の座長を務める。	研究発表会座長

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2017 年 4 月～2023 年 3 月 31 日	人事委員会	委員長(2021 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)
2.	2016 年 4 月～2023 年 3 月 31 日	動物実験委員会委員	
3.	2003 年 4 月～ 現在に至る	保健福祉学部附属保健福祉学研 究所	運営委員
4.	2021 年 4 月～現在に至る	外部資金促進導入プロジェクト	プロジェクトメンバー
5.	2009 年 4 月～2023 年 3 月 31 日	看護学科推薦入試合格者に対す る入学前課題担当	看護学科入学前課題担当者
6.	2011 年～現在に至る	学生の健康支援：保健室と協 働しワクチンで予防可能な感 染症について予防接種手帳配 布・抗体検査結果配布、予防接 種が必要な学生には個別に接 種勧奨を行う。	学生の健康支援メンバー
7.	2023 年 4 月～2026 年 3 月 31 日	西南女学院評議会	評議員

准教授

石井 美紀代

■ 学歴

1. 2001 年 大分医科大学大学院修士課程 修了

■ 学位

1. 修士（看護学）

■ 研究分野

1. 地域・在宅看護学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 在宅ケア
2. 家族介護
- 3.

■ 研究課題

1. 医療・介護の一体化改革によって、在宅の定義が単に自宅を指すものではなく、「生活の場」に拡大されている。そこで、地域包括ケアにおける看護職の機能や役割について研究する。
- 2.

■ 担当授業科目

1. 社会保障概説（看護学科 1 年 後期）
2. 家族看護学（看護学科 2 年 後期）
3. 対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ（看護学科 2 年 後期）
4. 看護研究（看護学科 3 年 前期）
5. 在宅看護学（看護学科 3 年 前期）
6. 在宅看護学演習（看護学科 3 年 前期）
7. 在宅看護学実習（看護学科 3 年後期・4 年前期）
8. 看護総合演習（看護学科 4 年 通年）
9. 看護総合実習（看護学科 4 年 通年）
10. 看護学特論（看護学科 4 年 後期）
11. 保健福祉学入門（保健福祉学部合同 1 年前期）
12. 高齢者支援学Ⅰ（保健福祉学部共通科目 2 年集中）
【未開講】看護学（栄養学科） 高齢者支援学Ⅱ（保健福祉学部合同）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【社会保障概説】 本講義は、社会福祉士の外部講師を含み3人で担当しており、単位認定者として調整も行った。 学生は中学や高校の「公民」の授業で日本国憲法や社会保障制度を学んできているが、多くは苦手意識を持っている。そのため、社会保障制度の解説と法的根拠の整理だけではなく、患者や地域住民、家族と関連させた事例使って解説し、看護とのつながりを意識して伝えた。また、授業の最後には国家試験の過去問を解いてもらい、資格取得に必要な知識であることを学生に伝えることを心掛けている。さらに、授業終わりには、毎回、質問の時間を確保し、学生の理解に努めた。
2.	授業科目名【家族看護学】 本講義は、家族を看護学、心理学、社会学でどう捉えているかを解説することから、単位認定者として社会学を専門とする外部講師の調整も行った。 学生の中には、自分の家族に対して複雑な感情をもっている者もいることが想定される。そのため、事前に学生支援室に協力を依頼するとともに、あえて自分の家族を説明したり分析したりさせなかった。また、学生の興味や理解を得るため、アニメの家族（サザエさん、ちびまる子ちゃん、クレヨンしんちゃん）や看護で出会う架空の事例で講義を実施した。
3.	授業科目名【対象別公衆衛生看護活動論】 本講義は、看護師課程は選択、保健師課程は必修である。保健師課程を目指す学生と、単位取得のみを目指す学生が混在しており、取り組み意欲に差がある。理論や仕組みの説明後、専門雑誌の記事を資料にして実務展開を押さえていくものの、なかなか学生の興味を引くことができなかった。 授業の後半で、各テーマの重要項目を示して復習を促したが、主体的学習に繋がらなかった。
4.	授業科目名【看護研究】 本講義は、単位認定者の溝部教授を中心に看護学科教員4人で担当している。講義内容では、研究の流れ・研究デザイン・研究手続・研究倫理・研究計画書についての解説を行う。演習では、論文クリティーク、英語文献の要約、研究計画書の作成・量的研究と質的研究の分析体験・抄録作成と、研究の一連の流れを体験させた。3年前期は各看護学演習が行われることから、学生の負担を考慮し、前年度より個人の提出物を減らし、ディスカッションの時間を増やしてグループでの思考を促した。
5.	授業科目名【在宅看護学】 本講義は教員2人で担当しており、単位認定者として調整も行った。在宅看護学は、看護の統合科目に位置づけられることから、授業テーマに合わせて基礎科目や各看護学の知識を想起させつつ、学生には「在宅看護ならではの」を意識するように問いかけた。また、在宅看護にとどまらず、地域包括ケアを意識させること、同時期に開講されている「地域生活支援論」と関連させて理解できるよう配慮した。
6.	授業科目名【在宅看護学演習】 本講義は教員2人と助手1人とで担当しており、単位認定者として調整も行った。15回の授業を①在宅看護過程 ②訪問看護の技術提供・教育機能 ③臨床推論 の3つに大別して展開した。在宅看護過程では、共通事例の看護過程を見本として配布・解説し、さらに、熱の事例の看護過程をグループワークと個人ワークで完成させることで、個々人の知識・理解の習得を目指した。また、技術提供は手順書を、教育機能は指導案をグループで見本をもとに事例に合わせて作成し、ロールプレイ

	で発表した。臨床推論は、教員が発熱患者となって学生の質問に答えていき、その内容からグループで発熱の原因を突き止めることを実施した。臨床推論は初めての試みであったが、学生はゲーム感覚で興味をもって学習してくれた。
7.	授業科目名【在宅看護学実習】 2023 年度の実習は、新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行したとはいえ、制限下での実施に変わりはないかった。実習施設である訪問看護ステーションに対し、大学の感染予防体制、学生の行動制限や健康観察、教員の指導体制、実習目標と実習項目などを事前に何度も協議し、ご理解をいただいた施設で臨地実習をさせていただいた。 学生は、これまで基礎実習が学内のみの実習だったことから、臨地実習に慣れていないため、過緊張となり、楽しんで実習する様子が見られないまま終了することが多かった。また、学生を臨地に行かせたことで、今までになかった失敗やヒヤリハット事案が発生し、実習施設に謝罪に行くことが多かった。しかし、施設側は実習の重要性を理解していただいており、中断させることなく最後まで実習を継続させていただいたことに感謝している。
8.	授業科目名【看護総合演習】 本科目は、看護総合実習を挟んで行われる。学生には、これまでの学習や実習で興味があるテーマを選定させた。前半はそのテーマについて文献学習し、毎週ゼミグループにプレゼンテーションし、意見をもらいながら実習計画を作成する。実習後は個別に指導して、その成果や疑問をまとめて論文を作成し、ゼミの論文集を作成した。論文は期日を過ぎたものの、全員が完成させることができた。
9.	授業科目名【看護総合実習】 看護総合実習は 4 年間の学習の総まとめの実習であることから、学生が主体的に行動し学ぶ工夫と仕掛けをしていった。 学生の選定したテーマの実習が可能な訪問看護ステーションを個別に選び、学生が主体的に実習するため 6 名のゼミ生を 1 名ずつ違う施設に依頼した。その後は、学生が看護総合演習で作成した各自の実習計画をもとに説明し、自ら日程交渉していった。学生に看護総合実習をさせていただいた施設に、論文集をもってお礼に行くことで、終了とした。
10.	授業科目名【看護学特論】 本講義は、看護学科教員がオムニバスで講義するもので、私は在宅看護学分野の講義を担当した。4 年生後期で、学生はすべての講義・実習をおえており、教授するのではなく在宅医療・在宅看護の国の方針や展望を伝えることを意識した。しかし、学生は看護の将来展望よりも身近な国家試験の方に興味があるため、国家試験につながるトピックスを交えながら講義した。
11.	授業科目名【保健福祉学入門】 本講義は、保健福祉学部 3 学科の教員がオムニバスで講義する。私は、地域包括ケア・在宅看護分野の講義を担当した。1 年前期であっても、学生は自己の学科や目指す専門職の特性を迫及しようとしている。そのため、『看護・栄養・福祉が活動する“医療・介護”の分野は多くの専門職が存在するが、ボーダレスの活動で人々を支えている』ということを意識して伝えた。 今回、学生の中に合理的配慮を要する学生があった。講義の資料、話す速さ、時間等の配慮を行いながら、反応に注意して講義した。
12.	授業科目名【高齢者支援学 I】 本科目は総合人間科学に位置し保健福祉学部の 3 学科共同で行われる。福祉学科の荒木先生を中心に、到達目標・講義展開・評価基準を統一するための打合せに力を注いだ。

	初日に講義、2日目に3学科合同で事例を使ったグループワークを行う。講義では、各学科のカリキュラムが異なるために、高齢者の特性を共通認識させることに特化した。グループワークでは、3学科の学生が自分の得意分野を示そうと作業分担しがちになることから、3学科でディスカッションさせることに注力した。
--	---

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1997年6月～（現在に至る）	日本健康福祉政策学会	
2.	1997年10月～（現在に至る）	日本地域看護学会	
3.	1998年4月～（現在に至る）	日本看護学教育学会	
4.	1998年4月～（現在に至る）	日本公衆衛生学会	
5.	1999年4月～（現在に至る）	日本老年社会科学会	
6.	1999年4月～（現在に至る）	日本学校保健学会	
7.	1999年8月～（現在に至る）	日本老年看護学会	
8.	2001年11月～（現在に至る）	日本看護研究学会	
9.	2004年8月～（現在に至る）	日本在宅ケア学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.	なし				
（学術論文）					
1.	なし				
（翻訳）					
1.	なし				
（学会発表）					
1.	なし				

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.	なし			

（2） 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額	備考

			(単位：円)	
1.	なし			

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2020 年 4 月～現在に至る	戸畑区地域ケア研究会	運営委員
2.	2021 年 4 月～現在に至る	福岡県看護協会看護研究倫理審査委員会	委員
3.	2022 年 11 月～現在に至る	北九州市開発審査会	委員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	(学科) 学生募集委員	サブ委員
2.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	(学科) 共用試験導入対策	委員
3.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	(学科) 2 年・4 年アドバイザー	アドバイザー

役職・職位 准教授
氏 名 高橋 甲枝

■ 学歴

1. 佐賀医科大学大学院医学系研究科看護学専攻（修了課程）修了

■ 学位

1. 修士（看護学）

■ 研究分野

1. 看護教育
2. がん看護

■ 研究キーワード

1. 周術期 シミュレーション教育
2. 乳がん 就労支援

■ 研究課題

1. 術後の看護支援についてのシミュレーション教育研究
2. 乳がん患者の就労支援ニーズについて、協力病院からの患者紹介のもと調査を実施する

■ 担当授業科目

1. 成人看護学概論 必須
2. 成人急性期看護方法論 必須
3. 成人看護学演習 必須
4. 成人急性期看護学実習 必須
5. 看護のための臨床検査 必須
6. 看護学特論 選択
7. 看護総合演習（通年） 必須
8. 看護総合実習 （通年） 必須
9. 救急クリティカルケア看護学 選択
10. 初年次セミナーⅠ 必須

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|---------------------------------|
| 1. | 授業科目名【成人看護学概論】前期 |
| | ① 成人看護学概論は2名で講義および課題成果発表を行っている。 |

	② 成人期の健康問題について理解を深めるために、課題レポート作成、グループ内で発表を行った。これまでも成果発表を行っていたが、一部の学生の発表にとどまっていたため、全員が発表する機会を設けた。 ③ 看護理論については事例を用いて説明を行った。
2.	授業科目名【成人急性期看護方法論】後期 ① 成人急性期看護方法論は、2 年次開講科目である。2 名で講義を担当した。本科目はこれまでに学んだ形態機能学、疾病論、成人老年看護概論などの科目と関連する科目である。学生には、オリエンテーション時に既習の科目の復習を行い、講義に臨むように説明を行った。 ② 手術を受ける患者の身体侵襲時の生体反応についての解説、手術を受ける患者の心理面について事例をもとに解説を行った。 ③ 手術侵襲の影響については、穴埋め問題を各自で取り組めるようにクラスルームにアップした。 ④ 手術室の看護については DVD 視聴と解説にてイメージ化を図った。 ⑤ 3 年前期につながるように事例を用いて看護過程の展開に必要な知識について考えるような講義展開を取り入れた。新たに得た知識を用いることで、患者理解に繋がることを実感できるようにした。
3.	授業科目名【成人看護学演習】前期 ① 成人看護学演習は、看護過程と看護技術の演習である。3 年前期に看護過程演習および看護技術演習を行っている。急性期事例（胃がん）、慢性期事例（肝硬変）の 2 例を展開し、反転授業とした。 ② グループワーク人数を 5 名とし、個人ワークを行い、グループワークに反映するようにした。 ③ 看護技術演習は、食事療法、血糖・インスリン、食事指導、術食後の観察演習、術後患者の清拭・離床を行った。実施後にディスカッションを行い、実践の根拠について検討を行った。実施する根拠の修得を目指してプログラムの修正を行った。 ④ ストーマ造設した患者の看護については、模擬便を入れて体験を行い、ディスカッションを設けた。さらに学生は 1 日装着体験を行う患者体験を行った。
4.	授業科目名【成人急性期看護学実習】 ① 成人急性期看護学実習は本来 2 週間の臨地実習と 3 週目に ICU および手術室見学実習の 3 週間実習であるが、臨地実習は午前中 3 時間の臨地実習と午後は学内実習を行った。 ② 新型コロナは 5 類分類となったが、医療施設では継続して警戒されており、朝の健康確認を徹底して、体調の悪い学生は受診勧奨と学内での実習にて対応を行った。
5.	授業科目名【看護のための臨床検査】 ① 昨年度に引き続き看護師 3 名にて担当した。放射線技師を外部講師として迎え 1 コマ放射線検査について説明を受けた。グーグルフォームのテスト機能を用いた。 ② 授業計画は、これまでの形態機能学、疾病学、そして成人急性期方法論、成人慢性期方法論との関連を意識して、系統別に講義を組み立て、講義終了後に小テストを実施し、学生の理解を確認しながら講義を行った。 ③ 検査データの基準値の定着のために毎回、知識確認テストを行い、グーグルフォームで回答させ、解答率をみながら問題の解説を行った。 ④ 演習を取り入れ、シミュレーション人形を用いた心電図の装着と不整脈の講義、模擬尿での検査の実施と判断、呼吸機能検査の体験とマウスフィルタをくわえての患者体験の課題学習を取り入

	れた。
6.	授業科目名【看護特論】 ① 8名によるオムニバスの科目で、各領域の教員で授業を行った。 ② 急性期看護の学びを深めるために、臨床検査・画像診断から得られた知見から「根拠にもとづいた看護」について考える機会とした。
7.	授業科目名【看護総合演習】 ① 看護総合演習では、6名の学生を担当した。 ② 急性期看護について深めたい内容について文献検索を行い、実習計画書の作成、実習指導者との打ち合わせ、実習を行ってその学びについてレポート作成を行った。 ③ レポート指導はグーグルドライブ機能を使用し、学生のレポート指導を行った。 ④ 学生は作成したレポートをもとに発表抄録作成、パワーポイントを用いた発表を行い、ディスカッションを通して急性期の看護について学びを深めていた。さらに、他者評価・自己評価を行うことができていた。
8.	授業科目名【看護総合実習】 ① 看護総合実習は6名の学生を担当した。 ② 周術期の患者・家族の理解と看護師の理解を深めるために、各自「実習目的、計画」を立案し、午前中臨地にて実習を行い、午後はカンファレンスを行った。 ③ 最終日に目標に対する学びの発表とディスカッションを行った
9.	授業科目名【クリティカルケア看護学】 ① 2名の急性期の教員で演習を行った。演習では救急・クリティカルケア領域における倫理的な問題についてグループワーク、発表を行い看護師のジレンマについて考える機会とした。 ② 集中ケア認定看護師による実際の人工呼吸器を用いた説明や挿管の看護について、患者体験と看護の根拠、看護師の役割について学びを深めた。 ③ 脳神経、整形外科、周術期を中心に救急・クリティカルケア場面についての解説を行った
10.	授業科目名【初年次セミナーⅠ】 昨年度の課題であった「問い」については、「問い」とは何かについて講義内容および課題シートの変更を行い、学生が思考のステップを踏むことができるようにした。また、ミニレポート・レポート作成の進行途中に意見交換の場を作ることでグループ学習の機会とした。 学生の学習スキルをアップするために、ミニレポートではレポートの書式（構成）と文献検索スキルの習得を重点に、レポート作成では講義の流れを、考える・思考に重点におき授業を展開した。 担当教員5名で、講義前後に講義の内容・指導方法について詳細な打ち合わせをした。講義の指示内容については、教員間で統一をはかった。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1987年4月～（現在に至る）	日本看護協会会員	
2.	1995年5月～（現在に至る）	日本公衆衛生学会会員	
3.	2004年7月～（現在に至る）	日本看護研究学会会員	
4.	2004年7月～（現在に至る）	日本看護科学学会会員	
5.	2011年4月～（現在に至る）	日本看護技術員	

6.	2015 年 2 月～（現在に至る）	日本運動器看護学会員	
7.	2021 年 1 月～（現在に至る）	日本看護教育学会会員	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（学術論文）					
1.	2023	ストーマ装 具を装着し た看護学生 の生活体験 からの気づ き	共著	西南女学院大学 紀要, 27, 2023	模擬ストーマとストーマ装具を装着した看護学生の日常生活体験からの気づきを明らかにすることを目的に学生の課題レポートを質的帰納的分析した。学生が患者疑似体験からストーマ造設患者の困難を知ることは、患者に共感し、患者理解の深まりとともに必要な看護を考える上で有用な体験であった。

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 （内 容）	役 職 名 等
1.	2023.12.9～2023.12.10	看護科学学会学術集会	実行委員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 （内 容）	役 職 名 等
1.	2023.4 月～現在に至る	教務委員会	委員
2.	2022.4 月～現在に至る	看護学科プロジェクト	プロジェクトメンバー
3.	2022.4 月～現在に至る	看護学科 学力向上	分科会学力向上メンバー

講師

一期崎 直美

■ 学歴

1. 2010 年 熊本大学大学院教育学研究科養護教育専攻修士課程 修了

■ 学位

1. 2010 年 修士（教育学）

■ 研究分野

1. 養護教育
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 養護教諭
2. 専門職
3. ケア

■ 研究課題

1. 養護教諭による子どもへのケアについて社会的に考察する。養護教諭による子どもを尊重する働きかけについて、他の教員との関係を含めて考察する。
- 2.

■ 担当授業科目

- | | | |
|-----------------|-------------|----|
| 1. 学校保健 | （後期）（看護学科） | 選択 |
| 2. 養護概説 | （後期）（看護学科） | 選択 |
| 3. 健康相談 | （前期）（看護学科） | 選択 |
| 4. 学校保健教育法 | （前期）（看護学科） | 選択 |
| 5. 養護実習事前事後指導 | （3 期）（看護学科） | 選択 |
| 6. 養護実習 | （通年）（看護学科） | 選択 |
| 7. 教職実践演習〈養護教諭〉 | （後期）（看護学科） | 選択 |
| 8. 看護総合演習 | （通年）（看護学科） | 選択 |
| 9. 看護総合実習 | （通年）（看護学科） | 選択 |

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【学校保健】 本科目は、看護学科専門科目の選択科目であり、教諭一種免許状取得希望学生および保健師過程選択学生においては必修科目である。科目内容は、学校保健に活動や学校安全および食育について学ぶ。この知識と実際の活動について触れながら授業を進行する。学生の知識を整理するために、授業後に作成するポートフォリオを小テストに活用できるようにした。現在、学校でも重視される食育については、栄養教諭実務家教員を講師として招き、他職種連携の重要性についても学ぶように構成した。
2.	授業科目名【養護概説】 本科目は、看護学科専門科目の選択科目であるが、養護教諭一種免許状資格取得希望学生にとっては必須科目でもある。養護教諭の専門的な仕事を理解しやすいよう「学校保健」履修後に、本講義を履修する。また、講義「学校保健」を活用し、養護教諭の実践的な活動を事前学習に取り入れている。この事前学習を授業内での発表やグループワーク、実技演習などに取り入れた授業構成にしている。
3.	授業科目名【健康相談】 本科目は、看護専門科目の選択科目であるが、養護教諭一種免許状資格取得希望学生にとっては必修科目である。3年前期科目であり、看護の基礎的な学習、学校保健や養護教諭の仕事については既習している。そのため、既習知識の理解を確認しながら授業内容を構成している。講義だけでなく、課題や振り返りについても討論の機会を設けるなど演習の機会を多く設定している。
4.	授業科目名【学校保健教育法】 本科目は、教職課程における科目で、看護学科養護教諭一種免許状資格取得希望学生にとっては必修科目である。将来、養護教諭として保健教育が実践できることを目指している。教職課程の授業づくりに関する講義内容を確認しながら、教職課程の実習で授業が実践できるよう演習の機会を多く取り入れている。
	授業科目名【養護実習事前事後指導】 本科目は、養護教諭一種免許状取得のための教職課程科目で、実習前後に実施する科目である。教職課程の実習を初めて経験する学生に対して、実習前の準備を重点的に実施し、実習後は振り返りや実習発表会を実施している。実習前の授業内容は、実習に必要な実践的な演習を多く取り入れている。また、外部講師として現職の教諭などを招き、学生の実習に向けての意欲を高めるような授業構成にしている。実習後の実習発表会には、次年度実習予定の3年生に参加を促し、4年生の意欲を高める機会となるよう構成している。
	授業科目名【養護実習】 養護実習は、教職課程科目で、養護教諭一種免許状取得のためには必修科目である。学校で養護教諭としての仕事を体験する3週間の実習である。学生はこれまでグループで実施する実習形態で、単独で実施する実習経験がないため、個別面談の機会を設け準備状況を確認している。また、学生自身が、将来、養護教諭として働くことを目指し積極的に実習するよう支援している。学生が自身の目標を達成することができるよう、実習校と連絡をとり準備をすすめるよう支援する。実習校訪問は、

	学生の授業実施日などに訪問するよう計画している。
	授業科目名【教職実践演習〈養護教諭〉】 教職実践演習は、教職課程科目で、養護教諭一種免許状取得においては必修科目である。教職課程の総まとめの科目である。授業の内容は、現場で働くことをイメージ化しやすいよう、外部講師からの講話、養護教諭が受講する研修会の視聴、特別支援学校訪問などを取り入れている。また、栄養学科との他職種交流で、他職種の理解を深めたり、連携を考える機会となるよう構成している。
	授業科目名【看護総合実習】 看護総合実習は、看護実習の集大成と位置づけられ、課題から主体的に実習を計画し展開していく。学生は、単独で実習を実施する。学生の一人一人異なる課題とその解決に向けて、実習計画について個別支援する。指導者と連絡をとりながら、学生自身が主体的に実習指導者と連絡を取り、実習を進められるよう学生を支援している。実習後の振り返りも、課題解決に結びついたかどうかについて個別面談で把握し、今後にいかすことができるよう支援する。
	授業科目名【看護総合演習】 看護総合演習は看護専門科目の必修科目である。学生自身で問いをたて、レポートを作成し、最終レポートを発表会で報告する。他の科目担当者と協力しながら、学生のレポート作成を支援している。学生の希望によって、講義外でも個別指導を実施している。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2008 年～現在に至る	日本学校保健学会	
2.	2008 年～現在に至る	日本養護教諭教育学会	
3.	2008 年～現在に至る	日本健康相談活動学会	
4.	2013 年～現在に至る	日本教育保健学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					

3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2022年4月～現在に至る	福岡県若手教員研修(養護教諭)実施協議会	委員
2.	2024年～現在に至る	日本養護教諭教育学会選挙管理委員会	委員
3.	2024年～現在に至る	日本養護教諭教育学会『養護学』の構築にむけたプロジェクト」	メンバー

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2012年4月～現在に至る	教職課程委員会	委員
2.	2018年4月～2024年3月	大学F.D.部門	委員
3.	2023年4月～2024年3月	1年生アドバイザー	

4.	2012 年 4 月～現在に至る	4 年生アドバイザー	
----	------------------	------------	--

講師

鹿毛 美香

■ 学歴

1. 久留米大学大学院 医学研究科修士課程 環境医学講座（医科学修士）修了

■ 学位

1. 2008 年 修士（医科学）

■ 研究分野

1. 公衆衛生看護学
2. 産業保健学
3. 労働衛生学

■ 研究キーワード

1. 労働と健康
2. 産業保健活動
3. 保健師教育

■ 研究課題

1. 労働者の雇用不安やワークストレスを中心にして労働と健康の関連について
2. 産業保健活動展開に必要な能力等を含め現任教育のあり方や学士レベルで備えるべき能力

■ 担当授業科目

1. 社会保障概説（後期）（看護学科）
2. 早期看護実習（前期）（看護学科）
3. 健康教育論（前期）（看護学科）
4. 疫学（前期）（看護学科）
5. 公衆衛生看護活動演習（前期）（看護学科）
6. 公衆衛生看護学実習（通年）（看護学科）
7. 看護総合演習（通年）（看護学科）
8. 看護総合実習（通年）（看護学科）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|---|
| 1. | 授業科目名【社会保障概説】 |
| | 1. 人の生活が安定していくように、国がどのような社会保障および施策で保障しようとしているか、ライフステージ毎に、事例を通して概要を捉えることができるように努めた。特に施策や制度は、国の課題背景があり、それを解決するために整えられるため、背景と施策や制度の流 |

	れを連動して講義を組み立て資料化することで意識づけた。 2. 基本的に講義資料は、1枚(A3)で作成し、制度の構造、支援の流れ等が体系的にイメージできるよう工夫した。
2.	授業科目名【早期看護実習】 1. 1年生対象のアーリー・エクスポージャーの要素を含んだ実習であるため、病院施設と高齢者施設、訪問看護ステーションを体験できるように実習を組んでいる。そこで生じた看護に対する気づきや発見を学内実習日に既習の知識等で意味づけできるように科目責任者と時間の配分等を検討した。 2. 患者や療養者を生活者(療養環境を含む)として理解し、日常生活行動の視点から看護活動を体験する過程で、初学者としての自己の傾向や在り様に気づくことを目指している。実習では、実習指導者とコンタクトをとり、実習指導の方向性を検討・統一する等環境調整に努めた。 3. 学生の気づきや発見から学びにつなげることができるよう、既習の講義内容を考慮した発問をし、学生のアセスメントの視点を広げ、学習効果につなげた。
3.	授業科目名【健康教育論】 1. 科目責任者と共に、講義内容の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、講義組み立てを行った。組み立て時には、健康に関する行動変容と維持に関する理論の選定や時間数の配分、協同学習の活用など検討した。 2. 健康に関する行動変容と維持に関する理論を理解し活用できるように、図式や画像、動画を用い学生が学習内容を視覚的に捉えることができるようにした。また、事例を提示することで看護活動への応用をより具体的に実感できるように努めた。事例については、国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ、対象者を実践的に捉えられるように工夫した。 3. 協同学習を活用し、学生個人が他人の価値観や考え方を知り、多様な対象者の存在を意識できるように努め、学生個人の施行の深まりを支援できるようにした。
4.	授業科目名【疫学】 1. 保健師(主に行政・産業)が実践で活用頻度が高い調査方法や分析方法、また、国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ、ペーパーシュミレーションを取り入れた。 2. 授業資料の1枚目には、毎回、新人保健師の疑問と先輩保健師の応答をイラスト形式で載せ、今から行う学習が実際の現場でどのような疑問の解決へとつながるのかイメージできるよう試みた。 3. 少人数の協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるように試み、グループの構成員を学習内容の難易度に合わせ変更した。 4. 保健師課程以外の学生も受講できるため、看護師として働く中で今回の演習内容が役立つのか等も提示しながら、現場との連動を行った。
5.	授業科目名【公衆衛生看護活動演習】 1. 科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。 2. 演習時は必ず協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるようにし、協同学習を実習メンバーで行うことで、実習へ繋げるように試みた。 3. 家庭訪問技術に関しては、実習で必ず経験する新生児～4ヵ月児までの母子への訪問を題材とし、母子手帳の交付時の保健指導から電話によるアポイント、次回への訪問の予約までと一連の流れ

	れをロールプレイ形式で行うことで、この科目の学習と実習との連動を図った。 4. 母子以外の家庭訪問および保健指導事例に関しては、現場で想定される多問題ケースや困難ケースを題材とし、解決方法・支援方法が一つではないことを意識づけさせるよう試みた。これは、最近の学生が正誤にこだわることを打破したいための策である。 5. 健康教育（集団）技術では、地区診断技術と連動させ、学生が実習を行う地域の健康課題から健康教育のテーマを決めるなど、何のために健康教育をするのかを意識づけさせ、教育スキルだけを学習するのではなく、保健活動の一部であることを踏まえた教育ができるよう演習組み立てを行った。 6. 地区診断技術では、保健師に必要な情報収集能力を獲得できるよう演習に必要な情報については、学生が実習を行う地域を題材とし、この科目の学習と実習が連動するよう試みた。 7. 地区診断を進めるにあたり、教員側から指標等の提示を極力せず、学生の疑問・興味関心から思考を広げ、深めていくように努めた。
6.	授業科目名【公衆衛生看護学実習】 1. 実習指導者と密にコンタクトをとり、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。 2. 学生の実習目標の到達進度に合わせ、発問内容や提示文献を選択し、個別の学習効果を上げる工夫をした。 3. 学生の捉える実習場面（看護現象）を共有し、実習場면을再構成しやすいようにし、学生がその実習場面から導き出した疑問・学びをさらに専門職としての視点や広がりをつけ実習目標に到達できるよう努めた。 4. 抽象的な事柄を説明する際は、学生自身に身近な具体例を加え、実習指導者自ら考えや体験を語っていただけるよう調整し、学生がイメージしやすいように心がけた。 5. 講義時に作成した教科書・ワークシートを実習時には学生に携帯させ、知識の振り返り先を明確にした。
7.	授業科目名【看護総合演習・看護総合演習（行政・産業）】 1. すべての看護各論実習を修了した学生が、自身の疑問や課題を明確にし、実習と連動できるように指導した。そのために、演習では、地域保健や産業看護の理解を深めるために文献検討を行いレポートとしてまとめ、それと併せて実習で必要となる知識技術を振り返る機会を設けた。また、産業看護が提供される場面で初めて学生は実習するため、個々の学びを補うことを目的に、演習に関しては2グループ（3～4名/グループ）での集団学習とした。 2. 実習終了後は、集団学習ではなく、各自の学びを基に作成していた事前レポートを追加修正し、課題解決に向けるようにした。また、ゼミの中で発表し、他学生と共有化することで思考の広がりを求めた。 3. 看護総合実習は、最終学年での看護を統合する実習であるため、学生自身が臨地指導者と実習内容を検討し、実習目標を達成できるように記録用紙や評価指標も学生主体で検討できるように、学生達の思考に合わせて提示する資料や文献等を選んだ。
8.	授業科目名【その他】 1. 自分自身が看護職として、学生のロールモデルになるよう自己研鑽に努めた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2003 年 4 月～現在に至る	日本産業衛生学会	代議員（2008 年 11 月～現在に至る） 倫理審査委員（2018 年 1 月～現在に至る）
2.	2003 年 4 月～現在に至る	日本産業衛生学会産業看護部会	産業保健看護専門家制度委員会：研修内容認定部会実務委員（2021 年 6 月～現在に至る）
3.	2003 年 4 月～現在に至る	日本産業衛生学会 九州地方会産業看護部会	役員幹事：広報担当（2006 年 4 月～）
4.	2008 年 4 月～現在に至る	日本公衆衛生学会会	
4.	2015 年 5 月～現在に至る	日本公衆衛生看護学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
1.	特になし				
2.					
（学術論文）					
1.	特になし				
2.					
（翻訳）					
1.	特になし				
2.					
（学会発表）					
1.	特になし				
2.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（１） 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1.	特になし			
2.				
（２） 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額（単位：円）	備考
1.	特になし			
2.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2018 年 1 月～現在に至る	(公社) 日本産業衛生学会 倫理審査委員会 ・学会員から研究等の遂行に当たり倫理的な要件を満たしているかどうか協議する。また、審査を受けるまでの相談等を受ける。	倫理審査委員
2.	2021 年 6 月～現在に至る	(公社) 日本産業衛生学会産業看護部会 産業保健看護専門家制度委員会 ・産業保健看護専門家制度における研修認定審査を担当し、各地方会や学術集会で行われる研修内容が産業保健看護専門家制度の必要単位の研修内容として要件を満たしているか検討する	実務委員
3.	2006 年 4 月～現在に至る	(公社) 日本産業衛生学会九州地方会産業看護部会 ・九州地方にて就業する産業看護職に対する研究会および研修会を開催する等、現任教育に努める。また、役員として現場の看護職からの相談等を受ける。 ・産業看護部会本部（全国）と協働し、産業看護職に関係する法改正等がある場合は、現場より意見を集約する。	役員幹事
4.	2017 年 1 月～現在に至る	福岡県医師会 外国人看護師候補者資格修得支援事業 ・インドネシア現地講師（2～3 週間）および国内講師（5～7 日間）科目：社会保障含む看護全般	講師

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	学生募集委員	
2.	2022 年 4 月～2024 年 3 月	1 年生アドバイザー	
3.	2022 年 4 月～2024 年 3 月	看護学科プロジェクトメンバー	
4.	2012 年 5 月～現在に至る	生協理事	

講師

財津 倫子

■ 学歴

1. 2023 年 3 月 大分県立看護科学大学大学院 博士課程修了

■ 学位

1. 2023 年 博士（看護学）

■ 研究分野

1. 看護教育学
2. 成人看護学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 看護大学生 臨地実習適応感 アタッチメントスタイル
2. 医療システム 退院調整 医療提供システム

■ 研究課題

1. 看護教育学に関して、看護大学生のアタッチメントスタイルと実習の適応感との関連について研究を進めている。看護大学生へ対し、アンケートを実施し、分析した結果をまとめ、実習適応感については論文をまとめた。続いてアタッチメントスタイルと実習適応感の関連について調査を行い、結果を論文にまとめた。今後は、実践を行い、データを整理する予定である。
2. 成人看護学（急性期）に関して、入院・治療・退院・外来・地域における医療提供システムについての研究を進める予定である。

■ 担当授業科目

1. クリティカルケア看護学（前期：看護学科） 選択
2. 成人看護学演習（前期：看護学科）必修
3. 健康教育論（前期：看護学科）必修
4. 看護研究の基礎（前期：看護学科）必修
5. 看護学（後期：栄養学科）←開講なし
6. 成人急性期看護方法論（後期：看護学科）必修
7. 成人急性期看護学実習（後期：看護学科）必修
8. 看護のための臨床検査（後期：看護学科）必修
9. 看護総合実習・演習（前期・後期：看護学科）必修

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【クリティカルケア看護学】 1. 危機的状況にある患者・家族、医療従事者の倫理的課題についてのグループワーク発表では、学生同士で質疑応答ができるよう計画し、理解が深まるよう努めた。 2. 認定看護師における演習においては、ともに技術演習を行い、学生が理解不足である箇所は補いながら、ともに実践し、学生の理解が深まるよう努めた。
2.	授業科目名【成人看護学看護過程演習】 <講義> 1. 事前学習の方法・病態関連図・フェイスシート・データベースアセスメント・フォーカスアセスメント・全体像・問題リスト・計画立案・評価・評価日評価とは何か、情報の整理の仕方、分析の仕方、計画立案方法、評価方法について解説している。 <看護過程> 1. 事例の読み方、考え方を説明し、次にどの教科書のどのページに参考となることが記述されているかを示し、教科書を確認しながらの分析を進める方法を定着させた。 2. 講義後、看護過程の展開について担当グループへ再度解説し、全員が理解できるよう努めた。 3. グループワークでの学びが深まるよう、他者との意見交換の場を設けた。 4. 個人でのファイル作成であり、できているところも伝えながら、前進できるよう指導を行った。 <看護技術：周手術期の看護> 1. 術直後の観察の実際をわかりやすくデモンストレーションしながら、観察の根拠やポイントを説明した。学生が、ベッド毎に別れて、技術練習を実施する際、学生のできているところできていないところをタイムリーに伝え、時には質問も交えながら、自分で考え理解しやすいよう指導した。
3.	授業科目名【健康教育論】 1. 理論の講義から指導案・パンフレット作成、発表までの実践を行った。 2. 事例を提示し、どのような項目でパンフレットを作成するかはあらかじめ伝え（2年生が対象であり、パンフレットの構成を考えることは、まだ難しいと考えた）、その項目内容で個別性をふまえるとどのように説明をすれば相手が理解しやすいのか、相手にわかりやすくするためにはどのような工夫が必要かを、自らで考えて気づくことが出来るような授業とした。指導案を作成し、パンフレットを作成するだけでなく、指導を受ける側（患者体験）も経験させ、客観的に自己を振り返る機会（自己評価表の配布）を設けた。
4.	授業科目名【看護研究の基礎】 1. 担当部分を4名の教員が講義を行い、それを受けた形で個人ワークやグループワークを行った。 2. 研究テーマの選定から、Google フォームの作成、論文検索、研究計画書の作成、依頼文・承諾書・調査票の作成、研究説明文書の作成、質問紙調査、結果の集計、分析、抄録作成、発表までを行った。
5.	授業科目名【看護学】 開講無し
6.	授業科目名【成人急性期看護方法論】 1. 消化器、循環器の構造と機能の説明から、その検査・治療と術前術後の看護を、パワーポイント

	を用いて説明する際、図や画像を用いてわかりやすく解説した。項目ごとに国家試験問題を入れ込み、一人にあてて解答させるが、全員で考えることが出来るよう工夫した。 2. レジメの重要なポイントは赤く反転させ、学生が重要な個所を自身でチェックできるよう工夫した。 3. 課題は、そのまま3年生の前期（看護過程）につながるものとし、学びがつながるよう工夫した。
7.	授業科目名【成人急性期看護学実習】 1. コロナ禍により臨床実習が9時から12時までの3時間であった施設もあったが、全グループ臨地実習を行うことができた。 2. 知識の上でわからなければ、どこに（教科書や参考書や事前課題）戻ればいいのかを伝え、自分で考えることが出来るよう導いた。また、質問しやすい雰囲気を作り、グループ間そして教員へもわからないことがあれば質問・確認ができるように、臨地での指導の際は、必ず学生に所在を伝えた。 3. 直接指導に当たる教員と毎日コンタクトを取り、各学生の目標やゴールを定め、協力して指導を行った。 4. カンファレンスにおけるコメントを伝える際は、まず良い点を伝えてから、注意を要する箇所をコメントするよう心掛けた。先に注意をすると、その後のコメントは頭に入ってこない様子が見受けられ、良い点を伝えてから、重要なポイントを伝えるよう努めた。 5. 実習終了後の面接においては、学生自身に出来たことと出来なかったことを考えさせ（自身で気づかない学生にはこちらからコメントする場合もある）、できなかった項目について、なぜ出来なかったのかを、ともに考えるようにした。そして、今回出来なかったことを、次の実習でできるようになるためには、具体的に何をすべきかを考え、今後の行動目標および課題を明確にした。
8.	授業科目名【看護のための臨床検査】 1. 担当部分を3名の教員が講義を行い、前（知識確認テスト3分）後（小テスト3分）を実施した。 2. 章が終わるごとに、国家試験問題を出題し、学生に解答させることで、全員が自身の理解度を確認できる機会を必ず設けた。 3. 演習では、心電図の波形が出る人形を用い、グループごとに12誘導の装着を体験した。装着のポイントを学ぶとともに、装着される患者の気持ちも考えることができる機会を設けた。
9.	授業科目名【看護総合実習・演習】 1. 実習希望病棟決定後、文献研究のテーマを決め、文献研究を進め（週1回のゼミ）、文献研究の結果に即した実習計画書を作成。その後、実習病棟に実習計画書を発表し、指導を受け、必要な事前学習を進め、臨地実習に臨んだ。総合実習においては、病棟との調整は学生に任せ、報告・連絡・相談・調整を学ぶことができるよう支援した。 2. 文献研究においては、構成・参考文献の示し方・図や表の挿入・参考文献リストの記入方法・倫理規定などについて解説し、週1ゼミを行い、完成まで指導を繰り返した。 3. 実習終了後、文献研修についてパワーポイントで（10分）発表できる資料を作成させ、発表会を開催（質疑応答5分）。相手に分かりやすく伝える資料を作成する難しさ、相手に伝わりやすい話し方、質問の仕方、質問に対する答え方等を学ぶことのできる機会を設けることで、就職してからの研究発表につながるよう支援した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2004 年 12 月～現在に至る	日本看護管理学会	
2.	2005 年 6 月～現在に至る	日本運動器学会（日本整形外科看護研究会より改名）	査読委員(2009 年 4 月～現在に至る)
3.	2007 年 3 月～現在に至る	日本看護科学学会	
4.	2015 年 12 月～現在に至る	日本看護学教育学会会員	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（１） 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.				
2.				
3.				

（２） 個 人 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	交付決定額	備 考

			(単位：円)	
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 4 月～2025 年 3 月 (2009 年 4 月～現在に至る)	日本運動器看護学会	日本運動器看護学会査読委員
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2022 年 4 月～2024 年 3 月	公開講座委員	
2.			
3.			

講師

隅田 由加里

■ 学歴

1. 産業医科大学大学院医学研究科看護学専攻（修士課程）看護管理学分野 卒業 修士（看護管理学）

■ 学位

1. 修士

■ 研究分野

1. 看護管理
2. 看護教育
- 3.

■ 研究キーワード

1. 看護実践能力，一人前レベル，急性期医療、共分散構造分析、因子分析
2. ジグソー法、協同学習、アクティブラーニング、看護学生、診療関連技術、
- 3.

■ 研究課題

1. 急性期医療を担う「一人前」レベル移行期にある看護師の看護実践能力に関する研究
2. ジグソー学習法を活用した協同学習が診療に伴う看護技術の学習活動に与える効果

■ 担当授業科目

1. 診療関連技術論演習
2. 看護マネジメント論
3. 看護マネジメント総論
4. 看護総合演習（看護管理）
5. 看護総合実習（看護管理）
6. 初年次セミナーⅠ
7. 初年次セミナーⅡ
8. 看護過程論
9. 看護技術論演習
10. ヘルスアセスメント技術演習
11. 生活援助技術論演習
12. 早期看護実習
13. 基礎看護学実習Ⅰ
14. 基礎看護学実習Ⅱ

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【診療関連技術論演習】 「形態機能学」「生活援助技術論演習」の既習の知識を活用できるよう資料を工夫し、予習、講義・演習、振り返り・復習のプロセスとなるように計画した。演習に関してはチーム活動を導入するとともに、ジグソー法による協同学習を取り入れて、アクティブラーニング形式とした。Google classroom内に動画媒体を導入し繰り返し視聴できるようにした。学生の技術における自主練習の際は科目担当者が付き添い、学生とのコミュニケーションを図りながら支援を行った。
2.	授業科目名【看護マネジメント論】 看護総合実習に向けた実習計画立案にも役立つよう、実習部門を例にして、2年次の「看護マネジメント総論」での学びを活用しての看護サービス管理と、それをもとにした看護ケア管理を軸に授業を構成した。授業は講義とグループワーク方式を連動させ、質の高い医療・看護とは何か、質の高い医療・看護を全ての患者に提供するためにはどのようなマネジメントが必要であるかを思考する形式とした。また本授業は最後の各論実習期間と合致するため、選択している学生の実習日等を配慮し、履修学生全員が参加できるよう日程の調整を図った。
3.	授業科目名【看護マネジメント総論】 経営・経済的なハード的要素と、人間関係構築のようなソフト的要素を含み、理解すべきマネジメント用語も多いため、可能な限りわかりやすい言葉を使用し、日常生活の中に存在する身近なマネジメントともリンクさせながら、マネジメントとは何かという導入から開始し、今の医療現場の状況を踏まえながら授業を展開し理解向上に努めた。「医療安全」の単位においては、動画等を活用してヒューマンエラーの理解と医療安全対策の必要性を教授した。
4.	授業科目名【看護総合演習（看護管理）】 実習部門である「医療安全管理部」「感染制御部」「看護部」「病棟」における看護管理実習の目的・目標の立案に向け、実習前は1回／1～2週にゼミを開催し、8月上旬までに上記の部門における実習目的・目標・実習スケジュール・評価指標を構築できるように調整を図った。実習終了後は実習での学びを活用し、各自のテーマに即した卒業論文記載の支援を行い、論文集の冊子を作成した。
5	授業科目名【看護総合実習（看護管理）】 7日間の実習の中で、実習部門は「医療安全管理部」「感染制御部」「看護部」「病棟」の5部門であるため、学生が円滑に実習を行うことができるように施設側と複数回に渡って調整を図った。実習前に実習指導者への説明会を調整し、学生がプレゼンテーションを行える機会を調整した。これによって、学生は看護管理実習のイメージ化を図ることができた。また実習期間中は、部門が変わるごとに教員も付き添い、実習導入が円滑となるよう支援した。
6	授業科目名【初年次セミナーⅠ】 1年次前期の科目であるため、学生とのコミュニケーションが図れるよう、教員から積極的に声かけを行い人間関係の構築に努めた。学生のレポートのフィードバックは、まずは全体の総括を行った後、個別でも実施した。グループ間の人間関係が構築できるように、学生間の調整を必要時図った。
7	授業科目名【初年次セミナーⅡ】 グループで1つの小論文を完成させるという大目標があったため、学生が日々の授業以外の時間でも初年次セミナーⅡの話し合い等の調整を行いやすいように、基礎看護学の授業と同じグループ

	とし、他領域との調整を図った。授業時は 3 つのグループの支援が均等に行えるように時間調整を図るとともに、時間外の相談にも対応した。
8	授業科目名【看護過程論】 看護過程を展開するうえでの基本的な考え方や方法をわかりやすく具体例を活用し指導するとともに、学生が興味を持てるよう肯定的な言語を活用し承認を意識したコミュニケーションを図った。個別フィードバックにおいては、改善点をわかりやすく記載し配布し修正が行いやすいように配慮した。授業終了後は、担当教員間で Meeting を開き教員間の情報交換と情報共有を行った。
9	授業科目名【看護技術論演習】 科目責任者と事前調整を図り、「感染予防技術（スタンダードプリコーション）」「安全を守る技術（ボディメカニクスとポジショニング）」「環境調整技術（ベッドメイキングとシーツ交換）」の演習では、履修学年である 1 年生が理解できるよう、わかりやすい説明を心掛け、技術をみせながら実践を通して根拠と技術ポイントを思考できるよう心がけた。
10	授業科目名【ヘルスアセスメント技術演習】 科目責任者と事前調整を図り、バイタルサインの「体温測定」「脈拍測定」「呼吸測定」「血圧測定」をはじめ、演習の際は担当学生に対して、わかりやすい説明を心掛け、技術をみせながら実践を通して根拠と技術ポイントが思考できるよう心がけた。実技試験の評価時は、公平性を担保できるよう時間を調整し、評価ポイントに準じて実施した。
11	授業科目名【生活援助技術論演習】 科目責任者とは、限られた時間の中で教授すべき技術ポイントの事前調整を図り演習に臨んだ。演習では「活動と休息（車椅子操作）」「清潔（足浴、洗髪台での洗髪）」「排泄（オムツ交換と陰部洗浄）」に参加し、可能な限りわかりやすい説明を心掛け、技術をみせながら実践を通して根拠と技術ポイントが思考できるよう心がけた。統合演習における実技試験の評価時は、公平性を担保できるよう時間を調整し、評価ポイントに準じて実施した。
12	授業科目名【早期看護実習】 入学して 2 ヶ月の学生の病院・施設実習となるため、まずは学生と患者の安全が担保されるように教員間で時間をかけて調整するとともに、学生が注意点を理解できるようにわかりやすい説明を行った。身だしなみの重要性と必要性をなんども説明した。学生が自由な発生で気づきを得ることができるよう導き、また臨地実習指導者にも学生が理解し気づきを得ることができるよう、わかりやすい言葉で細やかな説明を加えてもらえるよう調整を図った。感染兆候の有無に留意し、日々の健康管理を各学生が行えるシステムを構築した。
13	授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 学生が感染防止対策の重要性が理解できるよう健康管理を各学生が行えるシステムを構築した。実習目標達成に向けて早い段階から日程やスケジュール等を基礎看護学教員間で調整し、実習に臨み、実習期間中は臨地実習指導者と調整を図り学生が目標達成できるよう支援を行った。
14	授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 学生は 1 年次の基礎看護学実習Ⅰは学内実習で初めての臨地実習であったため、円滑に実習が導入されるよう臨地実習指導者と調整をはかった。また学生が能動的に積極的に実習を勧め、日々の実習の中で自身の成長を実感するとともに、失敗経験を振りかえり次に活かせるように調整を図った。

学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2017 年 4 月～現在に至る	日本看護技術学会	
2.	2017 年 4 月～現在に至る	日本看護学教育学会	
3.	2017 年 4 月～現在に至る	日本看護管理学会	
4.	2017 年 4 月～現在に至る	日本看護科学学会	
5.	2022 年 8 月～現在に至る	医療の質・安全学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.				
2.				
3.				

（2） 個 人 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	交付決定額	備 考

			(単位：円)	
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2017 年 4 月～現在に至る	西南女学院大学 認定看護管理者教育課程 フォーストレベル 質管理Ⅰ： 看護サービス管理の安全管理授業担当	教育運営委員
2.	2023 年 8 月 26 日・27 日	第 33 回日本看護学教育学会	運営役割
3.	2023 年 12 月 10 日	第 43 回日本看護科学学会	運営役割

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2022 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日	宗教委員会	委員
2.	2022 年 4 月 1 日～現在に至る	学力向上プロジェクト委員会 (低学年担当)	委員
3.	2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日	学力向上プロジェクト委員会 (国家試験対策担当)	委員
4.	2017 年 4 月 1 日～現在に至る	認定看護管理者教育課程教育運営委員会	委員

講師

長崎 恵美子

■ 学歴

1. 2016 年 川崎医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健看護学専攻修士課程 修了

■ 学位

1. 2016 年 修士（保健看護学）

■ 研究分野

1. 基礎看護学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 意思決定支援
2. 看護倫理
- 3.

■ 研究課題

1. 「心疾患をもつ高齢者の DNAR 選択に対する看護師の意思決定支援」に関する研究で、看護師の困難感は一層明らかとなったため、看護師のニーズに合わせた教育コーチングの開発を進める。
2. 臨床看護師における倫理的問題と道徳的感性に関する研究

■ 担当授業科目

1. 看護技術論演習（前期） 必須
2. 看護過程論（前期） 必須
3. 診療関連技術論演習（前期） 必須
4. ヘルスアセスメント演習（後期） 必須
5. 生活援助技術論演習（後期） 必須
6. 基礎看護学実習Ⅰ（後期） 必須
7. 基礎看護学実習Ⅱ（前期） 必須
8. 総合演習（通年） 必須
9. 総合実習（通年） 必須
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|----------------|
| 1. | 授業科目名【看護技術論演習】 |
|----|----------------|

	1 年次前期必修科目 1 単位で講義と演習形式で行っている。内容は、「看護技術概説」「感染予防技術（スタンダードプリコーション）」「安全を守る技術（ボディメカニクスとポジショニング）」「環境調整技術」「コミュニケーション」「記録・報告」について教授した。履修学年が 1 年生であることから、看護への動機づけを行うとともに、臨床での具体例を用いてわかりやすい説明を心掛けた。演習でも実際に技術を教授するため、動画の作成と活用、教員が実践しながら根拠や身体の使い方などのコツを具体的に説明するように心がけた。
2.	授業科目名【看護過程論】 2 年次前期必修科目 2 単位で講義と演習形式で行っている。グループワークで、約 6 名/G で構成される 3 グループ 18 名を担当し、事例を基に一連の看護過程を展開するうえでの基本的な考え方や方法を教授した。この科目は、基礎看護学で一連のプロセスを学んだ後、各領域別実習でも共通の思考過程をたどるため、理解が深まり看護実践につなげることの楽しさを感じてもらう必要がある。そのため、学生の苦手意識を最小限にし、グループワークを通して多様な考えや意見を参考にできる学びと雰囲気づくりを心掛けた。個別指導の時間には、思考過程のポイントや情報の集め方などを紙面に起こし、補足説明を行って理解の助けとなるように対応した。
3.	授業科目名【診療関連技術論演習】 2 年次前期必修科目 2 単位で講義と演習形式で行っている。学生が実際に対象者に技術を実施することはないが、侵襲や苦痛が大きい技術のため、倫理的配慮が重要な技術であることを演習指導で説明した。また、演習や実技試験の評価を通して、看護形態機能学の知識に基づいたアセスメントの考え方や既習の知識や技術を応用していくことを説明し、理解を深めるようにした。
4.	授業科目名【ヘルスアセスメント演習】 1 年次後期必修科目 1 単位で講義と演習形式で行っている。内容は、ヘルスアセスメントの意義と「生きている」ことをアセスメントするうえで必要となる「循環器系」「呼吸器系」「消化器系」、「生きていく」ことをアセスメントするうえで必要となる「感覚器系」「中枢神経系」「筋・骨格器系」のフィジカルアセスメントについて教授した。看護形態機能学の知識に基づいたアセスメントの考え方は必須であるため、自己学習を通して知識の定着を図った。特に看護技術の要となるバイタルサイン測定については、聴診器・アネロイド血圧計を購入してもらい、実技試験項目として演習で具体的に説明し、理解を深めるように心掛けた。正確な技術が必要であるため、全体に改善する内容についてもフィードバックした。
5.	授業科目名【生活援助技術論演習】 1 年次後期必修科目 2 単位で講義と演習形式で行っている。内容は、「活動と休息」「清潔」「食事」「排泄」について教授した。自分の日常生活行動を今一度考えながら、病や障害をもち日常生活行動に制限が生じている対象に安全・安楽・自立・倫理的配慮をふまえた援助方法について考え、基本的な技術を実践する。その際に必要な考え方、原理・原則を守りながら個別性を生かした方法について、学生自身が気づけるような関わりを心掛けた。
6.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 2 年次後期必修科目 1 単位の实習形式で行っている。初めて患者を受け持ち、患者や実習指導者とのコミュニケーションを通して、患者との関係構築と生活上のニーズの充足を目指す援助について考え、実施する。学生は、初めての環境の中で緊張が大きいと、身体面や心理的を細やかに見ながら、実習指導者と連携を図りながら、受け持ち患者に考えた援助の実施と評価が行えるように支援した。

7.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 2 年次前期必修科目 2 単位の実習形式で行っている。患者を受け持ち、初めての看護過程の展開と看護実践の一連の過程を行う。学生は、初めての長期実習となるため、緊張や体調管理などに注意を払う必要がある。そのため、患者や実習指導者とのコミュニケーション、記録を通して情報の集め方や整理、看護問題の方向性、看護実践の内容について助言や指導を行い、学生の看護実践を見守り、達成感を得られるように支援した。
8.	授業科目名【看護総合演習】 4 年次前期・後期必修科目 2 単位の演習形式で行っている。ゼミ生 6 名に対して、看護総合実習に向けて、文献検索、文献を用いた抄読会を実施し、得た知識を生かして実習計画が立案できるように指導を行った。実習後は自分で学習した知識と実習の体験の結びつきから学びを深めてレポートにまとめることをサポートした。最終学年であり、次年度は看護師として働く社会人を意識した自主性や国家試験対策についても支援した。
9.	授業科目名【看護総合実習】 4 年次前期・後期必修科目 2 単位の実習形式で行っている。ゼミ生 6 名それぞれが看護総合演習で立案した実習計画を基に、病院での実習を行う。学生が自ら実習の中で看護師と調整したり、多職種との連携とそこでの看護師の役割、優先順位の判断、リーダーの役割など次年度から生かせる学びの機会となるよう目的意識を持って自ら学ぶ実習にするよう支援した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2014 年 4 月～現在に至る	日本看護協会会員	
2.	2014 年 12 月～現在に至る	Sigma Theta Tau International 会員	
3.	2015 年 12 月～現在に至る	日本看護研究学会会員	
4.	2016 年 2 月～現在に至る	日本看護倫理学会会員	
5.	2017 年 4 月～現在に至る	日本看護診断学会	
6.	2022 年 6 月～現在に至る	日本看護科学学会会員	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
1.	2023.11	プチナース 別冊付録 周術期標準 看護計画	共著	照林社	① 看護学生が周術期の患者によく挙げる 9 つの術後合併症の看護計画の中から、「転倒・転落の予防」について解説した。発達段階に応じたリスク要因や術前後の看護計画立案の視点について説明し、個別性のある看護計画を O-P、C-P、

					E-P に具体的に記述した。 ② 監修者名：伊東美佐江 共著者名：長崎恵美子, 伊東美佐江, 他 11 名 ③ 担当部分： 転倒・転落の予防（P26～28） 総頁数：P35 ④ B5 判
2.					
3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2023. 7	ACP 実践における意思決定支援のタイミングに関する研究動向	共	第 29 回日本看護診断学会学術大会 (於 アクロス福岡)	① 医学中央雑誌を用いて検索した 19 文献から、ACP 実践での意思決定支援のタイミングに関する分析を行った。多くは人生の最終段階における実践で、呼吸・循環器系、婦人科や進行がん罹患した患者を対象とし、デスエデュケーションの実際や認識に関する研究であった。 ② 共同発表者名：小野聡子, 紙谷恵子, 長崎恵美子, 那須明美, 松本啓子, 伊東美佐江 ③ 第 29 回 日本看護診断学会抄録集 P55
2.	2023. 12	心疾患をもつ高齢者のエンドオブライフの治療選択にかかわる看護師の困難感	共	第 43 回日本看護科学学会学術集会 (於：海峡メッセ下関)	① 看護師 10 名に心疾患をもつ高齢者のエンドオブライフの治療選択にかかわる看護師の困難感について、半構成的面接法で調査した。結果は 8 カテゴリーが抽出され、かかわりへのスキル不足や医師との関係性、意向の不一致、確認のタイミングの困難を感じていた。 ② 長崎恵美子, 森山美香, 小野聡子,

					濱松恵子, 伊東美佐江 ③ 第 43 回 日本看護科学学会プログラム集 P92
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	非がん性慢性呼吸器疾患患者の呼吸管理選択に関する支援ツールの開発と検証		(○小野聡子) (伊東美佐江) 長崎恵美子	2,320,000
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	学生個人情報保護委員	
2.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	1 年生アドバイザー	
3.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	社会人基礎力向上ワーキング	

講師

中原 智美

■ 学歴

1. 2011 年 山口大学医学系研究科 保健学専攻 修士課程 修了

■ 学位

1. 2011 年 修士（保健学）

■ 研究分野

1. 成人看護学
2. 遺伝看護学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 慢性期看護
2. 糖尿病教育・看護
3. 多因子遺伝, 遺伝看護
4. 初年次教育
5. がん看護

■ 研究課題

1. 慢性疾患をもつ患者・家族への看護に関する研究
2. 2 型糖尿病の遺伝に関する知識が患者の自己管理行動および看護に及ぼす影響についての研究
3. 初年次教育の学修効果に関する研究

■ 担当授業科目

1. 緩和・がん看護学 (前期) 必修
2. 成人看護学演習 (前期) 必修
3. 成人慢性期看護方法論 (後期) 必修
4. 成人慢性期看護学実習 (後期～前期) 必修
5. 看護のための臨床検査 (後期) 必修
6. 初年次セミナー I (前期) 必修
7. 初年次セミナー II (後期) 必修
8. 看護総合演習 (通年) 必修
9. 看護総合実習 (通年) 必修
10. 看護学 [栄養学科] (後期) 選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【緩和・がん看護学】 主な担当内容は、がん看護（6 コマ）、症状緩和のためのマネジメント（1 コマ）である。疾患・治療による影響のメカニズムやなりゆきを明確にし、看護の根拠を理解しやすいように組み立て、できるだけ具体的な看護方法を示しながら講義した。また、がんサバイバーが治療と生活を両立することをサポートするための視点にも重点を置き、法制度や社会資源、チーム連携のあり方を具体的に紹介したり、実際の患者の声（大規模調査のデータ）を題材としたディスカッションを行ったりした。 講義内容の理解を深めるための工夫として、疾患・症状・治療などのイメージが難しいものについては画像を見せたり、医療ドラマなどの話題を盛り込んだり、講義内容と関連のある最新ニュースや新聞記事を紹介するなど、理解を深めるための工夫を行った。 講義終了後には、学び・疑問を記入してもらい、次の講義の冒頭で質問への回答や感想を紹介し、お互いの考え・疑問を共有することにより関心を高められるように努めた。
2.	授業科目名【成人看護学演習】 看護過程演習では、慢性期疾患（肝硬変）の事例を通して看護過程の展開（10 コマ）を主担当として講義した。反転学習として事前に課題に取り組みせ、自分が解決したい疑問点を整理したうえで講義に臨めるように工夫した。講義前後に教員 8 名で指導内容を共有し、講義の指示内容については、教員間で統一をはかった。 臨地実習での情報収集を想定し、本年は事例の情報を教育用電子カルテから読み取るように変更した。実際に使用して、教員側の記載の不備や、学生が情報の存在に気づいていない場合にはアセスメントに活用できないなど、今後の検討課題が見出された。 提出物へのコメントはあえて個別記載を行わず、全体に共通する事項を Classroom に掲載する方法とした。個別に赤ペン記載すると指摘を受けた部分だけしか見直さない傾向があったが、各自で点検しながら修正することにより改善に繋がった。グループワーク時には理解を促進するよう補足説明を行い、必要時には個別面談を行いフォローアップした。 技術演習は、患者教育、血糖自己測定・インスリン自己注射を担当した。
3.	授業科目名【成人慢性期看護方法論】 内分泌・代謝機能／腎・排泄機能／生体防御機能に障害をもつ人の看護、肝硬変患者の看護（計 9 コマ）を担当した。機能障害によっておこる身体面への影響、疾病のなりゆき、生活面や心理・社会的側面でのなりゆきを予測してアセスメントする力を養うためのトレーニングとして、講義で取り上げた各疾患のアセスメントの視点をふまえた観察項目を考えることを課題として課し、発表により意見を共有するなどの工夫を行った。また、既習の形態機能学、疾病学、薬理学なども想起させながら、看護を理解しやすいように講義の流れを組み立てた。 学習内容への関心を高め、授業への集中力を高めるために、講義終了後に記入してもらった学びや質問を次の講義の冒頭で共有し、単元（2～3 コマ）ごとに小テストを行いこまめに振り返りができるようにした。講義の間が空く際には課題を組み入れ、前回内容の復習、次の講義の予習につながるように工夫した。
4.	授業科目名【成人慢性期看護学実習】 本年度は毎日 3 時間（午前）の時間制限付きで臨地実習を行った。感染症拡大の影響により、時期によって病棟に上がれないこともあったが、カルテ閲覧のみや学内での実習に切り替えるなど、状況

	に合わせて実習目標が達成できるように調整し、できるだけ臨地へ行けるよう、ケア実践の機会を多く確保できるように努めた。実践することでの気づき、失敗からの学びを大切にして自己や他者を深く理解できるように働きかけた。 実習中の実践、カンファレンスや最終面談においては、次の 3 点を意識して直接的・間接的に指導を行った。 ①患者を全人的に捉え、これまでのライフスタイルや価値観を尊重した個別性のある看護実践 ②看護展開を通して一貫性・整合性のある思考 ③学生の強みと今後の課題 学習面、精神面などで特に指導を要す学生に対してはこまめに個別面談を行い、実習目標が達成できるよう個々の問題に応じた指導・支援を行った。また、実習内容、実習場所、実習方法の調整を行い、実習がスムーズに運ぶように努めた。
5.	授業科目名【看護のための臨床検査】 本科目では、基盤となる血液検査、画像検査の基本を押さえたうえで、系統別に検査の特徴、実施法、看護上の注意点が理解できるように構成した。主として、内分泌・代謝系／腎・泌尿器系／血液内科系／皮膚科・耳鼻科・眼科系の検査、技術演習（計 6 コマ）を担当した。できるだけ画像や動画を見せ、検査方法をイメージできるように工夫した。 検査の理解だけでなく、検査の基本やデータ基準値を覚えることを促進する働きかけとして、講義の初めに知識確認テストを行った。また、終了前にはその日の内容について小テストを行い、毎回の講義に集中できるように工夫した。 技術演習では、3 つの項目（スパイロメトリー、心電図、尿検査）について検査方法、結果の判定、看護上の留意点が理解できるように構成した。
6.	授業科目名【初年次セミナーⅠ】 ①講義、課題などのスケジュール自己管理と学修の振り返りのために、ポートフォリオを毎回持参させシラバスで確認するよう指導した。 ②ミニレポート・レポート作成にあたり以下の点について改善を行った。 ・学生が苦手とする「問いの発見」については、問いだてを理解しやすいようにシートの改善を行った。 ・文献検索法を繰り返し説明し実践させることで、情報の入手法の習熟度を上げる取り組みをした。 ・ミニレポートの課題文は、難易度を考慮した。また、課題文をモデルに問いだての仕方や文献の読み方を講義で説明した。
7.	授業科目名【初年次セミナーⅡ】 ①初年次セミナーⅡではプレゼンテーションにウェイトを置き、従来よりもプレゼンテーション準備に充てる時間を 1 コマ増やし、「発表する」「討論する」力の強化に努めた。 ②初回の全体講義は他学科と合同開催とし、異なる学科のメンバーとグループワークを行うことで交流の機会とした。 ③グループ力の強化に重点を置き、ユニット（3 人）を二つ組み合わせたグループ（6 人）を編成し、ユニットやグループ内で討論・推敲しながら協力して創り上げるプロセスを経験できるように工夫した。メンバー間のコミュニケーションをとりやすいように、メンバー編成は他科目と連動したものとした。また、メンバーの特性に偏りが出ないように考慮した。

	④個々人の役割を明確にして、全員が何らかのリーダー役割、メンバー役割を経験できるような仕組みを構築した。 ⑤評価は個人評価、ユニット評価、グループ評価を組み合わせ、学生にもあらかじめ周知したうえで能動的に取り組むように働きかけた。 ⑥作業が効率よく進められるように、毎回 PC を持参するように呼びかけた。
8.	授業科目名【看護総合演習〔慢性期・終末期〕】 自己課題に基づいたテーマの設定、および根拠ある看護実践のために文献検索を行い、文献や理論と比較しながら科学的な視点をもってテーマに沿った看護を追求することで今後の課題が明確になるよう指導した。レポート作成時は、研究論文の形式を意識して構成できるように、個別に繰り返し添削指導を行った。また、発表会を行うことでそれぞれの学びを共有でき、最終的に冊子も作成して達成感を感じられるように図った。 そのほか、ゼミメンバーや教員間との連絡・調整などを通して学生が主体的に行動できるよう指導・助言を行った。
9.	授業科目名【看護総合実習〔慢性期・終末期〕】 従来と実施時期を変更し、7月末～8月上旬にかけて実施した。また、本年度も3時間の時間制限付きでの臨地実習であったため、実習施設と学生間の打ち合わせを行いながら、実習が円滑に進められるように調整を図った。実習では、看護実践における自己課題を明確にすることができるよう、また、看護の質向上や互いの能力向上のために、メンバー間の連携をとりながら主体的・計画的に行動できるように指導・助言を行った。
10.	授業科目名【看護学】 2023 年度開講なし

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2007 年 4 月～現在に至る	日本看護研究学会	
2.	2007 年 5 月～現在に至る	日本糖尿病教育・看護学会	
3.	2007 年 5 月～現在に至る	日本遺伝看護学会	
4.	2012 年 7 月～現在に至る	日本看護科学学会	
5.	2013 年 7 月～現在に至る	日本看護学教育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					

1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2019年2月～現在に至る (2020～2023年度は新型コロナウイルス感染症の影響により活動休止中)	ギラヴァンツ北九州における救護ボランティア (ミクニワールドスタジアム北九州に於ける試合の際、観客を対象とした救護活動)	学生ボランティアのコーディネーターおよび指導、引率
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2022.4.1～2024.3.31	情報システム管理運用委員会	
2.	2023.4.1～2024.3.31	1年生アドバイザー	
3.	2023.4.1～2024.3.31	4年生アドバイザー	
4.	2023.4.1～現在に至る	看護学科種まきプロジェクト 【学力向上】分科会	共用試験導入対策（知識確認試験）担当

講師

樋口 由貴子

■ 学歴

1. 2017 年 産業医科大学修士課程 卒業

■ 学位

1. 2017 年 修士（看護学）

■ 研究分野

1. 小児看護学

■ 研究キーワード

1. 子ども
2. 感染症
3. 家族支援
4. 学生健康支援

■ 研究課題

1. 小児看護に関して、子どもの権利を尊重した看護の実際について考察する。また、入院中の患児とその家族の健康管理について考察する。
2. 病気や障害をもつ子どもとその家族への支援について考察する。
3. 学生健康支援の一つとして、本学保健福祉学部 1 年生を対象に健康管理カルテを作成しその有用性について検討を行う。

■ 担当授業科目

1. 小児看護学概論（前期）（看護学科）必須
2. 小児看護学方法論（後期）（看護学科）必須
3. 小児看護学演習（前期）（看護学科）必須
4. 小児看護学実習（通年）（看護学科）必須
5. 看護総合実習・演習（通年）（看護学科）必須
6. 緩和・がん看護学（前期）（看護学科）必須
7. 看護学特論（後期）（看護学科）選択
8. 助産診断・ケア学IV（前期）（助産別科）必須

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【小児看護学概論】 子どもの成長と発達を、教科書を基に説明した。学生が興味をもち授業に参加できるよう、また子どもとほとんど接する経験がない学生も理解できるように動画などを用い講義した。毎回「学び票」の提出を求め、学生の理解を確認した。学生の質問などには、次の講義時に再度説明を入れるなどの工夫を行った。また、途中、小テストを実施し、学生の理解度を確認しながら講義を進めた。小テストの得点率は高いが、定期テストでの得点率は低くなったことから、知識を定着することが課題となった。概論だけでなく、方法論、演習、実習などに繋げ、反復して学修できるよう工夫していく。
2.	授業科目名【小児看護学方法論】 疾患や障害をもつ子どもと家族の看護について講義した。講義では、子どもの権利や子どもの発達を踏まえ、小児看護として工夫をする事の必要性を実感し、学生一人一人が看護を考える事が出来るように発問しながら講義を行った。また、小児をとりまく社会や援助方法に興味を持つために、個人ワークとその発表を行った。小児医療の現場がイメージできるよう、DVDや画像、また、実習中の学生が実施したブレパレーションなどの事例の画像を用い説明した。 障がいのある子どもと家族の看護、被虐待児への看護については、実際に現場で働く外部講師に講義を依頼した。現場の写真などを多く取り入れ看護の実際を講義していただくことで、学生の興味や学修意欲を増加させた。
3.	授業科目名【小児看護学演習】 ペーパーペイシェントを用いた看護展開と実技演習を対面で実施した。事例検討では小児看護の現場で遭遇しやすい事例を作成し、看護展開をおこなった。実際の患児や家族がイメージできるように、DVDや写真を取り入れ状況を理解し、看護展開できるよう工夫した。アセスメントまでを個人ワークとし、計画立案はグループワークでディスカッションしながら理解を深めていけるようにした。個人ワークについては、個別にコメント入れ、学生へ返却し、それぞれの学生が理解できるように対応した。グループワークについては、発表を行い、その後、全体でディスカッションすることで、理解を深めた。技術演習では、短時間ではあるが、個人練習ができる環境を整えた。自己練習をする学生は少ないため、実習前に技術チェックを行い、反復して学修することで技術が習得できるようにした。
4.	授業科目名【小児看護学実習】 今年度は、半日の臨地実習で実習を行い、残り半日を学内実習となった。短時間での臨地実習のため、学生が再大限に経験できるよう、臨床指導者と時間や方法を調整した。また、学生と共に患児のベッドサイドに行き、コミュニケーション方法や技術提供方法等の指導を行った。臨床側にも、それぞれの学生の課題を伝え、目標達成できるよう支援を求めた。半日の臨床での経験を基に、学内ではリフレクションを通し看護を見出していた。グループでリフレクションすることで、短時間の臨床実習時間であっても学びを深めることが出来ていた。また、看護師以外にも医師、医療保育専門士、こども療養支援士などと学生が関わり学べるよう調整した。
5.	授業科目名【看護総合実習・演習】 看護総合演習では、小児医療の現場で起こる倫理的問題を、事例をあげディスカッションすることで、子どもの人権の擁護や倫理的配慮について学びを深めた。その後、学生それぞれの探求したいテーマに沿い、文献を用い、現在の状況と課題を見出し、発表を行った。

	看護総合実習では、演習で学んだ知識・技術を小児外来と子育て支援施設実習を通し、看護の実際を学んだ。それぞれの学生が、実践を通し、看護実践の難しさ、やりがいを学び、自己の課題を見出すことができていた。最終的に、学生それぞれの探求したいテーマで論文を作成し、研究的思考ができるよう支援した。
6.	授業科目名【緩和・がん看護学】 小児の緩和・終末期・がん看護について1コマを担当した。DVDを用い小児の緩和・終末期医療の実際を紹介し、看護師として、どう向き合うかを思考できるように講義を展開した。「生きる」を大切にする看護の重要性について教授した。
7.	授業科目名【看護学特論】 これから看護職として社会にでる4年生後期に開講された。1コマを小児医療のトピックとして、小児救急の現状や課題について、事例や統計を用い、看護師としてできること、大切にしていきたいことをそれぞれの学生が考える機会になるよう講義を展開した。理解状況としては、講義内容を小テスト形式で出題し、把握した。
8.	授業科目名【助産診断・ケア学Ⅳ】 助産別科前期「助産診断・ケア学Ⅳ（新生児・乳幼児）」では、乳幼児の発達について講義した。さらに、助産師として乳幼児と関わる中で遭遇しそうな事例を挙げ、事例検討する中で乳幼児の特徴を捉え児と家族への援助について思考できるよう工夫した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2002年4月～現在に至る	日本看護協会会員	
2.	2009年1月～現在に至る	日本小児看護学会会員	
3.	2009年4月～現在に至る	日本小児保健協会会員	
4.	2010年10月～現在に至る	日本環境感染症学会会員	
5.	2013年6月～現在に至る	日本看護科学学会会員	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）					
1.	なし				
（学術論文）					
1.	2023.4	本学学生を対象にした「健康管理カルテ」の作成	共	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所 2022 報告書	①本学学生の健康維持・増進に向けた学生支援の取り組みとして「健康管理カルテ」を作成し、2021年度保健福祉学部入学生および2022年度大学部・短期大学部入学生へ配布した。また、本年度の使用状況について調査した。その結果、本学

					学生は健康管理カルテを体調不良時や実習前に活用していることが明らかとなった。また、学生にとってより利用しやすくなるよう今後の健康管理カルテの運用方法について考察した。 ②共著者：○水貝洵子，山田恵，樋口由貴子，目野郁子，高崎智子，大内田知英 ③西南女学院大学 保健福祉学部附属保健福祉学研究所 2022 報告書(P10-13)
(翻訳)					
1.	なし				
(学会発表)					
1.	2023.11	A 女子大学における「健康管理カルテ」の作成と配付ー学生の自己管理能力向上をめざしてー	共	一般社団法人日本学校保健学会 第 69 回学術大会 (於 聖心女子大学)	①概要：本学 1、2 年生を対象に配布した「健康管理カルテ」の利用状況を調査した。その結果から、入学直後に配布した学生はあらゆる場面で利用しており、自身の健康に関心を持ち、健康意識が高まるよう入学直後の配布が望ましいこと。また、今後の利用意志のない学生も一定数いたことから、配布後も定期的に働きかけをする必要があることが分かった。 ②共同発表者名：○山田恵，水貝洵子，樋口由貴子，目野郁子，高崎智子 ③一般社団法人日本学校保健学会 第 69 回学術大会講演集(P130)
2.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	なし			
(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

1.	なし		
----	----	--	--

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2021 年 4 月～現在に至る	九州・沖縄 小児看護 教育研究会	幹事
2.	2024 年 3 月 (1 日)	北九州市小児慢性特定疾病対策 協議会	委員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2011 年 6 月～現在に至る	保健福祉学部 1 年生および助産 別科 1 年生への感染症予防／予 防接種手帳配布と抗体検査後の 予防接種勧奨	
2.	2022 年 4 月～2024 年 3 月	キャンパスハラスメント相談委 員	
3.	2022 年 4 月～現在に至る	学生募集員	
4.	2016 年 5 月～現在に至る	親子遊びの会「ほほえみ project」運営	
5.	2022 年 4 月～現在に至る	地域貢献活動企画名「一緒に遊 ぼう」、団体名「ちゃれんじ」 の運営	
6.	2023 年 4 月～現在に至る	学生活動グループ「STEP UP」 の支援	

講師

吉原 悦子

■ 学歴

1. 大分大学 修士課程 卒業

■ 学位

1. 2007 年 修士（看護学）

■ 研究分野

1. 老年看護学
2. 地域包括ケア
3. 聞き書きによる効果

■ 研究キーワード

1. 認知症高齢者ケア
2. 地域貢献活動
3. 実習における学生の学び

■ 研究課題

1. 実習における学生の学び
2. もしバナゲームを活用した高齢者理解について
3. 認知症高齢者がライフストーリーを語る意義—聞き書きの手法を通して—

■ 担当授業科目

1. 地域連携協働支援論（再履修）
2. 地域生活支援論（旧カリキュラム）
3. 在宅看護学
4. 在宅看護学演習
5. 看護研究
6. 高齢者支援学Ⅰ
7. 高齢者支援学Ⅱ（開講なし）
8. 早期看護学実習
9. 地域生活支援論（新カリキュラム）
10. 地域連携協働支援論（新カリキュラム）
11. 老年看護学実習Ⅱ
12. 看護学（栄養学科）（開講なし）
13. 看護総合演習
14. 看護総合実習

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【地域連携協働支援論】再履修者 受講学生は3名であり、2年次に地域生活支援論を一度履修した学生であり、3年生科目である地域生活支援論を同時に受講している。そのため、これまでに学んできた健康、生活、地域という基本的なことをさらに深める講義内容とした。地域包括ケアに至った社会背景についてデータを見ながら解釈し、学生同士でディスカッションを行った。また、自身の住んでいる地域を概観し、課題を見出すことを課した。さらに、地域包括ケアに関連する記事について調べ学習し、自身の考えについてプレゼンテーションを行った。3人での講義であったため、質問と回答など、講義の中のやり取りが頻繁に行うことができ、単に知識の伝達ではなく教員と学生と交えディスカッションを行い、学びを深めることができた。
2.	授業科目名【地域生活支援論】旧カリキュラム 本科目は、必修科目である。2年次に学ぶ「地域連携協働支援論」に次ぐ科目であり、地域で生活するあらゆるライフステージにある人々の健康を支えるため支援を学ぶ科目である。そのため、これまでに学んだ各領域の概論や方法論をベースにし、保健・医療・福祉・教育などの領域の専門職との協働連携や包括的にケアする方法、その中で看護師の役割などを講義した。 後半の講義で「障害者・高齢者・医療的ケア児」を地域で支えるネットワークを考え、図式化した。昨年度までは個人ワークとしての課題とした。しかし、社会保障制度や介護保険サービス、さらに障害者総合支援法等、学生には難しい領域であるため、今年度は少人数でのグループワークとし、発表する時間を設け、内容を共有した。
3.	授業科目名【地域生活支援論】(新カリキュラム) 新カリキュラムより、1年生後期科目として組まれており、名称変更となった科目である。これまでより具体的に落とし、できるだけ抽象的な表現は避け、講義を行った。また、必ず、講義の中で、こちらが提示した内容について考える時間や友人とディスカッションをする時間を設けた。看護は人々の暮らしを理解することが必要であるが、何気なく暮らしていることを意識し、生活や暮らし、属している集団などを振り返ることを心掛け、学生自身も生活者であることを意識づけた。また、これまでは既習の知識であった社会保障については並行で講義が行われるため、社会保障の教科書も使用して関連についても講義した。地域包括ケアシステムに関する基礎知識は理解するのが難しいため、社会的背景をできるだけ具体的に起こし、理解を進めていった。特に多様な生活様式や価値観など学生自身に問いかけながら講義を行った。
4.	授業科目名【地域連携協働支援論】新カリキュラム 新カリキュラムにより、3年生前期から2年生後期の開講となり、既習の知識を確認しながら講義を進めていった。基本的な講義の組み立ては旧カリキュラムと変更はない。グループワークとしたが、ディスカッションを行うことが難しいグループなどもあり、まずは、向き合うところから始めた。今回は、個人ワークの時間であっても、近くの学生たちと話し合うことを奨励し、ワークについては講義の中でフィードバックを行った。
5	授業科目名【在宅看護学】 療養の場の移行に伴う看護と多職種連携の講義を担当した。地域包括ケアも含めて、社会的背景、制度を含めて講義した。これまで、各領域の概論や方法論で学んできたことを繰り返し想起しながら、

	講義を行った。また、病院、在宅など切れ目のない看護を提供することをイメージ付けるためにも具体例を挙げながら、病院から在宅、在宅から病院での継続の方法や関連職種などを含めた連携を具体的に実際のやり取りや身近な話題を組み込みながら伝えた。
6	授業科目名【在宅看護学演習】 在宅看護学を踏まえながら、演習を行った。今年度は在宅看護における看護過程の特有の視点と特徴を踏まえることに重点を置き、グループワークと発表を組み合わせ、広く視点をもつことができるように講義を展開した。また、在宅看護では、あらゆる世代とその家族を対象とするため、在宅における教育や指導についてもこれまでの科目で学んだことも踏まえ、つなげて考えていけるように助言した。また、看護師だけでなく、多職種と連携する必要性や家族への視点も重要であり、特に意識して伝えた。疾患を治療することだけでなく患者さん本人と家族の可能な限り望ましい生活に近づけるための援助を柔軟に考えていけるように伝えていった。
7	授業科目名【看護研究】 本講義は 4 名の教員で担当した。研究の基本となる講義とグループワークで科目を構成している。文献クリティークや英論文の要約など研究の基礎となる課題を行い、研究計画書の作成に取り組んだ。また、実際の調査票の作成を行うことや質的研究での分析の一連の流れを行って見た。学生にとっては、難解であった課題もあったが、学生の質問にその都度答え理解が進むように説明を行った。
8	授業科目名【看護総合演習・実習】 今年度は 6 人の学生を担当した。友人同士のつながりが構築できておらず、まずは、交流から始めた。ディスカッションの場においても教員が介在することで、教員頼みとなる場面も多々あるため、学生のみでディスカッションを行う時間も設けた。聞き書きをテーマとし、地域在住の高齢者の人生を聞き取り、冊子を作成するという実習を行った。3 人一組で受け持たせていただき、話を聞かせていただいた。学生は、対象者の人生における様々な経験や分岐点でどう考え選択したのかに触れ、それぞれの人生の多様性に気づくことができた。さらに対象者からは非常に有意義だった、人生を振り返ることができた、学生さんの役に立ってよかった、他の人にも勧めたなどの評価をいただいた。また、地域貢献活動として、地域への理解を深めることや地域で活動している企業に話を聞きに行き、見学をさせていただいた。地域での暮らしを支援するための多職種連携について、医療職のみならず、様々な職種との交流が学生の視野を広げる手助けとなった。
9	【老年看護学実習Ⅱ】 3 年生後期から 4 年生前期にかけての実習である。この実習では、これまでコロナ感染対策のため、学生の施設への立ち入りはできなかったが今年度より十分な感染対策を行い、対面での実習が可能になった。しかし、かかわる時間・人数の制限がある中で、コミュニケーションを中心に受け持ち高齢者の全体像を描くように指導を行った。特に今年度は実習日程のほとんどに祭日が入り、5 日→4 日の実習となった。そのため、記録物の見直しを行い、受け持ち高齢者とのかかわり、施設内での多職種の協働連携に重点を置いた。また、実習期間が短い中でも生活を豊かにする支援を実践まで行える学生もおり、対面実習での効果を実感した。認知力が低下している高齢者とのかかわりになるため、言語だけを聞くのではなく、その人の持つ背景を鑑み、受け持ち療養者さんのメッセージをくみ取るように指導した。
10	授業科目名【高齢者支援学Ⅰ】 本科目は、保健福祉学部 3 学科合同の科目であり、アクティブシニアへの支援について、講義と PBL（事例検討）を通して検討した。本年度は、事例についてさらに精選し、情報の追加を行った。また、

	発表形式をポスターセッションへと変更して行った。対面での授業で実施したため、3 学科合同の特性を生かし、議論ができるように工夫した。
11	授業科目名【早期看護実習】 本年度より、基礎看護学、地域在宅看護学の領域の教員が合同で担当することとなった。そこで、これまで、病院での実習を展開していたが、幅広く看護活動の場を体験するために、病院と高齢者施設、訪問看護ステーションの 2 か所を体験した。さらに病院と施設の実習の間には学内日を設け、見てきたこと体験したことを整理し、次の実習施設での観察項目などを意識付けを行った。さらに、最終日学びの発表を学生のフレッシュな視点を大事にするために発表の内容を限定せず、自由なキーワードで発表してもらった。その中で、当該施設特有のものであったり、医療処置であったりについては適宜教員の説明を追加した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2001 年 4 月～現在に至る	日本看護学教育学会	
2.	2003 年 4 月～現在に至る	日本老年看護学会	
3.	2003 年 4 月～現在に至る	日本老年社会科学会	
4	2006 年 4 月～現在に至る	日本認知症ケア学会	
5	2008 年 6 月～現在に至る	日本看護科学学会	
6	2016 年 5 月～現在に至る	公益社団法人「認知症の人と家族の会」	
7	2021 年 11 月～現在に至る	血管看護研究会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					

(学会発表)					
1.	2023年6月	深部静脈血栓症のリスク評価と予防対策についてー介護老人補完施設の調査結果を通してー	共	日本老年看護学会第28回学術集会(横浜)	①介護老人保健施設を対象とし、包括的DVT予防対策プログラム開発の資料を得た。DVT/PE既往など診療情報提供書や看護・介護要約が主であり、双方向ツールの活用は進んでいない状況が明らかになった ②共著者名：溝部昌子、吉原悦子、金子由里 ③第28回日本老年看護学会学術集会抄録集 p 209
2.	2023年6月	「もしバナゲーム」を活用したカンファレンスにおける看護学生の学び	共	日本老年看護学会第28回学術集会(横浜)	①「もしバナゲーム」を活用したカンファレンスでの学生の学びを明らかにする。学生は価値観の多様性を学んでおり、生活史や人生経験を聞き取ることが対象の理解につながるとしていた。 ②共著者名：吉原悦子、溝部昌子、金子由里、北原一子 ③第28回日本老年看護学会学術集会抄録集 p 205
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)	
1.	看護師によるPOCUS活用に関する研究ーDVT予防対策と安全なケアへの効果ー	文部科学省科学研究費補助金 基盤(B)	○溝部昌子、 <u>吉原悦子</u> 、金子由里		
2.					
3.					

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				

3.				
----	--	--	--	--

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2021 年 4 月～現在まで	北九州市障害支援区分認定審査会	委員
2.	2023 年 12 月	第 43 回日本看護科学学会学術集会	実行委員
3.	2024 年 2 月	第 4 回暮らしの保健室九州フォーラム	運営委員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2020 年 4 月～現在に至る	地域連携室	室員
2.	2022 年 4 月～2023 年 3 月	教育経費予算配分委員会	委員
3.	2022 年 4 月～2023 年 3 月	看護学科 2 年生アドバイザー	
4	2021 年 4 月～2023 年 3 月	看護学科物品係	

助教
井手 裕子

■ 学歴

1. 2006 年 大分大学大学院医学系研究科修士課程看護学専攻(修士課程) 修了

■ 学位

1. 2006 年 修士（看護学）

■ 研究分野

1. 成人看護学

■ 研究キーワード

1. 成人慢性期看護学実習
2. コロナ禍における実習

■ 研究課題

1. 成人慢性期看護学実習において、青年期である学生に効果的な学びができるような指導の工夫について実践し考察する。
2. コロナ禍において、臨地での実習経験が乏しい学生が効果的に学べるための要素について考察する。

■ 担当授業科目

1. 成人看護学演習（前期）
2. 成人慢性期看護学実習（後期）
3. 看護学（栄養学科）（後期 ※2023 年度開講なし）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|--|
| 1. | <p>授業科目名【成人看護学演習】</p> <p><看護過程演習></p> <p>例年と同様 1 グループ 4 人編成で 2 人の教員で 6 グループ(24 名)を担当した。今年度の 3 年生は、コロナ禍も落ち着き、殆どの学生が 2 年次に臨地での基礎看護学実習を体験できていた。従って指導時には、演習事例の紙上患者のイメージ化を図る目的で、個々の学生の基礎実習での学びを想起させるように声掛けを行った。また、グループワークの活性化のために、発言の少ない学生に意図的に声掛けを行うなどの交流を深めさせることにも注意を払った。</p> <p>事例は例年通り、慢性期事例（肝硬変）と急性期事例（胃癌）の 2 事例であり、事例ごとにもう一人の教員と担当を変えて全グループ把握に努め、演習前後で教員間で個々の学生への指導等について調整を図った。</p> <p><技術演習></p> |
|----|--|

	・昨年度より患者教育の技術演習では、慢性期事例の看護診断「非効果的健康管理」の教育計画(EP)を実際に実践させている。計画立案時に、具体的な指導案や必要に応じて媒体の作成など、患者教育についての学びを深めさせた。各グループでの学びの成果を発表会という形で実施したが、発表後の質疑応答では単純なやり取りに終わらないように、質問者には質問の意図を、回答者には回答の根拠を明確にするような声かけを行った。ティーチングアシスタントとして例年4年生に患者役として参加してもらっているが、4年生にとっては実習で学んだ「慢性疾患のリアルな患者像」を3年生に伝えることで学びが深まるようにロールプレイ時の工夫点などを指導した。 ・血糖測定、インスリン自己注射の演習では従来通り1グループ5～6名の学生で行い、基本的な技術の取得を行った。ティーチングアシスタントとして参加する4年生にも、低学年の技術指導を通して再度学びを深めさせた。 ・術直後の演習では、昨年度からの術後の清潔ケアの学習へ取りくみ、全体での演習後、1グループの学生達のデモンストレーションを実施、学びを共有させた。
2.	授業科目名【成人慢性期看護学実習】 ・昨年より臨地での実習が再開された。実習2施設のうち、A病院の実習時間は午前もしくは午後の3時間と限定されているため、その時間で効果的かつ有意義な実習ができるように常に臨地の実習指導者と調整を重ねた。 ・3週目の学内実習では個々の学生に実習での学びを発表させているが、発表後のディスカッション時に各施設、各病棟での学びを深め共有できるように意識してコメントした。 ・今年度も留年生が多く、1グループに1人の留年生が居ることが多かった。留年生の中には、メンタル的な問題を抱えている学生も多く、まずはグループ間の交流を後押しができるように関った。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1996年4月～現在に至る	聖路加看護学会	
2.	1996年6月～現在に至る	日本看護研究学会	
3.	1998年4月～現在に至る	日本看護学教育学会	
4.	1998年6月～現在に至る	日本看護診断学会	
5.	2003年8月～現在に至る	日本糖尿病教育・看護学会	
6.	2008年10月～現在に至る	日本看護科学学会	
7.	2017年7月～現在に至る	日本慢性期看護学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
（学術論文）					

1.					
(翻訳)					
1.					
(学会発表)					
1.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2023.4.1～2024.3.31	看護学科3年生アドバイザー	
2.	2023.4.1～2024.3.31	看護学科物品係	

助教

中島 紀江

■ 学歴

1. 2021年3月 九州大学大学院医学系学府保健学専攻看護学分野 修士課程修了

■ 学位

1. 2021年 看護学修士

■ 研究分野

1. 基礎看護学

■ 研究キーワード

1. 成人女性 下肢のむくみ 月経周期

■ 研究課題

1. 下肢のむくみは女性に多い愁訴である。下肢のむくみの予防や対処行動の生活指導を行う上での有効な基礎資料を得ることを目的に、健康成人女性の下肢のむくみの発生の現状とその発生と月経周期の関連について、下肢のむくみを自覚する成人女性の日常生活や月経周期の背景を年代別に明確にするために質問紙調査を行う。また、下肢のむくみと月経周期の関連を形態的、生理学的に評価し、加齢に伴い変動する女性ホルモン(プロゲステロン、エストロゲン)との関連をホルモンの安定期(20、30歳代)と減少期(40～50歳代)において明確にする。

■ 担当授業科目

1. 看護技術論演習（前期・看護学科）必修
2. 看護過程論（前期・看護学科）必修
3. 診療関連技術論演習（前期・看護学科）必修
4. ヘルスアセスメント演習（後期・看護学科）必修
5. 生活援助技術論演習（後期・看護学科）必修
6. 基礎看護学実習Ⅰ（後期・看護学科）
7. 基礎看護学実習Ⅱ（前期・看護学科）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|---|
| 1. | 授業科目名【看護技術論演習】
演習の際に、デモンストレーションの実施、担当グループの指導を行った。初めて看護学を学ぶ1年生が対象であるため、わかりやすい言葉、理解しやすい内容となるよう、意識して指導を行った。ベッドメイキングの自主練習の時間は、個別に対応して、学生が根拠を理解し、技術の習得ができるよう支援した。 |
|----|---|

2.	授業科目名【看護過程論】 2つのグループを担当し、学生のグループワークが効果的に展開できるよう支援を行った。看護過程は、これまで各科目で学修した内容をつながりながら自分で思考を整理して根拠をもって看護の対象者に看護を実践する過程を学ぶため、学生は苦手意識や困難感を生じやすい。学生が、なるべくスムーズに思考の整理ができるよう、図を用いて説明したり、活用しやすい参考書などを紹介した。教員からのフィードバックは、グループ単位だけでなく個別指導も行い、グループ全員の理解が統一して進むように支援した。
3.	授業科目名【診療関連技術論演習】 演習の際に、デモンストレーションの実施、担当グループの指導を行った。各演習において、グループ内でリーダーの役割を担当する学生が、効果的にリーダーシップを発揮し、また、他の学生が協力してグループ演習を進行できるようサポートを行った。臨床で経験した知識を活用しながら、学生が根拠を理解して、安全に看護技術を習得、実践できるよう支援した。リーダーを担当する学生の自主練習の時間は、個別に対応して、学生が困っていることが解決できるよう支援した。
4.	授業科目名【ヘルスアセスメント演習】 演習の際に、デモンストレーションの実施、担当グループの指導を行った。バイタルサイン測定技術や器官系統別のフィジカルアセスメント技術の習得と、測定や観察から得た情報で、看護者としてどのようにアセスメントするのか、学生がなるべくスムーズに理解できるよう、臨床での経験を活用し、工夫して説明を行った。技術練習の習得のための自主練習の時間では、個別に対応して、技術の習得をサポートした。
5.	授業科目名【生活援助技術論演習】 演習の際に、デモンストレーションの実施、担当グループの指導を行った。【清拭】、【陰部洗浄】の演習は、担当者として演習計画を立案し、演習内容の検討、進行を行った。デモンストレーションでは、学生が理解しやすい状況設定、カメラワークなどを考え、進行では、学生の理解度や反応、演習の進行状況をみて、意見交換、質問対応、学生による発表などを行い、学生が積極的に演習に参加できるように工夫した。
6.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 学生（1年生）は、初めて担当患者を受け持ち、実習を行うため、患者とのコミュニケーションや関係構築が円滑となるよう調整を行った。また、患者だけでなく、実習指導者に報告連絡相談が行えるように調整を行った。学生の強みや個性を把握するために、実習中の学生の言動や行動、患者さんとの関わり方など、細やかに観察し、学生の思いや考えなどを丁寧に聞き、密に関わった。
7.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 学生（2年生）は、患者さんを受け持ち、看護過程を展開する。看護過程の展開の指導だけでなく、わからないことや困っていることが解決できるように、学生と一対一で関わり対応した。実習中の学生の言動や行動、患者さんとの関わり方など、細やかに観察し、学生の思いや考えなどを丁寧に聞き、密に関わることで、学生の強みや個性を把握することに努め、効果的な指導、学生の理解につながるよう意識した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2021 年 3 月～現在に至る	日本環境学会	
2.	2021 年 5 月～現在に至る	人間－生活環境系学会	
3.	2021 年 11 月～現在に至る	日本女性心身医学会	
4.	2021 年 12 月～現在に至る	日本看護研究学会	
5.	2023 年 6 月～現在に至る	日本看護科学学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（学会発表）					
1.	2023.12	女子大学生 の日常生活 における下 肢のむくみ の発生状況 とその個人 背景の関連	共	第 43 回日本看 護科学学会学術 集会 (於 海峡メッセ 下関)	①女性の下肢のむくみの基礎資料を得 るために、女子大学生の下肢のむくみの 自覚と個人の日常生活や月経周期との 関連について明らかにした。 ②共同発表者名：橋口 暢子（九州大学） ③ 第 43 回日本看護科学学会学術集会抄 録 PDF,p204

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.	成人女性のライフサイクル における下肢のむくみと月 経周期の関連	科学研究費補助金・ 基盤研究（C）2022- 2025	○中島紀江 （橋口暢子）	3,640,000

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 （内 容）	役 職 名 等
1.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期	会議・委員会等の名称	役 職 名 等
--	-----	------------	---------

	期 間 等	(内 容)	
1.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	1 年生アドバイザー	
2.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	研究推進委員	

助教
永野 英美

■ 学歴 修士

1.

■ 学位 修士（看護学）

1.

■ 研究分野

1. 小児看護学
2.
3.

■ 研究キーワード

1. 小児
2. 医療的ケア児
3. 医療関連機器圧迫創傷

■ 研究課題

1. 医療的ケア児を訪問する看護師の支援
2. NICU・GCU 看護師の支援

■ 担当授業科目

※該当なし（2024 年度入職）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※該当なし（2024 年度入職）

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2007 年～現在に至る	日本看護協会	会員
2.	2007 年～現在に至る	福岡県看護協会	会員
3.	2021 年～現在に至る	九州・沖縄小児看護教育研究会	会員
4.	2023 年～現在に至る	日本看護科学学会	会員
5.	2023 年～現在に至る	日本小児看護学会	会員

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2023 年 12 月			第 43 回日本看 護科学学会学術 集会	医療的ケア児の医療関連機器圧迫創傷 ケア経験における訪問看護師の医療関 連機器圧迫創傷予防ケアの実態につい て発表を行った。
(その他)					
1.	2021 年度		共	メディカ出版看 護 師 国 家 試 験 解説執筆	出版社から第 111 回看護師国家試験問題 解説の依頼を受け、小児看護学に関する 問題 4 問の解説を行った。
2.	2022 年度		共	メディカ出版看 護 師 国 家 試 験 解説執筆	出版社から第 112 回看護師国家試験問題 解説の依頼を受け、小児看護学に関する 問題 4 問の解説を行った。
3.	2023 年度		共	メディカ出版看 護 師 国 家 試 験 解説執筆	出版社から第 113 回看護師国家試験問題 解説の依頼を受け、小児看護学に関する 問題 4 問の解説を行った。

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）

1.	プラダーウィリ症候群児の 養育者への睡眠時無呼吸に 対する療養支援プログラムの 構築	文部科学省 基盤研 究（C）	（○飯野 英親、得能 智武、中村 加奈子、青 野 広子） <u>永野 英美</u>	
2.	気になる子ども・神経発達 症児と親の親子関係再構築 の要因 ―PCIT の実施か ら―		（○青野 広子、鳥巢 浩幸、笠原 亜希子、岡 田 賢司、飯野 英親） <u>永 野 英美</u>	
3.				

（２） 個 人 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
1.	NICU・GCU 入院中の児の 医療関連機器圧迫創傷予防 に向けた看護実践に関する 実態調査	日本看護科学学会 2023 年度 挑戦的 課題研究助成	500,000	
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年度	第 43 回日本看護科学学会学術 集会（実行委員として会場アナ ウンス担当）	
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

※該当なし（2024 年度入職）

助教

西田 彩子

■ 学歴

1. 2021 年 九州大学修士課程 卒業

■ 学位

1. 2021 年 修士（看護学）

■ 研究分野

1. 中堅看護師の看護実践能力に関する研究
2.
3.

■ 研究キーワード

1. 中堅看護師、看護実践能力、関連要因
2.
3.

■ 研究課題

1. 中堅看護師の看護実践能力向上に関連する要因とその関わりについて検討する。
2.

■ 担当授業科目

※該当なし（2024 年度入職）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※該当なし（2024 年度入職）

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2000 年 4 月～現在に至る	日本看護学会	
2.	2018 年 4 月～現在に至る	日本看護研究学会	
3.	2022 年 4 月～現在に至る	日本臨床マネジメント学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学	概 要
--	---------------	-----------------	-------------	--------------------	-----

				会等の名称	
(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			

2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

※該当なし（2024 年度入職）

助教

藤本 奈緒子

■ 学歴

1. 2017 年 産業医科大学大学院医学研究科看護学専攻コミュニティ看護学修士課程 修了

■ 学位

1. 2017 年 看護学修士

■ 研究分野

1. 在宅看護論
2. 小児看護学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 在宅看護
2. 看護基礎教育
3. 地域包括ケアシステム

■ 研究課題

1. 看護基礎教育における医療的ケア児への地域包括ケアに関する教育内容を小児看護学実習における学生の学びや、重度心身障がい児のケアにあたる施設の職員からのインタビュー等により検討する。
- 2.

■ 担当授業科目

1. 小児看護学実習（通年） 必須
2. 小児看護学演習（前期） 必須
3. 小児看護学方法論（後期） 必須
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|------------------|
| 1. | 授業科目名【 小児看護学実習 】 |
|----|------------------|

	子どもの表情や状態の変化から様々なサインを肌で受け取り、子供の置かれている状況や環境を子供の立場になって体験する貴重な機会となる。限られた実習時間の中で学びを深めるには、学生の体験を増やすように臨床と調整し、ロールモデルとなる指導者やスタッフのケアの場면을教材化することが重要であると考え。学生対応では成人教育であるため、一方的な指導とならないよう学生自らが能動的に思考し学修を深められる発問を工夫した。
2.	授業科目名【 小児看護学演習 】 典型的な成長発達を知識として理解していることを確認し、演習では学内で学んだ理論を根拠としながらも、対象個々の成長発達の過程に注目するように促した。対象の周囲の人々の関わり方が与える影響に気づけるように、学生の疑問や不安を表出できる態度で接することを配慮した。また、グループダイナミクスを考慮しグループワークが活発に進むように発問を工夫した。
3.	授業科目名【 小児看護方法論 】 小児の特徴をイメージ化しやすいように動画を活用したり、地域の実例を示したりした。教育内容が理解しやすいように目標を提示し、授業展開を短く集中できるように工夫を行った。
4.	授業科目名【 】

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1995年 4月～現在に至る	日本看護協会	
2.	2014年 4月～現在に至る	日本看護福祉学会会員	
3.	2015 年 12 月～現在に至る	日本在宅ケア学会会員	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					

1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2023年4月～3月	3年生アドバイザー	
2.			
3.			

助教

矢治 亜樹子

■ 学歴

1. 2020 年 公立大学法人福岡県立大学 大学院看護学研究科 看護学専攻修士課程
(精神看護専門看護師コース) 卒業

■ 学位

1. 2020 年 修士 (看護学)

■ 研究分野

1. 精神看護学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 統合失調症 長期入院 退院支援 地域生活
- 2.
- 3.

■ 研究課題

1. 長期入院後に退院した統合失調症患者の地域生活について実際に明らかにしたうえで考察する。
また、その中で得た示唆から長期入院に至っている統合失調症の退院支援の在り方について考察する。
- 2.

■ 担当授業科目

1. 精神看護方法論 (後期) 必修
2. 精神看護学演習 (前期) 必修
3. 精神看護学実習 (通年) 必修
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【精神看護方法論】 「精神障害をもつ人への看護」として、知的発達症、自閉スペクトラム症、注意欠如/多動症、PTSD、パーソナリティ障害などをもつ人へのケアについて解説いたしました。基本的な病態や関わりについて、臨床現場での実際の体験をふまえ、イメージしやすいように工夫いたしました。その中では、単に関わりの事例のみならず、疾患をもつ人の苦しみ、そしてストレングスを最大限に活かすることができる専門職の関わりについて解説いたしました。また、国家試験問題も同時に解きながら学んだ知識が定着するよう工夫しました。
2.	授業科目名【精神看護学演習】 実習への看護実践へ繋がることを意識し、統合失調症をもつ人へのケアについて事例をもとに展開しました。オレムアンダーウッド理論に加え、リカバリー、ストレングスの概念をもとに、その人が歩んできた人生に触れながら統合的な視点で事例への理解が深まるように工夫いたしました。さらに精神医療の現場で求められる地域移行についての基本的な枠組みを意識し、地域の中で、その人らしく生活することの出来るケアが見いだせるように工夫いたしました。
3.	授業科目名【精神看護学実習】 入院中の患者さんとの関わりを通して、その人の人生に触れながら看護理論を用いて統合的な理解を行い、患者さんのニーズに沿ったケアが行えるように工夫いたしました。また、実習場面での揺れもとにプロセスレコードを活用し学生が自分自身の傾向に気づき、専門職として自己が活用できるように工夫いたしました。
4.	授業科目名【 】

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2011 年 6 月	日本精神科看護学会会員	
2.	2017 年 4 月	日本看護協会会員	
3.	2021 年 3 月	九州・沖縄 高度実践看護師活動促進協議会	精神看護担当代議員 (2021 年 3 月～現在に至る)
4.	2021 年 9 月	PAS セルフケアセラピー看護学会	
5.	2022 年 11 月	日本専門看護師協議会	
6.	2024 年 2 月	日本精神保健看護学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要

(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			

3.			
----	--	--	--

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～現在に至る	職員研修委員会	委員
2.			
3.			

福 祉 学 科

■ 学歴

1. 2021 年 久留米大学大学院 比較文化研究科 後期博士課程 修了

■ 学位

1. 2021 年 博士（保健福祉学）

■ 研究分野

1. 高齢者福祉
2. ソーシャルワーク
3. 実習教育（社会福祉士養成課程）

■ 研究キーワード

1. 地域包括支援センター
2. 地域を基盤としたソーシャルワーク
3. ソーシャルワーク実習

■ 研究課題

1. 高齢者福祉領域における地域を基盤としたソーシャルワークのあり方を検討する。
2. 社会福祉士養成課程における実習教育のあり方を検討する。

■ 担当授業科目

1. 福祉入門（1 年前期）必修
2. 基礎実習（1 年通年）選択
3. 高齢者福祉（2 年前期）必修
4. ソーシャルワーク実習指導 I（2 年通年）選択
5. ソーシャルワーク実習 I（2 年後期）選択
6. ソーシャルワーク演習（専門）I（2 年前期）選択
7. ソーシャルワーク演習（専門）II（2 年後期）選択
8. 高齢者支援学 I（2 年前期）（保健福祉学部）選択
9. 社会福祉の原理と政策 I（3 年前期）必修
10. 社会福祉の原理と政策 II（3 年後期）必修
11. ソーシャルワーク実習指導 II（3 年通年）選択
12. ソーシャルワーク実習 II（3 年通年）選択
13. ソーシャルワーク演習（専門）III（3 年前期）選択
14. ソーシャルワーク演習（専門）IV（3 年後期）選択
15. 専門研究 I（3 年通年）必修

16. 専門研究Ⅱ（4年通年）必修
17. 高齢者支援学Ⅱ（4年前期）選択 ※不開講

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【福祉入門】 本科目は、福祉基礎科目に位置づけられ、さまざまな社会福祉の実践現場を学び、今後の学習や実習への動機づけを行うことを目的としている。講義では、初学者である1年生が社会に生じる福祉課題の現状を理解するとともに、対人援助職の魅力とやりがいを具体的にイメージできるよう工夫した。また、教授内容の検討や外部講師との日程調整を行うなど、授業全体の管理運営役を担った。
2.	授業科目名【基礎実習】 本科目は、福祉基礎科目に位置づけられ、学生が対人援助のフィールドで体験型学習（100時間）を行うものである。講義は学生を3グループに分け、担当制により実施した。実習前には、対人援助職への理解や実習への動機が高まるよう個別指導を実施した。また、自己学習により実習先や利用者特性について理解を深めさせ、実習への準備性を高めた。実習後には、個別面接や実習報告会を行い、実習体験からの学びや気づきを深めさせた。
3.	授業科目名【高齢者福祉】 本科目は、社会福祉士の指定科目に位置づけられている。講義では、單元ごとに教科書の内容を踏まえたレジュメを作成し、学生の内容理解を助けた。また、適宜、新聞記事やDVD等を活用し、最新情報の提供と高齢者福祉の実情理解を促した。毎回の講義後には、コメントカードを提出させ、学生の理解度の把握に努め、理解が不十分と判断された内容については、次の授業時に再度解説を行った。
4.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅰ】 本科目は、社会福祉士の指定科目であり、ソーシャルワーク実習Ⅰの事前・実習中・事後指導を主な内容としている（高齢者福祉と地域福祉領域を担当）。実習前指導では、自己学習やグループ学習、DVD等の視覚教材により、実習現場で必要となる知識・支援技術の習得に努めた。また、実習計画書、個人紹介票、誓約書などの作成指導を通して、実習への準備性と動機を高めた。実習後指導では、個別面談、自己評価、実習報告会の実施により、実習体験の学び・気づきを深めさせた。
5.	授業科目名【ソーシャルワーク実習Ⅰ】 本科目は、社会福祉士の指定科目に位置づけられており、福祉施設・事業所等において学外実習（60時間）を行うものである（高齢者福祉と地域福祉領域を担当）。実習の実施にあたっては、実習先との日程調整や実習プログラムの確認を行い、実習環境の整備と教育効果の向上に努めた。また、学生個々の状況について実習指導者と情報を共有し、各人が円滑かつ適切に実習に取り組めるよう配慮した。
6.	授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ】 本科目は、社会福祉士の指定科目に位置づけられている。講義では、ソーシャルワーカーとしての基本的視点や姿勢、ソーシャルワークの支援過程について教授した。また、支援事例を用いてケアマネジメントの手法や権利擁護のアプローチを実践的に理解・習得できるよう工夫した。 ※ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは、4グループのローテーションによる授業展開となつ

	ており、各科目の教授内容・方法は同じとなっている。
7.	授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ】 本科目は、社会福祉士の指定科目に位置づけられており、地域福祉の基盤整備に関わる実践について教授するものである。講義では、調べ学習、グループ学習、事例検討などを用いて、地域特性や課題の理解、地域づくりに必要なソーシャルワークの知識・技術の習得に努めた。また、実習後の講義では、各人の実習体験の共有を行うとともに、それらを一般化し、ソーシャルワークの視点から知識・技術として習得できるよう指導した。
8.	授業科目名【高齢者支援学Ⅰ】 本科目は、保健福祉学部3学科による合同講義であり、アクティブ高齢者への支援について講義（3回）とPBL（5回）を通して教授するものである。講義では、高齢者福祉制度（主に介護保険制度）について解説し、他学科の学生も理解が深まるよう説明内容や方法、配布資料を工夫した。また、PBLにおいては、3学科の学生が多職種連携の視点から議論を深められるよう助言を行った。
9.	授業科目名【社会福祉の原理と政策Ⅰ】 本科目は、社会福祉士の指定科目に位置づけられ、2021年度新カリキュラムによるものである。社会福祉の原論が主な内容となっており、学生にとってやや難易度が高い科目と思われる。したがって講義では、内容理解を助けるために、教科書の内容を踏まえたレジュメの作成や図解を用いるなどの工夫を行った。また、毎回の講義後には、コメントカードを提出させ、学生の理解度の把握に努めるとともに、理解が不十分と判断された内容については、次の授業時に再度解説を行った。
10.	授業科目名【社会福祉の原理と政策Ⅱ】 本科目は、社会福祉士の指定科目に位置づけられ、2021年度新カリキュラムによるものである。福祉政策が主な内容となっており、学生にとってやや難易度が高い科目と思われる。したがって講義では、内容理解を助けるために、教科書の内容を踏まえたレジュメの作成や図解を用いるなどの工夫を行った。また、毎回の講義後には、コメントカードを提出させ、学生の理解度の把握に努めるとともに、理解が不十分と判断された内容については、次の授業時に再度解説を行った。
11.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅱ】 本科目は、社会福祉士の指定科目であり、ソーシャルワーク実習Ⅱの事前・実習中・事後指導を主な内容としている（高齢者福祉と地域福祉領域を担当）。実習前指導では、自己学習やグループ学習、DVD等の視覚教材により、実習現場で必要となる知識・支援技術の習得に努めた。また、実習計画書、個人紹介票、誓約書などの作成指導を通して、実習への準備性と動機を高めさせた。実習後指導では、個別面談、自己評価、実習報告会の実施により、実習体験の学び・気づきを深めさせた。
12.	授業科目名【ソーシャルワーク実習Ⅱ】 本科目は、社会福祉士の指定科目に位置づけられており、福祉施設・事業所等において学外実習（180時間）を行うものである（高齢者福祉と地域福祉領域を担当）。実習の実施にあたっては、実習先との日程調整や実習プログラムの確認を行い、実習環境の整備と教育効果の向上に努めた。また、学生個々の状況について実習指導者と情報を共有し、各人が円滑かつ適切に実習に取り組めるよう配慮した。
13.	授業科目名【専門研究Ⅰ】 本科目では、学生の興味・関心を踏まえ、研究テーマの設定を行った。履修者が1名だったために、本人が自身のペースで意欲的・継続的に学習を進められるよう指導を心がけた。
14.	授業科目名【専門研究Ⅱ】

	本科目では、各人が自身で研究テーマ・課題を設定し、レポート作成に取り組んだ。指導においては、意欲的・継続的に学習に取り組めるようコミュニケーションを密に図った。また、各人の進捗状況に応じた指導を心がけた。
--	--

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1998 年 4 月～現在に至る	日本社会福祉士会	
2.	2002 年 3 月～現在に至る	日本社会福祉学会	
3.	2007 年 3 月～現在に至る	日本地域福祉学会	
4.	2007 年 3 月～現在に至る	日本介護福祉学会	
5.	2008 年 1 月～現在に至る	日本ケアマネジメント学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）

1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究

	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2009 年 4 月～現在に至る	北九州市社会福祉協議会 権利擁護・市民後見センター運用委員会	委員
2.	2018 年 4 月～現在に至る	北九州市社会福祉協議会 総合企画委員会	委員
3.	2017 年 4 月～現在に至る	社会福祉法人兼恵園 評議員会	評議員
4.	2021 年 6 月～現在に至る	社会福祉法人北九州市福祉事業団 評議員会	評議員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2019 年 4 月～現在に至る	教務委員	副委員長
2.	2021 年 4 月～現在に至る	入試会議	
3.	2021 年 4 月～現在に至る	地域連携室	室長

教授
稲木 光晴

■ 学歴

1. 1994年3月 筑波大学大学院体育科学研究科体育科学専攻（博士課程）修了

■ 学位

1. 1994年3月 博士（体育科学）

■ 研究分野

1. 運動生理学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 運動
2. 健康寿命
3. メンタルヘルス

■ 研究課題

1. 持久性競技のパフォーマンス向上に関して、運動生理学・栄養学の視点から考察する。
2. 運動が生物学的老化を抑制するメカニズムに関して、広く文献研究を行い、総合的に考察する。

■ 担当授業科目

1. 運動と健康（前期）（看護・福祉学科）必修
2. チームスポーツ（前期）（看護・福祉学科）選択
3. 生涯スポーツ（後期）（看護・福祉学科）選択
4. 運動処方論（後期）（福祉学科）選択
5. 専門研究Ⅰ（通年）（福祉学科）必修
6. 専門研究Ⅱ（通年）（福祉学科）必修
7. 母性の運動科学（前期）（助産別科）必修
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|--|
| 1. | 授業科目名【運動と健康】 |
| 1. | 生理学的メカニズムなど、理解に時間を要すると思われる事柄については、繰り返しモデルの |

	提示を行った。また、最新情報を提供するよう心掛けた。 2. 授業の終わりに、授業内容に関して理解したことや感想、質問等を紙に書いて提出してもらい、質問については次回の授業で回答するようにした。
2.	授業科目名【チームスポーツ】 1. カロリーカウンターを使って、実際の運動と消費カロリーを関連づけさせた。 2. チームで練習をしたり、試合内容などについて意見交換したりすることによって、十分にコミュニケーションを図れるようにした。
3.	授業科目名【生涯スポーツ】 1. カロリーカウンターを使って、実際の運動と消費カロリーを関連づけさせた。 2. 学生主体でラケットスポーツの練習や試合を行わせることにより、自分たちにあった練習の仕方や試合の進め方を考えさせた。また、ウォーキング・ジョギングは学生個人の体調や体力レベルに合ったペース設定で行わせた。
4.	授業科目名【運動処方論】 1. 学生の理解度をチェックしながら授業を進めた。 2. 理解度チェック用紙を通して、授業内容についての理解度を確認し、また授業内容に関する質問を受け付けた。授業のはじめに前回の復習と質問についての回答を行った。
5.	授業科目名【専門研究Ⅰ】 1. 様々な健康や体力に関連する記事や動画を用いて、興味関心の幅を広げた。 2. 記事や動画内容についての理解度を確認し、また知らなかった用語等について調べさせ、より多くの知識を獲得できるよう促した。
6.	授業科目名【専門研究Ⅱ】 1. 専門研究Ⅰで学び、得た知識をもとに、学生自身がさらに興味関心をもったテーマを決定させ、それについて調べ、まとめさせた。 2. 学生各自がテーマに沿って調べてきた内容を定期的に提出させ、その進捗状況をチェックするとともに、内容についての改善ポイントなどコメントすることによって、研究レポートを作成させた。
7.	授業科目名【母性の運動科学】 1. 妊婦運動の効果について、最新の情報を提供するように努めた。 2. 授業の終わりに、授業内容に関して理解したことや感想、質問を、classroom を通して提出してもらい、質問については次回の授業で答えるようにした。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1988 年～現在に至る	日本体力医学会	評議員（1999 年～現在に至る）
2.	1993 年 4 月～現在に至る	American College of Medicine	
3.			

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

発行又は	著書、学術論	単著・	発行所、発表雑誌	概要
------	--------	-----	----------	----

	発表の年月	文等の名称	共著の別	誌等又は発表学会等の名称	
(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
-----------	--------------------	------

1.	2023 年 4 月～現在に至る	第一警備スポーツセンター戸畑	マラソン教室アドバイザー
2.	2021 年 4 月～2024 年 3 月	公益財団法人福岡県スポーツ振興センター	スポーツアドバイザー
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2016 年 4 月～2024 年 3 月	福祉学科	福祉学科長
2.	2013 年 4 月～2024 年 3 月	人事委員会	人事委員長（2015～2020 年度）
3.	2019 年 4 月～現在に至る	衛生委員会	
4.	2018 年 4 月～現在に至る	保健福祉学研究所 運営委員会	

教授

今村 浩司

■ 学歴

1. 九州大学 大学院 医学系学府 医療経営・管理学専攻 専門職学位課程 修了

■ 学位

1. 医療経営・管理学修士（専門職）
2. 修士（福祉社会）

■ 研究分野

1. メンタルヘルス（精神保健・こころの健康）領域におけるソーシャルワーク実践
2. 刑事司法領域におけるソーシャルワーク実践
3. 障害者・高齢者の地域移行支援・地域定着支援・地域包括支援

■ 研究キーワード

1. メンタルヘルスソーシャルワーク
2. 臨床実践・生活支援・地域支援
3. 更生保護・成年後見・触法障害者

■ 研究課題

1. メンタルヘルス領域における地域生活支援に関する研究
2. 精神障害者の成年後見に関する研究
3. 触法障害者・高齢者の地域定着に関する研究
4. 精神科病院からの長期入院者の退院支援・地域移行に関する研究
5. 諸外国におけるメンタルヘルスサポートシステムの歴史的変遷の研究

■ 担当授業科目

1. ソーシャルワークの基盤と専門職（福祉学科 1 年前期必修 2 単位）
2. ソーシャルワークの基盤と専門職（社会専門）（福祉学科 1 年後期必修 2 単位）
3. 福祉入門（福祉学科 1 年前期必修 2 単位）
4. 現代の精神保健の課題と支援Ⅱ（福祉学科 3 年後期選択 2 単位）
5. 精神障害者地域生活支援論（福祉学科 4 年後期選択 2 単位）
6. ソーシャルワーク実習指導 A（精神）（福祉学科 3 年通年選択 2 単位）
7. ソーシャルワーク実習指導 B（精神）（福祉学科 4 年通年選択 2 単位）
8. ソーシャルワーク演習 A（精神）（福祉学科 2 年後期選択 1 単位）
9. ソーシャルワーク演習 C（精神）（福祉学科 4 年後期選択 1 単位）
10. ソーシャルワーク実習 A（精神）（福祉学科 3 年選択 4 単位）
11. ソーシャルワーク実習 B（精神）（福祉学科 4 年選択 4 単位）

12. ボランティア概論（保健福祉学部 of 看護学科・福祉学科・栄養学科 1 年前期選択 1 単位）
13. ボランティア概論（人文学部の英語学科・観光文化学科 1 年前期選択 1 単位）
14. 専門研究Ⅰ（福祉学科 3 年通年必修 2 単位）
15. 専門研究Ⅱ（福祉学科 4 年通年必修 2 単位）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【ソーシャルワークの基盤と専門職】および【ソーシャルワークの基盤と専門職（社会専門）】 福祉学科 1 年で開講される、相談援助実践に不可欠な社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の基盤的要素と、その実施者の専門職であるソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）の現状や課題の理解を深める、本学科における最も重要な講義科目の一つである。新カリ移行で、通年講義から半期ごとでの単元が変わった。毎時間最初に導入材料として現代社会の状況をマスメディア等の資料を使用して状況を把握させ、特段専門職としての視点の形成に努めた。よりリアリティに学ぶために、社会福祉士、精神保健福祉士の資格を持つ、高等学校の福祉科教諭やスクールソーシャルワーカーの現任者をゲスト講師に招聘し講義を展開した。また、リアクションペーパーの機能を使用して理解度を確認するとともに、予習、復習にかけた時間、利用した教材等々も記載させ、学んだことと感想の他に、本日の学生自己への点数も記載させ、次回の講義につなげるように工夫した。後期は、本講義において重要語句であるキーワードを設定し、毎時間の最初に確認テストを実施し、理解を深めた。
2.	授業科目名【福祉入門】 対人サービスを行う福祉専門職（ソーシャルワーカー）養成のために、福祉学科 4 名の教員で、現実的な福祉実践臨床現場における活動などを、それぞれの設定したテーマに沿って、臨場感溢れリアリティな内容の授業を提供し、①障害福祉、②司法福祉、③低所得者福祉、④子ども家庭福祉、⑤災害福祉を担当した。福祉専門職が実践にてどのような活動を展開しているのかを伝え、そのために必要なコミュニケーション、自己表現、チームワーク等の技能の習得の必要性を理解することを中心に展開させた。リアクションペーパーの機能を利用して、次の担当の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。
3.	授業科目名【現代の精神保健の課題と支援Ⅱ】 精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な必修科目であり、また教職課程においても必修の科目である。可能な限り臨床的な状況にし、国家試験をも意識づけるように教授した。また、精神保健福祉士を受験しない受講生や教職以外の受講生もいることから、毎時間オリジナルのレジュメを作成配付し、精神保健学全般の具体的実践事例を提示して説明を行い、理解の促進に努力した。毎時間リアクションペーパーの機能を使用して、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。
4.	授業科目名【精神障害者地域生活支援論】 精神障害者の地域生活の現状と課題について、具体的実践事例を交えながら解説した。4 年後期に開講することから、精神保健福祉全般に対しての総まとめ的講義内容となるよう、これまでに学習して理解をしてきたことの整理整頓を促すために、振り返りを中心として理解を深めた。毎時間リアクションペーパーの機能を使用して、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。

5.	授業科目名【ソーシャルワーク指導A】 精神保健福祉士レーン担当の2人の教員合同で行うもので、事前にそれぞれの役割の分担を行って実習に対しての理解を深めさせた。特に実習前及び実習後それぞれに学生の疑問に感じていることを整理させ、そのことについて調査をして学習できるよう工夫した。実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。
6.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導B】 上記同様2人の教員合同で行い、実習Iを踏まえた上で、更なるステップアップを目指していきよう疑問点の整理や到達目標の具体的な設定などの詳細な指導を行って理解を深めさせた。より実践的な理解が深まるように、受講生全員で理解を深める努力をした。実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。
7.	授業科目名【ソーシャルワーク演習A】 メンタルヘルスの専門家である、精神保健福祉士としての導入の演習としての位置づけであり、まずは精神障害者とのかかわりの重要性を中心に理解を深めた。精神障害者のイメージやその家族の思い、地域社会での状況、精神科病院での場面設定等々を行い、グループ化して具体性を持って検討を深めた。また、グループ別に北九州市内の精神保健福祉に関する社会資源マップ作成を行い、実践に生かせる知識を深めた。次年度への、より専門的知識と実践での実習に対してのイメージも膨らませよう心掛けた。
8.	授業科目名【ソーシャルワーク演習C】 メンタルヘルスの専門家である、精神保健福祉士として現場実践を行う時に、必要と思われる技術の習得を中心に行った。特にソーシャルワーク場面で欠かせない面接技術やリハビリテーション技術を織り交ぜて、理論と併せて開設を行い、理解を深めさせた。さらには、学生に役割を持たせてロールプレイを行い、それぞれの観点からの体験させる講義の展開に努力した。また、4年後期に開講することから、精神保健福祉士国家試験受験対策的な内容も併せて行うよう心掛けた。
9.	授業科目名【ボランティア概論】 人間総合科学の中の、地域創生分野の講義であり、ボランティアや地域貢献活動の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアや地域貢献活動に参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的とした。社会の中で実際にボランティアや地域貢献活動を実践している5名の方をゲストスピーカー（外部講師）として招聘し、さまざまな角度からのリアリティにあふれる具体的な講義を展開し、その現状と魅力が伝わるよう心掛けた。
10.	授業科目名【専門研究I】 3年のゼミ生に対して、精神保健福祉士・社会福祉士として現場実践力の重要性を考えて、できる限りの現場中心の話題提供を行った。それに対して感じた点や疑問点を言語化や文章化し、理解を深めさせた。よりリアリティを高めるため、精神科病院や福祉施設等の見学を行って、具体的現実感を習得させることに努力した。また、精神保健福祉士、社会福祉士の具体的イメージを抱かせるために、専門職団体が開催する研修会等々の案内を常に行い参加を促進した。さらには、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験との関連性を、常に意識付けるように指導した。
11.	授業科目名【専門研究II】 4年のゼミ生に対して専門研究Iを踏まえた上で、具体的に実践的な精神保健福祉士・社会福祉士としてのイメージを持たせるように指導を行った。また、学生それぞれに「卒業研究（ゼミ論）」の

	テーマを与え、学術的実践的アドバイスをを行い、総まとめができるように指導を行い、研究成果を報告集としてまとめた。また、社会福祉士、精神保健福祉士ダブル合格と、医療や福祉の業界への就職という 2 つの目標を定めて活動をした。結果、ゼミ生全員の就職が内定し、社会福祉士と精神保健福祉士にダブル合格を含め、多数輩出することができた。今年度も、ゼミ生のダブル合格者多数の結果であったので、次年度に向けても同様に取り組みたい。
--	--

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1994 年～現在	日本精神保健福祉士協会（精神保健福祉士学会）	理事（2001 年 4 月～2020 年 3 月）
2.	1996 年～現在	日本社会福祉士会（社会福祉士学会）	代議員（2010 年 6 月～2012 年 6 月）
3.	1996 年～現在	日本社会福祉学会	代議員（2013 年～現在）
4.	2006 年～現在	日本病院・地域精神医学会	
5.	2008 年～現在	日本精神障害リハビリテーション学会	
6.	2012 年～現在	日本精神保健福祉学会	
7.	2012 年～現在	九州精神神経学会	
8.	2013 年～現在	日本更生保護学会	
9.	2018 年～現在	日本医療ソーシャルワーク学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
1.	2024 年 3 月	「刑事司法と福祉」（新社会福祉士シリーズ 19）	共	弘文堂	① 社会福祉士・精神保健福祉士養成の「刑事司法と福祉」のテキストである。更生保護制度に関する関係団体や刑務所からの出所支援について、福祉専門職の関りや、連携の視点をまとめた。 ② 編集 森長秀・浅沼太郎 ③ 担当部分 「第 5 章更生保護制度における関係団体」「第 9 章刑務所における出口支援の実践」を執筆 ④ Pp93～98・195～199 総頁数 268 頁 A 4 版

2.					
3.					
(報告)					
1.	2023年8月	「北九州市教育委員会事務点検・評価報告書(令和4年度実績)」	共	北九州市教育委員会	①北九州市教育委員会の業務に関する事務の管理及び執行状況の点検評価を、有識者の立場で評価をまとめた報告書である。 ②総頁数 80 頁
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	なし				
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)	
1.	なし				
2.					
3.					

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	なし			
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2001年4月～2020年3月	日本精神保健福祉士協会	理事
2.	2001年4月～	福岡県精神保健福祉士協会	会長（代表理事）
3.	2012年7月～	福岡県精神科病院協会精神保健	顧問

		福祉士会	
	2002 年 9 月～	北九州地区精神保健福祉士協会	会長
	2006 年 4 月～	北九州地区社会福祉専門職 5 団体連絡協議会	代表世話人
	2005 年 10 月～	北九州市手をつなぐ育成会	苦情解決委員
	2006 年 3 月～	北九州成年後見センター	理事
	2005 年 4 月～	北九州市障害福祉ボランティア協会	理事
	2001 年 4 月～	北九州精神保健福祉事業協会	評議員
	2005 年 7 月～2020 年 3 月	福岡地方裁判所	精神保健参与員
	2012 年 4 月～2021 年 3 月	北九州市保健福祉局	オンブズパーソン
	2005 年 4 月～2019 年 3 月	北九州市精神保健福祉審議会	委員
	2006 年 4 月～	北九州市障害支援区分認定審査会	委員
	2008 年 4 月～	北九州市教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会	委員
	2008 年 4 月～	福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会	委員
	2006 年 4 月～	北九州市高齢者支援と介護の質の向上委員会	委員（地域包括支援部会兼務）
	2008 年 7 月～	北九州市要保護児童対策地域協議会	委員
	2013 年 4 月～	福岡県精神保健福祉審議会	委員
	2013 年 4 月～	福岡県精神医療審査会	委員
	2014 年 6 月～2021 年 3 月	厚生労働省（社会福祉振興・試験センター） 精神保健福祉士国家試験委員会	委員
	2016 年 8 月～	北九州市障害者差別解消法委員会	委員長
	2021 年 3 月～	北九州市社会福祉協議会	評議員
	2021 年 3 月～	中間市社会福祉協議会	評議員
	2022 年 7 月～	北九州あゆみの会	評議員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2021 年 4 月～	学校法人西南女学院	評議員
2.	2021 年 4 月～	西南女学院大学・短期大学部	評議会・運営協議会メンバー
3.	2021 年 4 月～	西南女学院大学・短期大学部	入試部長・学生募集委員長

4.		西南女学院大学・短期大学部	地域連携室室員
----	--	---------------	---------

教授

岡田 和敏

■ 学歴

- 1 1984 年 3 月 佛教大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻（博士前期課程）修了（社会学修士）

■ 学位

1. 修士（社会学）

■ 研究分野

1. 社会福祉学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 保健医療ソーシャルワーク
- 2.
- 3.

■ 研究課題

1. 障害者、難病患者の法制度における諸課題
- 2.

■ 担当授業科目

1. 保健医療と福祉（前期）（社会福祉学科）選択
2. ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（通年）（社会福祉学科）選択
3. ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（通年）（社会福祉学科）選択
4. 専門研究Ⅰ（通年）（社会福祉学科）必修通年
5. 専門研究Ⅱ（通年）（社会福祉学科）必修
6. ソーシャルワーク演習（後期）（社会福祉学科）必修
7. 社会福祉概説（後期）（栄養学科）必修
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【保健医療と福祉】
	この科目は教養としてではなく、将来的に様々な領域で専門職として就くことを目指すのであれば、医療

	領域を目指す者だけが学べば良いのではない。自分自身、家族を含め、関わりをもつ子ども、高齢者、障害者一人ひとりの健康面で病気、ケガをしない者はいないを考える。他人事ではなく我がごととして理解しておくことが求められる問題であると説明し講義した。また、現実社会において起きている事象に関心を持ち、突然に襲う病気やケガから経済的、社会的、精神的な問題を抱え苦しんでいることを対象者と出会ってから知るのではなく人々の実情を理解できるよう具体的に指導した。
2.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅰ】 医療領域を担当。他の領域と指導内容は同じであるが、特殊性と専門性をもつ医療領域において、ソーシャルワークを如何に展開していくかイメージ出来るよう資料やビデオを活用し講義した。
3.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅱ】 医療機関における社会的な問題を抱える人々の生活課題を解決調整する意味について感じ、考えることを学生らに求め講義した。 医療機関での実習に必要と思われる知識と技術について参考資料の提示と講義を行った。
4.	授業科目名【専門研究Ⅰ】 学生たちに3年次から4年次にかけて行うゼミ進行予定を渡し行ってきた。自らが研究領域、テーマを3年次最後に決めテーマを提出させ、主体的、積極的に研究の成果をまとめるよう指示した。
5.	授業科目名【専門研究Ⅱ】 基本的には学生自らが研究領域、テーマを決め主体的、積極的に研究の成果をまとめる取り組みを指示した。また、研究に必要となる論文・研究レポートの作成について図書館でのガイダンスを受講させ、合わせて学生の研究に必要となる資料を通して学ばせた。
6.	授業科目名【ソーシャルワーク演習】 ソーシャルワークにとって自己を知ることと相手との信頼関係を形成することが出来るかが最重要課題だと考える。その為、ソーシャルワーカーに求められる基礎的な知識と技術についてコミュニケーションを取りながら解説をした。
7.	授業科目名【社会福祉概説】 福祉学科の教育内容と幾分指導上異なるものの、生活者として、また将来的に栄養の専門職として人々に関わることや、更に国家試験出題範囲として試験に臨むことを意識して社会福祉、社会保障を身近なこととして理解出来るよう医療・福祉現場での話を取り入れながら講義した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1990年10月～現在に至る	日本社会福祉学会	代議員 2022年5月
2.	1985年4月～現在に至る	福岡県医療ソーシャルワーカー協会	正会員
3.	1998年6月～現在に至る	佐賀県医療ソーシャルワーカー協会	正会員
4.	1998年4月～現在に至る	日本医療社会福祉協会	正会員
5.	2010年9月～現在に至る	日本医療ソーシャルワーカー協会	正会員
6.	2001年4月～現在に至る	日本キリスト教社会福祉学会	正会員

2010 年 4 月～2019 年 3 月 4 日総会まで	福岡県社会福祉士会	外部理事
----------------------------------	-----------	------

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.				
2.				
3.				

（2） 個 人 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備 考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日	北九州市民生委員推薦委員会	
2.	2005 年 8 月～現在に至る	北九州市福祉有償運送運営協議会	会長
3.	2013 年 5 月～現在に至る	公益社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会	理事長
4.	2021 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日	社会福祉法人 北九州精神保健福祉事業協会評議委員会	評議員
5.	2003 年 4 月～現在に至る	社会福祉法人孝徳会苦情解決委員会	第三者委員長
6.	2003 年 4 月～現在に至る	社会福祉法人孝徳会入所判定委員会	委員長

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2020 年 4 月～2024 年 3 月 31 日	附属図書館	館長
2.	2023 年 4 月～2024 年 3 月 31 日	研究紀要委員会	委員
3.	2023 年 4 月～2024 年 3 月 31 日	図書委員会	委員

教授

木村 茂喜

■ 学歴

1. 2000 年 九州大学大学院法学研究科 博士後期課程 単位取得退学

■ 学位

1. 1997 年 修士（法学）（九州大学）

■ 研究分野

1. 社会保障法
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 社会福祉
2. 児童の権利
3. 犯罪をした者
4. 自立支援

■ 研究課題

1. 福祉サービスにおける各主体の責任分担
2. 権利主体としての児童を対象とする社会的支援のあり方
3. 犯罪をした者に対する社会復帰・自立支援と社会保障のあり方

■ 担当授業科目

1. 法学（前期）（看護学科） 選択
2. 法学（前期）（福祉学科） 選択
3. 法学（前期）（栄養学科） 選択
4. 日本国憲法（後期） 選択
5. 日本国憲法（後期） 選択
6. 日本国憲法（後期） 選択
7. 社会保障Ⅰ（前期） 必修
8. 貧困に対する支援（前期） 必修
9. 司法福祉論（前期） 選択
10. 社会保障Ⅱ（後期） 必修
11. 権利擁護を支える法制度（後期） 選択
12. 初年次セミナーⅠ（前期） 必修
13. 初年次セミナーⅡ（後期） 必修

14. 専門研究Ⅰ（通年） 選択
15. 社会福祉特講Ⅱ（集中） 選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【法学・日本国憲法・社会保障Ⅰ・社会保障Ⅱ・貧困に対する支援・権利擁護を支える法制度・司法福祉論】 ①限られた時間により多くの情報を学生に提供するため、詳細なレジュメや資料を配布した。レジュメ・資料を配布の際は、あらかじめ power point に枚数等の掲示を行った。 ②講義は主に power point を用いて行い、学生の講義内容の理解の一助のため、写真・図表・グラフ・アニメーション等を多用して講義を行った。また、講義の冒頭においては、講義内容の継続性の確認および講義内容の理解をより確かなものにするため、「前回のおさらい」と題して前回の講義の要点を説明するとともに、学生が当日の講義内容・要点をあらかじめ認識するために、当日の講義内容に関する「本日のキーワード」を掲げた。 ③学生の集中力維持のため、途中 5 分程度の休憩を入れた。 ④講義内容の理解度の確認のため、講義途中（休憩前）と講義終了後の 2 回、Google Form を使い、学生はスマホ（またはパソコン）を用いて解答する確認テストを実施した。確認テストの結果は、成績評価に加えた。 ⑤講義終了後、コメントカード兼用のマークシート式出席カードを用いて、学生からの講義内容に関する感想・質問を回収し、質問等への回答および意見や感想に関する所見を次回の講義の冒頭で述べた。学生からの質問・意見等については、「授業貢献度」として成績評価に加えた。 ⑥やむなく欠席した学生への便宜を図るほか、学生が講義内容を復習・確認するための一助とするため、配布レジュメ・資料については、講義後に Google Classroom に.pdf 方式でアップロードし、履修学生および希望する学生が自由にダウンロードすることを可能にした。
2.	授業科目名【法学】 講義中に生活に密着した具体的な事例を適宜挙げ、「法」がさまざまな生活の具体的場面において密接に関わっているという、看護・福祉の各専門職をめざす学生にとって欠かせない認識を持つための工夫を行った。
3.	授業科目名【日本国憲法】 抽象的な憲法理論のイメージを具体化するために、特に基本的人権に関する多くの憲法判例を紹介するほか、とりわけ女性・性的マイノリティに対する差別の現状と憲法上の論点について重点的に講義を行い、学生の理解の一助に努めた。
4.	授業科目名【社会保障Ⅰ・社会保障Ⅱ】 非常に複雑な社会保険制度に関する知識を学生がより確実に習得できるよう、具体的な事例等を用いて説明した。とりわけ制度が複雑な年金制度については、「磯野家・フグ田家」を例に挙げて、年金の保険関係や給付について説明を行った。確認テストについては、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して出題し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。
5.	授業科目名【貧困に対する支援】 最低限度の生活を守るための最後のセーフティ・ネットとしての役割を担う生活保護制度の重要性

	を、他の社会保障制度との関連と併せて説明を行った。生活保護の申請拒否・保護の停廃止をめぐる問題のほか、近年の生活保護法改正・生活困窮者自立支援法についても触れ、学生の制度に関する関心を高めた。確認テストについては、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して出題し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。
6.	授業科目名【権利擁護を支える法制度】 成年後見制度や日常生活自立支援事業の概要についての講義に先立って、これら各制度を理解するために当然の前提となる憲法・民法・行政法の基礎について講義を行った。確認テストについては、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して出題し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。
7.	授業科目名【司法福祉論】 2024 年度より改定される社会福祉士国家試験の試験科目である「刑事司法と福祉」の内容を踏まえ、犯罪と刑罰制度、施設内処遇・社会内処遇、医療観察制度、高齢・障害者による犯罪と福祉、犯罪被害者等支援など、幅広い内容で講義を行った。確認テストについては、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して出題し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。
8.	授業科目名【初年次セミナーI・初年次セミナーII】 「初年次セミナーI」では、「調べる」ことと「書く」ことに重点を置き、とりわけレポートの書き方に特化した内容で演習を行った。学生は「この世の中で『おかしい』『改善すべき』と考えていること」を調べ、各自発表を行った。 「初年次セミナーII」では、前期の内容を踏まえて「発表する」「討論する」ことに重点をおき、「論理的思考力」の基礎について、演習を行った上で、1 クラスを 4 グループに分けて「ディベート」を行った。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1995 年 12 月～現在に至る	日本社会保障法学会	学会誌編集委員(2009 年 10 月～2017 年 3 月) 企画委員(2018 年 10 月～2022 年 3 月)
2.	1998 年 5 月～現在に至る	日本労働法学会	
3.	2008 年 8 月～現在に至る	日本司法福祉学会	
4.	2012 年 12 月～現在に至る	日本更生保護学会	
5.	2016 年 12 月～現在に至る	日本障害法学会	
6.	1995 年 4 月～現在に至る	九州社会法研究会	
7.	1995 年 4 月～現在に至る	社会法判例研究会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要

(著書)					
1.	2024年3月	『地域生活を支える社会福祉と法』	共著	放送大学教育振興会	①放送大学の2024年度開講の総合科目「地域生活を支える社会福祉と法」(‘20) (ラジオ開講科目、主任講師：平部康子 佐賀大学教授、木村茂喜)用の印刷教材(テキスト)である。社会福祉と法に関わる具体的な事例を題材としながら、人が地域生活をいかにして送っていくか、その際、社会福祉法制はどのような役割を果たすか、さらに、人権に対する解釈を深めながら、地域の特性や資源を考慮した公正性をどのように担保するかについて、検討する。 ②編著者:平部康子、木村茂喜 分担執筆者：廣田久美子、脇野幸太郎 ③担当部分： まえがき(3～5頁) 第2章 社会福祉の理念と法規範(23～39頁) 第3章 サービス提供の安定と行政の役割(40～55頁) 第13章 刑事司法と社会福祉(204～221頁) 第14章 社会福祉における紛争解決(222～238頁) 第15章 社会福祉法の展望(239～252頁) 総頁数：260頁 ④A5判
2.					
3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					

1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)	
1.					
2.					
3.					

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	「犯罪行為者の社会復帰と自立支援法理の構築」	日本学術振興会	800,000	
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2020年4月～2024年3月	放送大学 総合科目「社会福祉と法（'20）」第8回～第10回	印刷教材執筆担当講師・放送教材担当講師
2.	2023年4月～現在に至る	放送大学	客員教授
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2015年5月～現在に至る	西南女学院大学生活協同組合	理事長
2.	2022年4月～2024年3月	図書委員会	委員
3.	2023年4月～2024年3月	学生委員会	委員
4.	2023年4月～2024年3月	教養教育小委員会	委員
5.	2014年4月～現在に至る	フォークソング部	顧問
6.	2015年4月～現在に至る	KOIKOI	顧問

教授

中島 俊介

■ 学歴

1. 北九州市立大学大学院 社会システム研究科 地域社会システム専攻修了

■ 学位

1. 博士（学術）

■ 研究分野

1. 心理学
2. 臨床心理学
3. 生涯発達心理学

■ 研究キーワード

1. 森田療法
2. メンタルヘルス
3. 心理教育

■ 研究課題

1. 平和学に関して地域の平和活動を通じてのメンタルヘルスの向上を考察する。
2. 生涯発達の観点から心理教育の可能性を考察する。

■ 担当授業科目

1. 教育心理学（前期）（看護・福祉・栄養・英語学科）選択
2. こころと人間（前期）（看護・福祉・栄養学科）選択
3. 保育内容（人間関係）（前期）（福祉学科）必須
4. 発達心理学（前期）（看護学科）必須
5. 保育の心理（後期）（福祉学科）必須
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【教育心理学】
	学生の質問に真摯に答えるように努力した。受講生の感想と到達度に焦点をあてた。毎時の講義感

	想を次回の講義の参考にした。
2.	授業科目名【こころと人間】 講義内容に興味を持たせるように、できるだけとえ話を盛り込んだ。受講生の感想と到達度に焦点をあてた。毎時の講義感想を次回の講義の参考にした。
3.	授業科目名【保育内容 人間関係】 グループワークを多彩に展開し学生の興味関心を高めた。受講生の感想と到達度に焦点をあてた。毎時の講義感想を次回の講義の参考にした。
4.	授業科目名【発達心理学】 国家試験対策を重視した。受講生の感想と到達度に焦点をあてた。毎時の講義感想を次回の講義の参考にした。
5.	授業科目名【保育の心理】 子どもの心理の面白さ・発達のすごさを感動を伴い講義した。受講生の感想と到達度に焦点をあてた。毎時の講義感想を次回の講義の参考にした。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1982 年～現在に至る	日本教育心理学会	
2.	1998 年～現在に至る	日本人間性心理学会	
3.	2016 年～現在に至る	日本心理学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.	なし				
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	なし				
2.					
3.					
（翻訳）					
1.	なし				
2.					
3.					
（学会発表）					
1.	なし				
2.					

3.					
----	--	--	--	--	--

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	なし			
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	地域における平和活動の意義についての研究	学校法人戸早学園	100.000 円	
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	なし		
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	なし		
2.			
3.			

教授
山根 正夫

■ 学歴

1. 2002 年 福岡教育大学大学院教育学研究科障害児教育専攻 修了

■ 学位

1. 教育学（修士）

■ 研究分野

1. 障害児者の支援方法
2. 応用行動分析学
3. 保育ソーシャルワーク

■ 研究キーワード

1. 障害児・者の支援
2. 行動分析学
3. 保育ソーシャルワーク

■ 研究課題

1. 就学前の障害児および特別な配慮を要する子どもの療育について行動分析学的視点から考察する
- 2.

■ 担当授業科目

1. 障害児保育 選択必須
2. 社会的養護Ⅰ 選択必須
3. 社会的養護Ⅱ 選択必須
4. 特別支援教育論（前期）（英語学科・看護学科・福祉学科・栄養学科）選択必須
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|--|
| 1. | 授業科目名【障害児保育】 |
| | 障害があると診断された子どもに加えて、多様な支援ニーズのある子どもの発達援助の方法や家族 |

	支援、地域・専門機関との連携の在り方について、学生の学習ノート、プレゼンテーション等の予習を基に討議し、解説を加え内容の理解を深化させた。
2.	授業科目名【社会的養護Ⅰ】 テキストを参考に講義形式で解説した。対人援助に関する科目であり文献だけでは想像が困難なことを踏まえて、実際場面のVTRなどの視聴を取り入れた。
3.	授業科目名【社会的養護Ⅱ】 予習用のプリントを配布し、指定の事例検討及び毎回の授業内容についてのまとめを準備し、授業において発表を通して共有を図った。
4.	授業科目名【特別支援教育論】 英語・看護・福祉・栄養学科の教職課程履修者の必須科目であるが、学科によって障害等に関する準備性が異なるため、解説の際に用語等について受講学生に確認しながら授業を展開した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2000年11月	日本保育学会	
2.	2016年4月	日本保育ソーシャルワーク学会	
3.			

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
1.	なし				
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	なし				
2.					
3.					
（翻訳）					
1.	なし				
2.					
3.					
（学会発表）					
1.	なし				
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	なし			
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	なし			
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2005 年 4 月	福岡教育大学教育総合研究所付属特別支援教育センター	教育研究部会員
2.	2003 年 4 月	北九州市障害者自立支援協議会	地域ネットワーク部会部会長
3.	2022 年 4 月	NPO 法人暁煌会	理事

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	なし		
2.			
3.			

准教授
杉谷 修一

■ 学歴

1. 1993 年 九州大学大学院教育学研究科地域教育社会学専攻（博士課程）単位取得満期退学

■ 学位

1. 1990 年 修士（教育学）

■ 研究分野

1. 教育社会学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. ゲーミフィケーション
2. 子ども文化
3. 遊び

■ 研究課題

1. 教育分野におけるゲーミフィケーションについて考察する。閉じた構造を持つ活動（授業等）に対して、ゲーミフィケーションが開かれた活動を促進する可能性について検討する。
- 2.

■ 担当授業科目

1. 道德教育の理論と実践（前期）（看護・福祉・栄養・英語学科）選択
2. 社会調査の基礎（前期）（福祉学科）選択
3. 教育原理（後期）（福祉学科）選択
4. 教育社会学（後期）（看護・福祉・栄養・英語学科）選択
5. 社会学と社会システム（後期）（福祉学科）選択
6. 初年次セミナーⅠ（前期）（福祉・栄養学科）必修
7. 初年次セミナーⅡ（後期）（福祉学科）必修
8. 教職実践演習（後期）（看護・福祉・栄養・英語学科）選択
9. 養護実習（前期）（福祉学科）選択
10. 養護実習事前事後指導（三期にわたる）（福祉学科）選択
11. 専門研究Ⅱ（通年）（福祉学科）必修

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【道德教育の理論と実践】 道德の理論に関する学習にとどまらず、教育現場での道德教育の実践と結びついた力を養うことを心がけた。「考え、議論する」道德教育という学習指導要領の方向性を踏まえ、道德科のテーマに学生自身が深くコミットできるよう心掛けた。学習指導案の構造と基本的な書き方を身に付け、教材研究、発問の工夫、評価の観点と実際など、実践的力量形成を重視した。また「道德教育データベース」やその他の実践記録を視聴・分析するなど、具体的な授業イメージの形成を促した。
2.	授業科目名【教育社会学】 「社会化」をキーワードに、理論的枠組みとそれが把握しようとする教育現象について、できるだけ具体的な場面や事例を取り上げて解説した。また、学校、地域、家族が時代の変遷とともにどのように移り変わったのか。現代的な教育課題にどのようにつながるのかを通時的に取り上げた。学力、貧困などのテーマについては、調査データを丁寧に読みながら、教育問題への理解力の向上を目指した。スライド資料や動画資料などできるだけ興味を持てるよう工夫した。
3.	授業科目名【社会調査の基礎】 統計学の手法と関わりが大きい科目であり、学生の苦手意識が強い科目である。この概念はなぜ必要なのか、使い方やその意味を身近な例を使って理解できるよう心掛けた。テキストを補足するスライド資料を充実させ、授業中に理解したスライドの内容を自宅でテキストを参照しながら復習できるようにした。
4.	授業科目名【社会学と社会システム】 国家試験の科目であるため、内容が総花的になりやすい科目である。社会システム論を基盤としながら、社会を説明・理解するツールとしての理論について、できるだけ実例を挙げながら解説した。特に現代社会の課題に関する部分は変化が早く、テキストがフォローできない部分や学生がニュースで触れている日常のできごとをなるべく多く取り上げ、自分事として社会学を意識できるよう工夫した。スライド資料、動画視聴など興味を引く教材作成にも取り組んだ。
5.	授業科目名【教育原理】 保育士を目指す学生の科目であるが、なじみの薄い教育の本質論、目的や方法についての歴史や哲学などに触れるため、テキストを補足するスライド資料を工夫した。教育の歴史については、社会の在り方と教育がどのように関連するのかを具体例を挙げて解説した。また、現代的な教育課題については、いじめ・不登校・暴力行為等、子どもと貧困の現状と社会の取り組みについて、教育現場だけでなく広い視野で理解できるよう資料を工夫した。
6.	授業科目名【初年次セミナーⅠ・Ⅱ】 大学初年次を対象とする、基礎的なスキル向上を目指す科目だが、アカデミックスキルだけでなく、時間管理や課題への取り組み方など日常生活に関連する TIPS も取り上げた。この授業ではアカデミックなものに限らない広いリテラシーの基礎を作るという意味で、情報リテラシー、読む楽しさをどう見つけ、広げるかなど「本を好きになる」きっかけづくりを心がけた。読み取りに課題のある学生は、どこで、どのようにつまづくのかを実際に問題を解き、解説し、グループワークで解決策を共有・発表するなどの方法で体験してもらった。

学会における活動

加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
------	----------	----------

1.	1985 年 6 月～現在に至る	日本教育社会学会	
2.	1990 年 11 月～現在に至る	日本社会学会	
3.	1990 年 5 月～現在に至る	日本教育学会	
4.	1997 年 5 月～現在に至る	日本教育方法学会	
5.	1990 年 5 月～現在に至る	九州教育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.	2023.10	変動社会と 子どもの発 達（第3版）	共	北樹出版	①教育社会学の教科書として編まれた もので、子どもの社会的発達について多 面的な理解を深めるものである。担当箇 所は SNS などニューメディアの広がり が子どもの社会化に与える影響につい て取り上げている。 ②編著者：住田正樹、高島秀樹 共著者：住田正樹、杉谷修一、他9名 ③担当部分： 第8章ニューメディアと子どもたち （P118～P140）総頁数：P208 ④A5 版
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	2024.3	自己理解を 深める教育 ゲーミフィ ケーション ーナラティ ブ要素の活 用を中心に ー	単	西南女学院大学 紀要 Vol.28	① 教育ゲーミフィケーションにおける ナラティブ要素に注目し、学習者がメカ ニクスとの相互作用を通じて活動に意 味づけを行う能力であるエージェンシ ーを通じて自己理解を深める可能性を 検討した。 ② P29～P38
2.	2024.3	道徳科にお けるゲーミ フィケーシ ョンの検討 （2）ーアナ	単	西南女学院大 学・西南女学院 短期大学部教職 論集 第2号	① 「考え、議論する」道徳の授業を実現 するためにゲーミフィケーションを導 入する際、学習者の活動を組織する枠組 みとなるゲームメカニクス、特に教室場 面での活動と類似性があるアナログゲ

		ログゲーム のメカニク スの可能性 —			ームのメカニクスにどのような可能性 があるかを整理・検討した。 ② P1～P16
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2007年9月～現在に至る	特定非営利活動法人生涯学習指導者育成ネットワーク	講師
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2014 年 4 月～現在に至る	教職課程委員会	
2.	2021 年 4 月～現在に至る	大学点検評価改善会議 FD 部門 会議	
3.	2022 年 4 月～現在に至る	福祉学科インスタグラム検討会	
4.	2022 年 4 月～2024 年 3 月	福祉学科保護者懇談会ワーキン ググループ	

准教授

上村 眞生

■ 学歴

1. 2012 年 広島大学大学院教育学研究科教育人間科学専攻（博士後期課程）修了

■ 学位

1. 教育学博士（広島大学）

■ 研究分野

1. 教育学
2. 保育学

■ 研究キーワード

1. 保育の質
2. 保育士のストレス・メンタルヘルス
3. 保育士の労働環境
4. 幼児の身体活動

■ 研究課題

1. 保育士のメンタルヘルスに関する研究
2. 保育者の研修に関する研究
3. 保育士の労働環境に関する研究
4. 幼児の身体活動に関する研究

■ 担当授業科目

1. 保育原理
2. 子どもの理解と援助
3. 保育内容の理解と方法Ⅲ
4. 保育者論
5. 子育て支援
6. 保育内容の理解と方法Ⅳ
7. 保育の計画と評価
8. 保育内容 環境
9. 保育内容 ことば
10. 保育内容 総論
11. 保育実践演習
12. 専門研究Ⅰ
13. 専門研究Ⅱ

14. 保育実習指導Ⅰ
15. 保育実習指導Ⅱ
16. 保育実習Ⅰ
17. 保育実習Ⅱ

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【保育原理】 保育の原理・原則を教授するに当たり、知識の提示に留まることがないように、関連する例題、ディスカッションを事前に行い、学生の中でイメージや考え、関心が喚起されてから、教授活動を行った。入学後初めての授業のため、授業進行におい対話を中心に行った。
2.	授業科目名【子どもの理解と援助】 子どもを理解するための理論と方法について、教授した。種々の保育論の解説、学生による発表に加え、子ども理解のための観察技法、記録法について解説し、観察技術の獲得を目指した。
3.	授業科目名【保育内容の理解と方法Ⅲ】 造形的表現技術の獲得を目的として、各技法の解説・実演を通して、保育における表現活動の展開方法について教授を行った。
4.	授業科目名【保育者論】 保育者としてのあり方を教授するに当たり、知識の提示に留まることがないように、関連する例題、ディスカッションを事前に行い、学生の中でイメージや考え、関心が喚起されてから、教授活動を行った。
5.	授業科目名【子育て支援】 保育者の業の一つである子育て支援について、現在のニーズに合わせて様々な支援を展開できるよう、多領域の専門家を外部講師として招き、実践現場における実状を紹介した上で、保育者に必要な知識・技術について教授した。
6.	授業科目名【保育内容の理解と方法Ⅳ】 保育者として必要な身体表現に関する知識と経験を蓄積することと、乳幼児の身体表現を引き出す保育環境の構成、指導上の注意点について、演習後に解説し、理解を深めるよう工夫した。学生の身体活動の経験不足による課題達成困難を訴える者もいたが、授業評価アンケートからも概ね目標は達成できたと考える。
7.	授業科目名【保育の計画と評価】 保育を実施する上で必要となる、カリキュラム論について解説し、保育の中で展開の仕方について解説した。合わせて、子どもの発達について、学生にプレゼンテーションを課し、定型発達児と障害のある子どもの保育に展開についても解説した。
8.	授業科目名【保育内容 環境】 保育における環境構成の重要性に加え、保育内容「環境」の構成・展開方法を教授した。実践的な知識・技術の獲得のため、毎時間講義と演習を行い、演習中には直接指導をし、授業終了後は振り返りのための課題を与えた。各授業前後に各回の目的を提示することによる学習効果が見られた。

9.	授業科目名【保育内容 ことば】 保育場面における言語環境の構成、子どもの言葉の発達を促すための保育方法について教授した。実体験を基にした学びを構築するために、言葉の発達を促す教具の製作等を行い、それを実際に使用する演習を中心に授業を進めた。
10.	授業科目名【保育内容 総論】 保育内容に関する最終的な演習科目としての位置付けから、学外での演習や演習内容の充実を図った。そのため、実体験に基づく理解の促進が見られるようになった。
11.	授業科目名【保育実践演習】 保育実践力を養うために総合的な演習を実施した。4年間の学びの集大成という位置づけであり、内容的に非常に多岐・多様に渡っていたため、授業評価アンケートや学生の話から有用性は一定程度感じているものの昨年同様、「課題の量」については課題である。
12.	授業科目名【専門研究Ⅰ・Ⅱ】 研究とは何かということを教授すると共に、学生の関心を引き出すために、毎時間ディスカッションを行った。また、毎回課題を設け、プレゼンテーションを課した。
13.	授業科目名【保育実習指導Ⅰ・Ⅱ】 保育実習を行うにあたり、必要な知識・技術だけでなく、社会人として、専門職としての振舞い等についても教授を行った。また、実習指導案や日誌については、演習を通して実践的な指導を行った。実習後の振り返りでは、個別指導に加え、全体報告会を実施し、実習内容を再確認するとともに、個別に必要な指導を行った。
14.	授業科目名【保育実習Ⅰ・Ⅱ】 実習先との連携をとった上で、保育実習中の巡回指導において個別の課題を抽出し、適宜指導・助言を行った。また、1日の実習終了後に学生個人が感じた課題については、その日のうちに助言するよう指導体制を採った。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2005年6月～現在	日本保育学会	
2.	2006年7月～現在	日本小児保健協会	
3.	2007年8月～現在	日本保育園保健学会	
4.	2018年5月～現在	日本乳幼児教育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					

(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1.	多声的保育評価の開発：子どもと保護者の声を評価に導入する方法	科学研究費	○（松井 剛太） 上村 眞生 （松本 博雄） （水津 幸恵） （片岡 元子） （中西 さやか） （岡花 祈一郎） （大野 歩） （越中 康治） （佐藤 智恵）	300,000 円
2.	定量的評価と保育内容の 関連からみる子どもの発達保障に関する研究 ～幼児の身体活動を指標として～	附属研究所	○上村 眞生 （田中沙織） （原田 利枝）	206,000 円
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2018 年 4 月～現在	福岡県保育協会遠賀中間地区	研修コーディネーター
2.	2017 年～現在	福岡県保育協会遠賀中間地区	指定講師
3.	2020 年 4 月～	北九州市児童福祉施設等第三者 評価委員会専門委員	専門委員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2017 年～現在	情報システム管理運用委員	委員
2.	2010 年～現在	PHOTO 部	顧問
3.	2019 年～現在	学生募集委員	委員
4.	2018 年～現在	WEST	管理責任者

准教授

梶原 浩介

■ 学歴

1. 2017 年 熊本学園大学大学院 社会福祉学研究科社会福祉学専攻(博士後期課程)修了

■ 学位

1. 2017 年 博士(社会福祉学)

■ 研究分野

1. 社会福祉学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 精神保健福祉
2. 障害者福祉(発達障害)
3. 子ども家庭福祉

■ 研究課題

1. 地域で生活する家族が抱える生活課題(不登校・ひきこもり、子育て、虐待、介護、精神疾患など)に各当事者(家族1人ひとり、家族、地域の支援機関・施設の支援者等)に取り組む上で生じる語りを対象として、主に質的研究・量的研究の方法を用いて社会問題の現状と課題を明らかにするとともに、ソーシャルワーカーとして各当事者に対する支援に求められる知識・技術について明らかにすることを目指している。特に、家族が抱える生活課題の現状及び傾向、家族支援における視点、援助技術の生成などについて社会福祉学の観点により研究している。

■ 担当授業科目

1. ソーシャルワーク演習(後期)(福祉学科)必修
2. 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ(前期)(福祉学科)必修
3. 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ(後期)(福祉学科)必修
4. 精神保健福祉制度論(後期)(福祉学科)選択
5. ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ(前期)(福祉学科)選択
6. ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ(後期)(福祉学科)選択
7. 健康相談(後期)(看護学科)選択
8. 現代の精神保健の課題と支援Ⅰ(前期)(福祉学科)選択
9. ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ(前期)(福祉学科)選択
10. ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳ(後期)(福祉学科)選択
11. ソーシャルワーク実習指導A(通年)(福祉学科)選択

12. ソーシャルワーク実習 A（通年）（福祉学科）選択
13. 専門研究 I（通年）（福祉学科）必修
14. 精神保健福祉援助実習指導 II（通年）（福祉学科）選択
15. 精神保健福祉援助演習 III（通年）（福祉学科）選択
16. 国家試験対策(地域福祉と包括的支援体制 I・IIを担当)（集中）（福祉学科）（学科主催の対策指導）
17. 精神保健福祉援助実習 II（通年）（福祉学科）選択
18. 専門研究 II（通年）（福祉学科）必修

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【ソーシャルワーク演習】 近年の社会福祉に関する問題を取り上げ、その事例を基にグループワークを通して他者と意見を共有しながら、自分なりの理解を深めていく機会をできるだけ確保した。学生同士の振り返りを通して、個別の内容をグループ全体に共有することにより、学生自身の気づきを共有できる時間を設けた。福祉的課題・問題の理解については、主に複合課題を抱える家族の問題を事例として取り上げ、自己覚知・他者理解の促し、支援者に求められる基本的なコミュニケーション技術等について学生同士の関わりを生かして理解を深めた。
2.	授業科目名【地域福祉と包括的支援体制 I・II】 地域福祉を捉える視点を学ぶとともに、地域福祉の主体や地域福祉の推進のための制度・仕組みについて理解することを目指した。前期は、地域福祉の概念、行政システム、社会福祉協議会、民生委員・児童委員、福祉教育、コミュニティワーク等を中心に指導に従事した。後期は、コミュニティソーシャルワーク、事例教材等を基にした地域福祉の実践について触れ、地域福祉の推進の在り方について指導に従事した。教科書の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。
3.	授業科目名【精神保健福祉制度論】 メンタルヘルスの課題を抱える当事者(精神障害者など)を取り巻く法制度の詳細についての理解を深めるとともに、相談援助活動を展開する精神保健福祉士の役割について捉えることを目指した。教科書の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって、学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。
4.	授業科目名【ソーシャルワーク演習(専門) I～IV】 本科目は、社会福祉士指定科目の 1 つである。講義では、複合課題を抱える家族への支援事例を用いて、ケースワークの展開プロセス、アセスメント技法、地域組織化活動の手法等について教授した。また、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れ、学生同士、様々な視点から事例検討が進められるよう工夫した。
5.	授業科目名【健康相談】 本科目は、看護学科のうち養護教諭を目指す学生を対象に、福祉専門職の立場により、学校に通う児童生徒が抱える問題（不登校・虐待、貧困など）の現状と課題、家族支援の在り方、校内での支援体制の構築、養護教諭として地域の支援機関との連携・協働の在り方について指導に従事した。文部科学省の資料の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視

	覚情報を併用することによって学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。
6.	授業科目名【現代の精神保健の課題と支援Ⅰ】 本科目は、メンタルヘルス(精神保健)に関する現象・問題等を体系的に捉え、対応策や予防策を見出していくための学問となる。精神的な健康や精神障害等が、当事者を取り巻く生活環境と強い関連性があることから、その対応と予防においても、さまざまな要素を同時的、継時的にみていく上で、精神保健の概要、現代の精神保健分野の動向、基本的な考え方、ライフサイクルにおける精神保健を概観するとともに、精神保健の視点からみた家族、学校、地域における精神保健活動と精神保健対策治療的アプローチ、法律等について、公的資料等の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。
7.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅰ】 福祉学科 3 年生を対象にした実習科目。精神科医療機関への実習に向けての事前及び事後学習として、実習中に求められる知識・技術、学生の疑問等を整理の上で、学生自身が実習に取り組む主体者として学習できるよう担当教員一同にて検討の上、工夫した。
8.	授業科目名【専門研究Ⅰ】 本科目では、ゼミ全体で研究テーマを設定した後、各人が個別の課題について自己学習を行った。学生指導においては、できる限り各人が研究への関心を高め、意欲的に学習に取り組めるよう努めた。
9.	授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅱ】 福祉学科 4 年生を対象にした実習科目。3 年次の医療機関の実習を踏まえて、更なるステップアップを目指していけるよう、4 年次の地域実習に向けての事前及び事後学習として、実習中に求められる知識・技術、学生の疑問等を整理の上で、学生自身が実習に取り組む主体者として学習できるよう担当教員一同にて検討の上、工夫した。そして、実習後は報告会を通して、学生自身が実習中の学びを、より実践的な理解として深めた。
10.	授業科目名【精神保健福祉援助演習Ⅲ】 精神保健福祉士として現場実践を行う際に、求められる知識・技術の習得を目指し、演習プログラムを通して指導に従事した。特にソーシャルワーク場面で欠かせない面接技術やリハビリテーション技術を織り交ぜて、理論と併せて解説を行い、理解を深めさせた。4 年後期に開講することから、精神保健福祉士国家試験受験対策的な内容も併せて行うよう心掛けた。
11.	授業科目名【国家試験対策(地域福祉と包括的支援体制Ⅰ・Ⅱを担当)(学科主催の対策指導)】 本科目は、4 年次の社会福祉士国家試験の受験を目指す学生を対象に指導に従事した。講義では、地域福祉論を担当し、国家試験で出題が予想される制度改正や学生の理解度が十分でないと思われる内容を中心に教授した。
12.	授業科目名【専門研究Ⅱ】 本科目では、各人が研究テーマ・課題を設定し、調べ学習及びレポート作成に取り組んだ。学生指導においては、各人とのコミュニケーションを密に図り、進捗状況に応じた個別指導を心がけた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2014 年 6 月～現在に至る	日本社会福祉学会	九州地域部会事務局・事務局員 (2018 年 6 月～2022 年 6 月迄)
2.	2019 年 6 月～現在に至る	日本地域福祉学会	日本地域福祉学会全国大会第 36 回 年次大会事務局 実行委員 (2020 年 6 月～2022 年 6 月迄)
3.	2014 年 7 月～現在に至る	日本ソーシャルワーク学会	正会員
4.	2012 年 5 月～現在に至る	日本学校ソーシャルワーク学 会	日本学校ソーシャルワーク学会全 国大会第 15 回熊本大会事務局 運営 委員 (2021 年 6 月～2021 年 8 月迄)

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.	2023.5	介護系 NPO における制 度外サービ ス開発のポ イントを探 る-過去調査 と 2 法人の 事例検討を 通じて-	共	地域ケアリング 5 月号 vol.25、 No.5	① 本論文は、本郷等による過去の介護 系 NPO における調査結果と 2022 (令和 4)年度に実施した制度外サービス に関するインタビュー調査結果を手が かりに、介護保険事業を実施する NPO 法人による制度外サービスの開発のポ イントを探りつつ、その課題について検 討した。 ② 共著者名 本郷 秀和、田中 将太、 <u>梶原 浩介</u> ③ 共同研究につき、本人担当部分抽出 不可能。
2.	2024.3	介護系 NPO における制 度外サービ スの開発プ ロセスに関 する研究-イ	共	日本の地域福 祉、37 巻	① 本論文は、介護保険事業と独自の制 度外サービス(特定非営利活動としての 生活支援)を実施している特定非営利活 動法人(以下、介護系 NPO)に着目する。 介護系 NPO が制度外サービスを拓くた めの共通的な開発プロセスを明らかに

		ンタビュー調査を通じた発想から実施直後までのプロセスの探求-			することを目的とし、九州・沖縄の介護系 NPO の 10 法人に対するインタビュー調査を実施した。M-GTA の結果、制度外サービスの着想から事業化の決定までの間には 7 段階、事業化の決定後から実施直後までには 6 段階の取り組みがあることがわかった。 ② 共著者名 本郷 秀和、<u>梶原 浩介</u> ③ 共同研究につき、本人担当部分抽出不可能。
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	地域包括ケアシステム推進下における介護系 NPO の役割	日本学術振興会	研究代表者(○本郷秀和)、分担研究者(鬼崎信好、村山浩一郎、松岡佐智、畑香理、田中将太、島崎剛)、 <u>梶原浩介</u>	4,420,000 円
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	地域共生社会の推進に伴う、制度の狭間の問題に対するソーシャルワーカーの	日本学術振興会	2,210,000 円	

	役割と技能			
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2014 年 11 月～現在に至る	熊本県精神保健福祉士協会 SSW 委員会	調査研究班
2.	2014 年 5 月～現在に至る	日本精神保健福祉士協会	会員
3.	2019 年 12 月～現在に至る	福岡県精神保健福祉士協会	実習指導委員会 (2021 年 4 月～現在に至る)
4.	2019 年 12 月～現在に至る	北九州地区精神保健福祉士協会	会員
5.	2019 年 12 月～現在に至る	北九州市民カレッジ企画運営委員	企画運営委員
6.	2021 年 4 月～現在に至る	北九州市福祉事業団 福祉サービス苦情解決体制・第三者合同委員会	専門委員
7.	2021 年 4 月～現在に至る	北九州市社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センター 運営委員会	運営委員
8.	2021 年 6 月～現在に至る	NPO 法人障害者支援要会 カフェ・ラポール	監事
9.	2021 年 7 月～現在に至る	北九州市発達支援センターつばさ・ケース検討会	アドバイザー
10.	2022 年 4 月～現在に至る	宮若市地域福祉計画策定委員会	委員長

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2019 年 4 月～現在に至る	学生アドバイザー	アドバイザー教員
2.	2020 年 4 月～現在に至る	地域連携室	室員
3.	2021 年 4 月～現在に至る	国際交流委員会	委員
4.	2021 年 4 月～2022 年 3 月迄	ハラスメント相談員	相談員
5.	2022 年 4 月～現在に至る	学生総合支援室	アドバイザー
6.	2022 年 4 月～2023 年 3 月迄	教職員懇談会	委員

准教授

通山 久仁子

■ 学歴

1. 2018 年 立教大学大学院コミュニティ福祉学研究科コミュニティ福祉学専攻（博士課程）単位取得満期退学

■ 学位

1. 2019 年 博士（コミュニティ福祉学）

■ 研究分野

1. 障害者福祉
2. 地域福祉

■ 研究キーワード

1. 障害者家族
2. 「親亡き後」
3. 当事者組織

■ 研究課題

1. 発達障害者家族を対象として、「親亡き後」の生活課題・生活支援ニーズを明らかにし、そのニーズに応じた支援体制を「障害当事者」および「親当事者」の「当事者」組織を主体として構築していくための具体的な方策について検討する。

■ 担当授業科目

1. ソーシャルワーク演習（後期）
2. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ（前期）
3. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ（後期）
4. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ（前期）
5. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ（後期）
6. ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（後期）
7. ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（通年）
8. 保健福祉学入門（前期）
9. 福祉入門（前期）
10. 福祉経営論（前期）
11. 就労支援サービス論（前期）
12. 障害者福祉（後期）
13. 専門研究Ⅰ（通年）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【ソーシャルワーク演習】 本演習は初年次の学生を対象とした演習科目であるが、面接技法やソーシャルワーク・グループワークの展開過程などのソーシャルワークの実践技術が多く含まれた科目である。グループワークに慣れていない初年次生を対象としているため、楽しみながらグループづくりをできるようなプログラムを取り入れた。また、わかりやすい事例を選定したうえで、基礎的な知識の確認を丁寧に行いながら演習を展開した。できる限り多くのグループワークやロールプレイを取り入れ、他者と意見を共有しながら、実践的にソーシャルワークのスキルを学べる機会を設けるようにした。またふり返りの課題を課し、その内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
2.	授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ】 本演習はソーシャルワークに関わる実践技術を学ぶ演習であるが、技術や技法だけでなく、「人権」などの福祉的価値・倫理を基盤に知識・技術を用いることができるようにプログラムを展開した。そして学生がソーシャルワークのスキルを体得し、実習などの実践現場で活かせるよう、繰り返しロールプレイを取り入れ、面接場面などをクラスで共有し、お互いにフィードバックし合いながら、学生が自身を客観的にふり返られるような機会を設けた。またふり返りの課題を課し、その内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
3.	授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ】 本演習はソーシャルワークに関わる実践技術を学ぶ演習であるが、技術や技法だけでなく、「人権」などの福祉的価値・倫理を基盤に知識・技術を用いることができるようにプログラムを展開した。そして学生がソーシャルワークのスキルを体得し、実習などの実践現場で活かせるよう、繰り返しロールプレイを取り入れ、面接場面などをクラスで共有し、お互いにフィードバックし合いながら、学生が自身を客観的にふり返られるような機会を設けた。またふり返りの課題を課し、その内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
4.	授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ】 本演習はソーシャルワーク実習と連動して開講される演習科目である。そのため、臨床現場で用いられる技術・技法に焦点化し、演習を展開した。中でも実習で学生が行うアセスメント・プランニングの視点の習得を目標に事例演習を行った。ただそれが技術のみの習得にとどまらないよう、その基盤にある福祉的価値・倫理を十分に説明する機会を設けるようにした。また、できる限りグループワークを取り入れ、他者と意見を共有しながら、考察を深めていく機会を設けるようにした。またふり返りの課題を課し、その内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
5.	授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ】 本演習はソーシャルワークの技術を学ぶ最後の演習であり、学生には馴染みの薄い、地域の組織化や福祉のまちづくりの視点を習得する演習科目である。まず学生が地域とは何かを理解できるよう、「まち歩き」などのプログラムを取り入れ、実践的に地域福祉の視点を学べるような機会を設けた。そして個別支援というミクロレベルのソーシャルワークから、地域というメゾレベルのソーシャルワークへと展開できるような視点が習得できる事例を教材として用いるようにした。今年度は「ごみ屋敷」の住民への訪問場面や「地域ケア会議」の場面などのロールプレイを多く取り入れ、また「障

	害児の親のサポートグループ」の運営、イベントの企画・運営、評価など、当事者へのアプローチや多職種との調整、地域向けの活動・事業の企画・運営を実践的に学べるプログラムを取り入れた。またふり返りの課題を課し、その内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
6.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅰ】 本科目は2年次の実習科目である。「障害者福祉」を履修中の学生を対象としているため、「障害者福祉」に関する基礎的な知識を学習できる機会を多く設けた。また車いすの使用法や、障害者施設で用いられている療法や支援方法を実践する機会を講義内で設けるとともに、実習の目的や実習に臨む姿勢について考える機会を設けるようにした。
7.	授業科目名【相談援助実習指導Ⅱ】 実習体験から自ら気づき、考察できる力を育成することを目標に実習指導を行った。事前学習では実習に臨む視点形成、自ら考察を深めることができるための基礎力を養うことに焦点化した。また後期実習前には、個別支援計画書の作成について指導時間を設けた。事後学習では、各実習生が担当した事例の検討会を行い、プレゼンテーションや会議の運営方法について学ぶ機会を設けるとともに、グループスーパービジョンなど、グループでの実習体験の共有を通して、体験を意味づけ、理解を深められるような機会を設けるようにした。
8.	授業科目名【保健福祉学入門】 本科目は保健福祉学部の7人の教員によるオムニバス形式の講義である。その中で「社会福祉学の研究」について1コマを担当した。対象が初年次生であり、他学科の学生も対象としているため、社会福祉とは何かという基本的な説明を行い、社会福祉分野での研究について、自身の大学・大学院での学びを実例としてあげ、大学で研究を行うことの意義をわかりやすく伝えられるように努めた。
9.	授業科目名【福祉入門】 本科目は4人の教員と各領域の実践者によるオムニバス形式の講義である。その中で「社会福祉の担い手」、「地域福祉」の2コマを担当した。初年次生に対して、福祉への興味関心を醸成することを目的とした科目であるため、福祉が必要とされている現状や、福祉に携わることのやりがいなどを中心に、できるだけ視覚教材などを用いて、わかりやすく伝えられるようにした。
10.	授業科目名【福祉経営論】 本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を展開し、国家試験に必要な知識を伝達するとともに、受験時にも復習できるような詳しいレジュメを作成した。そして学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。また国家試験の受験年度でもあるため、これまで学んだ基礎的な知識を復習する機会も設けた。 本科目は福祉経営という学生には馴染みづらいマクロな視点を必要とする科目であるため、新聞記事等を用いて時事的な問題を扱ったり、実習での体験と関連づけて理解できるようなアクティブラーニングのワークを取り入れるなどして、学生が身近にとらえて理解できるよう努めた。
11.	授業科目名【就労支援サービス論】 本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を展開し、国家試験に必要な知識を伝達するとともに、受験時にも復習できるような詳しいレジュメを作成した。そして学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。また視覚教材を用いたり、事例演習を取り入れたりしながら、就労支援のサービス内容を具体的に理解できる機会や、就労支援の展開過程を実践的に学べるような、アクティブラーニングの機会を設けた。

12.	授業科目名【障害者福祉】 本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を展開し、国家試験に必要な知識を伝達するとともに、学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。 本科目は、2年生を対象としており、社会福祉の基礎となる科目のひとつでもあるため、出生前診断に象徴される優生思想や、「親亡き後」問題に象徴される社会的排除や孤立の問題といった具体的な事象を取り上げながら、障害者福祉の理念や基本的な視点を伝えられるよう努めた。また障害者の実像についてできるだけ具体的にイメージできるよう、視覚教材を用いるようにした。そしてできるだけアクティブラーニングを取り入れ、学生が他の学生と意見を共有しながら学べる機会を設けるようにした。
13.	授業科目名【専門研究Ⅰ】 前期は学生の関心のある文献を取り上げ、文献の読み方を中心に、論文作成の方法についての学習を進めた。後期は学生の関心のあるテーマにしたがって、論文作成に向けた指導を行った。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2004 年～現在に至る	日本社会福祉学会	
2.	2005 年～現在に至る	日本発達障害学会	
3.	2009 年～現在に至る	障害学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
（学術論文）					
（翻訳）					
（学会発表）					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（１） 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
（２） 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
1.	発達障害者家族の「親亡き	日本学術振興会	1,820,000	

	後」の支援体制の構築に関する研究			
--	------------------	--	--	--

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2008 年 6 月～現在に至る	特定非営利活動法人 nest	理事
2.	2013 年 4 月～現在に至る	北九州市障害支援区分認定審査会	委員
3.	2020 年 4 月～現在に至る	北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会	専門委員
4.	2021 年 6 月～現在に至る	社会福祉法人喜久茂会評議員選任・解任委員	委員
5.	2023 年 6 月～現在に至る	社会福祉法人薫会	理事
6.	2023 年 9 月～2024 年 3 月	北九州市障害者自立支援協議会障害者地域生活支援研究会	委員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2017 年 4 月～現在に至る	保健福祉学研究所運営委員	運営委員
2.	2021 年 4 月～現在に至る	倫理審査委員	委員
3.	2022 年 7 月～現在に至る	外部資金導入促進プロジェクトチーム	委員

講師

金谷 めぐみ

■ 学歴

1. 日本大学大学院芸術学研究科博士後期課程

■ 学位

1. 修士（芸術学）

■ 研究分野

1. 声楽発声研究
2. 子どもの音楽
3. 教会音楽

■ 研究キーワード

1. 歌唱技術
2. 子どもの歌
3. 讃美歌

■ 研究課題

1. 歌唱における発声および技術の習得について W.A.モーツァルトの声楽作品から検討する。
2. 子どもの音楽表現活動の指導法について検討する。
3. キリスト教音楽の歴史と讃美歌について文献的考察を行う。

■ 担当授業科目

1. キリスト教と西南女学院のあゆみ（前期1回）（保健福祉学部,人文学部）必修
2. キリスト教文化（後期2回）（保健福祉学部,人文学部）選択
3. 初年次セミナーⅠ（前期）（福祉学科）必修
4. 初年次セミナーⅡ（後期）（福祉学科）必修
5. 保育実習指導Ⅰ（通年）（福祉学科）選択必修
6. 保育実習指導Ⅱ（通年）（福祉学科）選択必修
7. 保育実習Ⅰ（通年）（福祉学科）選択必修
8. 保育実習Ⅱ（通年）（福祉学科）選択必修
9. 保育内容・表現（前期）（福祉学科）選択必修
10. 保育内容の理解と方法Ⅰ（前期）選択必修
11. 保育内容の理解と方法Ⅱ（後期）（福祉学科）選択必修
12. 保育実践演習（通年）（福祉学科）選択必修
13. 専門研究Ⅰ（通年）（福祉学科）必修
14. 専門研究Ⅱ（通年）（福祉学科）必修

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【キリスト教と西南女学院のあゆみ】 キリスト教音楽の歴史を概観し、日本における讃美歌集の編纂過程について解説した。キリスト教教育を柱とする本学において讃美歌を歌う意義について解説し、西南女学院ゆかりの讃美歌を紹介した。
2.	授業科目名【キリスト教と文化】 教会音楽の成り立ちについて解説した。教会暦について解説し、1回目は待降節および降誕節に関連する音楽について、2回目は復活祭について解説を行った。クリスマスおよびイースターの音楽を紹介し、受講者で合唱することでキリスト教音楽に親しむ機会を設けた。
3.	授業科目名【初年次セミナーⅠ】 初年次セミナーⅠでは、大学と高校の学びの違いについて説明し、学生自らが積極的に課題を探究していくために、スタディ・スキルズ『聞く』『調べる』『読む』『書く』『考える』の強化を図った。具体的には、講義の聴き方、ノートの取り方、本の読み方、レポートの書き方、より深い学びを得るための文献検索の演習を行うことで、大学で主体的に学ぶ技法の習得を目指した。
4.	授業科目名【初年次セミナーⅡ】 基礎的な知識の上に、着想力、論理性、表現力、独創性などの力を獲得するために自らが積極的に課題を探究していく課題を設定し、学びの質を高めた。初年次セミナーⅠのスタディ・スキルズを強化および発展させ、物事を多面的・多角的に捉えて思考し、それらの考えを伝える力を身につけるための演習を行った。
5.	授業科目名【保育実習指導Ⅰ】 保育実習指導Ⅰでは、保育実習の事前から事後において必要とされる知識、技能の内容について取り扱う。実習生としての姿勢・心構え、実習先施設の機能・役割、子どもを理解する視点等、各自の実習課題を明確にすることで事前学習を深める。また、実習に必要な書類作成において個別指導を行うことで、日誌および計画書等の書き方を学べるよう工夫を行った。実習後は個別面談により実習の振り返りを行い、実習での学びを整理し、実習報告会にて発表することで、実習における各自の自己課題を明確化させた。
6.	授業科目名【保育実習指導Ⅱ】 保育所の機能・役割、子どもを理解する視点、保育士に求められる知識と技術について実習Ⅰを振り返り、自己の課題を確認し、事前学習を深め、新たに各自の実習課題を明確化した。実習に必要な書類の作成においては、個別指導を取り入れることで、理解を深める工夫を行った。実習後は個別面接により実習の振り返りを行い、報告会で発表することで実習での学びを整理する機会を設けた。
7.	授業科目名【保育実習Ⅰ】 保育実習指導Ⅰと一体的に構成される実習について指導・教授を行った。実習期間中の巡回指導では個別面談を行うと共に、実習先の指導者との連携・強化を図った。また、設定保育を行う学生には指導案作成について適宜指導を行った。さらに実習後は実践現場での体験を通して理解した内容を自分の言葉で説明できるよう、報告会の資料作成について指導を行った。

8.	授業科目名【保育実習Ⅱ】 保育士として必要な資質・能力・技術を習得し、保育実践を円滑に行うことができるよう、実習オリエンテーション、実習関連書類の作成について個別指導を行った。実習では、学生が実習生として家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を身につけるとともに、子育てを支援するために必要とされる能力について、自身の言葉で説明できるよう、ディスカッションを行った。また、他科目の教員との連携を図るよう心掛けた。
9.	授業科目名【保育内容 表現】 乳幼児の「表現」について他の領域と関連付けながら解説することで、特定の表現活動だけでなく、日常の総合的な子どもの表現について考察する視点を持てるよう工夫を行った。また、保育者自身の「表現」に係わる知識・技能習得ための演習を段階的に行い、自分自身を解放して表現する楽しさを共有することで、保育における指導のありかたを模索する機会を設けた。乳幼児の「表現」を導くための指導案を作成し発表を行うことで、子どもの表現への理解を深めた。
10.	授業科目名【保育内容の理解と方法Ⅰ】 保育内容の理解と方法Ⅰでは、保育士として求められる基礎技能において、声の使い方について解説することで話声および歌声等について意識しながら声を使い分けることができるよう、演習内容の工夫を行った。また、ピアノ演奏の基礎に関する実技指導ピアノ実技指導に関しては、学生のピアノの演奏技能の程度によってグループ別および個別に授業を行うことで、丁寧な指導を行った。
11.	授業科目名【保育内容の理解と方法Ⅱ】 保育士の現場で活用できる音楽の基礎技能について解説し、ピアノの演奏技術を高め、弾き歌いや伴奏法について指導した。前期の「保育内容の理解と方法Ⅰ」を引き継ぎ、グループ別および個別に授業を行い、一人ひとりに適した指導を行った。また、歌唱においてはわらべ歌など子どもの遊び歌に即興的な身体表現を取り入れた発声を行い、自然な発声ができるよう指導した。また合唱を通して声を合わせる楽しさを感じることができる演習を行い、音楽を用いた幅広い活動を行った。
12.	授業科目名【保育実践演習】 子どもの身体的表現、音楽的表現、身体的表現を十分に引き出すための技術について解説し、子どもの様々な動きや表現力を引き出す具体的な方法について検討させた。表現活動を実施するため技能における自己の課題を設定し、授業期間全体を通して各自課題に取り組み、発表することで個人の音楽の能力を向上させることができた。また、様々な演習に表現活動を組み入れることで、様々な場面における表現活動の計画・立案・実践などの総合的な力を養うよう心掛けた。
13.	授業科目名【専門研究Ⅰ】 学生の興味・関心について議論し、学生が設定したテーマに沿って文献検索などの調査レポートの作成方法を指導した。また、充実した学びの確保のため、学生生活全般にわたってサポートを行った。
14.	授業科目名【専門研究Ⅱ】 学生が設定したテーマに沿って、レポート作成の指導を行った。また、充実した学びの確保のため、学生生活全般にわたってサポートを行った。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2009 年 12 月～現在に至る	日本演奏連盟	
2.	2012 年 10 月～現在に至る	日本保育学会	
3.	2013 年～現在に至る	日本声楽発声学会	
4.	2018 年 3 月～現在に至る	日本音楽療法学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.				
2.				
3.				

（2） 個 人 研 究

	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2006 年～現在に至る	荏田キリスト教会	役員・奏楽者
2.	2011 年 4 月～現在に至る	国立音楽大学同調会北九州支部	副支部長
3.	2018 年 6 月～現在に至る	ふたば保育園	リトミック講師

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	懇親会委員会	
2.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	宗教委員会	
3.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	キリスト教センター運営委員会	運営委員
4.	2023 年 4 月～2025 年 3 月	キリスト教センター	音楽主事
5.	2019 年 4 月～現在に至る	クールベルフィーユ	顧問
6.	2019 年 4 月～現在に至る	ハンドベル部	顧問
7.	2023 年 4 月 20 日	聖書学課 奏楽	
8.	2023 年 9 月 20 日	西南女学院中学高等学校 讃美歌コンクール	審査委員
9.	2023 年 4 月, 2024 年 3 月	入学式・卒業式 特別賛美	
10.	2023 年 8 月 22 日.23 日	全国保育士養成協議会 実習指導者認定講習受講修了	

講師

杉本 有紗

■ 学歴

1. 2006 年 九州大学大学院人間環境学府人間共生システム専攻心理臨床学コース博士後期課程 単位取得満期退学

■ 学位

1. 2003 年 修士（人間環境学）

■ 研究分野

1. 心理学
2. 臨床心理学
3. 発達心理学

■ 研究キーワード

1. 認知症高齢者
2. 集団心理療法（心理劇）
3. 動作法
4. 対人援助職者の支援
- 5.

■ 研究課題

1. 施設入所認知症高齢者に対する対人交流を用いた心理的支援
2. 心理劇的ロールプレイングを用いた対人援助職者の自己理解・他者理解を促す研修のあり方
3. 児童養護施設職員のストレスの理解と支援

■ 担当授業科目

1. 初年次セミナーⅠ（前期）（福祉学科） 必修
2. ヒューマンサービス基礎演習（前期）（福祉学科） 必修
3. 心理学と心理的支援Ⅰ（前期）（福祉学科） 選択
4. 発達心理学Ⅱ（前期）（福祉学科） 選択
5. カウンセリング論（前期）（福祉学科） 選択
6. カウンセリング演習（前期）（福祉学科） 選択
7. 発達臨床心理学演習（前期）（福祉学科） 選択
8. 高齢者支援学Ⅰ（前期・集中）（看護学科・福祉学科・栄養学科） 選択
9. 高齢者支援学Ⅱ（前期・集中）（看護学科・福祉学科・栄養学科） 選択
10. 初年次セミナーⅡ（後期）（福祉学科） 必修
11. 心理学と心理的支援Ⅱ（後期）（福祉学科） 選択

12. 発達心理学Ⅰ（後期）（福祉学科） 選択
13. 社会心理学（後期）（福祉学科） 選択
14. 高齢者臨床心理演習（後期）（福祉学科） 選択
15. 子ども家庭支援の心理学（後期）（福祉学科） 選択
16. 専門研究Ⅰ（通年）（福祉学科） 必修
17. 専門研究Ⅱ（通年）（福祉学科） 必修
18. 卒業論文（通年）（福祉学科） 選択
19. 母子の心理・社会学（前期・集中）（助産別科） 必修 * 1コマのみ

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【初年次セミナーⅠ】 本演習では、大学生として必要なアカデミック・スキルのアップを目指した。 2023年度は16名前後のグループを1グループあたり4回、全3グループを担当した。 心理学の雑誌記事を題材に、課題図書の講読、批判的読解、レポートの書き方についてスモールステップで課題を課した。グループワークを取り入れ、学び合う姿勢が育まれるよう心掛けた。
2.	授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習】 本演習では、ヒューマンサービスの専門家として基礎的に必要とされるスキルの育成を目指した。 2023年度は15名前後のグループを1グループあたり15回、全2グループを担当した。 参加型・体験型の演習プログラム（グループワーク）を中心とした授業を行った。毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況を把握し、フィードバックを行った。
3.	授業科目名【心理学と心理的支援Ⅰ】 本講義では、心理学、心理的支援についての基本的知識の習得を目指した。 主に、心理学の研究法、発達心理学、人格心理学、臨床心理学、心理療法の基礎的知識について解説した。配布プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。 毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。
4.	授業科目名【発達心理学Ⅱ】 2023年度は履修希望者が5名以下であったため、開講しなかった。
5.	授業科目名【カウンセリング論】 本講義では、カウンセリングの理論、進め方と技法についての基本的知識の習得を目指した。 カウンセリングの理論、カウンセリングの基本的な進め方と基礎的な技法について解説を行った。 予習でテキストを読むことを奨励し、授業での質問を促した。また、配布プリントにて詳細を示し、模擬事例の一部やワークシートを利用し、学生の理解が進むように努めた。毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。
6.	授業科目名【カウンセリング演習】 2023年度は履修希望者が5名以下であったため、開講しなかった。
7.	授業科目名【発達臨床心理学演習】 2023年度は履修希望者が5名以下であったため、開講しなかった。
8.	授業科目名【高齢者支援学Ⅰ】

	本講義は、看護、福祉、栄養の3学科6教員により、看護、福祉、栄養の3学科の学生を対象に、アクティブシニアが活動的に生活し続けるための支援方法について、解説と実技指導を行うものである。講義では、高齢者の心理的発達、高齢者の社会参加とその臨床心理学的意義についての解説を担当した。アイスブレイクを行い、3学科の学生合同のグループでのPBL（問題解決型学習）が円滑に進むよう促した。
9.	授業科目名【高齢者支援学Ⅱ】 本年度は、履修希望者が5名以下であったため、開講しなかった。
10.	授業科目名【初年次セミナーⅡ】 本演習では、大学生として必要なアカデミック・スキルのアップを目指した。2023年度は15名前後のグループを1グループあたり6回、全2グループを担当した。心理学研究の研究論文を課題図書とし、課題図書の講読、批判的読解、レポートの書き方についてスモールステップで課題を課した。グループワークを行い、学び合う姿勢が育まれるよう心掛けた。
11.	授業科目名【心理学と心理的支援Ⅱ】 本講義では、心理学、心理的支援についての基本的知識の習得を目指した。主に、学習心理学、認知心理学、社会心理学等の基礎的知識について解説を行った。プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。
12.	授業科目名【発達心理学Ⅰ】 本講義では、発達心理学、特に人生前半の心理についての基本的知識の習得を目指した。主に、胎児期から学齢期までの生涯発達心理学について、特に乳幼児期の心身の発達や様々な理論を中心として解説を行った。テキストを基本に進め、必要な情報は適宜補った。また、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。
13.	授業科目名【社会心理学】 本講義では、社会心理学についての基本的知識の習得を目指した。社会心理学の理論や著名な研究、概論について解説を行った。テキストを基本に進め、必要な情報は適宜補った。また、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。小レポートでは、授業で紹介した理論が日常生活ではどのような形で現れるかを考えて例示するよう促した。授業のはじめに、前回の授業のキーワードとその意味、小レポートで提出された例について共有し、学生の知識の定着が進むよう心がけた。
14.	授業科目名【高齢者臨床心理演習】 本演習では、高齢者臨床におけるアセスメント及び心理面接の基本的な知識と技術の修得を目指した。臨床場面における高齢者の心理について考えながら、アセスメントの手順、アセスメントの際の配慮についてロールプレイとグループワーク、ディスカッションを行った。また、認知症高齢者の心理について文献を通して理解した上で、心理療法の目的、手順、具体的配慮、その効果について、グループワークによる事例検討とロールプレイを通して理解を促した。
15.	授業科目名【子ども家庭支援の心理学】 本講義では、子ども家庭支援に必要な心理学の基本的な知識の習得を目指した。主に、生涯発達心理学、家族・家庭の機能や構造、支援を必要とする家庭についての講義、解説を行った。テキストを基本に進め、必要な情報は適宜補った。また、ワークシートにてポイントをつかめ

	るように工夫した。学生同士で話し合うことで理解を深めるような機会も適宜取り入れた。毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。
16.	授業科目名【専門研究Ⅰ】 受講する学生の興味関心のある専門書や論文を持ち寄り、文献講読を行った。 また、人間科学についての研究法を解説し、研究テーマの設定について議論を深めた。少人数のクラスであり、積極的に意見交換を行った。学生が意見を出しやすい雰囲気づくりに努めた。
17.	授業科目名【専門研究Ⅱ】 受講する学生の興味関心のある専門書や論文を持ち寄り、文献講読を行った。 また、研究テーマの設定について、学生の興味関心を絞り込んだり、具体的な実施可能性を吟味し、議論を深めた。研究レポートを自らの力で進めていくことができるよう、学生が主体的に課題を見出し取り組む、必要に応じて教員に相談できる環境づくりに努めた。
18.	授業科目名【卒業論文】 本年度は、受講する学生は0名であった。
19.	授業科目名【母子の心理・社会学】 本講義では、第1回テーマ「ライフサイクルの心理的特性と発達課題」について解説を行った。 発達心理学の理論と母子を取り巻く課題について取り上げた。プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2001年4月～現在に至る	日本心理臨床学会	会員
2.	2001年4月～現在に至る	日本臨床心理劇学会	監事（2012年4月～現在に至る）
3.	2002年4月～現在に至る	日本リハビリテーション心理学会	会員
4.	2004年4月～現在に至る	日本臨床心理士会	会員
5.	2004年4月～現在に至る	福岡県臨床心理士会	会員
6.	2007年4月～現在に至る	日本発達心理学会	会員
7.	2008年4月～現在に至る	日本心理学会	会員
8.	2022年4月～現在に至る	九州臨床心理学会	北九州地区委員(2022年4月～現在に至る)

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					

3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2024. 2	社会的養護における自立支援の取り組みー自立を支えるための心理支援ー	共	第 51 回九州臨床心理学会佐賀大会（於 アバンセ）	①社会的養護における自立支援の取り組みとして児童相談所が主体となって実施した、アンケート等調査、心理劇、ライフストーリーワークについて報告した。特に、心理劇という方法を用いて監督者として心理支援を実施した立場として、実施上の配慮と課題について報告した。 ②共同発表者：永淵悦子（大分県中津児童相談所）、大塚智史（大分県中津児童相談所）、安倍芽以（大分県中津児童相談所）、杉本有紗 ③九州臨床心理学会第 51 回佐賀大会プログラム・抄録集（p22）
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2008 年 4 月～現在に至る	九州大学大学院人間環境学府付 属総合臨床心理センター	研究員
2.	2016 年 4 月～現在に至る	大分県中津児童相談所（発達相 談・心理判定）	非常勤心理判定員
3.	2021 年 4 月～現在に至る	大分県中津児童相談所（保護者 等カウンセリング事業）	サイコロジカルスーパーバイザ ー
4.	2023 年 8 月～12 月	大分県中津児童相談所（施設支 援専門事業）	講師（職員向け研修会 1 回、児童 向けグループワーク全 5 回）
5.	2023 年 6 月～現在に至る	別府大学臨床心理相談室（心理 面接・心理査定・実習指導）	面接臨床指導員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～現在に至る	キャンパス・ハラスメント防止 委員会	委員
2.	2023 年 4 月～現在に至る	懇親会委員会	委員
3.	2023 年 4 月～現在に至る	附属シオン山幼稚園・発達相談	発達相談員

講師

中川 美幸

■ 学歴

1. 2020 年 福岡県立大学 修士課程卒業

■ 学位

1. 2020 年 修士（社会福祉学）

■ 研究分野

1. 医療分野のソーシャルワーク
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 意思決定支援
2. 退院支援
3. 多職種連携

■ 研究課題

1. 診療報酬上で在宅に退院することに点数がついている今日、医療ソーシャルワーカーは果たして現場で、クライアントの意向を丁寧に確認した退院支援を行うことができているのか。退院先（療養先）を決めることで、退院支援になっていないか。現場の現状を明らかにし、クライアントの望む暮らしを聴くために役立つ技法などについて考察する。

■ 担当授業科目

1. ソーシャルワークの理論と方法（専門）（通年）（福祉学科）
2. ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（通年）（福祉学科）
3. ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（通年）（福祉学科）
4. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ（前期）（福祉学科）
5. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ（後期）（福祉学科）
6. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ（前期）（福祉学科）
7. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ（後期）（福祉学科）
8. ソーシャルワーク演習（後期）（福祉学科）
9. 福祉入門（前期）（福祉学科）
10. 保健福祉学入門（前期）（看護・福祉・栄養学科）
11. 専門研究Ⅰ（通年）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【ソーシャルワークの理論と方法（専門）】 ソーシャルワークの実践を行う上で問題を抱えた人々を「人と環境の相互作用」と理解する視点を学べるよう努めた。また実践モデルとアプローチ等といった問題解決を図るための基盤となる理論を通して、社会福祉の専門職としての心構え、態度などをイメージできるように、現場での事例を用いて理解を深められるよう工夫した。
2.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅰ】 医療ソーシャルワーカーの役割と病院機能など、実習で必要となる基礎知識を中心に実施。また、動画の活用や、現場の経験などを伝えることで、医療ソーシャルワーカーについての理解が深まるよう工夫した。また、実習終了後の振り返りでは、現状と課題を整理し、3年時の実習につながるよう努めた。
3.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅱ】 実習前にはグループごとに病院機能などについて、調べ学習をし、全体で共有することで実習に必要な知識が定着するよう努めた。また、ロールプレイを行ったり、医療ソーシャルワーカーの業務指針や倫理綱領について学ぶ時間を取り、より具体的に医療ソーシャルワーカーの業務を理解し、実習に臨めるよう工夫を行った。実習後の振り返りを一人ずつ発表し、全員で共有することで実習報告会の準備を全員で行えるよう努めた。
4.	授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ】 事例を個人ワークで考えた後にグループディスカッションを行うことで、より深くソーシャルワークの視点や価値観、倫理観などを学べるよう努めた。また、アセスメントでは、問題点にのみ目を向けるのではなく、本人の持っているリソースにも目を向けるよう努めた。ロールプレイも積極的に取り入れ、実習や現場でも活かせるよう配慮した。加えてロールプレイでは、クライアント体験から専門職の態度や価値観、倫理観についても考えられるような演習を行った。
5.	授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ】 地域に関する事例を個人ワークで考えた後にグループディスカッションを行うことで、より深くソーシャルワークの視点や価値観、倫理観などを学べるよう努めた。地域の課題のみならず、強みにも目が行くよう努めた。実際に地域を歩き、使わなくなった産婦人科をリノベーションし、新しい地域拠点の場所として利用している場面を見学し、体感することで学ぶ工夫も行った。
6.	授業科目名【ソーシャルワーク演習】 まずは知識を楽しみながら学ぶため、絵本など身近な物を使いながら演習に慣れてもらうよう工夫した。事例の検討では、個人ワーク後にグループワークを行い、まずは自分の考えをまとめ、人に伝えることができるよう行った。他の授業で習得した知識が演習とリンクできるように、現場での体験も交えながら、わかりやすい言葉を使うよう心掛けた。
7.	授業科目名【福祉入門】 医療ソーシャルワーカーが病院でどのような実践を展開しているのかを現場の状況交えながら伝え、学生の医療ソーシャルワーカーへの関心を高めることができるよう工夫した。

8.	授業科目名【保健福祉学入門】 医療機関における多職種連携や協働について、現場の状況交えながら伝え、学生の医療ソーシャルワーカーへの関心を高めることができるよう工夫した。
9.	授業科目名【専門研究Ⅰ】 学生の興味のあるテーマを中心にディスカッションを行った。自分の考えをまとめる力をつけることができるよう、必要に応じ参考文献なども示した。また、実際の現場を見学し、学生が現場を体感できるよう工夫した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1990年7月～	福岡県医療ソーシャルワーカー協会	理事（2010年～2022年6月迄） 副会長（2014年～2022年6月迄）
2.	2010年4月～	日本医療ソーシャルワーク学会	理事（2010年度～現在に至る） 事務局長（2015年～2020年5月迄） 会長（2020年6月～現在に至る）
3.	2017年4月～	日本医療・病院管理学会	
4.	2019年4月～	日本社会福祉学会	
5.	2022年10月～	日本医療ソーシャルワーク協会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
1.	2023年4月	「医療福祉総合ガイドブック 2023年度版」	共著	医学書院	① 本書は、新人の医療ソーシャルワーカーや医療ソーシャルワーカーを目指す学生、医療・福祉従事者、福祉サービスを利用する当事者や家族向けに作成したガイドブック。 ② 編集者名：村上須賀子、佐々木哲二郎、大垣京子、中川美幸、他8名 ③ 担当部分 第2章医療に関する諸制度（P47～P82）

2.					
3.					
(学術論文)					
1.	2024年3月	ドイツの女性運動と社会的職業の誕生	単著	NPO 法人かごしま福祉開発研究所『福祉開発研究』(第7号)	① 19世紀から20世紀初頭のドイツにおける女性運動と社会的職業について述べる。1848年の3月革命以降、女性運動は「全ドイツ女性協会」を通じて拡大し、女性の雇用機会や権利保障に影響を与えた。特に「ドイツ女性団体連合」穏健派の取り組みを通じて、女性は福祉や教育分野での進出を果たした。1901年には女性の大学進学が許可され、様々な分野で活躍する道が開かれる。このような状況から考えると、少なからずとも母性が女性の社会進出を後押しし、ドイツ社会における女性の地位向上に貢献したといえる。 ② P11
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究

	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2022 年 6 月 1 日～現在に至る	北九州市精神保健福祉審議会	委員
2.	2020 年 6 月～現在に至る	日本医療ソーシャルワーク学会	会長
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～現在に至る	就職委員会	
2.	2023 年 4 月～現在に至る	キャンパスハラスメント委員会	
3.			

講師

西丸 月美

■ 学歴

1. 熊本大学 修士課程 卒業

■ 学位

1. 2010 年 修士（教育学）

■ 研究分野

1. 学校保健学
2. 健康教育学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 専門性
2. 養護教諭
3. 不登校・多職種連携

■ 研究課題

1. 養護教諭の専門性について、歴史的背景をもとに連携を中心に考察する。具体的には、不登校・教室外登校の児童生徒に対する支援において、養護教諭と多職種連携について考察する。さらに現在の養護教諭の多職種連携に関する課題等について考察する。
- 2.

■ 担当授業科目

1. 地域保健学Ⅱ（前期）（福祉学科）選択
2. 学校保健（前期）（福祉学科）選択
3. 学校保健教育法（後期）（福祉学科）選択
4. 養護概説（後期）（福祉学科）選択
5. 教職実践演習（後期）（福祉学科）選択
6. 養護実習（通年）（福祉学科）選択
7. 2020 入学養護実習事前事後指導（三期にわたる）（福祉学科）選択
8. 2021 入学養護実習事前事後指導（三期にわたる）（福祉学科）選択
9. 専門研究Ⅰ（通年）（福祉学科）選択
10. 専門研究Ⅱ（通年）（福祉学科）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【地域保健学Ⅱ】 本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習（病院実習）、養護実習の履修要件を満たすための科目である。現代社会における心身の問題と医療の動向について学び、養護教諭としての健康相談の具体的な方法・技術および子どもの健康問題の解決支援及び連携の方法を解説した。また、将来、養護教諭として健康相談の実践ができるように、グループワーク（ロールプレイなど）も取り入れておこなう。授業では、地域保健学Ⅰで学んだ知識を基礎に、できるだけ具体例を示し、グループワーク、ロールプレイ等を取り入れ、関心を高めるように心がけた。また、養護実習での経験したことを事例として、事例検討会を行った。
2.	授業科目名【学校保健】 学校保健は、学校において児童生徒や教職員の健康を保持増進し、心身ともに健康な国民の育成を図るという教育目的に寄与することを目指す科目である。 本講義では学校における保健管理、保健教育、組織活動について主に解説し、養護教諭として理解しておく必要のある事項について、基本的内容について中心的に授業を行った。また健康課題の解決に向けた実践事例を取り入れ、養護教諭としての具体的なイメージができるように事例検討、演習などグループワークを取り入れ授業を行った。さらに児童生徒の健康課題について各自テーマを設定し、プレゼンテーションを作成し、自己評価及び他者評価を行い、実践力の向上に努めた。
3.	授業科目名【学校保健教育法】 学校における保健教育の意義及び学習指導要領の改訂の基本方針等について概説し、小・中・高等学校・特別支援学校における保健教育の位置づけ、目標・方針・内容等について講義を行った。児童生徒等の発達段階に応じた授業成立の要件を学び、指導計画、指導内容、指導方法、指導案の作成、教材研究、評価法について習得する。小・中・高等学校及び特別支援学校における保健教育の授業を展開できる能力を養うことを目指す。 授業では、保健教育の理論について学び、学習指導要領に基づき指導案を作成した。授業において一人ひとりが、保健教育の指導案、教材を作成し、10分間の保健教育を行った。 模擬授業について、全員で参観し、自己評価・他者評価を行いグループでディスカッションを行った。教育実習で模擬授業を行うための事前準備の段階ととらえ、実践力をつけることができるように工夫した。
4.	授業科目名【養護概説】 学校保健の教授内容を踏まえ、養護教諭の専門性に基づいた養護活動の基本について講義を行った。主な講義内容は、児童生徒等の発達過程や子どもの特性を踏まえた保健室機能と養護教諭の役割、児童生徒等の健康診断、学校感染症予防、疾病管理、学校安全と危機管理、学校救急処置、保健教育、健康相談などである。 授業では、養護教諭の具体的な活動例を提示し、グループワーク演習を行った。また、養護教諭としての実務経験を踏まえ、実際の健康診断がイメージできるように具体的に解説した。特に保健室経営についての講義では、グループでディスカッションを行い、「私たちの理想とする保健室のレイアウト」、「保健室の掲示物」を作成し、グループごとに発表を行った。将来養護教諭として期待が持てるように授業内容を工夫した。
5.	授業科目名【教職実践演習】

	この授業は、これまでの教職課程での学習及び養護実習を振り返りながら、養護教諭としての使命感、保護者や地域への責任、信頼される学校づくり等の課題について考える機会となることを意図している。また、児童生徒等の理解の方法や専門性を高めるためのリソース活用など、各演習テーマについて、グループ学習や討議・発表といった演習形式で学習し、養護教諭の実践的技能と資質・能力の向上を目指す。 養護実習での課題をグループごとにディスカッションをおこない、課題解決に向けてグループワークを行った。また、養護教諭と多職種連携について具体的な事例を通して演習をおこない、学校現場における実践的な力を身につけるために授業の構造を工夫した。多職種との連携するための実践力を高めるために、グループワークを多く取り入れた。さらに、養護教諭として「特別支援学校・特別支援教育における役割」、「性教育における養護教諭の実践」について外部講師を招き、実践力を高めるための工夫を行った。
6.	授業科目名【養護実習】 養護実習を通して養護教諭として必要な態度を養い、学校保健の推進と実践力を培うことを意図している。小・中・高等学校において3週間の養護実習を体験する。実習内容は実習校の実状に応じて計画する。養護教諭の職務内容については実習校の重点的な保健活動あるいは実習期間中の行事等を考慮する。但し実習機会のない項目についても可能な限り講話や資料で学習し、実習校における保健活動全体の概要を把握できる養護実習にできるように事前、事後の指導を行った。教職課程担当者が、実習期間中に実習校に実習訪問に出向き、学生の実習の様子を把握し、実習の事後指導に生かした。本年度は後期に実習となる学生も数名いたが、全ての学生が実習を終了し実習報告会を実施した。
7.	授業科目名【2020 入学養護実習事前事後指導】 養護実習に臨むための準備を整え心構えをするとともに、実習後の整理を追求的におこなう機会となることを意図している。実習前は実習校での学校教育活動と学校経営・運営に参加するにあたって必要となる知識及び技術を身につけることを目指す。実習後は体験を通して修得した事項や課題について学生相互に意見交換させることにより自省的整理や定着化を図ることができよう講義を行った。養護実習の事前指導として実習前にオリエンテーションを行い、人権学習・現職養護教諭の講話などを実施した。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、健康診断等が予定通り実施されない学校もあったが、臨機応変に対応できるように具体的な事前指導を心がけた。養護実習後にはグループごとに養護実習についてまとめ、報告会を実施した。
8.	授業科目名【2021 入学養護実習事前事後指導】 養護実習に臨むための準備を整え心構えをするとともに、実習後の整理を追求的におこなう機会となることを意図している。実習前は実習校での学校教育活動と学校経営・運営に参加するにあたって必要となる知識及び技術を身につけることを目指す。養護実習の事前準備として、健康診断、保健室経営、保健教育啓発活動（保健だよりの作成）などを実施した。グループワークを取り入れ、実際の実習が体験できるような工夫を行った。
9.	授業科目名【専門研究Ⅰ】 専門研究Ⅰでは、テーマを設定し、先行研究等の文献の中から興味のある文献について提示し、グループでディスカッションを行った。さらに、各自が興味のあるテーマを設定し、研究ができるように指導を行った。 また、教員採用試験について各自が過去問題を持ちより情報交換を行い、問題のポイントを解説

	し、理解が深まるように授業内容を工夫した。さらに、保健室経営や救急処置について学び、より実践的な学習ができるようグループワークを取り入れるなどの工夫を行った。さらに養護教諭としての実践力を高めるために、学校現場で養護教諭として活躍する卒業生の保健室を訪問し、保健室経営や児童生徒への対応について学びを深めた。
10.	授業科目名【専門研究Ⅱ】 専門研究Ⅱでは、専門研究Ⅰでの研究をさらに深めるために、各自がテーマを設定し、プレゼンテーションを行った。養護教諭の視点から専門性を深め、少人数でのグループワークを通して、コミュニケーション能力や表現力の養成も工夫した。また、2年間のまとめとして研究レポートを作成し、研究のまとめをおこなった。 さらに養護教諭としての実践力を高めるために、学校現場で養護教諭として活躍する卒業生の保健室を訪問し、保健室経営や児童生徒への対応について学びを深めた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2009 年 4 月～現在に至る	日本学校保健学会	学会員
2.	2009 年 9 月～現在に至る	日本教育心理学	学会員
3.	2009 年 6 月～現在に至る	日本教育保健学会	学会員
4.	2010 年 6 月～現在に至る	日本人間性心理学会	学会員
5.	2014 年 8 月～現在に至る	日本教育カウンセラー学会	学会員
6.	2015 年 1 月～現在に至る	日本学校心理士会学会	学会員
7.	2015 年 1 月～現在に至る	日本アロマコーディネーター協会	協会員
8.	2016 年 2 月～現在に至る	日本産業カウンセラー協会	協会員
9.	2015 年 4 月～2016 年 3 月	日本養護教諭教育学会 第 23 回学術集会 熊本大会	事務局 実行委員
10.	2022 年 4 月～2023 年 3 月	日本養護教諭教育学会 第 28 回学術集会 熊本大会	事務局 実行委員

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の 名称	単 著・ 共著 の別	発行所、発表雑 誌等又は発表 学会等の名称	概 要
（著書）					
1.					

2.					
3.					
(学術論文)					
1.	2024.3	「教職実践演習」における多職種連携に関する学生意識の変化	単	西南女学院大学紀要 Vol.28	①「教職実践演習」において、養護教諭を目指す学生が、養護教諭の他職種と連携する際に必要な視点や具体的場面がイメージでき、さらに具体的な多職種連携の姿を理解するための方法として事例検討を教職実践演習に取り入れた教育実践を行った。本研究の目的は、受講生に対して受講前後に実施した、多職種連携の能力に関する調査データを量的に分析し、授業の教育効果を検討した。 ②単著 西丸月美 ③ (P39～P46)
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)	
1.					
2.					
3.					

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額	備考

			(単位：円)	
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2017 年～現在に至る	日本養護教諭養成大学	評議委員
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2017 年 4 月～現在に至る	教職課程委員会	委員
2.	2020 年 4 月～2023 年 3 月 31 日	学生相談：キャンパスハラスメント	相談員
3.	2019 年 4 月～2022 年 3 月 31 日	教員免許状更新講習	プロジェクトリーダー
4.	2017 年 4 月～2022 年 3 月 31 日	教員免許状更新講習	講師

講師

文屋 典子

■ 学歴

1. 1994年3月 関西学院大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻博士課程前期課程修了

■ 学位

1. 修士（社会学）

■ 研究分野

1. 社会福祉学
2. ソーシャルワーク方法論
- 3.

■ 研究キーワード

1. 子ども家庭支援
2. ファミリーソーシャルワーク
- 3.

■ 研究課題

1. 子ども家庭支援における社会構成主義的アプローチの可能性
- 2.

■ 担当授業科目

1. ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ
2. ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ
3. 児童・家庭福祉
4. 子ども家庭支援論
5. ファミリーソーシャルワーク論
6. ソーシャルワーク演習
7. ソーシャルワーク実習Ⅰ
8. ソーシャルワーク実習指導Ⅰ
9. ソーシャルワーク実習Ⅱ
10. ソーシャルワーク実習指導Ⅱ
11. 保育実習Ⅲ
12. 保育実習指導Ⅲ
13. 専門研究Ⅰ
14. 専門研究Ⅱ

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ】 ミクロ・メゾ・マクロ領域におけるソーシャルワーク実践と実践プロセスの展開、求められる技術について具体的な事例等を用いて説明した。ソーシャルワーク援助対象者の生活状況やニーズ・困難さをイメージしやすいよう、事例提示の方法を工夫した。
2.	授業科目名【ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ】 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチについて、基盤理論やアプローチ成立の時代背景なども詳細に解説すること、事例提示の方法を工夫することを通して、アプローチ間の差異や固有の視点を理解することをめざした。
3.	授業科目名【児童・家庭福祉】 現代社会における子どもと家庭をめぐる状況や諸問題、社会構造や人々の価値観の変化について具体的に提起し、子どもを権利の主体とする視点から子ども家庭福祉の理念と法制度やソーシャルワーク実践について理解することをめざした。コメントカードの記述から学生の理解度や関心を把握し、例示や説明の進め方を考える参考にした。
4.	授業科目名【子ども家庭支援論】 既習の専門科目やソーシャルワークに関する理論や方法と関連づけて解説を行った。家族を取り巻く社会的状況や生態学的視点、価値観の多様性にも触れつつ、家庭支援に求められる援助者の姿勢や視点を涵養することに努めた。
5.	授業科目名【ファミリーソーシャルワーク論】 家族を取り巻く社会的状況との相互作用として家族の状況を捉えること、支援の展開について多角的に考察すること、ソーシャルワーク専門職に求められる現象の捉え方、様々なアプローチに基づく多様な分析枠組みを持つことの重要性に学生自身が気づくことを主軸として授業を展開した。
6.	授業科目名【ソーシャルワーク演習】 理論系科目より先行して学習する位置づけであるため、専門的な用語や概念についての説明を丁寧に行うと同時に、グループを活用して自分の意見をもつこと、表明すること、他者の意見を受け入れ、グループの話し合いをさらに発展させることができることを経験できるようグループの状況を見守り、時折介入しつつ授業を展開した。
7.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅰ】 学生の社会性と専門性の未熟な部分を実習に臨むにふさわしい程度まで高められるよう、個別指導や日常的な関わりの中で繰り返し助言指導を行うよう心がけた。子どもの発達や特性、障害の理解、援助の実践について具体的なイメージを持てるよう教材を工夫した。
8.	授業科目名【ソーシャルワーク実習Ⅰ】 学生の学習準備性と実習プログラムとのすりあわせについて、個別の学生の状況を含めて実習指導者との事前打ち合わせ、実習期間中の学生の状況の確認、実習後の振り返りを行った。
9.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅱ】 実習前の事前学習では個別指導を強化し、各自の関心事と実習で学びたいこと、準備性をふまえた上で実習目標をたて、各自が準備して実習に臨めるよう指導を行った。前期実習後の振り返りと課題の明確化のためのスーパーバイズに注力し、後期実習に向かう事前学習をサポートした。後期実習後

	の振り返りにおいては個別指導と並行してグループダイナミクスを活用した。
10.	授業科目名【ソーシャルワーク実習Ⅱ】
	学生の学習準備性と実習プログラムのすり合わせを行い、実習評価の視点を実習指導者と共有した。実習指導者の考える学生に不足している部分と学生が自覚している自身の課題とを念頭に置きつつ、学生の自発的な気づきを促せるようスーパービジョンを行うことを心掛けた。
11.	授業科目名【保育実習指導Ⅲ】
	視聴覚教材を用いて実習施設の役割・機能や対象者理解について知識を確認し、実習記録の方法については個別指導を強化した。実習期間中の巡回指導や実習後の振り返りにおいても個別指導を重ね、学生の学びや課題の整理をサポートした。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1992 年 10 月	日本社会福祉学会	
2.	2001 年 3 月	日本キリスト教社会福祉学会	
3.	1991 年 11 月	日本ブリーフサイコセラピー学会	
4.	1998 年 11 月	日本家族研究・家族療法学会	
5.	1997 年 5 月	日本小児保健学会	
6.	2011 年 10 月	日本保育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2021 年 3 月～	社会福祉法人あゆみの森たけのこ会	評議員
2.	2021 年 7 月～	社会福祉法人栄光園	評議員
3.	2017 年度～	特定非営利活動法人学童保育協会	放課後児童支援員認定資格研修 会講師

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年度	学生募集委員	
2.	2023 年度	教育経費予算配分委員	
3.			

講師

増本 由紀子

■ 学歴

1. 県立広島大学大学院総合学術研究科（修士課程） 修了

■ 学位

1. 2016 年 修士（保健福祉学）

■ 研究分野

1. 保健学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 児童生徒の健康
2. 学校保健
3. 養護教諭

■ 研究課題

1. 養護教諭の実践に基づく理論の構築について研究
2. 養護教諭の感染症に対する保健管理についての研究

■ 担当授業科目

1. 基礎看護技術（前期）（福祉学科） 必須（養護教諭一種免許取得）
2. 看護学（後期）（福祉学科） 必須（養護教諭一種免許取得）
3. 地域保健学Ⅰ（後期）（福祉学科） 必須（養護教諭一種免許取得）
4. 教職実践演習（後期）（福祉学科） 必須（養護教諭一種免許取得）
5. 看護臨床実習（通年）（福祉学科） 必須（養護教諭一種免許取得）
6. 養護実習（通年）（福祉学科） 必須（養護教諭一種免許取得）
7. 養護実習事前事後指導 4年生対象（三期）（福祉学科） 必須（養護教諭一種免許取得）
8. 養護実習事前事後指導 3年生対象（三期）（福祉学科） 必須（養護教諭一種免許取得）
9. 専門研究Ⅰ（通年）（福祉学科） 選択
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|--|
| 1. | 授業科目名【基礎看護技術】 |
| | 基礎看護技術について、養護教諭として必要な基礎的看護技術と、児童生徒に身体的健康問題が生 |

	じた場合の援助方法について、講義による解説と技術の演習を行った。写真や図、実物例を示し、医療機関や保健室で使用している機器を用いて実践的な演習を工夫した。看護技術の習得のため、確認問題、動画紹介、及び自主練習期間を別途に設け、また、実技試験による確認をおこなった。
2.	授業科目名【看護学】 看護学について、概論を解説し、養護教諭の力量としての看護観を培えるよう学校保健に関連して考察を加えた。症状別の看護を解説し、援助の根拠を持して学校での実践の基礎を学習した。現代的な健康課題に対応して図書や新聞記事等の探索、養護教諭として適切に医学情報の収集と整理、伝達するため代表的な疾患を題材にプレゼンテーション演習等のアクティブラーニングを実施した。
3.	授業科目名【地域保健学Ⅰ】 地域保健学について、概論を解説し、関連する養護教諭の職務と考察を加えた。外部講師を招き、主に母子保健活動と感染症の保健活動の実践を学んだ。ICT を活用して、模擬フィールドワークによる地域診断と、感染症の流行調査と分析、及びプレゼンテーションによる演習のアクティブラーニングを実施した。地域保健活動をふまえた学校保健活動について考察ができるよう工夫した。
4.	授業科目名【看護臨床実習】 看護臨床実習について、講義と演習では、看護学の知識と技術の実践化、さらに学校での実践の具現化を目指した。医療機関での看護実習では、医療と看護の実践を体験的に学び、看護の基本を習得し、学校保健の在り方や養護教諭の役割を見出せることを目指した。主体的に実習に取り組み、看護の理解が深まる指導助言を心掛け、さらに、個別及びグループワークによる学びの整理をおこなった。
5.	授業科目名【養護実習事前事後指導】 養護実習事前事後指導について、養護実習の準備を整え心構えができるとともに、実習の学びの整理を追求的にこなした。実習前は実習校での学校教育活動と保健室運営の参与に必要な知識と技術を身につけるよう演習を工夫した。実習後は体験を通して修得した事項や課題について学生相互の意見交換等をおして省察的整理や定着化を図り、養護実習報告会で学びの整理をおこなった。
6.	授業科目名【養護実習】 養護実習について、養護教諭として必要な態度を養い、学校保健の推進と実践力の修得を目指した。実習計画は実習校の重点的な保健活動と期間中の行事等を考慮し、機会のない実習項目は、講話や資料を通じて学習できるよう事前、事後に指導した。実習中の質問等には、メールで迅速かつ詳細に対応した。学校訪問を行い、実習状況に応じた指導助言と質問等の対応をおこなった。
7.	授業科目名【教職実践演習】 教職実践演習について、教職課程での学修を振り返り、養護教諭としての使命感、保護者や地域への責任、信頼される学校づくり等の課題について考える機会となることを目指した。各演習テーマについて、グループワークや討議・発表といった演習形式で学習し、養護教諭の実践的技能と資質・能力の向上を目指した。理想の養護教諭像を検討し、教職課程の学びの整理をおこなった。
8.	授業科目名【専門研究Ⅰ】 児童生徒の健康課題について、学生の興味のある題材を中心に先行研究等の文献検索を行い、ディスカッションをおして考察を深めた。意欲的に研究に取り組めるよう、各自で考えた研究テーマを設定して、研究を支援した。学校での実践事例の紹介や文献の読み解きなど、児童生徒の健康課題と養護教諭の職務についての理解が深まるように取り組んだ。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2014 年 4 月～現在に至る	日本学校保健学会	
2.	2016 年 4 月～現在に至る	中国・四国学校保健学会	
3.	2017 年 4 月～現在に至る	日本不安症学会	
4.	2018 年 4 月～現在に至る	日本教育保健学会	
5.	2018 年 4 月～現在に至る	全国養護教諭サークル研究協議会	
6.	2019 年 4 月～現在に至る	日本公衆衛生学会	
7.	2019 年 4 月～現在に至る	日本疫学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.	2023 年 11 月 11 日	養護教諭の相談による支援に関する実践論の探究	共	第 69 回日本学校保健学会学術大会 （於 聖心女子大学）	①養護教諭の 40 年間の実践記録をもとに、相談による支援に関して教訓となる要素を抽出し、養護教諭の相談による支援の実践基盤となる養護教諭の考え方の概要を検討した。 ② 共同発表者名：富山英美子、新開奏恵、中森あゆみ、有間梨絵、川井幸子、小林央美 ③第 69 回日本学校保健学会学術大会集録（p.143）
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	感染症の流行予測に基づく養護教諭の保健管理モデルの展開	日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究(C)	○ 増本由紀子 (川崎裕美) (恒松美輪子)	4,680,000
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2023年4月～現在に至る	学生個人情報保護委員会	
2.	2023年4月～現在に至る	アドバイザー (福祉学科1年生・3年生)	
3.			

講師

水貝 洵子

■ 学歴

1. 九州大学大学院人間環境学府人間共生システム専攻 博士後期課程 単位満期取得後退学

■ 学位

1. 臨床心理修士（専門職）

■ 研究分野

1. 臨床心理学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 青年期
2. 発達障害
3. アクションメソッド

■ 研究課題

1. 青年期を対象に心理社会適応の促進を目指した臨床心理学的支援の在り方について検討する。
特に、臨床動作法や心理劇などのアクションメソッドを用いた支援の在り方について検討する。
2. 学生支援の一環として、本学全学科の 1 年生を対象に健康管理カルテの配布および利用状況調査を行い、健康管理カルテの活用の仕方について検討する。

■ 担当授業科目

1. ヒューマンサービス基礎演習（前期）必須
2. 初年次セミナー I（前期）必須
3. 発達アセスメント演習（前期）選択
4. 健康臨床心理学（前期）選択
5. 初年次セミナー II（後期）必須
6. 臨床心理学概論（後期）選択
7. 障害者心理学（後期）選択
8. 発達臨床心理学（後期）選択
9. 認知行動療法基礎演習（後期）選択
10. スクールカウンセリング論（後期）選択
11. 専門研究 I（通年）必須
12. 専門研究 II（通年）必須
13. 対人関係論（前期）（看護学科）必須

14. 臨床健康心理学（後期）（看護学科）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習】 他者との円滑で受容共感的なコミュニケーションの体験や自分自身への気づきを深める体験が得られることを目指し、様々な対人ワークを実施した。その都度、受講生自身による振り返りを行った。1年生前期での実施のため、受講生の緊張感に配慮し、自発的な参加ができるようワーク内容を吟味した。
2.	授業科目名【初年次セミナーⅠ・Ⅱ】 学生の提出した課題に対し、多かった回答内容や模範となる回答内容を示しながら、ポイントの解説を行った。課題に関して教員と学生間で一方的なやり取りに限定されないよう、上記のような方法で課題に対するフィードバックを行うなど受講生との相互的なやり取りを心掛けた。
3.	授業科目名【発達アセスメント演習】 学生の多くが実習や就職後に活かせる知識と技術を身に付けようと意欲的に受講していることが予測された。そのため、ロールプレイングを通じ実際に発達検査を実施する体験を提供するだけでなく、発達検査を通じた被検者の特徴の理解の仕方や支援への活かし方について事例検討等を通じ学習した。
4.	授業科目名【健康臨床心理学】 受講人数が少なかったため、受講学生の関心領域を尋ね従来の授業内容との関連を持たせながら、解説やワーク等を新たに加えた。また、4年生開講科目であるため、事例の紹介なども適宜行い、より実践的な内容を取り入れるようにした。
5.	授業科目名【臨床心理学概論】 臨床心理学の基礎となる理論について解説した。学生からの質問や感想に対し、授業で取り上げて回答や解説を行うなどして、学生の知識の定着や理解の深まりをはかった。
6.	授業科目名【障害者心理学】 精神障害から身体障害にわたって代表的な障害を取り上げ、診断的理解及び社会生活において障害児者がどのような体験をしている可能性があるかについて生涯発達の視点から解説した。診断的理解にとどまらず、当事者の立場から障害について理解する視点が培われるよう、事例や当事者の手記等を適宜資料として提示した。実習等で本講義での知識が活かされるよう適切な援助の在り方についても、臨床心理学的援助を紹介しながら解説した。
7.	授業科目名【発達臨床心理学】 発達障害当事者の手記を教材として障害当事者の体験的理解の深まりを目指した。障害や障害者支援に関し多角的に考え捉える機会となるよう様々な事例を提示した。
8.	授業科目名【認知行動療法基礎演習】 認知行動療法について初めて学習する受講生もいたため、授業前半では基礎的な用語や理論について時間をかけて説明した。後半は医療や福祉、保育など様々な領域で実践された事例を紹介し、学生が学習した知識や理論をどのように実践の場で活かしていくのかイメージしやすいよう工夫し

	た。
9.	授業科目名【スクールカウンセリング論】 受講人数は多くなかったが、実践に活かそうと意欲的に受講していた学生が多かった。そのため、解決志向アプローチをはじめとする主要な臨床心理学的援助方法について事例検討などを通じより実践的に学習した。また、教育者を目指している受講生が多かったため、教育的立場と心理的立場から児童生徒に関わる際の共通点や相違点などについても考え、多職種連携の重要性を確認した。
10.	授業科目名【専門研究Ⅰ・Ⅱ】 学生は自ら学びたいキーワードやテーマを設定し、文献を検索した。文献購読やディスカッションを通じ、そのテーマや領域での基本的概念の整理や課題の検討を行った。学生が意欲的に学習に取り組めるよう、学生それぞれの興味関心に応じ文献を選択してもらった。
11.	授業科目名【対人関係論】 円滑なコミュニケーションや適切な支援の基礎となる対人関係に関する心理学的理論について解説した。1年生を対象とした開講科目であり、心理学の学習が初めてである学生が多いため、学生からの授業内容に対する質問や感想について授業内で適宜取り上げて解説や回答をした。教員と学生間で相互的なやり取りを増やし、学生の理解が得られやすいよう配慮した。
12.	授業科目名【臨床健康心理学】 臨床心理学についての基礎知識および、臨床心理学的視点を医療現場等でどのように患者理解や支援に活かすか等について解説した。受講生によって臨床心理学への理解度の差が見られたため、基礎的内容と事例などの発展的内容を合わせて伝えるよう工夫した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2010年4月～現在に至る	日本臨床心理劇学会	
2.	2010年4月～現在に至る	日本リハビリテーション心理学会	
3.	2013年4月～現在に至る	日本心理臨床学会	
4.	2016年4月～現在に至る	日本発達心理学会	ニューズレター委員会委員 (2022年1月～2023年12月)
5.	2016年4月～現在に至る	特殊教育学会	
6.	2019年4月～現在に至る	日本心理学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					

(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2023年8月	青年期における動作法を通じた自己との出会い	単著	日本臨床心理学会第42回大会 (於 パシフィコ横浜)	①心理臨床学研究 39 巻 2 号に掲載された論文「IBS 症状を呈する女子大学生の臨床動作法への主体的な取り組みのための工夫」が2023年度研究奨励賞を受賞し、受賞講演を行った。青年期を対象とした発達支援としての臨床動作法の意義について自己との出会いという視点から考察した。 ②第42回大会プログラム (p.18)
2.	2023年11月	A女子大学における「健康管理カルテ」の作成と配布ー学生の自己管理能力向上を目指してー	共著	日本学校保健学会第69回学術大会 (於 聖心女子大学)	①本学1,2年生を対象に配布した「健康管理カルテ」の利用状況を調査した。その結果から、入学直後に配布した学生はあらゆる場面で利用しており、自身の健康に関心を持ち、健康意識が高まるよう入学直後の配布が望ましいこと、今後の利用意志のない学生も一定数いたことから、配布後も定期的に働きかけをする必要があることが考えられた。 ②共同発表者名：山田恵、水貝洵子、樋口由貴子、目野郁子、高崎智子 ③一般社団法人日本学校保健学会 第69回学術大会講演集(P130)

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	九州大学大学院人間環境学府附 属総合臨床心理センター	面接指導員
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2022 年 4 月～2024 年 3 月	公開講座委員会	委員
2.	2022 年 4 月～現在に至る	学生総合支援室	アドバイザー
3.	2022 年 4 月～現在に至る	ダンスサークル	顧問

助教

山本 佳代子

■ 学歴

1. 2022 年 放送大学修士課程 卒業

■ 学位

1. 2022 年 修士（学術）

■ 研究分野

1. レクリエーション
2. 障害者福祉
- 3.

■ 研究キーワード

1. 障害のある人の余暇
2. きょうだい
3. アートマネジメント

■ 研究課題

1. 障害のある人が取組むアート活動を通じた社会包摂の実践
2. 病気や障害のあるこどものきょうだいへの支援プログラムの検討

■ 担当授業科目

1. ヒューマンサービス基礎演習（前期）必須
2. 基礎実習（通年）選択
3. ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（通年）選択
4. ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（通年）選択
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|--|
| 1. | 授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習】 |
| | 一年前期の必須科目であり、ヒューマンサービスの専門家として基本的なコミュニケーションスキ |

	ルについて理解を深めることを目的とした科目である。他者と関わりながら、自分自身への理解や自分の行動を多面的に捉える力がつけられるよう、グループワークを積極的に取れ入れた。毎回振り返りシートに自身の思いを言語化すること、それらを他者と共有しながらさまざまな意見を吸収することを通し、一人ひとりの自己成長につながるよう努めた。
2.	授業科目名【基礎実習】 初めての实習となるため、3名の教員で少人数のグループを担当し個別指導しながら実習への準備を整えた。マナーや心構え等もグループワークの中に取り入れ、演習を行いながら実際の現場ですぐ生かせることを意識して取り組んだ。また実習中もそれぞれの体験を共有できる機会を設け、悩みや不安、課題を共有しグループ全体で実習を終えることができるよう工夫した。
3.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅰ】 一人ひとりが実習に主体的に取組み、自分自身の実習を組み立てていくことができるよう、まずは先輩の体験談や学びを聞く機会を設け、実習の具体的なイメージを持てるよう努めた。事前学習には、視覚障害の体験や車いす操作等の実技も取り入れ、基礎的な技術の習得に勤めた。またグループ学習を取り入れ、調べることを発表することを通し全体で基本的な理解を深めた後、それぞれの興味関心に基つき実習計画書作成につなげ、個別指導をおこなった。
4.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅱ】 実習分野における基本的な理解を深められるよう、課題を設定し調べ学習と発表を行いながら学びを深めた。また実習Ⅰでの自身の課題の整理にも取組み、実習Ⅱでの達成目標を明確にできるよう努めた。実習計画書作成時は、それぞれが学びを明確にした上で取組めるよう個別指導を行いながら書類を作成した。実習後は、同じ領域に実習に行った学生同士が、学びや課題を共有することで全体の学びにつながるよう発表準備の個別指導を工夫した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2004 年	日本レジャー・レクリエーション学会	
2.	2013 年	九州レジャー・レクリエーション学会	
3.	2021 年	日本小児保健協会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					

1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	ART を通した障害への理解	福岡市文化芸術振興財団	100,000 円	福岡市内中学校 2 校でのワークショップ実施
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2004 年～	地域貢献活動「チャレンジ」	
2.			
3.			

荣 養 学 科

准教授

天本 理恵

■ 学歴

1. 2000 年 中村学園大学大学院栄養科学研究科栄養科学専攻（修士課程）修了

■ 学位

1. 2012 年 博士（医学）

■ 研究分野

1. 応用栄養学 分野（母性栄養、小児栄養）
2. 栄養代謝（生活習慣病とミトコンドリア）
- 3.

■ 研究キーワード

1. 生活習慣病とミトコンドリア
2. 栄養代謝（葉酸等）
- 3.

■ 研究課題

1. 生活習慣病（主に癌や加齢性疾患）とエネルギーおよび栄養代謝（ミトコンドリアを中心に）との関連を形態学、分子生物学的に検討する。また、葉酸とミトコンドリア機能の関連性についても実験、考察する。
- 2.

■ 担当授業科目

1. 応用栄養学Ⅰ （前期）栄養学科 必修
2. 応用栄養学Ⅱ （後期）栄養学科 必修
3. 総合演習Ⅰ （前期）栄養学科 必修
4. 総合演習Ⅱ （前期）栄養学科 必修
5. 応用栄養学実習 （前期）栄養学科 必修
6. 管理栄養士演習Ⅰ（前期）栄養学科 選択
7. 臨地実習Ⅰ （前期）栄養学科 選択
8. 実践活動 （3年後期～4年前期）栄養学科 選択
9. 栄養学概説 （後期）栄養学科 必修
10. 母子栄養学 （前期）助産別科 必修
11. 栄養学 （前期）福祉学科 養護教諭 必修

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【応用栄養学Ⅰ、応用栄養学Ⅱ、総合演習Ⅱ、栄養学概説】 1. 視覚教材に Power Point を使用して講義を行っている。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。 2. 1の教材を印刷したプリントと、関連資料を配布し、重要なところをマークさせた。 また、Power Point 教材だけでは不十分なところについては、板書し、学生に書き取らせることで理解を深めてもらうようにした。板書＋スライドで大事なポイントはダブルチェックさせ学生の理解を促した。スライドを印刷したプリントを配布しているが、板書を写すスペースも確保した配布資料の作成を行っている。 3. 毎回の講義終了時に、講義内容の小テストを行い、学生に解答してもらった後で、解説した。 この小テストによって学生にその日の講義内容とポイントを復習させた。 以上のことより今後も出来る限り学年の特性に合わせた、かつ重要ポイントを外さない授業計画に配慮する。
2.	授業科目名【応用栄養学実習】 毎年度ではあるが、この実習では、管理栄養士として役に立つ知識や技術を身に付けてもらうために、特殊な食品を使用した献立や、日頃家庭では作ることのないライフステージ別の献立を作製させ印象づけるようにした。調理実習では示範時に調理の際の留意点や栄養管理のポイントを説明した。また各ライフステージにおける栄養管理上のポイントを中心にスライドで講義を行い、講義と調理実習をセットで行うことで各ライフステージにおける食生活の違いを視覚的にも聴覚的にも捉えることが出来る講義内容となるように考えた。コロナ感染症等に配慮するため、調理作業中の接触や試食の時間を短くする必要がある、学生は少人数制で重点献立のみの調理とした。今後も学生にとって有意義かつ実践できる実習になるように改善を行っていく。
3.	授業科目名【総合演習Ⅰ、臨地実習Ⅰ】 総合演習Ⅰは、臨地実習Ⅰ（小学校、事業所、児童福祉施設、高齢者福祉施設における給食の運営に関わる学外実習）と抱き合わせとなる演習であり、実習前の指導や、課題、媒体作成、プレゼンなど、3人の担当教員および助手教員とともに演習時間外も含め、指導に尽力した。特に、媒体作成に関しては、演習時間外の多くの時間をさいて、学生個々に合わせた個別指導、助言をメールおよびmeetで行った。この科目に関しては、今後も個別指導を徹底していく。
4.	授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】 管理栄養士演習（国家試験対策）では、毎回項目別に試験問題を作成し、実施した。それらの問題の解説を行うために、沢山の関連資料を配布し（わかりにくいところや重要項目はポイント集を作成して配布した。）一緒にチェックしていくことで学生の理解を促した。さらにポイントや解説は板書し、学生に書き取らせることで、理解を促した。また正規の講義時間以外に行う、学科が開設している国家試験対策講座においても、同様の演習を実施し、学生への理解を促すことに努力した。今後も継続してこの講義形式で講義を展開していく。
5.	授業科目名【母子栄養学 助産別科】 視覚教材に Power Point を使用して講義を行った。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成

	した。母性の栄養補給法に関して、実習先での課題に対するポイントの解説も行った。助産別科の学生は食と栄養に関心が深く、熱心であり、私自身も講義、指導がしやすいと感じている。学生たちも、この講義が助産師として活躍していくときに、役に立つと評価しており、今後も将来役に立つと学生に思ってもらえる講義内容にしていきたいと考える。
6.	授業科目名【栄養学 福祉学科】 対象が福祉学科で養護教諭を目指す学生たちのため、栄養のことを少しでも理解してもらい、将来の仕事に活かして欲しいとの思いから、栄養に関する難しい専門用語に関しては、出来る限り噛み砕いて教授するように努力した。毎回の講義終了時に、講義内容の小テストを行い、学生に解答してもらった後で、解説した。この小テストによって学生にその日の講義内容とポイントを復習させた。小テストに感想や質問を書いてくる学生たちが多く、その質問に必ず回答し、返却した。
7.	授業科目名【実践活動】 2020 年度まで実施していた極低出生体重児の親子遊びの会『ほほえみの会』の後継プロジェクトとして、2021 年度より『ほほえみ project』が立ち上がった。2023 年度も、看護・福祉・栄養の 3 学科の学生たちが連携し、八幡病院の小児病棟に入院している子どもたちへ（乳児 40 名、幼児 80 名、学童 30 名）、各ライフステージの成長発達に合わせた知育玩具（クリスマスプレゼント）作りを実施した。プレゼントの企画から、材料購入、そして作製まで、3 学科の学生たちが協力して実施した。ゼミを通して、多職種との協働・連携ができる人材や精神の育成（学生教育）を目指したいと考える。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2002 年 4 月～現在に至る	日本栄養士会	
2.	2002 年 4 月～現在に至る	日本栄養改善学会	
3.	2002 年 11 月～現在に至る	日本栄養・食糧学会	
4.	2017 年 4 月～現在に至る	日本スポーツ栄養学会	
5.	2010 年 4 月～現在に至る	日本癌学会	
6.	2012 年 4 月～現在に至る	日本分子生物学会	
7.	2022 年 4 月～現在に至る	日本 DOHaD 学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
(著書)					
1.	2023.9	食育の百科 事典	共	丸善出版 日本食育学会編	① 日本食育学会の編集により、食育を食の基礎知識やサステイナビリティ、教育、政策、歴史、文化、そしてその国際的な広がりなど様々な側面から扱った中項目事典である。内

					容は栄養に関することが多岐に渡っている。 ② 日本食育学会編 ③ 担当部分：3章 食行動の課題と教育（対象別教育） 成人期、更年期の生理的特徴、栄養学 p. 180-181 総頁 432頁 ④ A5 判
2.					
3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	北九州市食育推進懇話会 第 4 次構成員（北九州市健康 福祉局 健康推進課）	構成員・座長
2.	2023 年 12 月	北九州市立保育所給食調理業務 受託候補者選定検討会構成員 （北九州市こども家庭局）	構成員
3.	2021 年 8 月～現在に至る	北九州市小児保健研究会	理事
4.	2023 年 8 月 29 日	北九州市社会福祉協議会 （穴生学舎 健康づくりサポ ーターコース）講師	講師
5.	2023 年 9 月 16 日	明日の保育に向けた学び直しの ためのシンポジウム （ GRE En Child Research Office 主 催）	シンポジスト
6.	2024 年 2 月 9 日	令和 5 年度 地域で GO ! GO ! 健康づくり情報交換会（北九州 市八幡東区役所） 講話の講師、グループワークの 講評	講師

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～現在に至る	教務委員会	
2.	2016 年 8 月～現在に至る	地域連携室 室員（子ども・子 育て支援分野）	
3.	2020 年 4 月～現在に至る	学習支援（国家試験対策）委員	
4.	2019 年 4 月～現在に至る	動物実験委員会	
5.	2021 年 6 月～現在に至る	ほほえみ project(ほほえみの会 2014 年 4 月～2020 年 3 月活動 終了からの後継 project)	
6.	2023 年 7 月 21 日	高等学校への模擬授業 ・福岡県立直方高等学校	

教授

岡部 明仁

■ 学歴

1. 1999 年 奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科博士後期課程 研究指導認定退学

■ 学位

1. 2001 年 博士（バイオサイエンス）（奈良先端科学技術大学院大学）

■ 研究分野

1. 神経科学
2. 神経生理学
3. 神経解剖学
4. 自律神経機能
5. 呼吸生理
6. 病態生理

■ 研究キーワード

1. 抑制性神経伝達物質（GABA、グリシンなど）
2. Cl⁻共輸送体
3. 細胞内 Cl⁻濃度
4. 呼吸リズム
5. 延髄
6. 摂食・満腹中枢
7. 視床下部

■ 研究課題

1. 発達期における細胞内 Cl⁻濃度の減少に伴う、GABA 作用の興奮性から抑制性へのシフトが呼吸リズム形成に与える影響の検討。
2. 哺乳から食餌行動へ移行する際の、視床下部における GABA 神経回路変化の組織学的検討。

■ 担当授業科目

1. 生物と生命科学（前期）（栄養学科） 選択
2. 解剖生理学（前期）（栄養学科） 必須
3. 人体の構造と機能基礎実習（分担・前期）（栄養学科） 必須
4. 解剖学（前期）（福祉学科） 選択
5. 応用生理学（後期）（栄養学科） 必須
6. 解剖生理学実習（後期）（栄養学科） 必須
7. 初年次セミナーII（分担・後期）（栄養学科） 必須

8. 生理学（後期）（福祉学科） 選択
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【生物と生命科学】 毎回可能な限り講義時間の 10 分程度を用いて、最近の発見・知見・生活に密着した出来事・トピックスなどを提示し、それらと講義内容に関連があることを気づいてもらえるようにした。高校で生物を選択していない学生にも苦手意識ができないように、意識的に身の回りの出来事と関連させながら講義を行った。
2.	授業科目名【解剖生理学】 講義スライドを全て資料として配布した。人体の構造と機能基礎実習と本講義が並行して進められたので、座学と実習の連携を特に意識して行った。
3.	授業科目名【人体の構造と機能基礎実習】 後半 10 回を担当した。実習書は毎回配布し、翌週にレポートとして提出してもらうようにした。実習では、前年度のデータを使って実習を行うことでヒトの体に興味を持ってもらえるよう工夫した。マウスの解剖実習を行うことで、命の大切さと臓器の配置の精巧さを体験してもらい、座学の解剖生理学と強く連携していることを意識してもらえるようにした。加えて、提出してもらったレポートは必ず翌週の実習時には返却し、実習内容を覚えているうちに知識の定着・上書きをしてもらえるよう努力した。
4.	授業科目名【解剖学】 講義スライドを全て資料として配布した。毎回可能な限り講義時間の 10 分程度を用いて、最近の発見・知見・生活に密着した出来事・トピックスなどを提示し、それらと講義内容に関連があることを気づいてもらえるようにした。
5.	授業科目名【応用生理学】 講義スライドを全て資料として配布した。また、病気や病態と正常機能を比較することで理解を深めってもらうため、可能な限り病態の例を提示して意識してもらえるよう努めた。
6.	授業科目名【解剖生理学実習】 実習書は毎回配布し、翌週にレポートとして提出してもらうようにした。本実習では、自分の体を使って実習を行うことでヒトの体に興味を持ってもらえるよう工夫している。加えて、体を構成する組織に意識を向けてもらうために、バーチャルスライドを用いて組織標本のスケッチを行うことで、器官・組織が様々な形の細胞からできていることを理解してもらえるよう構成した。本実習も提出してもらったレポートは必ず翌週の実習時には返却し、実習内容を覚えているうちに知識の定着・上書きをしてもらえるよう努力した。
7.	授業科目名【初年次セミナーⅡ】 栄養学科で使用する単位およびプレゼンテーションの基本について講義・演習を行った。単位については前期と内容を一部重複させて復習を兼ねたものにし、知識の定着を狙った。プレゼンテーションの基本については、口頭発表とポスター発表に分けそれぞれの特徴と提示の仕方を、具体例を用いて

	伝えた。
8.	授業科目名【生理学】 講義スライドを全て資料として配布した。毎回可能な限り講義時間の10分程度を用いて、最近の発見・知見・生活に密着した出来事・トピックスなどを提示し、それらと講義内容に関連があることを気づいてもらえるようにした。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1999年7月～現在に至る	日本生理学会	評議員（2002年4月～現在に至る）
2.	2001年10月～現在に至る	日本解剖学会	代議員（2019年3月～現在に至る）
3.	1996年7月～現在に至る	日本神経科学会	
4.	1999年11月～2023年11月	北米神経科学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.	なし				
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	なし				
2.					
3.					
（翻訳）					
1.	なし				
2.					
3.					
（学会発表）					
1.	なし				
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）

1.	周産期運動機能発達における抑制性神経伝達物質グリシンの役割	日本学術振興会	○（清水千草） （荒田晶子） 岡部明仁	4,680,000
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	なし			
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	なし		
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2017年4月1日～現在に至る	動物実験委員会	副委員長
2.	2023年4月1日～現在に至る	人事委員会	委員
3.			

助手
石井 愛子

■ 学歴

1. 2012 年 山口大学大学院医学系研究科 博士後期課程 情報解析医学系専攻
(分子薬理学分野) 単位取得満期退学

■ 学位

1. 2014 年 博士 (医学)

■ 研究分野

1. 分子栄養学
2. 栄養生化学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 食物アレルギー
2. タイトジャンクション
3. 腸管上皮バリア

■ 研究課題

1. 腸管上皮バリア機能における新たな制御機構の解明
- 2.

■ 担当授業科目

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|---------------------|
| 1. | 授業科目名【人体と構造の機能基礎実習】 |
|----|---------------------|

	器具の取り扱いなど、個別に指導を行った。特にマイクロピペットの操作は注意深く指導を行った。試薬の計算方法など、特に質問が多かったため細かく指導を行った。骨格模型の作成では、一緒に操作するなど個別に指導を行った。マウスの解剖では、操作方法など細かく指導し、学生の理解を深めるよう努めた。
2.	授業科目名【生化学実習】 電気泳動解析では、ゲル作製、サンプルの入れ方、染色方法など操作が難しいため、個別に注意深く指導を行った。PCR の解析では、操作を実践しながら詳しく指導を行った。ウェスタンブロット解析では、デモンストレーションを実施し、丁寧に説明を行った。分子模型では、実際に模型を作って見せ、操作が遅れている学生には丁寧に指導した。解析結果の考察など、学生が理解できるよう指導した。
3.	授業科目名【臨床基礎医学実習】 心電図測定、骨密度測定の操作方法について、個別に指導を行った。AED の操作方法や心臓マッサージなど分かりにくい場合は操作を行いながら丁寧に指導した。
4.	授業科目名【解剖生理学実習】 最大酸素摂取量の測定法、グラフ作成など、わかりにくい点は詳しく指導した。自転車エルゴメーターや顕微鏡の使用法など、特に質問が多かったため、実際に使いながら個別に指導した。血液のギムザ染色では、操作方法のデモンストレーションを行い、細かく指導した。
5.	授業科目名【健康情報処理実習】 パソコン操作など学生からの質問に随時対応した。解析方法など理解しづらい内容は個別に指導した。小テストでは、パソコン操作やトラブルについて個別に対応した。
6.	授業科目名【食品学実験】 初めて取り扱う器具など、個別に指導を行った。試薬の取り扱いなど注意が必要なものは特に注意深く指導した。また、火を扱う実験では操作に問題がないか細かく対応した。操作がわかりにくい実験は、実際に操作を見せて個別に対応した。実験が上手いかなかったグループには、解決策を一緒に考え、操作方法など助言を行った。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2008 年 4 月～現在に至る	日本薬理学会	
2.	2011 年 12 月～現在に至る	山口医学会	
3.	2012 年 4 月～現在に至る	栄養学若手研究者の集い	世話人（広報）
4.	2014 年 9 月～現在に至る	日本栄養・食糧学会	
5.	2015 年 4 月～現在に至る	福岡県栄養士会	
6.	2015 年 4 月～現在に至る	日本栄養改善学会	
7.	2017 年 2 月～現在に至る	日本災害食学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学	概 要
---------------	-----------------	-------------	--------------------	-----

				会等の名称	
(著書)					
1.	特になし				
2.					
3.					
(学術論文)					
1.	特になし				
2.					
3.					
(翻訳)					
1.	特になし				
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	特になし				
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
1.	腸管上皮バリア機能におけるPDZRN3を介した新たな制御機構の解明	文部科学省科学研究費補助金	2,990,000 (2020年4月～ 2025年3月)	
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期	団体・委員会等の名称	役 職 名 等
--	-----	------------	---------

	期 間 等	(内 容)	
1.	2017 年 8 月～現在に至る	栄養学若手研究者の集い	世話人（広報）
2.	2016 年 9 月～現在に至る	日本栄養士会災害支援チーム (JDA-DAT)リーダー	
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2015 年 4 月～現在に至る	管理栄養士国家試験対策委員	
2.			
3.			

教授
尾上 均

■ 学歴

1. 1989 年 大阪大学大学院医学研究科単位取得退学

■ 学位

1. 博士（医学）

■ 研究分野

1. 生化学
2. 分子生物学
3. 細胞生物学

■ 研究キーワード

1. カルシウムイオン
2. タンパク質間相互作用
- 3.

■ 研究課題

1. 細胞内カルシウムイオン動員機構
2. イムノフィリンと細胞内カルシウム放出チャネルとのタンパク質間相互作用

■ 担当授業科目

1. 生活の中の化学
2. 生化学 I
3. 生化学 II
4. 生化学実習
5. 人体の構造と機能基礎実習
6. 管理栄養士演習 I
7. 実践活動
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|---|
| 1. | 授業科目名【生活の中の化学】 |
| | • 栄養学を習得していく上で必須となる化学の基本的知識として、化学結合と電子の関係、酸と塩 |

	基、触媒、化学反応論および化学平衡の概念の理解させることを目標の中心として講義を行った 本科目、生化学Ⅰおよび生化学Ⅱをとおして共通に使用する化学・生化学の基礎プリントのPDFファイルをClassroomに提示し、私の講義に共通の普遍的概念および基礎知識の修得を促すように努めた 講義は、スライドを用いて行った。スライドには改訂を加えた。
2.	授業科目名【生化学Ⅰ】 - 生体分子の構造および化学的特性については、「生活の中の化学」で講義した内容や知識、言葉を用いて説明するように努めた - 代謝に関する講義では、代謝全般に共通する普遍的な原理・原則の理解と知識の習得に力点を置いた。「酸化還元」と「自由エネルギーの出入り」との結びつきの概念を特に強調した講義内容とした - 講義に用いるスライドにも改訂を加えて使用した - 講義内容のキーワードや重要項目をまとめたプリントに改訂を加えて配布した - 講義中に話した内容に関する質問を行い、理解度の把握に努めた 学生には暗記よりも論理的に思考して理解することを要求し続けた。試験も基本的には理解を問う問題を出題した。ただし、基本的な生体化合物の構造式については試験にも出題した
3.	授業科目名【生化学Ⅱ】 - 本科目は、「生活の中の化学」および「生化学Ⅰ」で講義した知識、概念、用語をつかって、代謝全般の各論、生体内情報伝達機構に関する講義へと発展させた。 - 講義に用いるスライドには改訂を加えて使用した - 生化学Ⅰで配布した講義内容のキーワードや重要項目をまとめたプリントの続きに改訂を加えて配布した。 - 平行して開講した「生化学実習」と本科目の内容に特に関連性が深い項目については、同じ週に行うよう努めた 講義中に話した内容に関する質問をこまめに学生を指名して行い、理解度の把握に努めた
4.	授業科目名【人体の構造と機能総合実習】 - 本科目は岡部教授とのオムニバス科目であり、15回中5回を担当した - 分子模型を用いた実習、および酵素反応実験や電気泳動実験による基礎的な生化学実験実習を通して、生化学Ⅰ(後期に開講)で学ぶ生体化合物の基本構造、および生体反応の特徴を肌で感じることを目標とした - 実験ノート的重要性を強調し、毎回の実習後、学生の手帳をチェックした - 分子模型を用いた実習では、全員が、グルコース、酢酸、および簡単なアミノ酸の模型を一人で組み立てられるように指導し、特に不斉炭素とは何かを理解させることを心掛けた レポートは、「事実の観察」および「論理性」を主眼に採点した
5.	授業科目名【生化学実習】 - 実験を通じて「事実(データ)を有りのままに観察して物事を論理的に理解し、論理的に考察すること」、および「定性性」ならびに「定量性」の概念、センスを身につけることを目標とし、学生にそのことを一貫して要求し続けた - 実験ノート的重要性を強調し、毎回の実習後、学生の手帳をチェックした - 分子模型を用いた実習では、全員が、グルコース、アミノ酸、脂肪酸の模型を一人で組み立てら

	れるように指導した ・ レポートは、「事実の観察」および「論理性」を主眼に採点した
6.	授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】 ・ 本科目は、複数の教員によるオムニバス科目であり、15 回中 2 回担当した ・ 生化学ⅠおよびⅡで履修した範囲を主に講義と国試過去問等の練習問題を組み合わせた授業内容にした ・ 生化学ⅠおよびⅡでは取り扱わなかったトピックとして、免疫、ヌクレオチドの代謝、糖誘導体などややレベルの高いトピックを取り扱った ・ 練習問題は国試や模試の過去問とオリジナルに作成したもの組み合わせたものにした

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1995 年 5 月～現在に至る	日本生化学会	
2.			
3.			

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共同研究

	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個 人 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～現在に至る	大学キャンパスハラスメント防 止・対策委員会	
2.	2022 年 4 月～現在に至る	学生個人情報保護委員会	委員長(2023 年度)
3.			

教授
木村 宏和

■ 学歴

1. 1999 年 九州大学大学院農学研究科食糧化学工学専攻博士後期課程 修了

■ 学位

1. 1999 年 博士（農学）

■ 研究分野

1. 応用微生物学
2. 食品バイオテクノロジー
3. 食品科学

■ 研究キーワード

1. 機能性ペプチド
2. 長期熟成糠床
3. 未利用バイオマス

■ 研究課題

1. 長期熟成糠床の栄養価・機能性に関する研究
2. 未利用バイオマスの乳酸発酵を利用した新規採卵鶏用飼料の開発

■ 担当授業科目

1. 食品衛生学 前期（栄養学科）必修
2. 加工食品機能論 後期（栄養学科）必修
3. 食品衛生学実験 後期（栄養学科）必修
4. 管理栄養士演習Ⅰ 通年（栄養学科）必修
5. 初年次セミナーⅠ 前期（栄養学科）必修
6. 卒業ゼミ 通年（栄養学科）選択
7. 微生物学 前期（栄養学科）選択
8. 食品機能特論 前期（栄養学科）選択
9. 保健福祉学入門 前期（看護学科、福祉学科、栄養学科）選択
10. 栄養学概説 後期（栄養学科）必修

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|---|
| 1. | 授業科目名【食品衛生学実験】 |
| | 食品衛生学実験で使用するオリジナルの実験書を作成した。注意点や取り組みなどを説明し、学生の |

	理解力向上に努めた。
2.	授業科目名【食品機能特論】 食品機能特論で使用するオリジナルの資料を作成し、最新の食品機能性について講義した。
3.	授業科目名【 】
4.	授業科目名【 】

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1994 年～現在に至る	日本農芸化学会	
2.	1994 年～現在に至る	日本生物工学会	
3.	2006 年 4 月～現在に至る	日本乳酸菌学会	
4	2013 年 4 月～現在に至る	バイオテクノロジー研究推進 会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					

1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2022年4月～2024年3月	学生募集委員会	
2.	2022年4月～2024年3月	図書委員会	
3.	2022年4月～2024年3月	学習支援委員会（学科内）	

教授
坂田 郁子

■ 学歴

1. 2010 年 福岡女子大学大学院卒業

■ 学位

1. 2010 年 修士（人間環境学）

■ 研究分野

1. 公衆栄養学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 食環境
2. 減塩
3. 減塩食品

■ 研究課題

1. 厚生労働省「予防・健康づくりに関する大規模実証事業」（イ）食行動の変容に向けた尿検査及び食環境整備に係る実証事業に協力し、高血圧予防のための減塩とカリウム増加の働きかけ手法の検討を行う。
2. 食堂の環境改善が労働意欲や健康状態に及ぼす効果について検証を行う

■ 担当授業科目

1. 公衆栄養学Ⅰ（後期）（栄養学科）必須
2. 公衆栄養学Ⅱ（前期）（栄養学科）選択
3. 公衆栄養学実習（後期）（栄養学科）必須
4. 地域栄養活動論（後期）（栄養学科）選択
5. 臨地実習Ⅲ（後期・前期）（栄養学科）選択
6. 総合演習Ⅱ（前期）（栄養学科）選択
7. 管理栄養士演習Ⅱ（通年）（栄養学科）選択
8. 臨床栄養管理演習（前期）（栄養学科）選択
9. 初年次セミナーⅠ（前期）（栄養学科）必須
10. 初年次セミナーⅡ（後期）（栄養学科）必須
11. 調理師論（前期）（栄養学科）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【公衆栄養学Ⅰ・Ⅱ】 集団や地域の健康・栄養改善のために、栄養課題やニーズを把握し、対象集団の特性に応じて、適切な栄養関連サービスを提供する公衆栄養プログラムの作成、実施、評価・フィードバックするための知識や方法を修得させるため、自治体で実施されている実践事例を紹介し公衆栄養プログラムへの理解を深めた。
2.	授業科目名【公衆栄養学実習】 公衆栄養学Ⅰ・Ⅱで修得した知識・技術を基に、地域診断、既存資料の活用、文献検索を行い、グループ毎の主体的な取組みを尊重しながら、PDCA サイクルに基づいた公衆栄養プログラムが作成できるように指導した。
3.	授業科目名【地域栄養活動論】 地域のあらゆる場面で活躍する管理栄養士の業務について外部講師の講義を交えながら解説を行い、管理栄養士の役割や多職種連携について理解させるとともに、臨地実習Ⅲに臨むための基礎知識の修得に努めた。
4.	授業科目名【臨地実習Ⅲ】 実習期間中に実施される実習課題内容を事前に確認し、課題への指導を徹底して行い、臨地実習が有意義なものとなるように取り組んだ。臨地実習の巡回時には、実習での学びが今後の授業や職業選択に活かされるように、実習中の学生への助言を行った。また、今年度はコロナ蔓延防止期間中のため、2週間前から健康管理の記録、自粛行動を遵守させ実習に臨ませた。
5.	授業科目名【管理栄養士演習Ⅱ】 管理栄養士国家試験教科「公衆栄養学」分野の出題傾向およびポイントを理解するために、国家試験の過去問題を分析し、出題傾向に的を絞った問題を作成し解説を行った。また、苦手な問題は何度も練習問題を解かせ、克服することに努めた。
6.	授業科目名【臨床栄養管理演習】 臨床栄養管理演習は、病院栄養士を希望する学生が選択する科目であるため、病院に就職した際により専門的な知識を修得することができるよう工夫した。
7.	授業科目名【初年次セミナーⅠ・Ⅱ】 初年次セミナーⅠでは、大学で学ぶためのスタディ・スキルの基本である「聞く」「調べる」「読む」「書く」「考える」基礎的な知識の強化を図り、主体的に学ぶ技術の習得を目指した。 初年次セミナーⅡでは、個人あるいは集団での学習活動を軸に「発表する」「討論する」知識の強化を図り、プレゼンテーション能力の習得を目指した。
8.	授業科目名【調理師論】 管理栄養士が同じ職場で働く主な他職種である調理師を理解するために開講されている講座において、給食施設で働く調理師が最低知っておくべき知識である公衆衛生学分野の法律や食中毒を起こした場合の対処法について講義を行い、調理師が身につけている知識を理解するように工夫した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1987年2月～現在に至る	福岡県公衆衛生学会	

2.	2005 年 3 月～現在に至る	日本栄養改善学会	
3.	2006 年 5 月～現在に至る	日本公衆衛生学会	
4.	2018 年 5 月～現在に至る	日本在宅栄養管理学会	
5.	2021 年 9 月～現在に至る	日本高血圧学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.	2023.9	女子大学生 における朝 食摂取状況 の違いによ る運動習慣 や身体ある いは精神上 の自覚症状 の検証	共	第 70 回日本栄 養改善学会（於 名古屋国際会議 場）	①女子大学生の朝食バランスや小学校 からの朝食摂取習慣の違いによる運動 習慣、身体あるいは精神上的の自覚症状の 違いについて検証し、朝食摂取が心身に 与える影響についてまとめた。 ②共同発表者名：永原真奈見、坂田郁子 ③第 70 回日本栄養改善学会学術総会講 演要旨集(P283)
2.	2023.10	食堂の環境 整備が健康 状態に及ぼ す効果	共	第 82 回日本公 衆衛生学会総会 （於つくば国際 会議場）	①食堂改築にあわせたヘルシーメニュ ーの提供や利用者の健康に繋がる健康 情報の発信が、職員の健康状態や健康意 識与える影響についてまとめた。 ②共同発表者名：坂田郁子、太田雅規(福 岡女子大学大学院) ③第 82 回公衆衛生学会総会講演要旨集 (P2004)

3.					
----	--	--	--	--	--

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	若い世代の食育推進事業	北九州市	○坂田郁子 永原真奈見	69,916 円
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2021 年 6 月 16 日 ～2024 年 3 月 31 日	保健福祉学部栄養学科長	
2.			
3.			

■ 学歴

1. 1992 年 九州大学医学部医学科 卒業

■ 学位

1. 2001 年 博士（医学）

■ 研究分野

1. 予防医学

■ 研究キーワード

1. 健康管理
2. 生活習慣
3. がん教育
4. がん検診

■ 研究課題

1. 健康寿命の延伸を図るため、啓発活動を通じて、学ぶことによる疾病予防を目指す。がん検診に関する地域住民の意識と課題について検討し、がん検診の受診率を高めるための方策等について考察する。
2. 女子大学生の健康維持・増進に向けた支援の効果的な取り組みについて検討する。

■ 担当授業科目

1. 疾病診断治療学Ⅰ（前期）（栄養学科）必修
2. 臨床基礎医学実習（前期）（栄養学科）必修
3. 病理基礎医学（後期）（栄養学科）必修
4. 疾病診断治療学Ⅱ（後期）（栄養学科）必修
5. 管理栄養士演習Ⅰ（通年）（栄養学科）選択
6. 実践活動（通年）（栄養学科）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|---|
| 1. | 授業科目名【病理基礎医学】 |
| | 1 年生を対象としており、大学で初めて学ぶ医学講義であるため、医学用語をはじめとし、医学の基礎となる基本的な知識を習得することを目標とした。病気の本質を理解するために、体の中で起きる変化を遺伝子・細胞・組織レベルから学び、疾病の種類や病因、病態との関連へと理解を深めていくように努めた。スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、授業中には質問をあ |

	てるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。また学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施し、次回の授業の始めに理解度の低かった箇所を中心に再度解説して知識の定着を図った。
2.	授業科目名【疾病診断治療学Ⅰ】 管理栄養士として栄養学を学ぶ上で臨床医学の知識は不可欠である。管理栄養士が知っておくべき基礎知識および医学的な考え方について学ぶために、代表的な疾患の成因、症状、診断方法、検査結果、治療方法などの知識を修得することを目標とした。スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、授業中には質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。また学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施し、次回の授業の始めに理解度の低かった箇所を中心に再度解説して知識の定着を図った。
3.	授業科目名【疾病診断治療学Ⅱ】 疾病診断治療学Ⅰで学んだ臨床医学的知識を基に、疾病や栄養療法に関する専門知識をさらに深めるとともに、健康増進・疾病予防において管理栄養士が果たすべき役割についての重要性を学ぶことを目標とした。改訂された各種ガイドラインなどについては適宜補足して示し、常に最新の知識を得るよう促した。また実際に社会で問題となっている事例を取り上げ、学んでいる医学内容との関連を具体的に提示することで関心を高めるよう努めた。スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、授業中には質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。また学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施し、次回の授業の始めに理解度の低かった箇所を中心に再度解説して知識の定着を図った。
4.	授業科目名【臨床基礎医学実習】 管理栄養士はチーム医療を担う一員である。医療の現場においては対象者の栄養状態や健康状態を把握した上で、栄養管理や指導内容を設定することが重要になってくる。医療現場の実際を理解するために、医療面接・身体診察法・生理検査法等に関する知識を修得できるように実習内容を設定した。血圧脈波検査・腹部エコー検査・骨密度検査・乳がん検診方法等を体験するとともに、高齢化社会を意識して認知機能を調べる検査を組み込んだ。各実習の最初には、臨床医学検査と疾病との関連についての知識を確認するために、講義形式と質疑応答形式による導入を行った。検査を実際に体験するのみならず、グループワーク・事例検討や質疑応答の機会を増やす等、主体的に参加する工夫を行った。実習の終了後には、実習時間内にレポートを作成するよう課し、理解度を確認した。なおレポート作成に際しては、インターネットを利用して情報検索することを促すとともに、参考となるURLを提示し、信頼性のある情報を得る方法について指導した。
5.	授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】 4年生を対象として、「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」分野を中心に演習形式による講義を担当した。実際に出題された国家試験問題を中心に解き、解説を行った。解答を導き出す過程や要点をまとめたスライドを作成し、暗記に頼るのではなく理解して考える習慣付けができるようにした。国家試験頻出分野に関しては、類題をくり返し解くことで理解の定着に努めた。
6.	授業科目名【実践活動】 がんの原因の中には生活習慣とかかわるものも多く、予防のためのがん教育が小学校から始まっている。そのような状況を受け、「大腸がんの予防と食事との関連」をテーマに、11名の4年生および3名の3年生を指導した。学生の主体性を大切にしながら、資料の調べ方、引用の仕方、レポートの作成方法等について教授し、文献検索等により情報収集・考察し、レポートにまとめることを指

導した。地域活動および調査内容については栄養学科保護者懇談会にて発表した。

また「食と健康」に関して地域住民に啓発活動を行うための本学栄養学科および九州歯科大学口腔保健学科との連携公開講座にて成果を披露する場を得た。「親子で歯っぴー」をテーマに、小学生とその保護者を対象に、咀嚼や食育に関する講座を開催した。工作体験を取り入れて楽しく学べるように工夫し、ポスターにて「腸内環境と健康」に関する啓発活動を行った。また本公開講座での活動内容を、地域貢献活動交流会にてポスター発表したことも貴重な経験となった。大学で学んだ知識や技術をもとに、「食と健康」「口腔保健」の立場から連携して地域住民への情報発信と健康支援を行ったことは、将来就くべき専門職に対するモチベーションを高め、多職種連携によるチーム医療への理解を深めることにつながったと考える。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2000 年 8 月～現在に至る	日本人間ドック学会	人間ドック認定医 (2005 年 8 月～現在に至る)
2.			人間ドック健診情報管理指導士 (2007 年 8 月～現在に至る)
3.			人間ドック健診専門医 (2012 年 1 月～現在に至る)
4.			人間ドック健診指導医 (2017 年 4 月～現在に至る)
5.			遺伝学的検査アドバイザー (2020 年 4 月～現在に至る)
6.	2006 年 10 月～現在に至る	日本乳がん検診精度管理中央機構	マンモグラフィ読影認定医 (2006 年 10 月～現在に至る)
7.	2010 年 5 月～現在に至る	日本がん検診・診断学会	がん検診認定医 (2012 年 10 月～現在に至る)
8.	2011 年 4 月～現在に至る	日本抗加齢医学会	日本抗加齢医学会専門医 (2020 年 1 月～現在に至る)
9.	2017 年 4 月～現在に至る	肺がん CT 検診認定機構	肺がん CT 検診認定医 (2017 年 4 月～現在に至る)
10.	2010 年 4 月～現在に至る	日本医師会	日本医師会認定健康スポーツ医 (2011 年 5 月～現在に至る)
11.			日本医師会認定産業医 (2016 年 9 月～現在に至る)
12.			福岡県医師会認定総合医 (2017 年 4 月～2023 年 3 月)

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

発行又は	著書、学術論	単著・	発行所、発表雑誌	概要
------	--------	-----	----------	----

	発表の年月	文等の名称	共著の別	誌等又は発表学会等の名称	
(著書)					
1.					
(学術論文)					
1.	2023. 3	遠隔教育における大学生の健康に関する調査(第2報)ー全面遠隔から対面・遠隔併用型授業へ移行してー	共	西南女学院大学 紀要 2023 Vol.27	① 新型コロナウイルスの感染対策として、本学では、1 年間にわたるほぼ全面的な遠隔授業を経て、対面・遠隔併用型授業へと授業形式を移行させた。2020 年度後期の遠隔授業終了時と 2021 年度後期の対面・遠隔併用型授業の終了時に、本学栄養学科の学生を対象として健康に関するアンケート調査を継続して行い、遠隔授業下での授業形式が学生の心身に及ぼす影響について検討した。 ② 共著者名：高崎智子、相良かおる、八木康夫、坂田郁子 ③ (P119-134)
(翻訳)					
1.					
(その他)					
1.	2023. 4	本学の学生を対象とした「健康管理カルテ」の作成	共	西南女学院大学 保健福祉学部 附属保健福祉学 研究所 2022 報告書	① 本学学生の健康状態の自己管理を目指し「健康管理カルテ」を作成した。「健康管理カルテ」配布 3 か月後および 10 か月後に学生の利用状況に関する調査を実施し、その結果から今後の運用方法について検討した。 ② 共著者名：水貝洵子、山田恵、樋口由貴子、目野郁子、高崎智子、大内田知英 ③ (P10-13)
2.	2024. 2	「食と健康」に関する西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座～「親子で歯っぴー食育こうざ」～	共	西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部 地域活動論叢 2023 年度	① 口腔機能と栄養は密接に関連している。2 大学が連携し、2023 年 11 月に「親子で歯っぴー」をテーマに、小学生とその保護者を対象とした咀嚼や食育に関する講座を開催した。本連携公開講座における地域住民への情報発信と健康支援活動について報告した。 ② 共著者名：高崎智子、浜谷小百合、永田純美、竹下諄美、矢野夏実、坂田郁

					子、邵仁浩、中道敦子、船原まどか、辻澤利行 ③ (P18-20)
(学会発表)					
1.	2023. 11	A 女子大学における「健康管理カルテ」の作成と配付－学生の自己管理能力向上をめざして－	共	一般社団法人日本学校保健学会 第 69 回学術大会 (於 聖心女子大学)	① 本学学生 of 健康状態の自己管理を目指して作成した「健康管理カルテ」を 1、2 年生に配布した。配布時期と利用状況に関する調査を実施し、健康意識を高めるための運用方法について検討した。 ② 共同発表者名：山田恵、水貝洵子、樋口由貴子、目野郁子、高崎智子 ③ 一般社団法人 日本学校保健学会 第 69 回学術大会講演集 (P130)

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2020 年 2 月～現在に至る	国家公務員共済組合連合会 新小倉病院	非常勤医師・産業医・ 衛生委員会 副委員長
2.	2022 年 4 月～現在に至る	北九州市食品衛生懇話会	会員（座長）
3.	2023 年 11 月 23 日	「食と健康」に関する西南女学院大学栄養学科・九州歯科大学口腔保健学科連携公開講座	「親子で歯っぴー食育こうぎ」 企画・運営
4.	2024 年 3 月 1 日	2023 年度 地域貢献活動交流会・地域懇談会	地域連携室運営協議会 構成員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2021 年 4 月～現在に至る	学校法人西南女学院 将来計画委員会	大学・短期大学 部 委員
2.	2021 年 4 月～現在に至る	西南女学院大学・短期大学部 学生部	学生部長
3.	2021 年 4 月～現在に至る	大学評議会	構成員
4.	2021 年 4 月～現在に至る	運営会議	構成員
5.	2021 年 4 月～現在に至る	点検評価改善会議	構成員
6.	2022 年 1 月～現在に至る	認証評価ワーキングチーム	「学生領域」担 当メンバー・ワ ーキングチー ム副責任者
7.	2021 年 7 月～現在に至る	将来計画検討プロジェクト会議	構成員
8.	2022 年 10 月～現在に至る	教学マネジメント会議	構成員
9.	2023 年 4 月～現在に至る	改革推進グループ会議	構成員
10.	2023 年 6 月～現在に至る	教学 IR 推進室	室員
11.	2021 年 4 月～現在に至る	地域連携室運営協議会	構成員
12.	2021 年 4 月～現在に至る	学生総合支援室運営連絡協議会	構成員
13.	2019 年 4 月～現在に至る	倫理審査委員会	委員
14.	2021 年 4 月～現在に至る	学生委員会	委員長
15.	2021 年 4 月～現在に至る	就職委員会	委員長
16.	2021 年 4 月～現在に至る	国際交流委員会	委員長
17.	2021 年 4 月～現在に至る	学生個人情報保護委員会	委員
18.	2021 年 4 月～現在に至る	大学キャンパスハラスメント防止・対策委員会	委員
19.	2024 年 3 月 7 日	2023 年度 大学キャンパスハラスメント相談員 講習会	司会
20.	2024 年 3 月 14 日	2023 年度 大学キャンパスハラスメント防止セ ミナー 「大学におけるハラスメントの対応と予防」	座長
21.	2021 年 4 月～現在に至る	硬式テニス部	顧問
22.	2019 年 4 月～現在に至る	栄養学科 学生アドバイザー	アドバイザー
23.	2019 年 4 月～現在に至る	管理栄養士 国家試験対策講座（前期・夏期集中・ 後期・国試直前）	講師
24.	2022 年 9 月～現在に至る	社会福祉士 国家試験対策講座（夏期集中）	講師
25.	2023 年 7 月 9 日	オープンキャンパス 栄養学科模擬授業「自分の 体を知ろう～See what you're made of!～」	講師

嘱託教育職員(教授)

南里 宏樹

■ 学歴

1. 1981 年 九州大学医学研究科生理系専攻（博士課程）単位取得満期退学

■ 学位

1. 1983 年 医学博士（九州大学医博甲五九八号）

■ 研究分野

1. 基礎栄養学
2. 栄養代謝学
3. 生化学

■ 研究キーワード

1. 酸化ストレス
2. 抗酸化防御機構
3. 糖毒性

■ 研究課題

1. 栄養が健康に及ぼす影響を、おもに活性酸素による酸化ストレスと高血糖による糖毒性に注目して、生化学・細胞生物学的手法を用いて解析する。特に、高血糖による血管内皮細胞の機能障害を、活性酸素に対する抗酸化防御機能との関連において検討する。
- 2.

■ 担当授業科目

1. 基礎栄養学Ⅰ（1年生後期）（栄養学科）必修
2. 基礎栄養学Ⅱ（2年生前期）（栄養学科）選択
3. 栄養学実習（2年生後期）必修
4. 管理栄養士演習Ⅰ（4年生通年）必修
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【基礎栄養学ⅠおよびⅡ】 今年度はコロナ感染がかなり落ち着いてきたので、講義はすべてパワーポイントを利用した対面授業で実施した。講義で使用したスライドは、すべて印刷して配付した。また、基礎栄養学の重要項目の練習問題集を配付し、授業の終わりに5分程度、その日の講義内容に関する練習問題を学生に答えさせるようにした。管理栄養士国家試験の過去問題(2018年～2023年)の解説集も配付し、日ごろの予習復習に役立つようにした。
2.	授業科目名【栄養学実習】 今年度は、すべて対面で実施したが、実習によっては、学生自身が測定するのではなく、教員が実際の測定のやり方をデモで示したり、測定の実施者を各班で一人に絞ったりして、実習中の”密“、“会話“をできるだけ少なくするようにした。そのため、実習の目的の一つである共同作業という点では、必ずしも十分な成果が上げられなかった。それぞれの実習について、その栄養学的意義について考えさせるためのレポートを課し、1, 2年次の基礎栄養学の復習ができるようにした。
3.	授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】 管理栄養士演習Ⅰは8人の教員が分担する栄養学科4年生のための演習で、わたしは「基礎栄養学」とその「応用問題」を担当した。2011年～2023年の基礎栄養学に関する管理栄養士国家試験の問題について、分野別に分類し、分野ごとに10～13年分の問題をまとめて解くやり方で演習を実施した。その際、問題に関連する周辺事項を幅広く学習できるように、問題についての詳しい解説や重要事項をまとめたプリントを配布した。演習と自主講義と併せて、前期10回（うち自主講義8回）、後期8回（うち自主講義6回）実施した。また、夏休み期間中に夏期対策を3日間(5コマ)、後期終了後、国試までの間に直前対策を2日間（2コマ）実施した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1977年4月～現在に至る	日本生化学会	
2.	2003年5月～現在に至る	日本栄養・食糧学会	
3.	2014年1月～現在に至る	日本栄養改善学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					

1.					
2.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

教授

八木康夫

■ 学歴

1. 1987 年 筑波大学大学院修士課程 修了

■ 学位

1. 2003 年 博士（医学）

■ 研究分野

1. 運動生理学
2. 心理生理学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 運動
2. 認知
3. 加齢

■ 研究課題

1. 高次脳機能に及ぼす運動の効果について
2. 運動パフォーマンス、代謝経路や高次機能に及ぼすサプリメントや栄養素の効果について

■ 担当授業科目

1. 運動と健康（前期）（栄養学科）必修
2. 運動と健康（前期）（英語学科・観光文化学科）必修
3. チームスポーツ（前期）（栄養学科・英語学科・観光文化学科）選択
4. チームスポーツ（前期）（看護学科）選択
5. チームスポーツ（前期）（福祉学科）選択
6. 運動栄養演習（前期）（栄養学科）選択
7. 運動生理学（後期）（栄養学科）選択
8. 運動・環境と栄養（後期）（栄養学科）選択
9. 生涯スポーツ（後期）（栄養学科・英語学科・観光文化学科）選択
10. 生涯スポーツ（後期）（看護学科）選択
11. 生涯スポーツ（後期）（福祉学科）選択
12. 卒業研究ゼミ（3年後期～4年前期）（栄養学科）選択
13. 卒論ゼミ（3年後期～4年前期）（栄養学科）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【運動と健康】 講義は、PC を用いて PowerPoint を活用しプレゼンテーションした。資料は、スライド資料と必要データをプリント配布し、Google classroom も必要に応じて用いた。毎授業で、復習を兼ねて基本事項を調べまとめる課題を作成してもらい、知識の定着を図った。
2.	授業科目名【チームスポーツ】 学期の始講と最終講で、形態・体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、自己の現状把握、具体的な行動目標を立ててから受講させた。「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数基準の持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実際」の講習時間を設け、これから自ら運動の処方することを促した。毎回の授業ではカロリーカウンターを装着し、自己の運動の量や強度を記録によって運動意欲を喚起し、期末にはそれらの総括と自己評価をおこなった。集団スポーツ種目を主に実施し、チームミーティングを重視し、自チームの練習方法、戦略立案や個々人の役割分担、現チームの中での個々のポジティブなあり方など考えた積極的な行動を促した。
3.	授業科目名【生涯スポーツ】 学期の始講と最終講で、形態・体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、自己の現状把握、具体的な行動目標を立てて活動した。毎授業時にカロリーカウンターにて自己の運動量と強度の関係、運動意欲の喚起を促した。期末にて実習期間全体の自己評価、健康度と運動量、体組成の変容と運動量との関係、身体運動の程度と運動量の関係理解を図った。運動種目にラケット競技のペア種目を導入し、個々の技能到達度から練習目標を設定し、分担してルールや器具の使用法の解説、勝利を目指した能動的チームワークの形成を図った。
4.	授業科目名【運動生理学】 講義では PowerPoint を活用し、資料提示等、少人数を利用し、対話、双方向の教育指導をおこなった。毎講義後に単元のまとめ小テストを行い、単元要点を確認する作業をおこなわせた。さらに講義ノートを作らせ、全授業終了後に採点・添削し評価に加えた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1992.4	日本運動生理学会	常任理事（2008.7~2023.3）
2.	1985.4	日本体力医学会	評議員,会計委員(2017.4~2022.3)
3.	1991.4	日本生理学会	101 学術大会委員（2023.4~2024.3）
4.	1997.4	日本臨床神経生理学会	
5.	1990.4	西日本生理学会	
6.	1988.4	九州体育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
--	---------------	-------------	-------------	---------------------	-----

(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2023.11	全九州大学バスケットボールリーグ戦(一部)	共	九州大学バスケットボール連盟	全九州の大学バスケットボール競技の上位6校(一部)で選手権及び全日本インカレ出場権(上位3大学)を競う大会で第6位であった。顧問:八木康夫 監督:溝口博
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2011.5.25～至現在	日本バスケットボール協会	JBA 公認 C 級コーチ
2.	2015.3.26～至現在	日本体育協会	指導員
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023.4～2025.3	入試委員会	
2.	2023.4～2024.3	紀要委員会	
3.	1987.4～至現在	バスケットボール部	顧問
1.			
2.			
3.			

教授
若菜 啓孝

■ 学歴

1. 長崎大学工学研究科・修了

■ 学位

1. 工学博士

■ 研究分野

1. 教育工学
2. 教育情報システム
- 3.

■ 研究キーワード

1. 教育工学
2. 情報システム
3. e-learning

■ 研究課題

1. 資格修得のための教材コンテンツの作成法について
2. CBT システムと効率的なインポート方法について

■ 担当授業科目

1. 健康情報処理論（前期）
2. 情報の理解と表現（前期）
3. 情報処理基礎（前期）
4. 健康情報処理実習（後期）
5. 情報処理演習（後期）
6. 教育における ICT 活用（後期）
- 7.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【健康情報処理論】 ・統計検定4級レベルの演習なども交えて実施し、学生の理解度の状況からシラバス計画の変更 ・学生の所持する電卓では対応不能な計算もあり、急遽、PC 実習室にて数回授業を実施
2.	授業科目名【情報の理解と表現】 ・他学科と合同で行ったものであるため、当初のシラバスとは異なり、さらに教職に関連した科目で

	あることから、教材作成に必要な知識・技能の修得を頭において授業展開 ・身近なテーマとしてオープンキャンパス用コンテンツ、AR を用いたコンテスト作品の制作、本授業の制作過程をまとめた動画制作など今後にも有用なコンテンツ制作を行ったこと
3.	授業科目名【情報処理基礎】 ・文科省推奨・他大学が取り組んでいる「数理・データサイエンスリテラシーレベル」に応じた、授業展開を行ったこと
4.	授業科目名【健康情報処理実習】 ・オリジナル教材の利用による演習および複数回の小テストの実施 ・SCORM 教材のオンライン化
5	授業科目名【情報処理演習】 ・オリジナル教材の利用による演習および複数回の小テストの実施
6.	授業科目名【教育における ICT 活用】 ・教師／生徒の立場における Google Classroom の活用方法、動画教材作成方法など各県教育センターで実施している研修会と同様な授業を行い、GIGA スクール構想に対応すべく教育方法・技術について演習を交え講義した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2018 年	教育工学会	
2.	2018 年	教育システム情報学会	
3.		情報コミュニケーション学会	一般論文査読 1 件 実践論文査読 1 件

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					

(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2023年4月～2025年3月	eポートフォリオによる学修成果の可視化コンソーシアム運営委員会	運営委員
2.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2023年4月～現在に至る	FD委員会（大学点検評価改善会議 FD部門会議）	
2.			

教授
渡邊 和美

■ 学歴

1. 2019 年 熊本県立大学大学院環境共生学研究科環境共生学専攻（修士課程） 卒業

■ 学位

1. 2019 年 修士（環境共生学）

■ 研究分野

1. 臨床栄養学
2. 栄養治療学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 栄養評価
2. 食事調査
3. 精神疾患

■ 研究課題

1. 精神疾患と栄養に関して食生活を中心にして考察する。また、抗精神病薬の副作用を考慮しながら、食事や生活習慣の乱れから起因する肥満や脂質代謝異常についても考察する。
2. 地域子ども食堂は「子どもの貧困」「孤食」「虐待」などの社会問題が背景にある。学生による栄養バランスの良い食事の提供や食育の支援を通じて、これからの管理栄養士のあるべき姿を考察する。

■ 担当授業科目

- | | | | |
|-----|----------|------------|----|
| 1. | 栄養治療学Ⅰ | （前期）（栄養学科） | 必須 |
| 2. | 栄養治療学Ⅱ | （後期）（栄養学科） | 必須 |
| 3. | 臨床栄養管理演習 | （前期）（栄養学科） | 選択 |
| 4. | 総合演習Ⅱ | （前期）（栄養学科） | 選択 |
| 5. | 管理栄養士演習Ⅱ | （通年）（栄養学科） | 選択 |
| 6. | 臨床栄養学実習 | （後期）（栄養学科） | 必須 |
| 7. | 臨床栄養活動論 | （後期）（栄養学科） | 選択 |
| 8. | 臨地実習Ⅱ | （後期）（栄養学科） | 選択 |
| 9. | 実践活動 | （通年）（栄養学科） | 選択 |
| 10. | 臨床栄養学 | （後期）（看護学科） | 必須 |
| 11. | 高齢者支援学Ⅰ | （前期）（福祉学科） | 選択 |
| 12. | 保健福祉学入門 | （前期）（看護学科） | 必須 |

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【栄養治療学】 ・パワーポイントを使用して、授業に使用したスライドを印刷して毎回配布を行った。 ・復習から始めて、授業まとめとして国試過去問を提示して学生に考えて貰うことで理解を促した。
2.	授業科目名【臨床栄養学実習】 ・教科書だけでなく、オリジナル資料を配布して、学生がより理解が深まるように工夫した。 ・治療食の実際について、調理から盛り付けまでを実演し、イメージしやすい実習内容に近づけた。
3.	授業科目名【臨床栄養活動論】 ・実務家教員の立場から、過去の経験を活かした事例紹介やエピソードを含めた内容とした。 ・スムーズな臨地実習Ⅱに結び付くような直前対策として、外部講師を招聘し特別講義を企画した。
4.	授業科目名【臨床栄養学】 ・パワーポイントを使用して、授業に使用したスライドを印刷して毎回配布を行った。 ・復習から始めて、授業まとめを簡単なクイズ形式として、学生に答えて貰うことで理解を促した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1983 年 4 月～現在	日本栄養士会	
2.	2008 年 1 月～現在	日本臨床栄養代謝学会	
3.	2013 年 4 月～現在	日本栄養改善学会	
4.	2018 年 1 月～現在	日本精神科医学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表 雑誌等又は発 表学会等の名 称	概 要
（著書）					
1.					
（学術論文）					
1.					
（翻訳）					
1.					
（学会発表）					

1.	2023.10	食事関連レシートをもとにした精神科デイ・ナイトケア利用者の食事調査	共著	第12回日本精神科医学会学術大会 (於 熊本城ホール)	①「朝食および休日の食事レシート」から栄養価計算を行った。栄養素摂取のアンバランスがみられた。コロナ過・災害時において、レシートによる食事調査は簡易的な方法であり、精神科領域では行いやすいと考えた。 ②共同発表者：江藤ひろみ、亀崎美和子 ③第12回日本精神科医学会学術大会 アブストラクト (P163)
----	---------	-----------------------------------	----	--------------------------------	--

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2023年4月から現在に至る	図書委員会	
2.	2023.10.18	朝の礼拝（司会）	
3.	2023.12.13	朝の礼拝（司会）	

准教授
藤和 太

■ 学歴

1. 2005 年 九州大学博士課程 卒業

■ 学位

1. 2005 年 博士（医学）

■ 研究分野

1. 栄養疫学研究
2. 分子疫学研究
3. 生活習慣病に関する疫学研究

■ 研究キーワード

1. 疫学
2. 遺伝子多型
3. 生活習慣病

■ 研究課題

1. 症例対照研究における DNA 修復酵素遺伝子多型と大腸がんに関する分子疫学研究
2. コーヒー摂取習慣関連遺伝子多型と 2 型糖尿病に関する疫学研究

■ 担当授業科目

1. 公衆衛生学 I（前期）（栄養学科）必須
2. 公衆衛生学 II（後期）（栄養学科）選択
3. 公衆衛生学（前期）（福祉学科）選択
4. 健康管理概論（前期）栄養学科 必須
5. 管理栄養士演習 I（通年）（栄養学科）必須
6. 国際栄養論（後期）（栄養学科）選択
7. 科学英語文献講読（前期）（栄養学科）選択
8. 実践活動（3 年後期-4 年前期）（栄養学科）選択
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|---|
| 1. | 授業科目名【公衆衛生学 I】 |
| | 聞き取れにくい場合があると予想していたので、できるだけきれいなスライドを作成し、授業内容が |

	分かりやすくすることに気がつけた。新しいシラバスに基づいて、予習・復習をすることを勧めた。クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。
2.	授業科目名【公衆衛生学Ⅱ】 公衆衛生学Ⅰでは、スライドを中心にした授業だったが、学生が教科書を読む習慣があまりないことに気がついた。それで、公衆衛生学Ⅱの授業中、学生に教科書の重要な部分を読ませることを取り入れた。また授業中に発表や討論など応用的内容を取り入れた。毎回小テストを実施し、理解度を確認した。クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。
3.	授業科目名【公衆衛生学】 公衆衛生学の授業中、学生に教科書の重要な部分を読ませることを取り入れた。また授業中に発表や討論など応用的内容を取り入れ、毎回小テストを実施し、理解度を確認した。クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。
4.	授業科目名【健康管理概論】 スライドの数を減らし、授業中の演習を増やして、学生の意欲を出そうとしたので、結果的に時間的な余裕を持つことができた。クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。
5.	授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】 国家試験対策の授業で、演習を中心に行った。また解説プリントなど資料をできるかぎり配布し、授業内容を充実させた。クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。
6.	授業科目名【国際栄養論】 「国際栄養論」は2単位（2時間×15回）の後期科目である。講義内容は各国の医療栄養制度、栄養摂取状況、食文化について勉強する科目である。履修登録学生は少なかったため、アクティブラーニングを活用し、課題に対し、自分で調べ、自分でまとめて、発表する形で授業を進めた。
7.	授業科目名【科学英語文献講読】 「科学英語文献講読」は1単位（2時間×8回）の後期科目である。主に栄養学に関する英語論文を講読する。履修登録学生は少なかったため、アクティブラーニングを活用し、英語論文をPubMedで調べ、調べた論文を講読し、発表するようにした。
8.	授業科目名【実践活動】 学生が研究テーマを決め、決められた研究テーマに関する先行研究を調べ、講読し、週一回発表する。最後に自分の研究テーマについてまとめて文章にし、口頭発表する形で学生が自分から能動的に勉強するよう工夫した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2002年10月～現在に至る	アジア太平洋がん予防学会	会員
2.	2003年1月～現在に至る	日本疫学会	会員、(2021-2022年、代議員)
3.	2003年10月～現在に至る	日本癌学会	会員
4.	2004年8月～現在に至る	日本がん疫学研究会	会員
5.	2010年12月～現在に至る	日本公衆衛生学会	会員

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.	2023 年 11 月	健康 管理 概 論 第 4 版	共著	講談社	① 栄養学 NEXT シリーズ教科書とし て編まれたもので、管理栄養士国家 試験ガイドライン「社会・環境と健 康」において、生涯を通じた健康管理 をまとめた教本である。妊産婦、乳幼 児、児童生徒、学生、成人及び高齢者 の健康管理の順で構成されている。 ② 監修者名：桑波田雅士 塚原丘美 共著者：久保加織、 <u>藤和太</u> 、他 17 名 ③ 担当部分：第 8 章 生徒の健康管理 (P127-144) 総頁数：P201 ④ B5 判
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	なし				
2.					
3.					
（翻訳）					
1.	2023 年 5 月	医学部教科 書、病気がみ える vol.11 運動器・整形 外科 モンゴル語・ 英語・日本語 語彙集	共著	Medic Media 名古屋大学	① 名古屋大学大学院医学系研究科医療 行政学、モンゴル国立医科学大学大 学院研修所と協力し、日本の医学部 教科書である「病気がみえる」シリー ズをモンゴル語に翻訳する作業を行 っている。2023 年 5 月に vol.11 のモ ンゴル語翻訳が終了し、印刷された。 ② 監修者名：浜島信之、バトウムル ト ウムルクヤク 共訳者名： <u>藤和太</u> 、ナラन्दエルガ ド ルゴル、オトゴンバト アルタンゲ レル ③ 担当部分：日本語のモンゴル語訳 (P1-103)

					総頁数：P103 ④ B5 判
2.	2023 年 4 月	医学部教科書、病気がみえる vol.5 血液 モンゴル語・英語・日本語語彙集	共著	Medic Media 名古屋大学	① 名古屋大学大学院医学系研究科医療行政学、モンゴル国立医科学大学大学院研修所と協力し、日本の医学部教科書である「病気がみえる」シリーズをモンゴル語に翻訳する作業を行っている。2023 年 4 月に vol.5 のモンゴル語翻訳が終了し、印刷された。 ② 監修者名：浜島信之、バトウムルトウムルクヤク 共訳者名： <u>藤和太</u> 、ナランデルガドルゴル、オトゴンバトアルタンゲレル ③ 担当部分：日本語のモンゴル語訳（P1-87） 総頁数：P87 ④ B5 判
3.					
(学会発表)					
1.	なし				
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)	
1.	なし				
2.					
3.					

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	なし			
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	なし		
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2017 年度～現在	保健福祉学部研究所運営委員会	委員
2.	2020 年度～2023 年度	予算委員会	委員
3.	2020 年度～現在	国際交流委員会	委員

准教授
浜谷 小百合

■ 学歴

1. 2023 年 福岡女子大学大学院人間環境科学研究科博士課程 卒業

■ 学位

1. 2023 年 博士（人間環境科学）

■ 研究分野

1. 学校栄養教育
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 子どもの食育
2. 学校給食
3. QOL（Quality of Life）

■ 研究課題

1. 学童期における食教育とその効果についての検討と考察
2. 小学生の食習慣と健康関連 QOL との関連についての考察

■ 担当授業科目

1. 学校栄養指導論Ⅰ（前期）選択
2. 学校栄養指導論Ⅱ（後期）選択
3. 栄養教育実習事前事後指導（通年, 3 年後期～4 年後期）選択
4. 栄養教育実習（通年） 選択
5. 教職実践演習（後期）選択
6. 総合演習Ⅰ（前期）必修
7. 臨地実習Ⅰ（後期）必修
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|---|
| 1. | 授業科目名【学校栄養指導論Ⅰ】 |
| | 本科目は、栄養教諭の職務内容や求められる役割について学ぶ専門科目である。また、学校給食の意 |

	義と役割の理解を深め児童生徒の食に関する課題とその解決策を探ろうとする意識や態度を持つことを目標とする。講義では、学んだ内容が理論のみで終わらないよう栄養教諭の実務経験から得た実務の実際例も提示しながら進めた。演習やグループワークを取り入れ、双方向の学びとなる授業を構成、実施した。
2.	授業科目名【学校栄養指導論Ⅱ】 本科目は、学校栄養指導論Ⅰをふまえて小中学校における食に関する指導内容、授業構想案の作成及び具体的な指導方法を理解することを目標とする。授業は、自作ワークシートを使用しながら授業構想の立案と学習指導案の作成方法についての指導スキルの習得を目指した。授業構想及び学習指導案の作成では、個別指導を実施し、現実的な授業計画となるよう導いた。
3.	授業科目名【栄養教育事前事後指導】 本科目は、実際の教育現場において実習を受ける際の心構えや留意事項、具体的な指導方法を理解、習得し、実習を効果的に進めることができることを目標とする。また、実習終了後には実習に関する反省や問題点等の分析を行い、今後の教育実践へと繋ぐことも目標としている。授業においては学習指導案の作成や模擬授業を複数回実施し、実習校からの要望に対応できるレベルの指導スキルの習得を目指した。また、希望者には別途個別指導を実施し、指導スキルのさらなる定着を図った。実習終了後は実習報告書やプレゼン発表資料を作成し、実習報告会を実施した。これからの教師には、ICT を活用した教材作成や授業作りが必須であることから、伝わる資料内容となるように指導助言を行った。
4.	授業科目名【栄養教育実習】 本科目は、履修した教職科目での理論やスキルを基盤に学校での食育指導の一端を体験することを目標とする。また、児童生徒の人格形成と身体の成長と発達に寄与しつつ、教育における研究課題を発見し、自己の望ましい教師像を形成することを目標とする。実習期間中には実習校の管理職や学級担任、栄養教諭と意見交換を行い、実習後の学生への指導や次年度以降の栄養教育実習の改善に役立てた。
5.	授業科目名【教職実践演習】 本科目では、他学科の教職課程指導者と協力した授業を実施し、将来的に栄養教諭になるために各自に必要と考えられる課題の発見と向上を目標とした。授業では、教育実習や教師としての資質能力に関する自己確認シートを用いて各自の残された課題を発見し、グループワークやディスカッションを通じて、自己の解決を目指す場を設定した。また、外部講師として現職の栄養教諭を招いて意見交流を行い、栄養教諭の実務に対する多様な視点を持たせ栄養教諭になるための学びの集大成とした。
6.	授業科目名【総合演習Ⅰ、臨地実習Ⅰ】 本科目は、臨地実習Ⅰ（小学校、事業所、児童福祉士悦、高齢者福祉施設における給食の運営に関わる学外実習）と併せた演習である。実習前の指導、実習に向けた事前課題学習、実習時に行う栄養指導媒体作成、実習報告会に向けたプレゼンテーションの作成に関して、本科目担当教員、助手教員とともに演習時間外も含めて指導に尽力した。臨地実習中には、実習先の管理職（施設長）及び関係職員の方々と意見交換を行い、実習後の学生指導や次年度以降の臨地実習の改善に役立てた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2015年5月～現在に至る	日本栄養改善学会	

2.	2017 年 1 月～現在に至る	日本食育学会	
3.	2020 年 11 月～現在に至る	日本公衆衛生学会	
4.	2021 年 9 月～現在に至る	日本健康支援学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	2024 年 3 月	健康支援学 会 第 10 回 優秀論文賞 受賞 「小学校 5 年生児童の 食習慣、食環 境および保 護者の食習 慣と 1 年後 の児童 QOL との関連：縦 断的検討」	共著	日本健康支援学 会健康支援 第 24 巻 2 号 157- 165	児童が朝食を毎日食べる食習慣は児童 の 1 年後の QOL の高さの維持や向上と 関連していることが示唆された。保護者 の朝食を毎日食べる習慣は 1 年後の児童 QOL の高さの維持や向上と関連があり、 児童の朝食を毎日食べる習慣との一致 性があったことから、児童の QOL 向上 には保護者の食習慣が重要であること が再認識された。
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共同研究

	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個 人 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 10 月～2024 年 2 月	北九州市学校給食調理等業務委託業者選考委員会	委員
2.	2023 年 11 月 23 日	「食と健康」に関する西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座～「親子で歯っぴー食育講座」～	講演「おうちで楽しく食育」を担当
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～現在に至る	教職課程委員会	
2.			
3.			

講師

船越 淳子

■ 学歴

1. 2010 年 中村学園大学大学院 栄養科学研究科 博士後期課程 修了

■ 学位

1. 博士（栄養科学）

■ 研究分野

1. 食品科学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 機能性
2. 穀類、豆類
3. 糠床

■ 研究課題

1. ササゲ豆に関する研究
ササゲ豆を粉末化し新たな商品を創成する。食品の機能性や物性の測定による科学的評価、官能評価による嗜好的な評価を加え考察する
2. 糠床の美味しさに関する研究

■ 担当授業科目

1. 食品学Ⅰ（１年・前期） 必須
2. 食品学Ⅱ（１年・後期，２年・前期） 必須
3. 食品学実験（１年・後期） 必須
4. 食品栄養実習（２年・前期） 必須
5. 初年次セミナーⅠ（１年・前期） 必須
6. フードスペシャリスト論（１年・前期） 選択
7. 食品流通・消費論（２年・後期） 選択
8. 管理栄養士演習Ⅰ（４年通年） 選択
9. 実践活動（３年後期～４年前期） 選択
10. 調理師論（夏季集中） 選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【食品学Ⅰ】 本科目は、栄養成分の化学的性質、食品成分間の相互作用、pH、加熱、光などによる成分の変化、さらに食品の色、味、香りの機能性や役割など、食品に関する基礎的知識の修得を目標としている。テキストを中心として授業を行うが、各項目をまとめた資料の配布を継続して行った。また、授業初めには、授業の目的を提示し、特に理解しなければならない点を把握させることを意識づけた。さらに、授業の振り返り、理解度の把握のために、小テストを実施した。
2.	授業科目名【食品学Ⅱ】 本科目は、農産食品、畜産食品、水産食品、微生物利用食品、機能性食品などの素材となる食品の種類、分類、性状、化学成分、機能性、さらに食品の基本的性質を基にした利用法（加工と貯蔵への応用、微生物を利用した発酵食品など）について理解することを目標としている。また、授業初めには、授業の目的を提示し、特に理解しなければならない点を把握させることを意識づけた。項目ごとにまとめた資料の配布や、授業の振り返り、理解度の把握のための小テストは昨年度同様に実施した。
3.	授業科目名【フードスペシャリスト論、食品流通・消費論】 科目は、フードスペシャリスト資格取得のための必修科目であり、フードスペシャリストとして社会で活躍するために必要な知識（食文化、食品の開発・流通～消費、食品の情報、など）や、日本の食市場の変化、食品の流通ならびに食料消費の課題を理解することを目標としている。授業はスライドを用いて行い、重要項目をまとめるためのプリントを配布し、それをレポートとして提出を課した。さらに、授業の振り返り、理解度の把握のために、小テストを実施し、フードスペシャリスト資格認定試験の過去問を活用した。
4.	授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】 本科目は、管理栄養士国家試験の『食品学』分野を理解することを目標としている。過去5年分の問題を用いて、各食品のポイントを理解できるように授業を組み立てた。夏期までは食品ごとに、問題を解き授業を進めた。後期からは毎回10問程度過去問を解き、解説を繰り返し行い理解できていない点がしっかりと学生自身で把握できるよう授業を行った。
5.	授業科目名【食品学実験】 食品成分の分類や特性について理解することを目標としている。「食品学Ⅰ」で学んだことを踏まえて、実験を通して体得できるよう授業を行った。実験の原理や食品成分の特性などを解説し、実験の流れは器具を使って説明を加えた。今年度は班の担当者が結果・考察を教員に説明する時間を設け、実験の目的を把握し、結果をもとに自ら考察すること意識づけた。
6.	授業科目名【食品栄養実習】 食品加工における製造原理やその特徴について理解することを目標としている。「食品学Ⅱ」で学んだことを関連付けて理解できるよう食品の製造原理の説明を行った。加工食品の製造に関する流れやポイントは、実際にデモンストレーションを行う際に説明を加え、製造した食品は試食後、官能評価を行い製造した食品に対する評価を行った。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2005年4月～現在に至る	日本食品科学工学会	

2.	2008 年 4 月～現在に至る	日本食品保蔵科学会	代議員
3.	2019 年 1 月～現在に至る	日本栄養改善学会	
4.	2019 年 7 月～現在に至る	日本食生活学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.	2023 年 9 月	イ ラ ス ト 食品学各論	共著	東京教学社	管理栄養士国家試験のガイドラインに沿って構成されている。食品の成分、特徴や、食品加工、食品流通、などについてまとめたテキストである。
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.				
2.				
3.				

（2） 個 人 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	交付決定額	備 考

			(単位：円)	
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 8 月	「(仮称) 発酵 JAPAN 2023 企画運営業務」委託事業者選定	審査委員
2.	2023 年 6 月	日本食品保蔵科学会第 72 回	大会実行委員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～現在に至る	学生募集委員	
2.	2018 年 4 月～現在に至る	フードスペシャリスト資格試験 分担者	
3.	2022 年 4 月～現在に至る	水泳部	顧問
4.	2023 年 9 月、2024 年 2 月、3 月	臨地実習 I、II、III 巡回指導	
5.	2023 年 4 月～2024 年 2 月	4 年生学習支援対策講座実施	
6.	2023 年 6 月	高校訪問	
7.	2023 年 4 月、12 月、2024 年 2 月	模擬講義、進路ガイダンス	
8.	2024 年 3 月	春の対策講座（2 年生対象）	

准教授

山田 志麻

■ 学歴

1. 2017年3月 九州歯科大学 地域健康開発歯学分野 (博士課程) 単位取得満期退学

■ 学位

1. 2019年12月 博士(歯学)

■ 研究分野

1. 調理・調理科学
2. 食育
3. 高齢者の栄養

■ 研究キーワード

1. フードコーディネート
2. 食文化
3. 低栄養

■ 研究課題

1. 在宅高齢者の口腔・栄養状態実態調査
2. 次世代向けおせち料理の開発

■ 担当授業科目

1. 基礎調理学実習(前期)(栄養学科) 必須
2. 調理学(前期)(栄養学科) 必須
3. フードコーディネート論(前期)(栄養学科) 選択
4. 実践調理・調理科学演習(前期)(栄養学科) 選択
5. 高齢者支援学Ⅰ(後期)(栄養学科) 選択
6. 調理師論(後期)(栄養学科) 選択
7. 応用調理学実習(後期)(栄養学科) 必須
8. 初年次セミナー(後期)(栄養学科) 必須
9. 管理栄養士演習Ⅰ(通年)(栄養学科) 必須
10. 実践活動(通年)(栄養学科) 選択
11. 臨床栄養活動論(後期)(栄養学科) 選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|----------------|
| 1. | 授業科目名【基礎調理学実習】 |
|----|----------------|

	食や栄養、食文化やマナーなどに関して、知識や理解、経験等が乏しい現代の学生を対象としているため、食品について見る、触れる、切る、調理、盛付、配膳まで一連の流れが理解できるようつとめた。また、食品の取り扱いや食品成分表の使い方、栄養価計算の方法まで次の応用調理学実習で活用できるよう周知徹底させた。
2.	授業科目名【調理学】 調理学の中核として、食材それぞれの特徴、取扱い（保存や調理加工）、それにとまなう調理科学について、例をあげながら具体的に説明した。单元ごとにまとめた復習プリントを作成し、すべての重要項目や国試出題頻度の高いキーワードについて学習させた。
3.	授業科目名【フードコーディネート論】 フードスペシャリスト認定試験 100%合格のため、ガイドラインにそった講義を行い、過去問で出題頻度の高い問題やキーワードを中心に单元ごとにまとめて講義した。
4.	授業科目名【実践調理・調理科学演習】 1年時から学習してきた調理学及び調理科学のまとめとして、数種の官能評価を実施・集計し、その結果を評価できるように実践した。また、食品材料の特性を知り、食品の組織や成分の変化を化学的・物理的な面から学ぶため、実験及び測定を行った。その他、未知の調味料や食材について学習し、実際に調理することで想像力や実践力を身に付けられるよう工夫した。
5.	授業科目名【高齢者支援学Ⅰ】 看護・福祉と合同で高齢者を支援するための知識を習得し、さらに PBL の導入により、それぞれの分野や立場から、課題の抽出、問題の解決を図れるよう、学習内容を検討した。他学科の学生が互いに率直な意見を述べ問題解決までの話し合いとまとめができるよう環境づくりを心掛けた。
6.	授業科目名【調理師論】 1年前期に学んだ調理学、食品学、解剖生理学等の復習および調理師として、その他に必要な領域を総合的に学び、調理師としての知識を習得するよう、専門分野ごとに複数の教員が指導に当たるようオムニバス形式としている。
7.	授業科目名【応用調理学実習】 1年前期で学んだ基礎調理の知識や技術を活かし、さらに応用調理の技術を身につけるため、低コストで簡単に時短料理を作れるよう心掛けた。また、少量調理から大量調理へステップアップするため、食品の重量やカサ、栄養や見た目の彩や盛付など幅広く説明を行った。
8.	授業科目名【初年次セミナーⅡ】 初年次セミナーⅡは、前期初年次セミナーⅠより、ブラッシュアップした形で、大学生として必要な学習能力を向上するための支援を行った。遠隔授業だったため、グループワークを円滑に行えるよう努めた。
9.	授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】 1年次に履修した調理学の復習及びまとめを行い、基礎的な栄養士認定試験問題から複雑な国家試験問題まで、問題を解かせ解説を行った。
10.	授業科目名【実践活動】 数名のグループに分かれ、テーマにあったデモンストレーションを実施した。計画、買出し、実演することで、栄養士としての立場を理解し、アンケートの実施により実践の評価を行った。

	自らが今後の課題を見つけ、学習目標につながるよう努めた。
11.	授業科目名【実践栄養活動論】 臨地実習Ⅱ（臨床栄養：病院実習）を履修するために重要な科目である。臨床における管理栄養士の役割や臨床栄養管理業務と給食経営管理業務の関連を理解し、チーム医療での管理栄養士の役割を理解するよう努めた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1997 年 4 月～現在に至る	日本栄養改善学会	
2.	1997 年 4 月～現在に至る	日本家政学会	九州支部
3.	2013 年 4 月～現在に至る	日本口腔衛生学会	
4.	2013 年 4 月～現在に至る	日本調理科学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）

1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2016 年 4 月～現在に至る	グリーンパーク食育事業	食育担当
2.	2019 年 4 月～現在に至る	井筒屋コラボおせち	監修
3.	2022 年 4 月～現在に至る	八幡バプテスト教会	役員・司式
4.	2023 年 4 月～現在に至る	商船三井プロジェクト	スイーツ担当
5.	2023 年 4 月～現在に至る	タニタ食堂	レシピ担当
6.	2021 年 6 月～現在に至る	福岡県栄養士会小倉北支部	小倉北区運営委員長
7.	2021 年 6 月～現在に至る	福岡県栄養士会研究教育部会	委員
8.	2023 年 7 月 29 日	星琳高等学校オープンスクール	講師
9.	2024 年 3 月	北九州市立ユースステーション	調理実習講師
10.	2024 年 1 月～	九電(未活用農作物の商品開発)	調理担当

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2016 年 4 月 ～現在に至る	ハラスメント委員会	相談員
2.	2016 年 4 月 ～現在に至る	宗教委員会	委員
3.	2016 年 4 月 ～現在に至る	アドバイザー	
4.	2017 年 4 月 ～現在に至る	生協組合	理事
5.	2018 年 4 月 ～現在に至る	フードスペシャリスト認定試験	責任者
6.	2019 年 4 月 ～現在に至る	大学チャペルアワー	司会
7.	2019 年 4 月 ～現在に至る	朝礼	司会
8.	2019 年 4 月 ～現在に至る	弓道部	顧問
9.	2021 年 4 月 ～現在に至る	国試対策委員	とりまとめ
10.	2021 年 4 月 ～現在に至る	キリスト教センター運営委員会	副委員長

11.	2023 年 4 月 ～現在に至る	栄養士実力認定試験	責任者
12.	2023 年 4 月 ～現在に至る	就職委員会	委員
13	2023 年 8 月 19 日	オープンキャンパス	ブース担当
14	2023 年 10 月	大学チャペルアワー	奨励講師
15	2023 年 2 月 1 日	校内進路ガイダンス(稲築志耕館)	講師
16	2023 年 3 月 14 日	校内進路ガイダンス (若松)	講師

講師

永田 純美

■ 学歴

1. 2010 年 中村学園大学大学院 栄養科学研究科 博士前期課程 修了

■ 学位

1. 2010 年 修士（栄養科学修士）

■ 研究分野

1. 給食経営管理
2. スポーツ栄養
- 3.

■ 研究キーワード

1. 給食
2. マーケティング
3. 運動生理学

■ 研究課題

1. 食品企業へのレシピ提供による、マーケティング効果について
2. 給食を媒体とした栄養教育の効果について

■ 担当授業科目

1. 給食計画論
2. 給食経営管理論
3. 給食経営管理実習Ⅰ
4. 給食経営管理実習Ⅱ
5. 総合演習Ⅰ
6. 臨地実習Ⅰ
7. 管理栄養士演習Ⅱ
8. 実践活動
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|---|
| 1. | 授業科目名【給食計画論】 |
| | 給食経営管理に求められる給食の計画・生産（調理）・サービス・評価にかかわる基本的な知識を修 |

	得するための科目である。栄養・食事管理においては、演習を取り入れ実践的な学びができるよう工夫した。本科目は給食経営管理実習の準備科目でもあるため、修得した知識をどのように実習に活かすか、また、実務家教員として現場のどのような場面で必要になるのかを写真や図表を用いて説明した。知識の定着を図るために、項目ごとに小テストを実施した。管理栄養士国家試験や栄養士実力認定試験の問題も加え、講義での学びと国家試験の結びつきを意識できるよう工夫した。
2.	授業科目名【給食経営管理論】 給食を効率かつ安全に運営するための給食システムおよび組織の構築とそのマネジメントを理解するための科目である。本科目は、経営学や経済学に関する内容を含むため、テキストの内容のみでは理解が難しいことがある。そのため、パワーポイントのスライドや配布資料に、テキストに記載のない予備知識や図表を加え、理解が深まるための工夫を行った。また、過去に管理栄養士国家試験問題で出題された計算問題やデータの解釈が必要な項目に関しては演習を含む講義形式とした。給食計画論と同様、知識定着のための小テストの実施、給食経営管理実習や実務での知識の活用方法についても説明した。
3.	授業科目名【給食経営管理実習Ⅰ】 給食管理業務の運営計画から実施・評価までの一連のマネジメントサイクルの流れに沿って学び、特定給食施設における管理栄養士の職務内容と、給食経営管理の知識・技術を体験的に理解することを目的とする実習である。給食に関する初めての实習であるため、帳票の作成方法、給与栄養目標量の設定方法、食品構成および食品群別荷重平均成分表の作成方法について、演習を交えて指導した。また、実際の給食現場では、これらの作業を給食管理ソフト上で行うため、パソコンを使用した実践的な演習を実施した。給食実習では、特に調理実習と違う工程や調理方法を行う際は、全ての学生に対して必ずデモンストレーションを行い、少量調理と大量調理の違い、安全・衛生面における注意点を説明した。臨地実習Ⅰにつながる実習でもあるため、礼儀や身だしなみ、気配りなどについても指導を行った。
5.	授業科目名【給食経営管理実習Ⅱ】 給食経営管理実習Ⅰに引き続き、給食経営に関わる一連のマネジメントについて体験的に学ぶ実習である。Ⅰでは栄養・食事管理を重点的に実施したが、Ⅱでは経営管理、会計・原価管理、情報処理管理といった給食のトータルシステムにおける支援システムを中心とした指導を行った。また、給食提供後の評価・改善方法について重点的に説明した。給食実習では、各グループで作成した献立を調理し、他学年に提供した。給食の計画に当たっては、学生の自主性を尊重するため、コミュニケーションを密に行いながら、学生の考えを引き出し、各学生やグループに合ったアドバイスを行うように努めた。給食実習の他、給食に関わる調査研究を各グループで実施し、情報をまとめる力やプレゼン能力が養える実習になるよう工夫した。
6.	授業科目名【総合演習Ⅰ】 本科目は、臨地実習Ⅰに臨むための準備科目として位置づけられ、これまで修得した給食経営管理論等の知識を用い、栄養アセスメント手順、経営管理に関する総合的なマネジメントを振り返り、修得することを目的とする。また、給食対象者への栄養情報の必要性を理解し、栄養教育を通じて適正な情報提供ができる技術を修得する。臨地実習Ⅰに臨むにあたり、給食施設と給食対象者の特性を理解し、給食提供現場の管理者としての責務を学ぶ必要がある。そのため、福祉施設や学校で勤務する管理栄養士を招聘し、実践的な学びの機会を設けた。栄養教育の指導において、指導案の返却は個別対応を行い、学生1人1人に合わせた指導に努めた。また、実務家教員として実例を加えたアドバイ

	スを行い、学生の理解が深まるよう工夫した。
7.	授業科目名【臨地実習Ⅰ】 臨地実習Ⅰは、学外の実務家教員による実地の給食運営、栄養教育の指導を受け、給食運営・給食技術の実際を体験的に学ぶ。また、大学での学びと、特定給食施設で栄養士・管理栄養士が果たす専門分野のマネジメント業務に関する知識と技術との統合を図ることが目的である。学内においては、事前指導として、臨地実習Ⅰに必要な給食運営に関わる知識の復習、栄養教育方法、社会人として必要なマナー、臨地実習の心得について実務経験を踏まえて指導を行った。事後指導として報告会を実施し、実習先での学びを学生間（下学年含む）で共有できる体制作りに努めた。
6.	授業科目名【管理栄養士演習Ⅱ】 給食経営管理論を担当している。過去問 5 年間および業者模試の解説、項目別の説明を実施した。給食経営管理論は理論的知識と実践的知識が必要となるため、実務家教員として両方の視点を踏まえた説明をするように努めている。また、知識の定着・整理を目的とし、出題基準に沿った講義内容、図や表を用いて視覚的な理解ができるよう工夫した。担当教科のみではなく、他教科との結びつき、問題の解き方、勉強方法についても説明し、学生の希望があれば個別対応も行った。
6.	授業科目名【実践活動】 今年度は前任者からの引き継ぎにより、4 年前期のみ担当した。（本来は 3 年後期～4 年前期）給食経営管理におけるマーケティングの一環として（株）ハローデイ様と産学連携を行っている。2023 年度はサントリーフーズ（株）様の商品を PR するためのレシピを提供した。レシピ提供にあたって、ターゲットとする消費者層を検討し、ターゲット層にあった給与栄養目標量を設定した。作成したレシピは試作を行い、料理写真の提供も行った。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2017 年 4 月～現在に至る	日本栄養士会	
2.	2019 年 7 月～現在に至る	日本栄養改善学会	
3.	2022 年 4 月～現在に至る	日本給食経営管理学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					

(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1.	「食と健康」に関する西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座 ～「親子で歯っぴー食育こうざ」～	西南女学院大学共同研究費	○坂田郁子 高崎智子 浜谷小百合 永田純美 竹下諄美 矢野夏実 (邵 仁浩) (中道敦子) (船原まどか) (辻澤利行)	50,000 円
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2018年～現在に至る	「食と健康」に関する西南女学	給食提供（企画・運営）

		院大学・九州歯科大学連携公開講座	食育講座
2.	2023 年～現在に至る	(株)ハローデイとの産学連携	レシピ提供 2023 年度：サントリーフーズ(株)
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	公開講座委員会	委員
2.	2023 年 4 月～現在に至る	料理研究部 (女子大生ネットワークサークル)	顧問
3.	2023 年 7 月	オープンキャンパス 給食ってどうやって作る？～大量調理機器と調理方法について知ろう～（模擬授業）	講師 食事提供
4.	2024 年 3 月	オープンキャンパス 大学の調理実習を知ろう！	講師 食事提供

講師

永原 真奈見

■ 学歴

1. 福岡女子大学大学院 人間環境科学研究科博士後期課程 人間環境科学専攻 修了

■ 学位

1. 博士（人間環境科学）

■ 研究分野

1. 栄養教育学
2. 実践栄養学

■ 研究キーワード

1. 食育
2. 食事調査・食事診断
3. 料理区分
4. 特定保健指導

■ 研究課題

1. 主食・主菜・副菜等の料理区分を活用した食事評価
2. 女子大学生における朝食摂取状況、運動習慣、身体あるいは精神上の自覚症状に関する検証
3. 福岡県内のある市における食育に関する調査結果の検証
4. 特定保健指導における減量目標及び長期的指導効果の検証

■ 担当授業科目

1. 栄養教育論Ⅰ（2年後期）
2. 栄養教育論Ⅱ（3年前期）
3. 栄養教育基礎（1年後期）
4. 栄養カウンセリング論（3年後期）
5. 栄養教育論実習Ⅰ（3年前期）
6. 地域栄養活動論（3年後期）
7. 管理栄養士演習Ⅱ（栄養教育論）（4年前期・後期）
8. 臨地実習Ⅲ（3年後期、4年前期）
9. 初年次セミナーⅠ（1年前期）
10. 実践活動（（3年後期、4年前期））

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【栄養教育論Ⅰ】 管理栄養士国家試験の出題基準における「栄養教育論」分野は、年々、問題の難易度が上がっている傾向にある。毎回の講義は、教科書に加えて、パワーポイントによるスライド（ムービー等も利用）とプリント資料（書き込み欄付）を作成・配布し、学生の理解度が深まる工夫を行っている。また毎回、前回の講義内容の復習小テストを実施し、学生の理解度を把握しながら講義を進めている。2年生で履修する科目であるが、国家試験において出題頻度が高い用語についてはその旨を強調し、時には過去問を示して解説を行うことで、国家試験対策にも通じるよう工夫している。
2.	授業科目名【栄養教育論Ⅱ】 栄養教育論Ⅰで学んだ理論を基に、各ライフステージやライフサイクルに応じた栄養教育の特徴や課題、国や自治体における健康づくりの制度及び施策について解説している。栄養教育論ⅡにおいてもⅠと同様に、毎回、前回の講義内容の復習小テストを実施し、学生の理解度を把握しながら講義を進めている。また、講義の中で各ライフステージにおける実践活動の実際を紹介することで、学生がイメージしやすいように工夫している。
3.	授業科目名【栄養カウンセリング論】 栄養教育論Ⅰ・Ⅱの講義で学んだ基本的なカウンセリング技法を用いて、行動科学の理論に基づいたカウンセリングを行う実践的スキルについて解説している。様々な課題やライフステージ別の事例を用いた演習を取り入れることで、行動科学理論への理解が深まるよう工夫している。
4.	授業科目名【栄養教育基礎】 本科目は、1年次を対象に、健康増進や疾病予防を目的とした栄養教育手法を学ぶ上で基本となる概念の解説、及び管理栄養士に必要とされる知識・技能・態度の養成を目指して、2023年度より新設した科目である。2年次以降に始まる専門科目の履修につなげられるよう、動機づけや意識づけに重きをおいている。
5.	授業科目名【栄養教育論実習Ⅰ】 栄養教育論Ⅰ・Ⅱの講義で学んだ知識・理論を基に、個人及び集団におけるカウンセリングや栄養教育を実際に体験し、計画・実施・評価・改善を通して栄養教育マネジメントスキルを習得することを目標としている。健康や食生活に関する情報収集、優先課題の特定、学習計画の立案、実施、評価、改善までのPDCAサイクルの作業を体験的に学ぶことで、実践につなげられるよう工夫している。
6.	授業科目名【地域栄養活動論】 地域のあらゆる場面で活躍する管理栄養士の業務内容について、実際の手法をもとに解説を行い、管理栄養士の役割について解説している。また、地域栄養活動実践の概要と行政組織、地域における公衆栄養活動プログラム立案の手法等についても理解が深まるよう工夫している。
7.	授業科目名【管理栄養士演習Ⅱ（栄養教育論担当）】 「栄養教育論」分野を担当している。国家試験対策の模擬試験受験後に配布される解答・解説書は、解説が簡素であることが多いため、「栄養教育論」分野に苦手意識をもつ学生も多い。出題された問題の各選択肢について、解答のみにとどまらず、その範囲で系統化して習得しておくべき基礎知識も併せて解説している。
8.	授業科目名【臨地実習Ⅲ】 臨地実習Ⅲでは、保健所へ実習に行く学生の指導を行う。実習期間中に実施される実習課題や研究

	授業内容を事前に確認し、より円滑に実施できるよう指導している。臨地実習の巡回時には、実習中の学生への助言及び学生の研究授業の講評を行っている。実習報告会では、各施設での実習内容について講評を行い、教員としての立場から実習の効果が最大限に得られるよう努めている。
9.	授業科目名【初年次セミナーⅠ】 学生自らが目的をもって主体的に学ぶための着想力、論理性、表現力、独創性などの力を養成するため、1年生を対象に、スタディ・スキルの基本である『聞く』『調べる』『読む』『書く』『考える』の強化を図ることを目的とした科目である。その中でも、ノート・テイキングやリーディングに関する講義を担当し、例題を使って実際に体験させながら習得させることで、講義の中で定着を図るよう工夫している。またグループディスカッションを行う講義も担当しており、学生の発想を大切にしながら、自由に意見交換ができる場の提供を心がけている。
10.	授業科目名【実践活動】 栄養教育に関連した文献を探求し、内容を適切にまとめ、紹介するスキルの習得を目指している。また、高校生や成人を対象とした栄養教育の実践を通して、栄養教育手法を身に付け、社会人として働く上でのより実践的な知識とスキルの習得ができるよう心がけている。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2001年4月～現在に至る	日本栄養士会	
2.	2018年4月～現在に至る	日本食育学会	編集委員
3.	2019年9月～現在に至る (2001年4月～2016年2月まで所属)	日本栄養改善学会	
4.	2022年4月～現在に至る	日本健康教育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著 共著	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）					
1.					
（学術論文）					
1.	2023年10月	小中高校生における一人で料理を作れるか否かの認識の違いによる食生活習慣及び食育への意識の差異の検証	共著	日本食育学会誌 17, 199-207	福岡県内のある市における小中高生の食育に関する調査結果を二次利用した。小中高の学年進行に伴って、毎日の朝食摂取、共食、適切な就寝時刻、食事の挨拶、よく噛む等の望ましい食生活習慣を有する者の割合が減少する実態が明らかとなった。また、一人で料理が作れるという肯定的な認識は、食事の楽しさ、食事の挨拶、よく

					嚙む、生産者との交流体験、伝統・郷土料理や食育への興味関心等の全ての項目において、好ましい影響を及ぼす可能性が示唆された。
2.	2024 年 3 月	商船三井テクノトレード MOTENA-Sea 親子ふれあい企画	共著	西南女学院大学 地域活動論叢 2023年度 12-14	小学生15名及び幼児12名とその保護者を対象に、遊びながら北九州市で獲れる魚や魚を使った料理、バランスのよい食べ方について学べる食育を提供した。対象の子ども達から食育媒体と実生活を結び付けて考える発言が得られ、魚食を促す一助となった。
(翻訳)					
1.					
(学会発表)					
1.	2023 年 9 月	女子大学生における朝食摂取状況の違いによる運動習慣や身体あるいは精神上的の自覚症状の検証	共著	第 70 回 日本栄養改善学会 (開催：名古屋)	女子大学生の朝食バランスや小学生からの朝食摂取習慣の違いによる、運動習慣、身体あるいは精神上的の自覚症状の違いについて検証し、朝食摂取が心身に与える影響を明らかにすることを目的とした。朝食のバランスは生活活動や運動の頻度、睡眠導入、小学生からの朝食摂取習慣は朝食バランス、睡眠導入、イライラ感に影響を及ぼす可能性が示唆された。
2.	2024 年 3 月	商船三井テクノトレード MOTENA-Sea 親子ふれあい企画	共著	地域貢献活動 交流会 (開催：西南女学院大学)	商船三井テクノトレード株式会社及び株式会社 MOTENA-Sea との先進船舶活用企画「MOTENA-Sea プロジェクト」の一環として、学童及びその家族を対象に、船上でできる遊びをイメージしつつ、保育科と共同でプレイベントを大学内にて開催した。栄養学科は、遊びながら北九州市で獲れる魚や魚を使った料理、バランスのよい食べ方について学べる『食育』を担当した。

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者	交付決定額

			○代表者（ ）内は学外者	(単位：円)
1.	若い世代の食育推進事業	北九州市	○坂田 郁子 永原 真奈見	69,916 円
2.	商船三井テクノトレード MOTENA・Sea 親子ふれあい企画	西南女学院大学	○永原 真奈見 細井 菜穂子	50,000 円

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 6 月 13 日	高校生における模擬講義	講義「朝ごはんを制する者は 人生を制する！！！」 対象:山口県立小野田高等学校 3年生
2.	2023 年 7 月 15 日	サッカークラブチーム SANXTUS 中学生及び保護者講習会	講習「食事を制する者は人生を制す」 対象:中学1・2年生30名と保護者20名
3.	2023 年 7 月 23 日	みらいつなぐ北九州 60th イベント	Bonjour 株式会社主催の工作イベント において子育て中の母親を対象に料理 区分を用いた食事診断の実施
4.	2023 年 9 月 20 日	食育イベント 2023 (主催：北九州市、教育委員会) (協力：日本高血圧学会)	料理区分を用いた食事診断
5.	2023 年 10 月 31 日	高校生における課題研究授業	講義「この日本から朝食欠食を なくそうプロジェクト！」 対象:山口県立小野田高等学校3年生

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～現在に至る	学生委員	
2.	2022 年 4 月～2024 年 3 月	学習支援委員	
3.	2021 年 4 月～2023 年 3 月	教職課程委員	

役職・職位 講師

氏 名 森山 美加代

■ 学歴

1. 1997 年 中村学園大学 家政学部 食物栄養学科 管理栄養士専攻 卒業

■ 学位

1. 1997 年 学士

■ 研究分野

1. スポーツ栄養
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. スポーツ栄養
2. 栄養アセスメント
3. 食事調査
4. 栄養サポート

■ 研究課題

- 1.
- 2.

■ 担当授業科目

1. 臨床栄養管理学（2 年後期）（栄養学科）必須
2. 栄養教育論実習Ⅱ （3 年後期）（栄養学科）選択
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|----------------|
| 1. | 授業科目名【臨床栄養管理学】 |
|----|----------------|

	この教科では、テキストと PowerPoint を使用して講義を行った。PowerPoint では、要点をまとめ復習しやすいように作成した。また、確認テストを実施し、授業の理解度を確認しながら進めていった。
2.	授業科目名【栄養教育論実習Ⅱ】 栄養管理プロセスに基づいた栄養管理の実践のスキルを身につけるために、PowerPoint を使って解説した後、グループでの演習や課題に取り組んでいった。そして、ロールプレイングやプレゼンテーション発表を通して、実践のスキルを身につけていった。
3.	授業科目名【 】
4.	授業科目名【 】

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1997 年～現在に至る	(公社)日本栄養士会	正会員
2.	1997 年～現在に至る	(公社)福岡県栄養士会	副会長(2020 年～現在に至る) 筑後支部長(2022 年～現在に至る)
3.	2017 年～現在に至る	日本スポーツ栄養学会	正会員

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					

(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2022年7月～現在に至る	福岡県保険者協議会専門部会 企画調査部会	委員
2.	2022年～現在に至る	福岡県医療団体協議会	常務理事
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

人 文 学 部

英 語 学 科

■ 学歴

1. 修士（文学）（久留米大学 1995 年）

■ 学位

1. 修士（文学）（久留米大学 1995 年）

■ 研究分野

1. ジェンダー論
2. 家族社会学
- 3.

■ 研究キーワード

1. ジェンダー構造、企業中心社会
2. 日本型近代家族、性別役割分業
- 3.

■ 研究課題

1. ジェンダー論に関して日本の近代化に伴うジェンダーの構造化を中心に考察する。また、ジェンダー意識の形成の過程と現在の意識変容を把握し、今後の女性と男性のキャリア形成連についても考察する。
- 2.

■ 担当授業科目

1. 共生社会とジェンダー（前期）（人文学部及び保健福祉学部の全学科、保育科の2年次）選択
2. インターンシップ（前期）（英語学科）選択
3. キャリア開発（後期）（人文学部及び保健福祉学部の全学科1年次）必須
4. 女性史（後期）（人文学部及び保健福祉学部の全学科）選択
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【共生社会とジェンダー】 ジェンダー平等や男女平等教育、ハラスメント、性暴力の根絶などのテーマでワークショップを実施した。社会や学問に存在する性差に関わる既成概念や諸問題について講義で学習し、学んだことについてオンライン上でグループに分かれて意見交換した。性別にとらわれずに、国籍、人種、障害の有無などに関わらず多様な人々との共生社会のあり方について当事者性を持って考えられるよう、双方向でのアクティブラーニングで授業を進めた。
2.	授業科目名【インターンシップ】 実際の職場で就業体験する教育プログラムであるインターンシップを通じて、自らの職業観、勤労観を構築することを目的とする。就職そのものや自らの適性について考えを深めるために、就業体験の前に、6時間の座学の時間を設け、実務家として経験豊かな外部講師（一般社団法人学生就職支援協会職員）に講義を依頼した。
3.	授業科目名【キャリア開発】 これからの社会情勢を見据えてキャリアに関する最新の情報をネットで示した。多様な分野から外部講師を招き、多角的な視野でキャリア形成ができるよう支援した。 講義内容を自分のキャリアと結び付けて考えられるよう、レポートを作成させた。
4.	授業科目名【女性史】 現在の日本の女性の意識形成の過程を確認するという趣旨で、主に明治以降と第2次世界大戦後の教育や政治体制を対比させ、さらに、近代化が現在の学生の実態に与えた影響を理解し、歴史を生きた情報として学習意欲を高めた。卒業後、就職や家族形成など自己決定する際に、社会の仕組みの歴史的背景を理解したうえで適正に情報選択できるよう、課題を提供した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1993年9月	西日本社会学会	
2.	1993年10月	日本社会分析学会	
3.			

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
1.	特になし				
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	特になし				
2.					
3.					

(翻訳)					
1.	特になし				
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	特になし				
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	特になし			
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	特になし			
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2002 年 3 月～現在に至る	特定非営利活動法人福岡ジェンダー研究所	理事兼研究員
2.	2014 年 4 月～現在に至る	福岡県同和問題をはじめとする人権問題に係る啓発・研修講師団	講師
3.	2017 年 7 月～現在に至る	福岡県エイズ・性感染症対策推進協議会	委員
4.	2017 年 7 月～現在に至る	福岡県人権施策推進懇話会	委員
5.	2015 年 4 月～現在に至る	古賀市男女共同参画審議会	会長
6.	2017 年 4 月～現在に至る	志免町男女共同参画推進審議会	会長

7.	2018 年 8 月～現在に至る	九州大学文学部同窓会	会長
----	------------------	------------	----

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	特になし		
2.			
3.			

教授

クリステン マリー サリバン

■ 学歴

1. 2013 年 マッコーリー大学（オーストラリア）修士課程 修了

■ 学位

1. 2013 年 修士（応用言語学）

■ 研究分野

1. 応用言語学
2. 外国語教育
3. 日本学・日本語学

■ 研究キーワード

1. 留学、高等教育における国際化
2. 異文化コミュニケーション、異文化理解、異文化間能力の育成
3. ことばとアイデンティティ
4. 学習者アイデンティティ、学習者オートノミー
5. カリキュラム・デザイン、コース・デザイン

■ 研究課題

1. 日本と豪州の高等教育における国際化に関する政策および戦略の変遷と関係、日豪関係を背景にして両国の高等教育における国際化政策及び戦略、学術交流の在り方に関する研究
2. 留学の学習効果を高めるための取り組みの計画と評価、留学経験者の留学後のことなど、留学に関する研究
3. 異文化間能力の育成を目指すコース・デザインに関する研究
4. 外国語学習における自律学習能力・学習者オートノミーの育成を目指す実践的取組みに関する研究

■ 担当授業科目

1. 異文化間コミュニケーション I（前期）（英語学科）選択
2. エリア・スタディ I（前期）（英語学科）選択
3. 英語プレゼンテーション III（A クラス及び B クラス）（前期）（英語学科）選択
4. 異文化間コミュニケーション II（後期）（英語学科）選択
5. 国際ボランティア演習（後期）（英語学科）選択
6. グローバル英語 II（A クラス及び B クラス）（後期）（英語学科）選択
7. 日本語教育実習（通年）（英語学科、日本語教員養成）必須
8. 専門演習 I（前期）（英語学科）必須
9. 専門演習 II（後期）（英語学科）必須

10. 卒業研究（通年）（英語学科）必須
11. 人文学入門（1回）（前期）（人文学部総合人間科学）必須

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【異文化間コミュニケーションⅠ・異文化間コミュニケーションⅡ】 異文化間コミュニケーションⅠ・Ⅱでは、異文化コミュニケーションにおける誤解や失敗を取り上げるケースについてのグループディスカッションと発表、体験型アクティビティ、視聴覚資料、外部講師による講義、振り返り課題などを活用して、異文化コミュニケーションの概念への理解を深める工夫を行った。異文化間コミュニケーションⅡでは、日本における多文化共生および英語を使った異文化コミュニケーション、多文化な職場における異文化コミュニケーションというテーマを設定することで異文化コミュニケーションについてより具体的に考える機会を取り入れた。
2.	授業科目名【エリア・スタディⅠ】 CLIL（内容言語統治型学習）手法を用いて行う授業である。移民・多文化主義と先住民というテーマを通して様々な角度から豪州というエリアについて考えることができるよう授業を行った。様々な情報源や形の資料を活用することで学生の理解や関心を高めつつ、エリアを学ぶときの手法についても意識させるよう工夫した。また、授業で扱ったテーマを通して、そして授業で身につけた手法を用いて、豪州をさらに知り、他の地域についても調べて考えることができることを意識させるよう課題設定の面においても工夫を行った。
3.	授業科目名【英語プレゼンテーションⅢ】 通訳案内士に必要な知識および英語力を育成することを目標とした授業である。バイリンガル教材を活用して日本の地理・歴史・文化に関する知識を再確認しながら、それをどのように英語で伝えたら良いかを確認した。必要な表現力および知識をしっかりと身につけさせ、応用できるようになることをサポートするためのアクティビティなどを工夫しながら授業を行った。
4.	授業科目名【国際ボランティア演習】 カンボジアの幼児教育において活動しているチャリティ団体である TukTuk と協力して、PBL という形をとって、学生が主体的になってボランティア・プロジェクトの計画・実施・結果報告・振り返りが行えるよう授業運営を行った。ボランティア・プロジェクトの実施を通して、国際協力や世界の情勢について知識や意識を深めると同時に、チームワーク力、コミュニケーション能力、プロジェクト管理能力などのソフトスキルを向上させるよう授業運営を行った。
5.	授業科目名【グローバル英語Ⅱ】 ビジネス英語スキルの向上を目指す授業である。ビジネス場面における電話でのやり取り、メールの仕方、売り上げや財務状況等の情報の説明の仕方を中心に、実践的な授業展開を図った。その中で社内と社外、インフォーマルとフォーマルの表現の仕方の違いに気付かせ、両方を練習する機会をたくさん取り入れた。
6.	授業科目名【日本語教育実習】 日本語教員養成課程の最終段階として、実際に日本語学習者を対象に教壇実習を行い、今までに学んできた理論と実践の統合を目指した。前期では、オンラインツールを活用して海外に住む生涯学習者を対象にした教壇実習、後期ではアメリカのコミュニティカレッジに通う学生とのオンライン交流

	および北九州 YMCA での教壇実習を実施した。教案や教材、模擬授業等についてフィードバックをしっかりと行い、フィードバックの内容が次回に活かされていることを確認しながら指導を行った。一方で、学生のセルフリフレクションや学生同士のピアフィードバックや助け合い・チームワークを促すため、教員より前に本人やピアによる気づきやフィードバックの共有を必ず行ったり、すべての学生が率直に意見を述べられる雰囲気を作ったりするなど、日本語教員として求められる資質や能力が育成されるよう授業運営などにおいて工夫を行った。
7.	授業科目名【専門演習Ⅰ・専門演習Ⅱ】 ゼミのテーマ（諸国の移民政策および多文化をめぐる教育の取り組みと課題）に対する知識を身につけさせながら、調べる力、批判的思考力、チームワーク力、計画力、プレゼン力などを育成させることを目的とし、ゼミの運営方法において工夫を行った。専門演習Ⅰでは、学生は毎回異なる役割で授業での報告に励み、毎回学生全員が発言してゼミに貢献できるよう工夫を行った。専門演習Ⅱでは、前期の学習を踏まえ学生が選んだ研究課題を中心にゼミを行った。毎週のゼミで進捗状況を報告させ、フィードバックを行いながら学生の主体的な学びをサポートした。その中で、現場の声を直接聞くことの大切さについて考えさせるため、北九州国際交流協会へのヒアリング調査や地域日本語教室へのボランティアの機会を企画、提供した。学習・調査の成果を発表する場として山口県立大学の教員と合同ゼミ発表会を行った。
8.	授業科目名【卒業研究】 計画的に研究に取り組むこと、同級生の研究課題に関心を持つこと、同級生から学ぶことを大切にしてゼミ運営を行った。毎回の授業で学生一人一人にその週取り組んだことや研究の進捗状況などをクラスの前で発表させ、翌週の課題や計画を合わせて発表してもらった。それぞれの発表の後、フィードバックやアドバイスをを行った。クラスの前で発表やそれに対するフィードバックを行うことによって、お互いから学び合う機会をつくった。また、後期になって卒業論文の執筆やそれに対する一対一の指導が中心になってからでもゼミ生同士で支え合う、協力的な学習環境ができた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2005 年 9 月～現在に至る	全国語学教育学会	
2.	2013 年 1 月～現在に至る	大学英語教育学会	
3.	2013 年 9 月～現在に至る	日本自律学習学会	
4.	2019 年 4 月～現在に至る	留学生教育学会	
5.	2019 年 4 月～現在に至る	オセアニア教育学会	
6.	2021 年 6 月～現在に至る	言語文化教育研究学会	
7.	2021 年 7 月～現在に至る	Japanese Studies Association of Australia	
8.	2022 年 6 月～現在に至る	異文化間教育学会	
9.	2022 年 8 月～現在に至る	日本語教育学会	
10.	2023 年 5 月～現在に至る	大学日本語教員養成課程研究協議会	
11.	2023 年 6 月～現在に至る	日本言語政策学会	
12.	2023 年 7 月～現在に至る	オーストラリア学会	
13.	2023 年 7 月～現在に至る	小出記念日本語教育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
(著書)					
(学術論文)					
1.	2024.3	Discussions about Study Abroad and Student Exchange to Japan at Australian Universities in the Publications of the Japanese Studies Association of Australia: 1981 to 1997	単著	西南女学院大学 紀要, Vol. 28	① This paper surveys the early publications of the Japanese Studies Association of Australia (JSAA) with the aim of gaining an initial understanding of how student exchanges and study abroad to Japan came to be so prevalent within Australian universities. ② pp. 15-27
(翻訳)					
(学会発表)					
1.	2023.11	The Situation of Study Abroad and Student Exchange to Japan within Australian Universities in the 1980s and 1990s	単著	第 27 回オセア ニア教育学会 (於 群馬大学)	This paper aims to understand how study abroad and student exchange to Japan became so prevalent in Australia, and the conditions and circumstances which led to this, through an investigation of discussions about study abroad in the early publications of the Japanese Studies Association of Australia (JSAA).

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者	交付決定額

			○代表者（ ）内は学外者	(単位：円)
--	--	--	--------------	--------

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	Investigating Interconnections between the Higher Education Internationalization Policies of Japan and Australia	日本学術振興会	1,950,000 円	

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2011 年度～現在に至る	全国語学教育学会年次国際大会 査読委員会	査読者

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2022 年 4 月～2024 年 3 月	人事委員会	
2.	2022 年 4 月～2024 年 3 月	教務委員会	
3.	2022 年 4 月～現在に至る	国際交流委員会	副委員長
4.	2022 年 4 月～現在に至る	英語学科留学制度担当者：留学前・留学中・留学後のすべての段階において学生の支援を行うと共に、受け入れ先機関等と綿密な連携をとり、英語学科の留学制度の運営を行っている。	
5.	2024 年 3 月～現在に至る		教務部長代行

教授
塚本 美紀

■ 学歴

1. 2005 年 テンプル大学修士課程 卒業

■ 学位

1. 2005 年 修士（教育学）

■ 研究分野

1. 英語教育学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 異文化理解教育
2. 異文化理解・対応力の測定
3. ESD (Education for Sustainable Development)

■ 研究課題

1. 異文化理解教育に関して、異文化理解・対応力の測定について中心に考察する。
2. 持続発展可能な社会の在り方について、英語教育および国際理解教育の観点から考察する。

■ 担当授業科目

1. グラマー・コンポジション I（前期）
2. 専門演習 I（前期）
3. 教育ボランティア演習（前期）
4. 英語教科教育法 I（後期）
5. 専門演習 II（後期）
6. 教職実践演習（中・高）（後期）
7. 北九州の過去・現在・未来（後期）
8. 地域プロジェクト（後期）
9. 教育に ICT 活用（後期）
10. 卒業研究（通年）
11. 教育実習事前事後指導（通年）
12. 教育実習 II（通年）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【グラマー・コンポジション I】 学生が予習、授業、復習の流れの中で、学習項目を習得できるように、重要な文法項目や表現に繰り返し触れることができるよう設計されている教材を使用した。質問の時間を十分にとったり、LINE やメールで質問を受け付けるようにしたりして、学生の疑問にすぐに答えられるようにした。
2.	授業科目名【専門演習 I】 国際語としての英語の在り方について、学生が理論と実践の両面から理解できるように、さまざまな文献を読んだり、さまざまな国の人々とインターネットを利用して英語で交流したりする機会が持てるようにした。
3.	授業科目名【教育ボランティア演習】 学生が板櫃中学校の英語の授業にアシスタントとして参加できるようにしたが、事前に中学校での英語教育及びボランティアについて学習し、事後には担当してくださった中学校の先生方からのフィードバックをもらい、理論と実践が結びつくよう工夫した。
4.	授業科目名【英語教科教育法 I】 学習指導要領の改訂に鑑み、学生たちが中学校や高等学校で学んできたことと現行の学習指導要領との違いがわかるよう解説した。毎回、授業の内容に関連することについてのレポートの提出を求め、学修したことの理解を深めるようにした。
5.	授業科目名【専門演習 II】 来年度の卒業論文の執筆に備え、各学生が自分の興味のある分野の書籍や論文についてのプレゼンテーションを実施する機会を設けた。また、それについての質疑応答を通して、テーマ設定が適切であるかどうか考えさせた。
6.	授業科目名【教職実践演習（中・高）】 教育実習での経験を活かして模擬授業の教案を作成し、実施してもらうようにすることで、教育実習での実践を振り返ることができるようにした。また、教育活動を行う際、どのようなリソースを活用できるか、教育実習での実践を振り返りながら討論した。
7.	授業科目名【北九州の過去・現在・未来】 北九州に関する新聞記事、書籍、映像などを用いたり、外部講師による講演を行うなどして、北九州について多角的に捉えられるよう工夫した。また、それぞれが学ぶ専門分野がどのように地域に貢献できるかということについて考察できるようにポスターセッションを行った。
8.	授業科目名【地域プロジェクト】 人文学部の学生が、それぞれが学んでいる専門分野の知識や技能を活かし、企業や地域の人々と協働することができるようなプロジェクトをスムーズに行えるように、地域について学ぶ授業を行った。
9.	授業科目名【教育における ICT 活用】 新しい分野で、さまざまな実践が試されている状況であるが、中でも成果が上がっているものになるべく紹介するようにした。また、授業の中でもなるべく ICT を活用し、授業の中でどのように使用することができるのかということを学生が実感できるようにした。

10.	授業科目名【卒業研究】 計画的に卒業論文を執筆できるように、論文の書き方や執筆のスケジュールについてのガイドラインを作成した。また、自らが設定したテーマについての思考を深められるように、定期的に進捗状況を発表してもらい、他のゼミ生から質問に答える機会をもった。
11.	授業科目名【教育実習事前事後指導】 市内の中学校で英語科教諭として活躍する卒業生や英語科教諭として活躍された後校長として中学校で勤務されている先生に外部講師として講演していただき、いろんな面から教師としての在り方について学生が学べるようにした。
12.	授業科目名【教育実習 II】 教育実習については、受け入れ校によって対応が大きく異なることもあるので、全体での指導は汎用性のあるものに留め、個別の案件については臨機応変に対応できるよう学生と電子メールやSNSですぐに連絡がとれるようにして対応した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1990 年 9 月～現在に至る	アクロス「英語教師のための異文化研究会」	理事（2008 年 8 月～現在に至る）
2.	2017 年 4 月～現在に至る	日本 ESD 学会	会員
3.	2017 年 6 月～現在に至る	北九州サステナビリティ研究所	会員
4.	2021 年 12 月～現在に至る	日本比較文化学会	会員

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
1.	2023. 5	わたしの異文化体験－エッセー集－	共	ACROSS 出版局	① 語学教育に携わる者の視点から、それぞれの異文化体験について考察し、まとめたもの。 ② 編集委員：辻莊一、河野良子 共著者名：井川好二、塚本美紀、他 16 名 ③ 担当部分：「わたしの異文化体験：古城と帽子」（p. 99 - p. 105） 総頁数：p. 159 ④ A5 判
2.					
3.					

(学術論文)					
1.	2023. 7	大学における社会人基礎力育成の考察－女子大学と地方自治体の連携活動を事例として－	共	比較文化研究 No. 152	① 女子大学と地方自治体の連携活動を事例として、大学における社会人基礎力育成の在り方について考察したもの。 ② 共著者名：神崎明坤、高橋幸夫、塚本美紀 ③ 共同研究につき、本人担当部分抽出不可能 (p. 29 – p. 41)
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2024. 2	Exploring English Language Education and Motivation: A Case study of Japanese Female Immigrants in New Zealand	共	20 th CamTESOL Conference (於 コンボジア工科大学)	① 日本で教育を受けた後にニュージーランドに移住した人たちの移住前と移住後の英語学習とその動機付けについての考察 ② 共同発表者：Miki Tsukamoto, Mika Fujimoto, Hiromi Inagawa
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1.	日本と中国における大学キャリア教育に関する研究－女子大学生の社会人基礎	西南女学院大学	○ 神崎 明坤 高橋 幸夫 塚本 美紀	950,000

	力の育成を中心として一		坂田 美登里 (林 楽 常) (王 小 燕) (張 小 光)	
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	1993 年 7 月～現在に至る	日本英語検定協会	面接委員
2.	2010 年 4 月～現在に至る	北九州 ESD 協議会	会員
3.	2015 年 6 月～現在に至る	Zonta International	会員
4.	2021 年 4 月～現在に至る	福岡県立小倉西高等学校学校関係者評価委員会	評価委員
5.	2021 年 7 月～現在に至る	北九州市立ユースステーション	アドバイザーリーボード

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2014 年 4 月～現在に至る	ハラスメント	相談員
2.	2016 年 4 月～現在に至る	教職員懇親会	委員
3.	2018 年 4 月～現在に至る	入学試験会議	委員
4.	2018 年 4 月～現在に至る	学生募集委員会	委員
5.	2021 年 4 月～現在に至る	総合人間科学小委員会	委員
6.	2022 年 4 月～現在に至る	教職課程委員会	副委員長
7.	2014 年 4 月～現在に至る	ゴールデン Z クラブ	顧問

教授

西原 真弓

■ 学歴

1. 1990 年 Arizona State University 修士課程修了

■ 学位

1. 1990 年 Master of Arts in English (修士 英語学)

■ 研究分野

1. 英語音声学
2. 英語教育学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 英語イントネーション
2. Bloom's Taxonomy
- 3.

■ 研究課題

1. 小学校英語教育で音声教育のために用いられるチャンツを分析対象とし、イントネーションの中でも特に日本人学習者に多い核強勢の誤配置について考察する。
2. Bloom's revised taxonomy を用いて、日本の英語教育における目標と評価の設定の仕方について考察する。

■ 担当授業科目

1. 英語学概論Ⅰ（前期）必修
2. 英語学概論Ⅱ（後期）選択
3. ライティング基礎（前期）必修
4. パラグラフ・ライティング（後期）必修
5. エッセイ・ライティング（前期）選択
6. 英検演習Ⅰ（前期）必修
7. 英検演習Ⅱ（前期）選択
8. リーディングⅢ（前期）選択
9. 英語教科教育法Ⅲ（後期）選択
10. 英語教科教育法Ⅳ（後期）選択
11. グラマー・コンポジションⅡ（後期）必修
12. 教職実践演習（中・高）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【英語学概論Ⅰ・Ⅱ】 専門的な分野になるため、それぞれの理論を、学生がわかりやすく・役に立つと感じられるよう説明の際使用する例文や状況を工夫した。授業内外で学習した事項に関する事例を探させ、クラスの皆で共有することで理解を深めた。また、質問しやすい雰囲気づくりを心掛けた。
2.	授業科目名【ライティング基礎・パラグラフ・ライティング・エッセイ・ライティング】 ライティング関連の授業では、学生にたくさん書く機会を与え、一人ずつ添削をしたり、コメントをしたりして個別指導をすることを心掛けた。パラグラフやエッセイの構成を理解させるために、よい例や悪い例を出し、理解しやすくした。修正がある場合はなぜ修正しないといけないのかを個々に伝えるよう心掛けた。
3.	授業科目名【英検演習Ⅰ・Ⅱ】 それぞれの学生が目指す英検の級が異なるため、準2級、2級、準1級とグループごとに指導をするように工夫した。自律学習ができるようになることが目的の一つであったため、自分で計画を立て、その計画に従って学習を進めるように促した。
4.	授業科目名【リーディングⅢ】 長文読解のコツを掴ませることを大切にし、リーディングのスキルを教えた。スキミングやスキニング、リテリングなどを組み合わせて行ったり、直読直解する習慣をつけるよう速読の練習も行った。最も工夫した点は題材選びである。学生が興味を持ちそうな社会的、文化的なテーマで、ニュース、TED Talk、賛成/反対がある意見文などを用いた。
5.	授業科目名【グラマー・コンポジションⅡ】 反転授業で、自宅学習をしてきたものに対し、授業内で質問を受け説明をするというスタイルで行った。難しいことをできるだけわかりやすく説明することに注力した。また、質問をしやすい雰囲気づくりを心掛けた。
6.	授業科目名【英語教科教育法Ⅲ・Ⅳ】 模擬授業を中心とした実践的な学びをするⅢと、理論的な枠組みで実践を振り返るⅣが相乗効果をもたらすことができるように工夫した。学生自身でお互いに評価し合う中で、授業づくりの視点をしっかり持ち、自分の授業を振り返ることができるようにした。学生間でより効果的にコメントをしあうための環境づくりや声掛けに心がけた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1991	全国英語教育学会	
2.	2021	日本英語教育音声学会	理事
3.	2017	小学校英語教育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

発行又は	著書、学術論	単著・	発行所、発表雑誌	概要
------	--------	-----	----------	----

	発表の年月	文等の名称	共著の別	誌等又は発表学会等の名称	
(著書)					
1.	2024 年 2 月	Junior Sunshine 5・	共	開隆堂	文部科学省検定済 小学校外国語科用教科書 5 年生用 【令和 6 年度版】
2.	2024 年 2 月	Junior Sunshine 6	共	開隆堂	文部科学省検定済 小学校外国語科用教科書 6 年生用 【令和 6 年度版】
(学術論文)					
1.	2024 年 1 月	「チャンツに見られる高前頭部の問題」	共著	『英語教育音声学』第 3 号, 41-52.	日本人英語学習者が発話する英語の特徴として、高前頭部の誤用が指摘されている。本研究では、高前頭部の問題を概観した上で、小学校の英語教育で広く利用されているチャンツのイントネーションにも誤用が見られることを教科書分析を通して指摘した。正しく作成されたチャンツを使い、プロソディ教育をすることが、日本人学習者の高前頭部問題を解決するきっかけとなりうる可能性を示唆した。(共同研究につき、本人担当部分抽出不可能)
2.	2024 年 3 月	改訂版タキソノミーに基づく小学校外国語教育における目標の分類	単著	『西南女学院大学・西南学院大学短期大学部教職論集』第 2 号	学習指導要領が改訂され、目標の具体化が求められる中、ブルームの改訂版タキソノミーを用いて小学校外国語活動における言語活動を分類することを提案した。日本ではこれまであまり『改訂版タキソノミー』を用いた英語教育の研究がなされてこなかったが、この分類法が英語の授業改善における具体的な方向性を提供する上で有用であることを示唆した。
3.					
(翻訳)					
1.	2024 年 3 月	英語のイントネーション ー話し言葉のメロディー	共著	Dwight Bolinger 著 Intonation and Its Parts: Stanford University Press (1986)	英語のイントネーションに関する Bolinger の研究の集大成といえる本である。 担当箇所 2, 3, 6 章
2.					

3.					
(学会発表)					
1.	2023年5月 21日	チャンツに見られる preheadの問題	共同発表	英語教育音声学 会全国大会	チャンツは英語表現に慣れ親しみ自然な英語のリズムを習得するのに効果的である。しかしながら、使用するチャンツのリズムの適切性を検証する研究は多くない。本研究では、教材内のチャンツのリズムを核強勢の誤配置の視点から検証する。核強勢の誤配置はコミュニケーションにおいて相手に誤解を与える原因となる。研究結果として高前頭部の強調を含む問題点を明らかにしチャンツの作成や指導における留意点を提案する。(共同研究につき、本人担当部分抽出不可能)
2.	2023年8月 22日	チャンツのリズム再検証ーコミュニケーションを意識してー	共同発表	小学校英語教育 学会全国大会 (京都大会)	日本で使われている教材や動画番組におけるチャンツと、海外で出版されている英語教材におけるチャンツを比較した研究である。日本で創られるチャンツは圧倒的に代名詞で始まるものが多く、高く始めているものが散見される。対して、海外で出版されているチャンツでは、代名詞で始まるものが相対的に少ないだけでなく、代名詞に核強勢の配置が少ないことが明らかになった。(共同研究につき、本人担当部分抽出不可能)
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)	
1.					
2.					
3.					

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額	備考

			(単位：円)	
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 8 月 22 日	諫早市中学校英語教員研修	講師
2.	2023 年 8 月 23 日	長崎市小学校外国語部会教員研修	講師
3.	2023 年 10 月 25 日	松浦市中学校英語教員研修（オンライン）	講師
4.	2023 年 10 月 31 日	五島市中学校英語教員研修（オンライン）	講師

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023.4-2024.3	就職委員	
2.	2023.4-2024.3	FD 委員	
3.			

教授

Malcolm Ross Swanson

■ 学歴

1. University of Southern Queensland 2002 年

■ 学位

1. 教育学修士

■ 研究分野

1. Active learning
2. Technology in the classroom
3. Student-centered learning

■ 研究キーワード

1. Active learning
2. Technology
3. Presentations

■ 研究課題

1. Language study through active learning
2. Digitizing language learning

■ 担当授業科目

1. 卒業研究
2. 英語プレゼンテーション I（前期）
3. 専門演習 I（前期）
4. 英語プロジェクト I（前期）
5. メディア英語 I（前期）
6. 専門演習 II（後期）
7. リーディング II（後期）
8. 英語プレゼンテーション II（後期）
9. 地域プロジェクト（後期）
10. メディア英語 II（後期）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|-------------------------------|
| 1. | 授業科目名【英語プレゼンテーション I・II】 |
| | このコースは、ほぼすべての 2 年生が受講する科目である。 |

	セメスター1では、PowerPoint や Keynote などのさまざまなメディアツールの作成及び使用方法に焦点を当て、これらのスキルを身につけた。セメスター2では、プレゼンテーションでの話し方について学び、明確にメッセージを伝えることができるようにした。評価については、継続的かつ透明性のあるものになっている。 コースの最後には、ポートフォリオの提出及び最終プレゼンテーションを行い、その結果、プレゼンテーションの質と効果は大幅に向上した。
2.	授業科目名【専門演習Ⅰ・Ⅱ】 英語学習の基礎としてプロジェクトを実施することに焦点を当てた。 プロジェクト1はグリーン・ツーリズムに焦点を当てた。春（Ⅰ）には中津近郊の「ゆいきらら」で田植えと野菜作りを行った。農村の生活、農業、農村の問題について指導を受けた。秋（Ⅱ）には稲刈りと野菜の収穫を行った。米は文化祭で販売し、すぐに完売した。 プロジェクト2は北九州市の旧安川邸で行った。学生は現地で2回フィールドワークを行い、スタッフにインタビューを行った。現在、英語パンフレットと英語ウェブサイトを作成中であり、2024年秋に英語イベントを開催予定である。 受講生は、ルーブリックを用いて、このコースの成果を自己評価させている。
3.	授業科目名【英語プロジェクトⅠ】 受講生は、プロジェクトに取り組む機会をつくり、英語を使用しての発表を求めた。トピックは、「北九州と環境」、「社会と人間関係」、「ビジネスとSDGs」、「現実の健康問題」の4つである。更に、コースの最後には、個人個人のプロジェクトも発表する機会も作った。 各トピックは成績の25%に相当する。最終的な評価のために、学生たちに、プレゼンテーションのベスト4を選択させた。評価は透明性が高く、協力的であった。 学生たちは、この科目で素晴らしい結果を残した。すべてのプレゼンテーションが非常に高い水準であった。
4.	授業科目名【メディア英語Ⅰ】 このコースは、英語学習のためのテクノロジーの使い方を学ぶ入門コースである。特に共同作業を行うためにGoogleのアプリの使い方を習熟させることから始めた。次に、Moodleコース「My Study」の使い方を教え、Canvaのようなウェブサービスを使った基本的なデザインスキルを教えた。 また、eラーニング「CHJeru」英語学習システムの活用方法を教えた。 受講生は、それぞれに与えた課題を完成したかどうかについて評価している。今後の学習に役立つ有意義なコースである。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1996年～現在に至る	全国語学教育学会	JALT 北九州支部長
2.	2005年5月～現在に至る	CALICO	
3.	2020年1月～現在に至る	Moodlemoot	
4.	2015年7月～現在に至る	JASAL	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

発行又は	著書、学術論	単著・	発行所、発表雑誌	概要
------	--------	-----	----------	----

	発表の年月	文等の名称	共著の別	誌等又は発表学会等の名称	
(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
-----------	--------------------	------

1.	2023 年度	全国語学教育学会年次国際大会 査読 査読者	委員会
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年度	英語学科	学科長
2.	2023 年度	情報システム管理運用委員会	副委員長
3.	2023 年度	英語学科ウェブサイトの管理	
4.	2023 年 2 月	ニュージーランドへの留学グループの引率	

コメントの追加 [y1]: 現在に至る？

講師

アンデリュ・ジッツマン

■ 学歴

1. 2008 年 オーストラリア マクウォリ大学院 言語学科卒業

■ 学位

1. 2008 年 修士（言語学）

■ 研究分野

1. 社会言語学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 異文化コミュニケーション
2. 初年次教育
3. 教育の変遷

■ 研究課題

1. アイデンティティの確立
2. 大学進学

■ 担当授業科目

1. エリア・スタディ II
2. グローバル英語 I
3. 専門演習 I,II
4. 卒業研究
5. 欧米文化交流 B
6. English Extension I, II, III, IV
7. 英語プロジェクト II
8. 英語コミュニケーション I,II
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|---|
| 1. | 授業科目名【英語コミュニケーション】 |
| | このコースは、生徒の英語コミュニケーション能力を、より自然で、スクリプトのない形に向上させ |

	ることを目的としています。この目的を達成するために、このコースでは様々な社会的コミュニケーションルールを提示し、重要な練習の機会を提供します。
2.	授業科目名【エリア・スタディ II】 隣国についての知識を持つことは、国際理解のための重要なステップです。このコースでは、ASEAN の国々に焦点を当て、彼らがお互いに、そして日本とどのような関係にあるのかを考察しました。
3.	授業科目名【欧米文化交流 B】 このコースは、欧米文化を紹介し、対象国との交流の機会を提供することを目的としています。8 月にカナダ短期留学を行いました。
4.	授業科目名【英語プロジェクト II】 このコースの目的は、学生たちがディスカッションやプレゼンテーションに積極的に参加するように促すことです。様々なトピックについて調べ、説明させるために、多くのグループワークを行いました。個人発表とグループ発表では、最初の 2 年間で学んだいくつかのスキルを実践的に使い、クラスで自分の考えを発表したり、他の生徒が調べたことから学んだりします。
5.	授業科目名【専門演習 II】 このコースでは全国プレゼンテーション・コンテストに出場しました。様々なスキルを駆使して詳しく調べ、プレゼンテーションを準備し、京都での決勝大会に臨みました。最終学年の卒業論文に向けて、とても実践的かつ教育的なプロジェクトとなりました。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1994～現在に至る	全国語学教育学会	北九州支部報告担当（2019 年 11 月～現在に至る） 学会ビジネス・マネージャー(2006 年 11 月～2010 年 11 月) 学会企画担当理事(2004 年 7 月～2006 年 11 月)
2.			
3.			

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
(著書)					
1.	2024 年 1 月	Climb High to the TOEIC L&R Test	共	金星堂	このテキストは、TOEIC を受験する学 生のためのものである。文法解説・語

					句解説などを詳細に行っており、受験 しない学生にとっても英語力の増強が 見込まれるよう配慮している。
2.					
3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	学生委員	副委員長
2.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	教育経費予算配分委員	
3.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	教育経費予算配分委員	理事
4.	2023 年 4 月～2023 年 11 月	第五回 KANAME 杯	役員
5.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	ESS サークル	顧問
6.	2023 年 9 月～2024 年 1 月	ZION Cup(スピーチコンテスト)	企画担当

講師

ブラウン馬本 鈴子

■ 学歴

1. 2006 年 7 月英国イースト・アングリア大学大学院人文科学研究科文学専攻（博士課程前期）修士（文学）
2. 2008 年 3 月福岡大学大学院人文科学研究科英語英米文学専攻（博士課程後期）博士（文学）

■ 学位

1. 文学博士

■ 研究分野

1. イギリス文学
2. イギリス文化
- 3.

■ 研究キーワード

1. ドリス・レスリング
2. ジェイン・オースティン
3. ジェンダー

■ 研究課題

1. 主に現代の女流イギリス文学に関する研究
2. 女性の精神的・社会的な幸福にフェミニズムがどのように関与しているのかの分析

■ 担当授業科目

1. 英語文学 I
2. 英語文学 II
3. 初年次セミナーI
4. 初年次セミナーII
5. TOEIC 演習 I
6. TOEIC 演習 II
7. 初級英文講読
8. 専門演習 I
9. 専門演習 II
10. 卒業研究
11. リーディング IV

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【英語文学Ⅰ・Ⅱ】 英語でかかれた文学の入門講座として、欧米人なら誰でも読んだことがある本を読んでいく過程で、文学作品の技法や背景を学習していった。「英語文学Ⅰ」から「英語文学Ⅱ」に進むにおいて、イギリス人の子供なら大抵最初に手にする絵本である <i>The Tale of Peter Rabbit</i> を原文で読む事から始め、次に、英語学習者用に編集されたオックスフォードの graded readers 版のレベルを徐々に上げていった。それぞれの作品を原作と比較しながら読み終わる毎に、映像資料（DVD）を見て、小説の理解を深めるように促した。学生たちは、授業で取り上げた英米文学作品をきっかけに、文学作品の魅力に触れ、今後の専門的な文学作品研究の応用力を身につけた。また、精読、速読を進める中で、英語力の向上を図った。対面授業の中でも資料のアーカイブや課題の提出場所として、Google Classroom を効率良く使った。
2.	授業科目名【卒業研究】 前期には、専門演習Ⅰ,Ⅱを得て得た文学的読みを更に深化させ、ゼミ内でディスカッションを行った。また前期には、特に卒業論文のテーマ選びを行い、選んだテーマをどのように研究していくかの計画を入念に立てた。夏休みには、実際に卒業論文を書き始め、後期には、個人指導もたくさん行いながら、論文を書き進めた。ゼミ内で、仲間同士で指摘しあう機会を与えたり、ポスターセッションの練習会も行った。
3.	授業科目名【専門演習Ⅰ・Ⅱ】 前期から後期にかけて、イギリス現代文学の短編集やジェイン・オースティンの『ノーサンガー・アベイ』を読み、ゼミの中で調べてきたこと、まとめあげたこと、疑問に思ったことなどのディスカッションを行った。またゼミの初めには、各自が持ち寄った新聞記事を紹介し合い、社会現象を分析した。またその新聞の活動に加え、就職活動を意識して SPI 対策と TOEIC 練習を始めた。
4.	授業科目名【初年次セミナーⅠ・Ⅱ】 通年を通して、テキスト『知へのステップ』をベースに、基礎的な学習スキルや、大学での授業の受け方、生活の送り方、計画の立て方についての概論を教えた。また書き込み式の『マイキャリアノート』を使い、学生個人が独自の思いを綴り内省を行ったり、キャリアへの計画、調べ物を行なった。前期後半では個人の、後期後半ではグループでのプレゼンテーションを行い、前期では主にパワーポイントで、後期には Google スライドで発表を行うことで、自分たちで決めたテーマに沿っての研究を行うミニプロジェクトを完成させた。またそれぞれの発表についてのフィードバックを Google クラウドのアンケートシステムを使ってクラス全員で行い、その結果で学んだことをレポートに課した。後期では外部講師も招いて、プレゼンテーションのお手本として、デート DV に関するワークショップを行ってもらった。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2001 年 10 月～現在に至る	日本英文学会九州支部	支部評議員（なし）
2.	2006 年 10 月～現在に至る	映画英語教育学会（ATEM）九州支部	

3.	2015 年 11 月～現在に至る	日本オースティン協会	
----	-------------------	------------	--

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.	特になし				
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	特になし				
2.					
3.					
（翻訳）					
1.	特になし				
2.					
3.					
（学会発表）					
1.	特になし				
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.	特になし			
2.				
3.				

（2） 個 人 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備 考
1.	特になし			
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	特になし		
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2022 年 4 月～現在に至る	公開講座委員	
2.	2022 年 4 月～現在に至る	研究起用委員	
3.	2022 年 4 月～現在に至る	1、2 年生アドバイザー	

觀 光 文 化 學 科

教授

神崎 明坤

■ 学歴

1. 黒竜江大学 日本語学部 学士
九州大学大学院 教育研究科 修士課程
九州大学大学院 比較社会文化研究院 博士課程 満期修了

■ 学位

1. 教育学修士 九州大学 1995 年

■ 研究分野

1. 国際比較教育・国際比較社会文化
2. 大学キャリア教育
- 3.

■ 研究キーワード

1. 比較社会文化教育、異文化コミュニケーション
2. 女子大学生の社会人基礎力の育成
- 3.

■ 研究課題

1. 中日の近代における思想家の道德修養に関する研究
2. 日中異文化コミュニケーションに関する基礎的な研究
3. 中日における大学の改革に関する比較研究

■ 担当授業科目

1. 入門中国語会話（前期）
2. 初級中国語会話（後期）
3. 中級中国語（前期）
4. 実用中国語会話（前期）
5. 基礎中国語（前期）
6. 応用日本語（後期）
7. 中国語通訳ガイド演習（前期）
8. 初年次セミナー I（前期）
9. アジア文化交流研修 A（前期）
10. 比較文化論（前期）
11. 専門演習 I（前期）・専門演習 II（後期）
12. 卒業研究（通年）

13. キリスト教と西南女学院のあゆみ（1 コーマ）（前期）
14. 人文学入門（1 コーマ）（前期）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【入門中国語会話・初級中国語会話・実用中国語会話・中級中国語・基礎中国語・中国語通訳ガイド演習】 1. テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組み合わせることにより、学生の集中力の低下を防ぐために、中国文化や中国の大学生の最新情報を紹介し、積極的な授業参加を促す工夫を行った。 2. 学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等、学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取り入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。 3. 講義内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引き出す工夫を行った（検定試験は半年の勉強で4級、1年間で3級合格者出た）。 4. 毎回講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度に纏めて再表示し、印象付けるように工夫を行った。 5. 学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。「初級中国語会話」「実用中国語会話」「中級中国語」「基礎中国語」「中国語通訳ガイド演習」の授業は中国語でプレゼンテーションを作成し、発表させる練習を行った。
2.	授業科目名【初年次セミナーⅠ】 本授業は大学生として必要な基礎学力を養成する授業をする。大学時代にしか学べない基礎教養を学び、一生の知的財産とする。論理的な思考と明快な文章表現や発表ができる受講マナーが身につけている。新聞や本を読む習慣が身につけている。規則正しい大学生生活習慣を見つけることが本授業の旨である。 1. 講義にテレビ、DVDなどの補助教材の活用、疑問技法などにより、学生の学習能力、研究興味を向上させ、積極的な授業参加することに工夫を行った。 2. 学習内容に応じた個別な課題設定・評価、学習・復習の要点等、学生の能力に対応した個別学習指導を積極的に取り入れ、学習者全員の学習効果を高める工夫を行った。更に学生に安心、安定に勉強できる環境をいつも心がけている。
3.	授業科目名【専門演習Ⅰ・Ⅱ】 グローバル化が進行し、国境の垣根が低くなる一方、文化の独自性、多様性への視点の重要性も高まってきている。日本文化の中には中国や朝鮮半島からの伝来文化を受容して形成したものが沢山ある。例えば、米やお茶等の食文化、漢字や儒教の思想もちろんのこと、年中行事、ものの考え方等の伝来文化によって形成された文化や習慣等の現代の日本の文化の特徴を探りながら、異文化を理解していくことが本授業の旨である。 1. この授業は異文化を深く学ぶことにある。まず、分かりやすく日本と中国の文化に関する論文を多数読んでもらい、その文化の相違点の比較研究などを通じて、日本文化の特徴を理解する工夫を行った。

	2. 日本と中国及びヨーロッパ文化の調査や研究を通じて、学問の面白さを味わって、各自が関心を持ったテーマについての研究計画の立案方法を学び、先行文献を参考しながら、各自のオリジナルのものを作らせる工夫を行った。 3. 実際に各自の選んだテーマに関する情報を収集し、分析方法を学び、学生自身の考えを纏め、口頭発表や論文作成の方法に必要な能力を身に付けさせる工夫を行った。
4.	授業科目名【卒業研究】 卒業研究はこれまでに学んで得た知識とアプローチの仕方を生かしながら、学生各自がそれぞれの専門領域における学習の中で最大の関心事として選んだテーマを明らかにし、その問題への考察を深め、見通しを持って一つの仮説を立ててみる方法に習熟するのはこの授業の狙いである。 1. 上記の狙いに従って、まず、先行する研究の成果を収集する力を養い、国立国会図書館や大学の研究機関の図書館の使い方、調べ方という文献入手の方法を指導する。 2. 先行研究を批判的に理解する力、仮説を立てる構想力を養うために、ゼミ同士や指導教員との交流を通し、繰り返し各自の論理を問い直させる工夫を行った。 3. 仮説を論文として展開する力等を養い、学生自身のオリジナルな論文を書くことを心掛けて、最終的に集大成の論文を完成させる工夫を行った。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	日本中国学会	会員	1998年4月～現在に至る
2.	九州教育学会	会員	1994年4月～現在に至る
3.	日本比較文化学会	会員	2011年4月～現在に至る
4.	日本比較文学学会	会員	2012年5月～現在に至る
5.	日本比較教育学会	会員	2011年11月～現在に至る

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	2023年7月	大学における社会人基礎力育成の考察－女子大学と地方自治体の連	共著	日本比較文化学会、比較文化研究 No.152	社会人基礎力を育成するにあたって、大学においてどのような取り組みをすればよいのだろうか。社会人基礎力の育成方法については、学生と企業の協働による商品開発・サービス事業の企画運営などの活動結果から、その活動についての

		携活動を事例として一			振り返りや自己評価・他者評価、有識者による指導が重要であるとされる。しかし、これらの活動における指導方法は、それぞれの教育機関や指導者の力量に委ねられるケースが多く、また、社会人基礎力の育成プロセスや系統的な支援方法、評価システムも確立されているとはいえないと思われる。 本稿では、大学での学びと実社会での学びとを融合させた、実践指向型の問題解決型学習による地方自治体との地域連携活動の事例を通して、社会人基礎力の育成について考察する。
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）	
1.	日本と中国における大学キャリア教育に関する研究—女子大学生の社会人基礎力の育成を中心にして—	西南女学院大学	○神崎明坤、高橋幸夫、塚本美紀	960,000	
2.					
3.					

(2) 個人研究					
	研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考	

1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 11 月 23 日	女性活躍ワーキンググループ 中国茶セミナー 2023	講師
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2020 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日	観光文化学科	観光文化学科科長
2.	2022 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日	宗教関連会議	宗教主事補
3.	2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日	人文学部宗教委員会	人文学部宗教委員

■ 学歴

1. 2009 年京都大学大学院経済学研究科博士後期課程修了

■ 学位

1. 経済学修士（京都大学 2006 年）

■ 研究分野

1. マーケティング（広告・ブランド）
2. デザインマネジメント
3. 地域活性化マーケティング

■ 研究キーワード

1. 地域におけるマーケティング・コミュニケーション
2. デザイン・インスパイアド・マネジメント
- 3.

■ 研究課題

1. マーケティングコミュニケーション活動による大学生のキャリアデザイン力向上についての考察
2. 企業経営におけるデザインマネジメントの有効性についての考察

■ 担当授業科目

1. 初年次セミナー I（前期）必修
2. 専門演習 I・II（前期・後期）必修
3. 卒業研究（前期・後期）必修
4. マーケティング入門（前期）必修
5. 広告宣伝論（前期）選択
6. 消費者行動論（後期）選択
7. イベント・テーマパーク論（後期）選択
8. ブランド戦略論（後期）選択
9. キャリア・デザイン論 I（後期）選択
10. 地域プロジェクト（後期）選択
11. メディア政策論（前期）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|------------------------|
| 1. | 授業科目名【 初年次セミナー I（前期） 】 |
|----|------------------------|

	大学生生活の始まりにあたり、大学生としての心構えから授業の受け方、ノートテイキングなど基本的プレゼンテーションなどの理解度向上と「社会人基礎力」をベースとした学生生活の考え方を始動した。
2.	授業科目名【 専門演習Ⅰ・Ⅱ 】 デジタルマーケティングの基本的文献を輪読、毎回PPTによる発表形式の演習とし、学生の論理的思考とプレゼンテーション能力の向上に努めた。 社会貢献活動の企画・実施を演習授業に取り入れた。 さらには、就活を控える学生に対して、「企業研究」「自己分析」「適職診断」「面接」の指導を行なった。
3.	授業科目名【 マーケティング入門 】 受講者がマーケティングの基本的な概念を理解し、実際の企業活動の中でマーケティングが担う役割を具体例、特に映像を用いて理解できる仕組みを構築した。 実用性の高い知識と応用力を身のつけるために実務家の講義も実施した。
4.	授業科目名【 ブランド戦略論・デザインマネジメント論・広告宣伝論 】 各科目とも基本理論の習得を基礎に、外部より各領域の専門実務家を招聘し、ワークショップ展開の授業を行なった。これにより履修学生は各科目に対する興味と意欲の向上を目指した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2005年4月～現在に至る	商品開発・管理学会	
2.	2021年12月～現在に至る	日本比較文化学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名 称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	2023年6月	キャラクターとテーマパーク経営についての考察	単著	西南女学院大学人文 学部観光文化学科研 究報告編集委員会 観光文化学科研究報 告 Vol.2,17～25頁	国内では、巨大テーマパーク全盛といわれる状況の中、地方のテーマパークにおける持続的な経営にはいかなる視点が重要なのか。本稿ではキャラクターの活用方法に着目し、事例によって考察した。

2.	2023 年 7 月	大学における社会人基礎力育成の考察－女子大学と地方自治体の連携活動を事例として－	共著	日本比較文化学会 比較文化研究No.15 2,29～41頁	本稿では、女子大学と地方自治体の連携による社会人基礎力の育成について論じた。「社会人基礎力」とは、経済産業省が2006年に提唱した言葉で、職場や地域社会で多様な人々と協働するために必要な基礎的能力のことである。本稿では、社会人基礎力とProject Based Learning(PBL)について説明し、女子大学と自治体とのPBL型連携活動を紹介し社会人基礎力とPBLとの関係を考察した。その活動を通して学生が何を学んだかを述べ、社会人基礎力とPBLと関係を考察した。 共同研究につき、本人担当部分抽出不可能
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	日本と中国における大学キャリア教育に関する研究 女子大学生の社会人基礎力の育成を中心にして	西南女学院大学	○神崎明坤 塚本美紀 高橋幸夫 (大連大学日本語言文化学院 林楽常)	950,000

			(上海外国語大学日本 経済学院 王小燕)	
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	北九州市内交流施設における コンテンツ企画・開発	旭興産株式会社	2,200,000	
2.	響灘および行橋地域における コンテンツ開発	株式会社オリエンタル コンサルタンツ	1,100,000	
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2018 年～2023 年	就職委員会	副委員長 (2022 年～2023 年度)
2.	2020 年～2023 年	情報システム管理運用委員会	
3.	1019 年～2023 年	学生個人情報保護委員会	

教授
林裕二

■ 学歴

1. 1993 年 西南学院大学大学院修士課程修了

■ 学位

1. 1993 修士（文学）

■ 研究分野

1. 英語学
2. 比較文化学
3. 文学

■ 研究キーワード

1. 統語論
2. 会話分析
3. 翻訳

■ 研究課題

1. 談話分析に関して、小説、映画を中心に考察する。それらの知見を創作にも援用する。
2. 呼び掛け語に関して、英語と日本語の体系を比較考察する。

■ 担当授業科目

1. 人文学入門（前期）（英語学科・観光文化学科）必須
2. 基礎英語（前期）（観光文化学科）必須
3. マルチメディアイングリッシュ基礎（前期）（観光文化学科）必須
4. 北九州の技と文化（前期）（看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科、観光文化学科）選択
5. 初年次セミナー I（前期）（観光文化学科）必須
6. 中級日本語（前期）（前期）（観光文化学科）必須
7. 応用英語（後期）（観光文化学科）必須
8. 中級英文講読（後期）（観光文化学科）選択
9. 上級日本語（後期）（観光文化学科）必須
10. マルチメディアイングリッシュ応用（後期）（観光文化学科）
11. 専門演習 II（後期）（観光文化学科）必須
12. 卒業研究（通年）（観光文化学科）必須
13. 初年次セミナー II（（後期）（英語学科・観光文化学科）必須

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【人文学入門】 人文学部での学びの導入として、まずは一般論的な人文学の枠組み、そして本学における人文学関連の学びの枠組みを知ることが目的とする。担当は2回目分のみ。そこでは、「読む」をテーマとして話した。媒体を問わず、読むという行為が当たり前の現在から、歴史を振り返り、読む行為が文化・文明を発展させてきたことを理解させ、自分たちが歴史の中にいることを語った。
2.	授業科目名【基礎英語】 4技能の基礎を伸ばすことを目的とした。基礎的な文法が弱いところには、丁寧に繰り返し説明をした。2023年度入学生から、英語の習熟度別のクラス編成をしていない。非常に英語力の幅が広いクラス編成であり、全員が理解できるコア的な個所を理解しやすくするために、PPTでは、文字情報に加えて、イラスト等の視覚的情報を多く取り入れた。
3.	授業科目名【中級英文講読】 課題提出をすべてオンラインで行い、英語の文章をオンラインソフトを援用し、効率的に添削して、結果は無記名で全員分を全員が相互に見れるように配信した。
4.	授業科目名【マルチメディアイングリッシュ応用】 2年後期であり、これまでにインプットもかなりの蓄積があり、ここではアウトプットの量を次第に増やそうとした。そのやり方として、音声入力ができるように指導した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1993年6月～現在に至る	国際ビジネスコミュニケーション学会	常任理事（2021年10月～現在に至る）
2.	2010年2月～現在に至る	日本比較文化学会	理事、事務局長（2018年5月～現在に至る）
3.	1996年10月～現在に至る	映像メディア英語教育学会	九州支部運営委員（2012年1月～2024年3月）

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）					
1.	2023年	英語の俳句	単	Asahi Haikuist Network	The Asahi Shimbun digital のオンライン俳壇で3句掲載。1. 2023年6月2日、2. 2024年2月16日、3. 3月29日
2.					

3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2023 年 9 月	AI 利用による要約一課題と対策一	単	2023 年度第 2 回国際ビジネスコミュニケーション学会九州・山口支部研究会（オンライン開催）	① Chat GPT 登場後のメディアに見る、短い歴史を概観し、生成 AI 利用を見抜く例を見る。続いて、要約の実例を見る。対応策への一助となることを目指して、実践している授業の効果について考察する。
2.	2023 年	大学での英語教育の軽減化の提案	単	日本比較文化学会九州支部・中四国支部・関西支部 3 支部合同例会（於：同志社大学）	① AI の驚異的な発展が語学教育にどのような影響を与えるか概観し、英語教育の比重を、学校によっては軽減することを取り入れる提案を行う
3.	2024 年 2 月	イシグロ・カズオ「The Remains of the Day」のクライマックスについて	単	日本比較文化学会九州支部大会（於：西南女学院大学）	① 小説 The Remains of the Day (日の名残り) (1989) のクライマックスについて考察する。クライマックスは、1. 抑制された語り、2. フォーマルな文体と呼び掛け語の使用の慣用が破られた瞬間にもたらされる。そしてその後、物語の収束に至るまでの過程を考察する。

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2022 年 4 月～現在に至る	人事委員会	副委員長
2.	2022 年 4 月～現在に至る	大学キャンパスハラスメント防 止・対策委員会	副委員長
3.	2022 年 4 月～現在に至る	倫理審査委員会	副委員長
4.	2022 年 4 月～2024 年 3 月	将来計画委員会	

教授

八尋 春海

■ 学歴

1. 1996 年 九州大学大学院博士課程 満期退学

■ 学位

1. 1993 年 修士（文学）

■ 研究分野

1. 観光学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 観光資源
- 2.
- 3.

■ 研究課題

1. 地域振興のための新しい観光資源の開発
- 2.

■ 担当授業科目

1. 卒業研究（通年）（観光文化学科）必修
2. 専門演習Ⅰ（前期）（観光文化学科）必修
3. 専門演習Ⅱ（後期）（観光文化学科）必修
4. 初年次セミナーⅠ（前期）（観光文化学科）必修
5. 映画で学ぶ欧米文化（後期）（観光文化学科）選択
6. 映画で学ぶ世界遺産（後期）（観光文化学科）選択
7. 欧米観光文化地理Ⅰ（前期）（観光文化学科）選択
8. 海外旅行実務（前期）（観光文化学科）選択
9. 人文学入門（前期）（人文学部）必修
10. 欧米観光文化地理Ⅱ（後期）（観光文化学科）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|------------------------------------|
| 1. | 授業科目名【卒業研究】 |
| | 受講学生が多い中で、特に論文執筆が遅い学生のペースを常に気にかけた。 |

2.	授業科目名【専門演習Ⅰ】
	グループ活動をする機会が多いため、まずはゼミ内の良好な人間関係を築くようにした。
3.	授業科目名【専門演習Ⅱ】
	ゼミでの活動が活発になるが、学生間での負担が公平になるように心がけた。
4.	授業科目名【初年次セミナーⅠ】
	入学直後ということであり、学生に「分からない」ことを意識させて、一日でも早く大学生活に慣れるように配慮した。
5.	授業科目名【映画で学ぶ欧米文化】
	観光文化学科の中では異色の科目であるため、常に学生に知的刺激を与えるようにした。
6.	授業科目名【映画で学ぶ世界遺産】
	まだ何の資格も保持していない学生が、この科目を学ぶことで資格を取得できるように助言と励ましを継続して行った。
7.	授業科目名【欧米観光文化地理Ⅰ】
	総合旅行業務取扱管理者試験や世界遺産検定試験に役立つように心がけた。
8.	授業科目名【海外旅行実務】
	時差の問題など難解なものについては、じっくり時間をかけて説明をするようにした。
9.	授業科目名【人文学入門】
	リレー講座であるため、他の教員の内容と重複しないように注意した。
10.	授業科目名【欧米観光文化地理Ⅱ】
	総合旅行業務取扱管理者試験や世界遺産検定試験に役立つように心がけた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1996 年	日本比較文化学会	理事（2006 年～現在）
2.	1996 年	日本比較文化学会九州支部	支部長（2010 年～現在）
3.	2005 年	余暇ツーリズム学会	支部事務局長（2014 年～現在）

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					

(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2020年4月～現在		人文学部長
2.	2020年4月～現在	学生募集委員	
3.	2010年4月～現在	教育経費予算委員	

教授

劉 明

■ 学歴

1. 大学院

■ 学位

1. 博士（経営学）〔立命館大学 2011 年〕 修士（観光学）〔桜美林大学 1996 年〕

■ 研究分野

1. 観光学
2. 経営学
3. ホスピタリティ学

■ 研究キーワード

1. インバウンド観光
2. 観光マーケティング
3. 日中ホスピタリティの相違について

■ 研究課題

1. 九州ディステーションにおけるマーケティング戦略の策定と実施について
2. インバウンド観光対応型の人材育成について

■ 担当授業科目

1. 観光学入門
2. インバウンド観光論
3. 観光マーケティング論
4. アジア観光文化地理Ⅰ
5. 初年次セミナーⅠ
6. 専門演習Ⅰ
7. ホスピタリティ論
8. 観光社会学
9. アジア観光文化地理Ⅱ
10. 旅行商品企画論
11. 経営学入門
12. 専門演習Ⅱ
13. 卒業研究

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【観光学入門】 「観光学入門」の授業では学生のニーズを把握し、講義内容と学生達の希望を結びつけて、授業を行った。また、プリント・P C・ビデオなどの活用により、「観光学入門」を楽しく観光学の勉強ができるというような授業にした。さらに、学生の皆さんの多くは、将来、観光関係の仕事に従事することを希望していることを配慮し、観光産業（旅行業、宿泊産業、交通運輸業など）の求人情報などを学生達に伝えたり、積極的に授業に参加していただけるように、工夫を行った。
2.	授業科目名【インバウンド観光論】 「インバウンド観光論」では、日本における観光立国、ビジット・ジャパン・キャンペーン等について論じ、観光マーケティングの視点から、日本や九州におけるインバウンド観光の振興にとっては、重要なターゲットとなるアジア、欧米特に中国、韓国、アメリカ、イギリスなどの国からの訪日観光客の誘致を事例に講義する。それと同時に観光産業への就職を希望する学生に参考になる内容に心掛ける。
3.	授業科目名【観光マーケティング論】 「観光マーケティング論」では、観光サービスに関するマーケティングを取り上げる。観光産業に特有の観光マーケティング、観光まちづくりを担う組織などが主体となるデスティネーションマーケティングをそれぞれ事例を基に紹介していく。観光を学ぶ学生たちに観光産業及び観光地域でのマーケティング事例を分かりやすく紹介し、それらの事例を通して、観光マーケティングの魅力とその理論のエッセンスを理解してもらえるように工夫した。
4.	授業科目名【アジア観光文化地理Ⅰ】 「アジア観光文化地理Ⅰ」の授業では、映像を通して、学生たちに日本、中国、韓国の地域性や風土人情及び観光資源を認識・理解してもらう。また、グループディスカッションを行い、学生の感想を発表してもらう。このようなグループディスカッションにより、学生の勉強の意欲を高めることやアジア観光文化地理に関心を持たせることがプラスになるように工夫した。
5.	授業科目名【初年次セミナーⅠ】 初年次セミナーⅠでは、個人あるいはグループでの学習活動を軸に、大学で学ぶためのスタディ・スキルズの基本である『聞く』『調べる』『読む』『書く』『考える』の強化を図る。具体的には、講義の聴き方、ノートの取り方、本の読み方、レポートの書き方、より深い学びを得るための文献検索、インターネット等の ITC 活用法など、大学で主体的に学ぶ技法を習得することができるように工夫した。
6.	授業科目名【専門演習Ⅰ】

	「専門演習Ⅰ」では、文献を読み解く訓練をしたり、文献講読の成果発表や研究経過報告をしてもらったりすることにより、学生が自分で調査研究し、それを論理的にまとめて発表する才能を引き出す工夫を行った。また、学生の就職活動に向け役立つスキルを伝授した。さらに、コミュニケーションとホスピタリティ能力を高めるため、地域貢献活動を参加してもらった。
7.	授業科目名【ホスピタリティ論】 ホスピタリティは今や企業が生き残るために必須の要素になっているのである。お客さま、従業員、地域社会、そしてそのほかの利害関係者に、夢・感動・幸福を提供することこそが企業の存在にとって必要不可欠なのである。つまり、ホスピタリティは企業が存在するための「規範」あるいは「価値」として位置づけられるようになったのだ。この講義では、ホスピタリティとは何かを理論的に学び、企業の事例などを用いてわかりやすく解説し、学生がよく理解できるように工夫した。
8.	授業科目名【観光社会学】 本講義では、観光社会学が観光を捉える視点や方法を説明し、研究対象の新しい観光と多様化する観光形態を現代社会の動向に絡めて紹介する。また、観光社会学の事例研究の成果を解説する。また、質問をしていただき、学生達の関心あることについて話をする。それと同時に観光産業への就職を希望する学生に参考になる内容に心掛ける。さらに、授業の感想や提案などを学生に書いてもらい、学生との交流を図る。
9.	授業科目名【アジア観光文化地理Ⅱ】 「アジア観光文化地理Ⅱ」の授業では、映像を通して、学生たちにタイ、シンガポール、ベトナム等の地域性や風土人情及び観光資源を認識・理解してもらおう。また、グループディスカッションを行い、学生の感想を発表してもらおう。このようなグループディスカッションにより、学生の勉強の意欲を高めることやアジア観光文化地理に関心を持たせることがプラスになるように工夫した。
10.	授業科目名【旅行商品企画論】 「旅行商品企画論」では、観光客のニーズの変化を分析し、他地域と差別化できる九州の観光資源及び独特なもの・コトを考察し、九州におけるインバウンド旅行商品の造成プロセスを学ぶ。 また、演習として学生が自分の馴染みの地域を選んで、そこでフィールドワーク（FW）活動を通して、観光客のニーズに合った旅行商品の企画をする。さらに、その成果について、発表を行う。
11.	授業科目名【経営学入門】 本講義では、組織とマネジメントの概念や役割等具体的な内容に触れながら、人の強み・弱み、マネジメントとイノベーションの使命や方法及び戦略について学ぶ。企業の事例などを挙げてわかりやすく解説し、学生がよく理解できるように工夫した。
12.	授業科目名【専門演習Ⅱ】 「専門演習Ⅱ」では、「専門演習Ⅰ」に続き、文献を読み解く訓練をしたり、文献講読の成果発表や研究経過報告をしてもらったりすることにより、学生が自分で調査研究し、それを論理的にまとめて発表する才能を引き出す工夫を行った。また、学生の就職活動に向け役立つスキルを伝授した。さらに、コミュニケーションとホスピタリティ能力を高めるため、地域貢献活動を参加してもらった。
13.	授業科目名【卒論研究】 「卒業研究」では、時間をかけて、学生の就職活動に向け役立つスキルを伝授した。また、完成度の高い論文が出来るため、文献を読み解く訓練をしたり、文献講読の成果発表や研究経過報告をしてもらったりすることにより、学生が自分で調査研究し、それを論理的にまとめて発表する才能を引き出す工夫を行った。

	出す工夫を行った。さらに、地域貢献活動について、後輩たちへの指導を求めた。
--	---------------------------------------

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1994 年 09 月－現在に至る	日本ホスピタリティ・マネジメント学会	
2.	2001 年 01 月－現在に至る	日本観光研究学会	
3.	2007 年 12 月－現在に至る	余暇ツーリズム学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共同研究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.				

2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 7 月 14 日 - 2024 年 3 月 31 日	北九州市のインバウンド観光振 興活動	企画者代表
2.	2023 年 7 月 14 日 - 現在に至る	北九州魅力探究プログラム 「アオハルし放題」	企画者代表
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2022 年 4 月 1 日-2023 年 3 月 31 日	学生委員	
2.	2021 年 4 月 1 日-2023 年 3 月 31 日	国際交流委員	
3.	2021 年 4 月 1 日-2023 年 3 月 31 日	教職員研修委員	

准教授

池口 功晃

■ 学歴

1995 年 慶応義塾大学商学部商学科卒業

2013 年 久留米大学大学院比較文化研究科後期博士課程単位取得満期退学

■ 学位

2019 年 博士（経済学）

■ 研究分野

1. 観光経済学
2. 経済地理学
3. 観光ビジネス・地域活性化

■ 研究キーワード

1. 産業連関分析・商圈分析
2. 観光政策
3. まちづくり

■ 研究課題

観光を通じた地域経済活性化に関する研究は、観光地の「魅力」がその核心であると捉えたものが多く、観光資源の魅力をいかに高めるかということに焦点が当てられてきた。しかし、近年の急速な高速交通網の発達に伴い、観光地の「魅力」は否応なく相対化されつつある。この認識のもと、①観光行動を消費者行動と捉えた消費行動分析、②観光地間の競合関係の分析、③産業連関表を通じた観光の経済分析など、主として3つのテーマを設定し、観光による地域経済の計量的分析および評価をおこなっている。

■ 担当授業科目

1. 日本経済入門（前期）（観光文化学科） 選択
2. 国際経済入門（前期）（観光文化学科・英語学科） 選択
3. 観光関連法規（前期）（観光文化学科） 選択
4. 国内旅行実務（前期）（観光文化学科） 選択
5. 専門演習Ⅰ・Ⅱ（前期・後期）（観光文化学科） 必修
6. 卒業研究（通年） 必修
7. 地域観光資源開発論（後期）（観光文化学科） 選択
8. 地域活性化演習（後期）（観光文化学科） 必修
9. ツーリズム演習（後期）（観光文化学科） 必修
10. ビジネスファイナンス（後期）（観光文化学科） 選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【日本経済入門】 経済学系の科目は金利、株価、貿易、財政、税などマクロ経済学の基礎的理解が必須である。そこで、1回～7回までの授業ではマクロ経済学の基礎について図や計算による演習をおこない知識の定着を図っている。また、8回以降では戦後の日本経済（GHQの占領下～高度経済成長期～石油ショック～バブル経済の発生と崩壊～不良債権問題～アベノミクス）について説明している。
2.	授業科目名【地域観光資源開発論】 九州各県および山口県における地方自治体の観光の取り組みについて、学生がグループに分かれて実地・文献調査をおこない、観光振興上の課題の発見と新しい観光のあり方について議論・考察する機会を設けている。
3.	授業科目名【地域活性化演習】 地域活性化の重要な担い手の一つである企業に着目し、企業と学生の共同作業を通じて一定の成果を生み出すことを目的としている。具体的には、企業等の選定と課題の発見～共同作業の提案～成果発表に至る過程でアクティブラーニングを実施している。
4.	授業科目名【ビジネスファイナンス】 ビジネスではいわゆる数字（例.売上、原価、利益など）を読めることが大切である。本授業ではさまざまな業種の財務諸表を扱い、企業財務の分析手法について詳しく説明している。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2008年4月～現在に至る	日本観光研究学会	
2.	2008年4月～現在に至る	日本地理学会	
3.	2012年4月～現在に至る	観光学術学会	設立発起人
4.	2018年4月～現在に至る	日本企業経営学会	理事
5.	2021年4月～現在に至る	東アジア企業経営学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.	2024年2月	『地域産業の経営革新と流通・マーケティング戦略』	共著	千倉書房	①地方創生には、多様な資源の認識と地域ごとに付加価値の高い産業集積や企業、団体、商品、サービスの育成が急務である。本書は第Ⅰ部ものづくり産業、第Ⅱ部食品関連産業 第Ⅲ部観光関連産業の三部で構成されており、地方創生に関わる種々なテーマを扱っている。

					②編著者名 西田安慶,岡本純,他 13 名 ③担当部分：第 14 章 大分県中津市における料亭の伝統と経営革新—日本料理・筑紫亭を事例に— (pp.263～275) , 総頁数：p.303 ④A5 判
(学術論文)					
1.	2024 年 2 月	「訪日観光マーケティング戦略における潜在的リスクに関する研究—ライリーの小売引力モデルを援用して—」	単著	『東亜企業経営研究』第 3 号	商圏・マーケティング分析などの分野で幅広く応用されているライリーの小売引力モデルを援用し、訪日外客数の多いアジア 11 か国・地域からの訪日外客数を対象に、訪日観光マーケティング戦略における潜在的リスクを計量的に把握し、その考察をおこなった。
(学会発表)					
1.	2024 年 2 月	「産業連関分析を通じた地域観光政策の策定に関する一考察—北九州市を事例として—」	単独発表	一般社団法人地域デザイン学会九州・沖縄地域部会第 14 回研究会(於 別府大学)	北九州市を事例に、同市が公表している産業連関表と他の政令指定都市産業連関表における影響力係数や感応度係数などの分析指標の比較を通じて、北九州市の観光政策について考察をおこなった。

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	平成 25 年 9 月～現在に至る	「輝こう！あまがせ・支援大使」 (大分県日田市天瀬町「天瀬公民館まちづくり事業」)	観光振興に関する助言・指導
2.	平成 27 年 7 月～現在に至る	宇佐市まち・ひと・しごと創生 有識者会議 審議委員	副委員長
3.	平成 28 年 8 月～現在に至る	津久見市まちづくり推進事業審 査委員	副委員長
4.	平成 30 年 9 月～現在に至る	日田市天瀬農業公園検討委員会	会長

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

任 期	会議・委員会等の名称	役 職 名 等
-----	------------	---------

	期 間 等	(内 容)	
1.	2019 年 4 月～2020 年 3 月	学生委員会	
2.	2020 年 4 月～2021 年 3 月	教務委員会	副委員長
3.	2021 年 4 月～現在に至る	教務委員会	

准教授

角谷 尚久

■ 学歴

1. 2023 年 BAM(Dr Babasaheb Ambedkar Marathwada)University (India)

■ 学位

1. 2023 年 博士（観光学）Ph.D. (Tourism)

■ 研究分野

1. 人文・社会 / 観光学
2. 人文・社会 / 経営学
3. 人文・社会 / 経営情報学

■ 研究キーワード

1. 航空産業
2. 観光マーケティング
3. 国際観光（インバウンド）
4. 地方創生

■ 研究課題

1. グローバル化する航空事業において収益構造の変化や協業体制の課題について
2. 複雑な旅行ビジネス構造の中での旅行業が直面している課題について
3. 地方創生において地域のかかえる課題について

■ 担当授業科目

1. 初年度セミナーⅠ（前期）(観光文化学科)必須
2. 専門演習Ⅰ（前期）(観光文化学科)必須
3. インターンシップ（前期）(観光文化学科)選択
4. 観光フィールドワーク（前期）(観光文化学科)選択
5. 宿泊産業論（前期）(観光文化学科)選択
6. タウンマネジメント（前期）(観光文化学科)選択
7. 初年度セミナーⅡ（後期）(観光文化学科)必須
8. 専門演習Ⅱ（後期）(観光文化学科)必須
9. 航空産業論（後期）(観光文化学科)選択
10. 観光産業論（後期）(観光文化学科)選択
11. 現代ビジネス人材論（後期）(英語学科)選択
12. ニューツーリズム論（後期）(観光文化学科)選択
13. フィールドワーク入門（後期）(観光文化学科)選択

14. マルチメディアツーリズム（後期）（観光文化学科）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【インターンシップ】 2023 年度においては、インターンシップ制度の変革期にあたる為、最新の情報を基に学生が積極的に参画できるように講義を行った。
2.	授業科目名【宿泊産業論】 対面型授業の中で、出来るだけ具体例をあげながら、宿泊産業の歴史やビジネスモデルを教授するとともに、現役実務家のゲストスピーカーに登壇頂き、宿泊産業の現状を解説してもらうことにより、就職活動を念頭とした解説を行った。
3.	授業科目名【航空産業論】 行動制限が解かれ、航空需要が戻る中、各航空会社のリカバリープランの解説や航空業界への就職を視野に入れている学生に現在業界がおかれている状況などの解説を加えることにより、従来の授業内容をより実学向けにすることにより、理解度を深めるようにした。
4.	授業科目名【観光フィールドワーク】 前年度後期に開講したフィールドワーク入門のステップアップとして、フィールドワークの役割を再認識するとともに実施する際の意義や手続きについて実務を習得し、スキルを身につけられるように工夫する。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2009 年 4 月	東北亜観光学会	
2.	2009 年 4 月	旅行ビジネス研究学会	
3.	2013 年 4 月	日本ウマ科学会	
4.	2016 年 8 月	観光学術学会	
5.	2016 年 8 月	日本海運経済学会	
6.	2018 年 12 月	日本観光研究学会	
7.	2019 年 12 月	日本観光経営学会	
8.	2021 年 10 月	沖縄経済学科	
9.	2022 年 6 月	共生学会	設立発起人
10.	2022 年 12 月	日韓国際学術学会	常任理事(2024 年 2 月～現在)
11.	2022 年 12 月	日本企業経営学会	
12.	2022 年 12 月	東アジア企業経営学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共 著 の	発行所、発表雑 誌等又は発表学	概 要
---------------	-----------------	--------------	--------------------	-----

			別	会等の名称	
(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.	2023.12	Film Tourism: A case study of promoting Japanese Tourism in Korea and India	単	Dr. Babasaheb Ambedkar Marathwada University 学位論文 (査読付)	① 映画やドラマの内容が観光地の認知や訪問意向に影響することが判明した。特に、喜びや思いやりを与える作品が効果的であり、マーケティング戦略ではこれらの感情を重視する必要性について知見を得た。そうすることで、映画撮影の誘致や共同マーケティングへの投資につながることが示唆された。
2.	2023.12	Potential of Kitakyushu Airport as a Secondary Airport	単	Glocal Cultural Studies No.1 (査読付)	① 福岡空港の混雑緩和と地域経済活性化を目指し、北九州空港を二次空港として活用する可能性を検討した。LCC 参入の課題、福岡市内へのアクセス改善策、広報活動強化、観光資源整備やビジネス環境改善などにより、北九州空港が福岡空港を補完し、九州全体の航空インフラ効率化と地域経済発展に寄与することが示された。
3.	2024.3	SNS 活用による沖縄観光の持続可能性について -観光客行動歴分析レポートをもとに-	共	森下財団紀要 第7巻 (査読付)	① SNSが沖縄の観光業に及ぼす影響を分析し、観光客の行動や意思決定への影響を考察した。交流や情報共有が観光体験に与える効果を検証し、ソーシャルメディアのポジティブな側面と課題を明らかにした。SNSの活用が観光地の魅力を高める一方で、持続可能な観光開発への課題を示し、効果的な利用のための提言を行った。 ② 共著者名：國崎 歩 ③ 共同執筆につき本人担当部分抽出不可能
(実践報告)					
1.	2024.1	地域における	共	名桜大学紀要	

		道の駅と大学連携に関する実践的研究－沖縄県の重点道の駅許田と名桜大学の連携を事例として－		No.28	
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2023.9	A Study of Airport Utilization in Japan -Secondary use of the airport at Kitakyushu airport-	共	International Academic Conference on Glocal Tourism	
2.	2024.2	学生スポーツとしての馬術	単	日本比較文化学会 第36回九州支部大会 基調講演	
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)	
1.					
2.					
3.					

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				

2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2022.4～現在に至る	図書委員	副委員長
2.	2023.4～現在に至る	入試委員	
3.	2023.4～現在に至る	学生募集委員	副委員長

助 産 別 科

役職・職位 教授
氏 名 杉浦 絹子

■ 学歴

1. 長野県看護大学大学院博士後期課程修了

■ 学位

1. 博士（看護学）

■ 研究分野

1. 助産学
2. 母性看護学
3. 生涯発達学

■ 研究キーワード

1. 知的障がい
2. 意思決定
3. 支援
4. 妊産婦
5. 親
6. 育児

■ 研究課題

1. 知的障害のある女性への周産期保健医療現場における意思決定支援
2. 知的障害のある妊産婦・親への支援

■ 担当授業科目

1. 母性看護学概論
2. ウィメンズヘルス
3. 基礎助産学 I
4. 助産管理学
5. 助産学研究演習
6. 子育て支援論
7. 助産診断・技術学演習 VII
8. 人間関係とコミュニケーション
9. 助産管理学実習

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【助産学概論】 本科目では、助産の基盤となる知識を教授するとともに、助産に関連する最新トピックスを提示し、グループ討議および全体討議の時間を多く設けた。自分とは異なる意見や考え方を知るとともに自分の考えについて振り返る機会となっていた。口頭およびリアクションペーパーにて質問・意見・感想をフィードバックしてもらい、質問については次の授業時に回答した。
2.	授業科目名【助産学研究演習】 Evidence-based practice の重要性と研究と理論との関係性、助産学研究の目的と意義を教授したうえで、臨床の助産師の倫理審査における仮想事例を題材として、助産実践における課題を臨床研究に繋げる過程および研究倫理について考えるグループ討議および全体討議の時間を設けた。その後、各学生の関心に基づく研究テーマについて研究計画書およびオンライン開催学会のオンデマンド発表を想定した研究計画発表会用のスライドを作成してもらった。
3.	授業科目名【母性看護学概論】 本科目は看護師国家試験受験のための必修科目であり、2年生前期での開講である。母性看護に関連する最新の統計的データや最新のトピックスの動画等視聴覚教材を多く用いた。また、実際の患者の語りや体験談を示すことで、興味・関心を促すとともに、看護の場面を具体的にイメージできるよう工夫した。
4.	授業科目名【子育て支援論】 PBL として、指定した公共性のある web 上の情報から乳幼児を育児中の親が抱く子育てに関する疑問や悩みとそれらに対する子育て支援の専門家の回答を調べ、発表・討議する時間を設けた。また、全国の子育てしやすい自治体ランキングで上位にある自治体の子育て支援策（「伴走型相談 支援 事業」と「出産・子育て 応援給付金給付事業」）について調べ、発表・討議する時間を設けた。
5.	授業科目名【助産管理学実習】 PBL として、実習要項および実習オリエンテーションにおいて事前に提示した助産管理に関する学習項目について各実習施設の実際を実習中に主体的に調べ、発表資料およびスライドを作成して発表し、全体で共有する機会を設けた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2001 年 3 月～現在	日本看護科学学会	
2.	2007 年 4 月～現在	日本助産学会	専任査読者（2019 年～現在）
3.	2005 年 4 月～現在	日本母性衛生学会	
4.	2013 年 4 月～現在	日本看護倫理学会	
5.	2011 年 9 月～現在	川崎医療福祉学会	
6.	2023 年 10 月～現在	International Consortium of Research on Parents and Parenting with Disabilities	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
(著書)					
1.	2024 年 2 月	助産師基礎 教育テキスト 助産概 論・母子保健 2024 年版	分担執筆	日本看護協会出 版会	杉浦絹子（分担）B 5 版全 p293 中、第 5 章 2 諸外国のお産の歴史 p153-158、3 お産と文化 p159-177
2.					
3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2023 年 10 月	保健師が知 的障害のあ る母親へ行 なっている 配慮	共著	第 64 回日本母 性衛生学会学術 集会	杉浦絹子、藤澤和子
2.	2023 年 10 月	知的障害者 を対象とし た母子健康 手帳省令様 式の難しい 語彙とわか りやすいリ ライト	共著	第 64 回日本母 性衛生学会学術 集会	藤澤和子、杉浦絹子
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外	交付決定額 (単位：円)

			者	
1.	知的障害のある親への乳幼児の育児支援方法の検討 2021年度～2023年度	日本学術振興会	○ <u>杉浦絹子</u> 、(藤澤和子)	416万円
2.	知的障害者の妊娠出産育児支援のためのわかりやすい母子健康手帳と支援ツールの開発 2021年度～2024年度	日本学術振興会	(○藤澤和子)、 <u>杉浦絹子</u>	403万円

(2) 個人研究

	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2013年～現在	(公社)全国助産師教育協議会	資格・専門能力委員会委員長
2.	2023年6月～2023年10月	2023年度こども家庭庁母子保健指導者養成研修 3・4 (オンデマンド)	講師
3.	2023年9月	2023年度西南女学院大学シニアサマーセミナー	講師

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2023年4月～2024年3月	運営会議	
2.	2023年4月～2024年3月	点検評価改善会議	
3.	2023年4月～2024年3月	教学マネジメント会議	
4.	2023年4月～現在	入試会議	

講師

古賀 玉緒

■ 学歴

1. 2009 年 久留米大学修士課程 修了

■ 学位

1. 2009 年 修士（医科学）

■ 研究分野

1. 母性看護学
2. 助産学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 周産期
2. 更年期
3. 教育

■ 研究課題

1. 周産期における女性の母親役割適応への援助について考察する。
2. 更年期の女性の健康問題を明らかにし、効果的な教育介入方法を考察する。
3. 看護・助産学生の教育向上にむけた教授方法を考察する。

■ 担当授業科目

- | | |
|-------------------------|--------|
| 1. 助産診断・ケア学Ⅲ（産褥期） | （前期）必須 |
| 2. 助産診断・ケア学Ⅳ（新生児・乳幼児期） | （前期）必須 |
| 3. 助産診断・ケア学Ⅴ（周産期のハイリスク） | （前期）必須 |
| 4. 初産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習） | （通年）必須 |
| 5. 助産診断・ケア学Ⅶ（助産過程演習） | （通年）必須 |
| 6. ウイメンズヘルスケア | （前期）必須 |
| 7. 人間関係とコミュニケーション | （前期）選択 |
| 8. 助産学基礎実習 | （前期）必須 |
| 9. 助産学実習Ⅰ（正常） | （通年）必須 |
| 10. 助産学実習Ⅱ（正常逸脱） | （後期）必須 |
| 11. 母性看護方法論 | （後期）必須 |
| 12. 母性看護学演習 | （前期）必須 |
| 13. 母性看護学実習 | （通年）必須 |
| 14. ウイメンズヘルス | （前期）選択 |

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【助産診断ケア学Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ】 助産別科の学生を対象に産褥期・新生児期に関する講義・演習を行った。 実戦経験が少ない学生が対象をイメージし、対象の観察ポイントを見出し、適切な看護ケアについて思考が深められることを意図して、事前学習を実施し、具体的な支援についてグループワークやディスカッションを通して考えることのできる機会を設けた。また、教員が助産技術の動画を作成し、演習に向けたイメージ作り、準備に活用できるよう工夫した。また、実践に活用できることを意図し模擬患者へのロールプレイの時間を設け学生の実践力向上を目指した。 助産診断ケア学Ⅴでは主担当と検討し、ハイリスクに関する内容は臨床において対応する機会が多い疾患について解説し実習や国家試験対策につながることを意識した。
2.	授業科目名【助産診断ケア学Ⅵ・Ⅶ・人間関係とコミュニケーション】 助産診断ケア学Ⅵでは、健康教育の概要についての解説、産褥期・思春期に関する健康教育実施に必要な指導方法を段階的および系統的に理解し実践に活用できることを意図して講義内容を組み立て実施した。演習では他教員も加え少人数を受け持ち、個別的な対応を行った。その際、教員間において教授内容を統一し共通理解を得たうえで指導にのぞめるよう準備した。学内での学習は臨地実習における対象者へ向けた直接指導や高校生を対象とした思春期教育へつながることもあり、実践を意図した内容を工夫した。助産診断ケア学Ⅶでは担当する学生個々の進捗状況を確認しながら理解につながることを意識して対応した。 人間関係とコミュニケーションでは主担当とともにロールプレイを実施し、学生にとって効果的な場面となるよう計画した。
3.	授業科目名【ウイメンズヘルスケア】 講義は主に解説が中心であるが、教科書のほか国の施策や世界の動向、関係する NGO 団体の活動を紹介することで、ウイメンズヘルスに関する助産師としての自身の支援の方向性や知見を広げられるよう意識した。
4.	授業科目名【助産学実習（基礎・Ⅰ・Ⅱ）】 臨地実習では適宜、施設担当者との連絡を取り施設の受け入れ条件の確認と厳守し臨んだ。時間や実習内容に制限はあったものの集中して学ぶことができた。新型コロナウイルス感染拡大の影響による施設からの実習制限もあったが、学内実習にふりかえて指導に臨んだ。学内でも実習目標を達成できるよう実習内容を検討し、臨地実習の経験状況をふまえて指導計画を作成し対応した。
5.	授業科目名【母性看護方法論・母性看護学演習・ウイメンズヘルス】 母性看護方法論では、看護学科2年生を対象に、周産期における女性（胎児・新生児を含む）の生理的变化の理解およびウェルネス看護診断・看護過程の理解を目的に、映像を活用し学生の知識の定着や思考力の向上に努めた。 看護過程演習では、看護学科3年生を対象に臨床実習を見据え、得られた知識を実践で活用できるよう個人ワークや担当学生との質疑応答の時間を確保した。個々の進捗状況をふまえて効果的な指導になるよう努めた。また、事前に学習成果を提出させ教員は予め内容を確認したうえで指導のポイントをふまえて講義に臨んだ。技術演習では優先度の高い基本的な母性看護に関する技術を中心

	に本学の感染予防ガイドラインに沿って実施した。 ウイメンズヘルスでは、女性の健康に関するなかでも、更年期老年期の女性の健康について解説を行った。グループディスカッションの時間を設け、学生の考察が深まるよう取り組んだ。
6.	授業科目名【母性看護学実習】 新型コロナウイルス感染の影響により学生の実習形態は臨地・学内と学生間での相違がみられた。そのため、全ての学生がそれぞれの実習形態のなかで、より効果的な実習を経験することができ、かつ実習目標を達成できるよう実習内容を検討しながら教員間でも検討しながら実習方法を工夫した。 臨地における学生の指導については、指導者とも定期的に情報交換を行い学生の進捗状況をふまえて効果的な指導を心がけた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2007 年 4 月～現在に至る	日本母性衛生学会会員	構成員
2.	2008 年 4 月～現在に至る	日本看護研究学会会員	
3.	2011 年 9 月～現在に至る	日本助産学会会員	
4.	2014 年 5 月～現在に至る	日本看護科学学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2013 年～現在に至る	助産別科学生アドバイザー	
2.	2016 年～現在に至る	助産別科実習コーディネーター	
3.	2016 年～現在に至る	入学試験会議	構成員
4.	2016 年～現在に至る	学生募集委員会	構成員
5.	2017 年～現在に至る	保健福祉学研究所運営委員会	構成員
6.	2022 年～現在に至る	オープンキャンパス WG	構成員
7.	2022 年～現在に至る	看護学科種まきプロジェクト分科会（実習）	分科会メンバー

■ 学歴

1. 2006 年 天使大学大学院 助産研究科 助産専攻

■ 学位

1. 2006 年 助産修士（専門職）

■ 研究分野

1. 助産学
2. 母性看護学

■ 研究キーワード

1. 助産ケア、助産師外来、分娩介助
2. バースレビュー、出産想起、分娩の振り返り
3. 助産学生、看護学生、乳がん検診

■ 研究課題

1. 助産学生の分娩介助の習得過程に関して考察する
2. 分娩体験におけるバースレビューの意義や役割について考察する
3. 乳がん検診・自己触診法の啓発活動を通しての学生の学びについて考察する

■ 担当授業科目

- | | | | | |
|-----|------------|-------------|--------|-----------|
| 1. | 母子の心理・社会学 | (前期) | (助産別科) | 必須 |
| 2. | 助産診断・ケア学Ⅰ | 妊娠期 | (前期) | (助産別科) 必須 |
| 3. | 助産診断・ケア学Ⅱ | 分娩期 | (前期) | (助産別科) 必須 |
| 4. | 助産診断・ケア学Ⅴ | 周産期のハイリスク | (前期) | 必須 |
| 5. | 助産診断・ケア学Ⅵ | 健康教育演習 | (通年) | 必須 |
| 6. | 助産診断・ケア学Ⅶ | 助産過程演習 | (通年) | 必須 |
| 7. | ウィメンズヘルスケア | (前期) | (助産別科) | 必須 |
| 8. | 助産管理学 | (通年) | (助産別科) | 必須 |
| 9. | 助産学基礎実習 | (前期) | (助産別科) | 必須 |
| 10. | 助産学実習Ⅰ | (通年) | (助産別科) | 必須 |
| 11. | 助産学実習Ⅱ | (後期) | (助産別科) | 必須 |
| 12. | 母性看護方法論 | (後期) | (看護学科) | 必須 |
| 13. | 母性看護学演習 | (前期) | (看護学科) | 必須 |
| 14. | ウィメンズヘルス | (前期) | (看護学科) | 必須 |
| 15. | 母性看護学実習 | (3年後期～4年前期) | (看護学科) | 必須 |

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1. 授業科目名【助産診断・ケア学Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ】

助産診断・ケア学では、基礎的知識及びフィジカルアセスメント、助産技術の習得ができるように、事前課題やワークシートなどを用い、学生自身が主体的に自ら考え、意欲・関心が得られるように工夫した。できるだけ、双方向型の授業を意識し、グループワーク、ディスカッションや発表を取り入れるなど、教員と学生同士の学びの共有ができる授業を心掛けた。演習においては、最新のガイドラインなどを活用し、机上の学習で得た知識を統合させ、ケアの実践につながるよう、担当教員とともに環境を整えた。また、実際に臨床の場において体験する場面やケアなどを積極的に取り入れて授業を展開した。

1. 助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）

母性看護学で培ってきた知識をより深く掘り下げ定着させるために、ワークシートを用い、個人ワークとグループワークを併用しながら知識習得のための授業を目指した。特に、妊娠期における保健指導の必要性やその根拠について理解し、対象者にとって必要な指導を導き出せるように意識しながら関わった。演習に関しては、演習内容を事前に提示し、自己学習を行った上で臨むようにした。実習において、必須である妊婦健診や保健指導に伴う技術に関しては、より具体的にイメージができるよう基本技術に加え、演習内容に妊婦と助産師役、第3者の視点も含めロールプレイを行い、ケアに結び付けられるよう演習を組み立て取り組んだ。演習後は、観察したことをアセスメントするとともに、経験したことに対する振り返りの機会をもった。また、模擬妊婦体験を通して、日常生活を妊婦として体験する機会もち、その経験を共有し、ケアへ結びつけることができるように工夫した。

2. 助産診断・ケア学Ⅱ（分娩期）

事前課題を課して母性看護学で得た知識を復習するとともに、助産の専門的知識の習得に結びつけることができるよう準備をした。分娩期の生理・分娩経過に伴う産婦や胎児の変化、支援方法について学生自身が自ら考え、意欲・関心が持てるようにDVD視聴や模型を使用し、授業を実施した。また、知識の定着を確認できるように小テストを行い、結果をすぐにフィードバックし復習へつなげることができるように工夫した。演習に関しては、演習内容を事前に提示し、自己学習を行ったうえで臨むようにした。産婦人科ガイドラインや助産業務ガイドラインを中心に臨床での基準に沿って、また科学的根拠を持って、技術を実践できるよう意識づけを行った。実習において必須である分娩介助やそれに伴う技術に関しては、より具体的にイメージができるよう基本技術に加え、事例を用いての演習を組み立てて取り組んだ。また、学生が胎盤の模型を各自作成し、使用することで主体性を促した。分娩経過に沿って、経過診断と時期診断が行えるように、実際にパルトグラムの記載を行いながら、情報収集・アセスメント・ケアの方向性を常に修正し、分娩のケアの演習を行った。記録の重要性にも触れ、助産録など責任をもって記載することを実施した。感染対策についても学生自身がより意識して行動できるように工夫した。

3. 助産診断・ケア学Ⅴ（周産期のハイリスク）

周産期におけるハイリスクの対象の方のケアについて、実際の事例などを用いながらイメージを持てるように工夫した。この科目は助産学実習Ⅱにつながるため、実習に関わる事例の助産計画をレポートとして課すことで、実習に活用できるように工夫した。

4. 助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）

妊娠期を主に担当した。助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）と連動しながら、保健指導の指導案の作成を

	おこない、発表会を実施し学生同士の共有を行った。担当教員とともに、きめ細やかな指導を心掛けた。
2.	授業科目名【助産学基礎実習】 基礎助産学実習では、基本的な助産技術の習得および助産過程の展開ができるように学生の支援を行った。具体的には、対象者を捉えることからはじめ、母子の安全を考え、また科学的根拠に基づいたケアを学生が提供できるように支援した。学生個々の価値観等を考えながら支援するとともに、助産ケアに関して、フィジカルアセスメントをしたうえで、今後どのようなことが予測されるか、対象者に必要なケアは何か、学習で得た知識を活用できるようにフィードバックを行い工夫した。実習後には、面談を行い学生の学びの振り返りができるよう支援するとともに、学生全員で実習のまとめ発表会を行うことで、基礎実習での経験が次の段階へつながるように支援した。
3.	授業科目名【助産学実習Ⅰ・Ⅱ】 実習目標に沿って、助産技術の習得および助産過程の展開ができるよう学生の支援を行った。特に助産学実習Ⅰ・Ⅱでは学生が対象者や家族を多角的に捉え、気づき、対象者に寄り添ったケアを提供できるように意識して支援を行った。 <u>1. 助産学実習Ⅰ（正常）</u> 正常経過と逸脱経過の判断を行いながら、倫理的視点を常に持ち、ケアを実施できるよう助言等の工夫をした。臨地実習では、臨床指導者や他の教員と連携をとり、意見交換しながら支援するとともに、学生がより対象者の個別性を考えたケアを実施できるように工夫して、フィードバックを行った。また、正常からの逸脱の事例を経験した学生には、1つ1つの場面やケアの振り返りを行う機会を持つとともに、グループ間での情報共有やディスカッションを通し、より客観的に学びを共有することができるよう支援した。 <u>2. 助産学実習Ⅱ（正常逸脱）</u> 逸脱の経過やハイリスク疾患の学習をしっかりと行い、対象の理解へつなげるとともに、必要な保健指導を考え実施できるよう指導者と連携を図り支援した。また NICU での実習では、NICU での実習を通して、対象者及び家族の支援レポートを考えることができるように支援した。 全ての実習後には、面談を行い学生の学びの振り返りができるよう支援するとともに、学生全員で実習のまとめ発表会を通し、臨地実習で学生が経験したことを共有する機会をもち、助産学生としての学びの総まとめとなるように支援した。
4.	授業科目名【母性看護方法論】 2023 年度は、産褥期・新生児期を担当した。母性看護は、対象が女性や子どもと家族であるため、学生が自分自身の身体と結びつけることができるよう、日常生活での関連性を示すとともに、体操など学生が机上でも体験できる方法も取り入れた。学生が主体的に学習できるように、講義の中でワークシートを用いた学習や小テストなどを取り入れ、学生自身が知識の習得状況を確認できる機会を設けた。母性看護学をより具体的にイメージでき、また興味を持てるよう写真や動画などの映像を取り入れるなどの工夫をした。また、学生が教科書の知識と結び付けてイメージしやすいよう臨床の現場で起こりうることや自身の経験、実習で先輩たちが経験したことなど具体的な事例等を用いて、看護者としての考え方や対象者との関わり方を考える機会をもてるよう工夫した。また、時事的トピックも加えることで、学生が日常生活中で母性看護を身近に意識できるよう工夫した。
5.	授業科目名【母性看護学演習】 母性看護学演習は、看護過程演習と看護技術演習からなる。看護過程演習においては、看護過程に関

	しては、ワーク型の演習を取り入れ、小グループ単位で担当教員がサポートし、個別的で細やかな指導を実施した。また、看護技術に関しては、実習の状況に近い形で技術演習を行った。また動画視聴などを通して学生が繰り返し技術を学べるように教材を工夫した。母性看護学実習の前に技術に関するフォローを行った。
6.	授業科目名【母性看護学実習】 臨地実習では、実習指導者と相談しながら、学生が学びを深めることができるよう感染対策を行いながら、見学やケアの実施の機会が得られるように工夫した。学生自身がケアを受ける立場の状態を体験することで、対象者の状況や気持ちを考える機会を設けた。ケアの振り返りやカンファレンスを多く取り入れ、学生自身の気づき、学生同士の気づきを大切にし、ケアをより深く考えることができるように工夫した。また、看護技術の習得が十分ではない部分に関しては、繰り返し実施をすることで技術の定着を図った。臨地実習・学内実習とも実習を行う中で、主体的に学生がカンファレンスを行うテーマを決め、テーマカンファレンスを実施した。実習の総括として、まとめカンファレンスを行うとともに、実習最終日に面談を行い、学生の学びの振り返りができるよう支援した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2003 年 4 月～現在に至る	日本看護協会	佐賀県看護協会助産師職能委員 (2013 年 6 月～2015 年 5 月)
2.	2017 年 3 月～現在に至る	日本助産学会	
3.	2018 年 4 月～現在に至る	日本母性衛生学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					

2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 7 月 7 日	キャリア教育研究会 夢授業 (職業別理解型ガイダンス)	若松高校 ボランティア

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2019 年～現在に至る	教務委員会	
2.	2019 年～現在に至る	助産別科 教務全般担当	
3.	2019 年～現在に至る	助産師国家試験対策担当	
4.	2019 年～現在に至る	受胎調節実施指導員資格認定に 関することを担当	
5.	2016 年～現在に至る	助産別科学学生アドバイザー	
6.	2023 年 7 月・8 月・10 月	オープンキャンパス担当	
7.	2023 年 12 月	第 113 回看護師国家試験対策 強化学習講義担当 (1 コマ)	

助教
新郷 朋香

■ 学歴

1. 2009 年 天使大学大学院 助産研究科 助産専攻修了

■ 学位

1. 助産修士（専門職）

■ 研究分野

1. 助産ケア
2. 産後ケア
3. 母性看護学

■ 研究キーワード

1. 助産ケア
2. 産後ケア
3. 継続支援

■ 研究課題

1. 助産師の妊娠期から産褥期における継続的ケアについて考察する
2. コロナ禍での学内実習における学生の学びと実習の成果を考察する

■ 担当授業科目

1. 看護学科 母性看護学演習
2. 看護学科 ウィメンズヘルス
3. 看護学科 母性看護学実習
4. 助産別科 助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）
5. 助産別科 助産診断・ケア学Ⅱ（分娩期）
6. 助産別科 助産診断・ケア学Ⅲ（産褥期）
7. 助産別科 助産診断・ケア学Ⅳ（新生児期・乳幼児期）
8. 助産別科 助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）
9. 助産別科 助産診断・ケア学Ⅶ（助産過程演習）
10. 助産別科 助産学研究演習
11. 助産別科 母子の心理・社会学
12. 助産別科 助産学基礎実習
13. 助産別科 助産学実習Ⅰ

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【看護学科 母性看護学演習】 看護過程の展開では、実際に実習で活用できるよう、事例を設けた。小グループでワークを行い数十名の学生を受け持ち、個別での時間を設け理解を深めることが出来るよう関わった。 また、技術演習では、繰り返し確認できるよう動画視聴による工夫を行った。技術練習・技術テストの時間を設け、細やかな指導が行えるよう時間と場所の設定をした。
2.	授業科目名【看護学科 ウィメンズヘルス】 “子宮頸がんとうィメンズヘルス”のテーマで講義を行い、学生の知識の確認、病態や治療・予防における現状について説明した。
3.	授業科目名【看護学科 母性看護学実習】 臨地実習では、施設ごとに感染による制限が異なっていたが、指導者と調整を行い、多くの経験見学ができるよう調整した。テーマカンファレンス・まとめカンファレンスを実施しディスカッションを通して母性看護への学びを深めることが出来るよう支援した。また、最終日には面談を実施し自己の課題や母性看護の学びについて振り返りを行った。
4.	授業科目名【助産別科 助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）・Ⅱ（分娩期）・Ⅲ（産褥期） Ⅳ（新生児期乳幼児期）】 科目責任者と共に、助産学生の学習状況や達成状況などを考え演習の組み立て、実践を行った。学生の知識が実際の対象者へのケアに結びつけることが出来るよう支援を行った。 また、ロールプレイで対象者や助産師、第三者の視点に立つことが出来るよう計画し、自分のケアを振り返る機会を設けた。
5.	授業科目名【助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）・Ⅶ（助産過程演習）】 看護過程の展開では、実際に実習で活用できるよう、事例を設けた。小グループでワークを行い数名の学生を受け持ち、知識の共有を行ったり、個別での時間を設け理解を深めることが出来るよう関わった。
6.	授業科目名【助産別科 助産学実習】 臨地実習では、学生の体調管理や感染予防に努め、実習施設や母児、学生の安全を最優先に配慮した。学生の個別性を考慮し、指導の方向性を他教員とも共有しながら支援した。また、臨床指導者との意見交換を行い学生の進捗状況や学びをフィードバックし、より深く理解できるよう支援した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2009年4月～現在に至る	日本看護協会	
2.	2020年4月～現在に至る	日本助産学会	
3.	2020年4月～現在に至る	全国助産師教育協議会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

発行又は	著書、学術論	単著・	発行所、発表雑誌	概要
------	--------	-----	----------	----

	発表の年月	文等の名称	共著の別	誌等又は発表学会等の名称	
(著書)					
1.	なし				
2.					
3.					
(学術論文)					
1.	なし				
2.					
3.					
(翻訳)					
1.	なし				
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	なし				
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	なし			
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	なし			
2.				
3.				

■ 社会における活動

任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
-----------	--------------------	------

1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2020 年～現在に至る	助産学生アドバイザー（3 名）	
2.	2020 年～現在に至る	国家試験対策委員	
3.	2023 年	オープンキャンパス企画運営（8 月）	

助教

山田 恵

■ 学歴

1. 2022 年 北九州市立大学大学院 修士課程 卒業

■ 学位

1. 2022 年 修士（人間関係学）

■ 研究分野

1. 助産学
2. 母性看護学
3. 思春期学

■ 研究キーワード

1. アタッチメント
2. 寄り添う支援
3. 女性の健康

■ 研究課題

1. アタッチメントの問題、発達特性、未解決の葛藤を抱えている妊産褥婦に対する、助産師の寄り添う支援を具現化し、効果的な支援のあり方について考察していく。
2. 思春期世代に対し、助産学生が行うプレコンセプションケアの意義と有効性について検討する。

■ 担当授業科目

1. 人間関係とコミュニケーション（前期） 選択
2. 助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）（前期） 必修
3. 助産診断・ケア学Ⅱ（分娩期）（前期） 必修
4. 助産診断・ケア学Ⅲ（産褥期）（前期） 必修
5. 助産診断・ケア学Ⅳ（新生児・乳幼児期）（前期） 必修
6. 助産診断・ケアⅥ（健康教育演習）（通年） 必修
7. 助産診断・ケア学Ⅶ（助産過程演習）（前期） 必修
8. 母子の心理・社会学（前期） 必修
9. ウイメンズヘルスケア （前期） 必修
10. 助産学基礎実習 （前期） 必修
11. 助産学実習Ⅰ（正常）（通年） 必修
12. 助産学実習Ⅱ（正常逸脱）（後期） 必修
13. 母性看護学演習 （前期） 必修

14. ウイメンズヘルス （前期） 選択
15. 母性看護学実習 （後期） 必修

授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【 人間関係とコミュニケーション 】 助産ケアを行う上で土台となる対人関係構築に関する技法について、共同学習を取り入れ実施した。
2.	授業科目名【助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）、Ⅱ（分娩期）、Ⅲ（産褥期）、Ⅳ（新生児期）、Ⅶ（助産過程）】 Ⅰ～Ⅳの科目間での学習過程をふまえ、助産過程の展開では知識を活用したアセスメント・診断の技法などを解説した。グループ活動であったが、学修状況により適宜個別対応をした。
3.	授業科目名【助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）】 思春期健康教育実施については準備期間が短期間であることを考慮し、事前アンケートを行い、学生が企画運営に活かせるよう情報提供した。
4.	授業科目名【 母子の心理社会学 】 社会学的視点で助産ケアにどのように知識を活かしていくのか、最近の動向や課題について具体的に事例を用いて解説した。
5.	授業科目名【 ウイメンズヘルスケア 】 学習範囲が広範囲であるため、関連授業とつなげる形で授業資料を作成した。
6.	授業科目名【 助産学基礎実習、助産学実習Ⅰ、助産学実習Ⅱ 】 施設間で実習受け入れ条件が様々であったが、施設間で差が生じないよう目標到達に向けてその都度指導者と調整を行った。また、県外実習の学生の体調不良時にも速やかに対応し、実習継続できるよう調整した。
7.	授業科目名【 母性看護学演習 】 授業内で質問を受け付け対応していく時間を設け、個別指導した。
8.	授業科目名【 ウイメンズヘルス 】 グループディスカッションをする時間を設け、普段意識していない事柄（ジェンダーバイアス）を考える機会とした。全体発表することで互いの気づきを共有し、自己の認識を見直す機会とした。
9.	授業科目名【 母性看護学実習 】 臨地実習が半日と短時間であったが、計画に沿って実践できるよう指導者と時間調整し、実践の機会を設けた。

学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1991年4月～現在	日本助産学会	会員
2.	1991年4月～現在	日本母性衛生学会	会員
3.	2002年11月～現在	日本不妊カウンセリング学会	会員
4.	2005年1月～現在	日本思春期学会	会員
5.	2023年8月～現在	日本学校保健学会	会員

6.	2014年4月～現在	全国助産師教育協議会	会員
----	------------	------------	----

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	(報告書) 2023.4	本学学生を 対象にした 「健康管理 カルテ」の作 成	共	2022 年度西南 女学院大学保健 福祉学部附属保 健福祉学研究所 2022 報告書	① 本学学生の健康維持・増進に向け た学生支援の取り組みとして「健康管 理カルテ」を作成し、2021 年度保健福 祉学部入学生および 2022 年度大学部・ 短期大学部入学生へ配布した。また、 本年度の使用状況について調査した。 その結果、本学学生は健康管理カルテ を体調不良時や実習前に活用している ことが明らかとなった。また、学生に とってより利用しやすくなるよう今後 の健康管理カルテの運用方法について 考察した。 ② 共著者名：水貝洵子、山田恵、樋 口由貴子、目野郁子、高崎智子、大内 田知英 ③ 西南女学院大学保健福祉学部附属 保健福祉学研究所 2022 報告書 (P10～13)
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.	2023.11	A 女子大学 における	共	一般社団法人	① 本学 1、2 年生を対象に配布した 「健康管理カルテ」の利用状況を調査

		「健康管理カルテ」の作成と配付 ー学生の自己管理能力向上をめざしてー		日本学校保健学会 第 69 回学術大会 (於 聖心女子大学)	した。その結果から、入学直後に配布した学生はあらゆる場面で利用しており、自身の健康に関心を持ち、健康意識が高まるよう入学直後の配布が望ましいこと。また、今後の利用意志のない学生も一定数いたことから、配布後も定期的に働きかけをする必要があることが分かった。 ② 共同発表者名：山田恵、水貝洵子、樋口由貴子、目野郁子、高崎智子 ③ 一般社団法人日本学校保健学会 第 69 回学術大会講演集(P130)
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)	
1.					
2.					
3.					

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	助産別科アドバイザー（3 名）	
2.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	クラス担任	
3.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	オープンキャンパス企画・運営	補佐
4.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	助産別科ブログ担当	
5.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	実習コーディネーター	補佐
6.	2021 年～現在	健康管理カルテ作成・配布	

短期大学部

保 育 科

教授

阿南 寿美子

■ 学歴

1. 2009 年 大分大学大学院教育学研究科学校教育専攻学校教育 修了

■ 学位

1. 修士（教育学）

■ 研究分野

1. 保育学
2. 教育学
3. 保育者養成

■ 研究キーワード

1. 実習記録
2. 保育カンファレンス
3. 子どもの社会性の発達

■ 研究課題

1. 多様な実習記録の現状と求められる様式についての検討を行っている。
2. 保育の質向上に向けた省察の在り方の一つである保育カンファレンスの在り方について検討している。

■ 担当授業科目

1. 保育の心理学（前期）必須
2. 子どもの理解と援助（前期）選択
3. 子どもの発達理解とあそび（前期）選択
4. 子どもと絵本（前期）選択
5. 子ども学基礎演習（通年）必須
6. 子ども学特別演習（通年）必須
7. 保育内容「言葉」の指導法（後期）選択
8. 保育内容「人間関係」の指導法（後期）選択
9. 保育・教職実践演習（幼稚園）（後期）選択
10. 教育実習指導（2023 年度入学生）（通年）選択
11. 教育実習指導（2024 年度入学生）（通年）選択
12. 教育実習Ⅰ（後期）選択
13. 教育実習Ⅱ（前期）選択
14. 教育実習Ⅲ（後期）選択

15. 子どもの心理（前期）必須

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【 保育の心理学 】 子どもの発達の理解を目的として講義を中心に授業を展開した。その際、スライド等を使用し視覚的に講座内容を理解できるように配慮するとともに、学生のこれまでの保育体験や自身を振り返ることによって、具体的に場面を想起することができるように配慮した。
2.	授業科目名【 子どもの発達理解とあそび 】 共同担当教員の演習で乳幼児の「遊び」を実際に体験し、感じたことを講座ごとに記録・振り返りを行った上で、指導案の作成指導を行った。「遊び」に関しては、現役の幼稚園園長により、集団遊びや身近な素材を使った遊び、ルールのある遊び、わらべうた遊びなど子どもの発達や遊びの展開方法を中心に授業を進めてもらい、それを受けて講義の中で再度、遊びの留意点や子どもへの配慮などについて学生と考察しながら、指導案を作成する中で、実践に向けての取り組みを行った。
3.	授業科目名【 保育内容「言葉」の指導法 】 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基にして、乳幼児期の言葉の発達や保育者の援助についての理解が深められるように配慮した。また、言葉の発達を促す児童文化財についての解説を行ったうえで、絵本・紙芝居・ペープサートなどの実践を行いながら、実際の保育において実践できるような取り組みを行った。
4.	授業科目名【 保育内容「人間関係」の指導法 】 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基にして、実習で体験した子ども、子ども同士、保育者と子どもの関係性の理解が深められるように配慮した。特に学生の実習体験事例の他、現場の保育実践事例をグループワークを通して読み解きながら、子どもの受け止め方や保育者としての考え方、関わり方について考えられるように授業展開を行った。
5.	授業科目名【 子どもの理解と援助 】 保育の心理学や1年次に学んだ指導法の基礎を振り返りながら、子どもの発達の状況に合わせた環境構成の在り方や保育者としての関わり方をグループワークを中心に考えられるように授業を展開した。また、スライドやレジュメをを適宜利用し、学びが深化できるように配慮した。
6.	授業科目名【 子ども学基礎演習 】 保育に関する基礎的理解を深められるように、おもちゃ作りやカプラ制作などを行った。前期は特に学生生活に慣れること、他者と協同する力やコミュニケーション能力を高められることを目標に個別面談を実施した。後期は、ゼミ長・副ゼミ長を中心に学生が中心となって話し合いを行い、学生自らが考え、作り上げられるように教員は主に学生の活動を見守りながら進められるように配慮した。また、実践に向けて意欲が高められるように2年ゼミ生が行っている喜久屋書店でのおはなし会を見学する機会を設けた。
7.	授業科目名【 子ども学特別演習 】 保育に関する実践的スキルを高められるように、ゼミ活動を展開した。具体的には、保育科えほんのへや及び喜久屋書店（セントシティ7階）における“おはなし会”の実施、キャンドル製作などである。準備を含めて学生を中心に進めることで、協同性や責任を持った行動ができるように配慮した。

	また、地域の保育園が園外保育等で訪問する施設（到津の森公園）を訪れ、保育者としての視点が深まるような活動も行った。
8.	授業科目名【 保育・教職実践演習（幼稚園） 】 様々な角度から保育をとらえる視点が育まれるように、現場保育者の実践事例検討を行った。また、模擬保育では、これまで授業や実習を通して学んだことを活かしながら、各自で指導計画を作成し、準備・実践までを行った。子ども役は保育者が要求する年齢の子どもを演じるために、子どもの姿を表現することが必要になる。観察者は客観的に保育全体を観ることが必要になる。これらを通して、学生自に保育者としての意識が高まるように配慮した。また、ICTを用いたドキュメンテーションオン作成を通して、保育を保護者に伝えるためのスキルを高められるように指導した。
9.	授業科目名【 教育実習指導 】 事後の指導において個人指導として個別面談、全体指導として報告会を行った。それにより他者の学びを自己と比較することによって個人の学びをより深め、課題を見出し次回につなげることができるようにした。また、事前指導においては教材発表の時間を設け、子どもたちへの提示の仕方なども含めての指導を行った。実習前の設定保育に関する指導講座を増やし、実習時に保育者の援助への捉え方が主体的になるように配慮した。 報告会は前期・後期にそれぞれ1、2年生合同で行い、2年生よるスライドを用いた発表を中心に学生同士の学び合いがなされるよう取り組みを行った。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2012 年～現在に至る	日本保育学会	会員
2.	2018 年～現在に至る	日本保育者養成教育学会	会員
3.	2018 年～現在に至る	日本乳幼児教育学会	会員

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					

3.					
(学会発表)					
1.	2023.5	保育者養成における実習日誌に関する考察Ⅲ－保育現場での日誌を通した指導の視点－	共	第76回日本保育学会（オンライン）	①保育者が時系列の日誌指導として主にどのような指導を行っているのかを、保育現場へのヒアリング調査を通して明らかにするとともに、実習生に「記載してほしいこと」（現行様式の記載しやすさ、しにくさ）について整理した。 ②共同発表者：古林ゆり，阿南寿美子，上原真幸，大谷朝，金子幸，島田知和，末寄雅美，藤本朋美，二子石諒太，脇信明 ③第76回日本保育学会抄録
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)	
1.	保育実習における現場指導担当者の実習日誌指導に関する質問紙調査	保育士養成協議会九州ブロック協議会	○末寄雅美 阿南寿美子，（上原真幸，大谷朝，金子幸，島田知和，藤本朋美，二子石諒太，古林ゆり，脇信明）	300,000	
2.					
3.					

(2) 個人研究					
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考	
1.					
2.					
3.					

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2012 年 4 月～現在に至る	九州保育者団体合同研究集会	分科会運営委員
2.	2016 年 4 月～現在に至る	北九州市児童福祉事業第三者評価事業	委員
3.	2018 年 1 月～現在に至る	NPO 法人あゆみの森共同保育園	第三者委員
4.	2021 年 4 月～現在に至る	社会福祉法人喜久茂会（ふたば保育園）	評議員
5.	2021 年 6 月～現在に至る	北九州市社会福祉研修所キャリアアップ研修会	講師
6.	2022 年 4 月～現在に至る	北九州市児童福祉事業第三者評価事業評価基準見直しプロジェクト	委員
7.	2023.5	北九州市 2023 年度新採幼稚園教諭研修 領域「言葉」	講師
8.	2023.7	福岡県私立幼稚園振興協会主催 夏季教師研修会	助言者
9.	2023.7	北九州市私立幼稚園連盟教師研修大会	助言者
10.	2024.2	大分県私立幼稚園連合会教師研修大会	助言者

■ 学内における活動等（役職，委員，学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2020.4～現在に至る	教務委員会	副委員長
2.	2016.4～現在に至る	西南女学院大学短期大学部附属 シオン山幼稚園運営委員会	運営委員
3.	2018.4～現在に至る	認定絵本土資格養成講座	責任者

保育科学科長・教授

末寄 雅美

■ 学歴

1. 2001 年九州大学大学院人間環境学研究科博士課程単位取得満期修了退学

■ 学位

1. 1998 年修士号取得（教育学・九州大学大学院）

■ 研究分野

1. 保育者養成教育
2. 保育学（環境）
3. 社会教育

■ 研究キーワード

1. 実習指導
2. 環境遊び
3. 地域における保育者の体験学習

■ 研究課題

1. 2 年間の保育者養成における体験的な学びを通した保育観・子ども観の育成－環境遊びを中心として
2. 保育者養成教育における実習での保育の記録のあり方
3. 現場保育者向けの生活体験プログラムの構築とフィールドワーク
4. 保育の質の向上を目指した保育者の研修について

■ 担当授業科目

1. 教育実習指導（通年・1～2 年） 選択
2. 子ども学基礎演習（通年） 必修
3. 子ども学特別演習（通年） 必修
4. 保育原理（前期） 必修
5. 教育原理（前期） 必修
6. 子どもと環境（前期） 選択
7. 保育・教職実践演習（幼稚園）（後期） 選択
8. 保育内容「環境」の指導法（後期） 選択
9. 保育方法とメディア（後期） 選択
10. 教育実習Ⅰ（後期） 選択
11. 教育実習Ⅱ（前期） 選択
12. 教育実習Ⅲ（後期） 選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【教育実習指導】 「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教育実習Ⅲ」と段階的に行われる実習に対し、学生がそれぞれ課題意識を持ちながら臨めるような指導を行った。 実習事後指導では一人一人の学生に対し面談を行い、また丁寧な日誌指導を行った。実習報告会是对面で実施し、学生自身が自分の学びを客観的に振り返って後輩にプレゼンテーションする場を設けたりと主体的な学びになる工夫を行った。特に「教材研究」として、一年次には手遊び、二年進級時にはペープサートなどの教材作成と実演、二年後期では現場で継続的に使用できる教材の作成と実演を行った。
2.	授業科目名【子ども学基礎演習】 科目の主担当者として全体計画を作成した。ゼミ毎での活動を軸として、学生が話しやすい雰囲気作りや学習成果を実感できる活動への取り組みなど様々な工夫を行った。「認定絵本土」養成指定講座は複数回実施したが、特に外部講師を招いた授業では、認定絵本土としての実践力を高められるよう工夫と努力を行った。 個別に担当したゼミ活動では、学生の懇親を深めつつ保育への理解につながるような活動を工夫しながら行った。後期は科学遊びや時季に合わせた簡単な工作遊びなど、学生がやりたい活動を決めて主体的に実施できるよう支援的な役割で関わった。
3.	授業科目名【子ども学特別演習】 2年次のゼミ活動の科目のため、体験的な学習をできるだけ行えるよう工夫した。学外授業は、今年度も動物園（到津の森公園）訪問を行い、加えて学生の要望から新しく開館した「スペースラボ」（青少年科学館）への訪問も行った。また、「科学遊び」のテーマではシャボン玉遊びや塩アート、クリスマスリース作りの際には、学内の自然環境を活用する作品作りなど学生が科学的な活動に関心を高められるような工夫を行った。
4.	授業科目名【保育原理】 保育に関わる基礎的な概念や子ども理解のベースとなる授業内容のため、学生にとって出来るだけ分かりやすく、かつ基本的事項を確実に身につけられるような工夫として、テーマ別のノートプリントを作成し、それをもとに授業を進行した。スライドは事例や映像など学生が理解しやすいよう工夫を行い、学生の学習ペースに十分配慮しながら授業進行を行った。オンラインでの小テストを数回行ったことで、より理解を深めることができた。
5.	授業科目名【教育原理】 保育をとりまく状況についてできるだけ新しい情報に基づいたものとなるよう、また就職後の自分にどのような影響があるか等、授業内での解説は学生が「教育」に対し日常的に興味関心を深められるように工夫した。制度や概念の理解など学生にとって理解が難しい内容は、身近な話題と関連させて説明したり、映像を用いたりした。学生の学習ペースが保てるようノートプリント形式のプリントを配布し、要点をまとめやすくした。オンラインでの小テストを数回行ったことで、より理解を深めることができた。
6.	授業科目名【子どもと環境】 「幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領」における5領域の「環境」につ

	いて、そのねらいや内容、取り扱いについて、一つ一つ解説し、授業を進めた。入学して間もない学生が受講対象となるため、「幼稚園教育要領」等の文書や5領域の意義などから丁寧に説明を行い、毎回復習プリントで学習内容を確認し、理解の定着を図った。加えて、保育における遊びの意義や遊び環境との関係、遊びを引き出す玩具や教材、環境設定と保育のねらいとの関連など、概説的に取り扱った。できるだけわかりやすく説明することを心がけたため、学生の最終成績は非常に良好であった。
7.	授業科目名【保育・教職実践演習（幼稚園）】 現場での保育実践を見越したアクティブ・ラーニングの授業を行った。学生の主体的な学びとなる「模擬保育」では、学生を4グループに分け、保育者役（指導案作成と模擬保育）を1回ずつ、他の学生が保育者役を行う際には子ども役・観察者役と役割を割り振り、各模擬保育の実践後には意見交換を行う内容で、学生個々人の学びと実習経験が生きる授業となった。「実践に学ぶ」では、保育の実践記録を読み合い意見交換を行った。卒後1年目の卒業生を招いた授業では、現場での実践を想定しながら学生が話を聞いていた。いずれも、学生が授業への参加意識が高まるような工夫を行っている。
8.	授業科目名【保育内容「環境」の指導法】 前期科目「子どもと環境」と内容を関連させ、演習や実技的な内容を中心に授業内容を構成した。授業前半では、屋外での体験学習を中心に授業を組み立てた。特に、自然や生活環境への関心が高まるよう工夫した。保育活動で利用する様々な教材と思考力の発達について、映像教材や実物を用いたりしながら授業を進めた。 授業後半は、学生による「模擬保育」を行った。グループ毎に企画書を作成し、与えられたテーマに基づいた活動を行った。実技を行い振り返りを行うことで、学生の理解が深まっただけでなく、活動の楽しさを実感できたようである。
9.	授業科目名【保育方法とメディア】 昨年度までは「保育メディア演習」の名称で開講していた科目を引き継いだ。他1名の担当者と分担し、主担当として15回中10回の授業を行った。授業の前半では、メディア環境をテーマにディベート形式での授業を行い、自身のメディア接触を元に、保育や子育て環境におけるメディアとの付き合い方について実体験から振り返る機会とした。また、生成AIや保育現場でのIT化についての差ダイヤ、もう一人の担当者の授業においてはPC操作の技術的な演習にChatGPTを導入する等保育や教育現場の情報化に即した授業内容を組み込んだ。 また、多様な保育方法について説明する際には、映像資料等を用いて理解を深めるよう工夫した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2013年5月	日本保育学会	
2.	2017年3月（発足より）	日本保育者養成教育学会	
3.	1998年10月（発足より）	日本生活体験学習学会	理事（2004-2010年、2018年-現在） 紀要編集部会担当理事（2021年10月-現在） 紀要編集部会部会長（2023年10月-現在）

4.	1996 年 4 月	日本社会教育学会	
5.	1996 年 4 月	九州教育学会	事務局幹事（1996-98 年）

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.	2023 年 10 月	論集 子ども の生活体 験を拓く－ 飯塚市庄内 生活体験学 校開設の素 地と開設後 の伸展－	共著	特定非営利活動 法人体験教育研 究会ドングリ	飯塚市庄内生活体験学校の 30 年の歩み について、これまで執筆された論文や研 究報告などを取りまとめ、さらに近年の 活動に関する資料を加えて論集にした ものである。
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.	2023 年 5 月	保育者養成 における自 習日誌に関 する考察Ⅲ －保育現場 での日誌を 通した指導 の視点－	共著	日本保育学会 第 76 回大会（ポ スター発表）	保育実習等で経験の振り返り学習に用 いられる実習日誌について、学生の学び がより深められる日誌様式や指導のあ り方についての研究の第 3 報となる。保 育現場で実習指導担当者へのヒアリン グ調査を行い、多くの実習担当者が日誌 の時系列表記を必要と考えていること に加え、子どもや環境構成への気づき を持って欲しいこと、双方向的なやり取 りが重要であることが明らかとなった。 古林ゆり・阿南寿美子・脇信明・古林 ゆり・島田知和・大谷朝・二子石諒太・金

					子幸・上原真幸・ <u>末嵯雅美</u> ・藤本朋美
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	保育実習における現場指導 担当者の実習日誌指導に関する 質問紙調査	全国保育士養成協議 会九州ブロック協議 会	○末嵯雅美 阿南寿美子 (上原真幸、大谷朝、島 田知和、藤本朋美、二子 石諒太、古林ゆり、脇信 明)	300,000
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2006 年 4 月～現在に至る	柳川市保育協会保育士会研修部 会	研修会助言講師
2.	2016 年 9 月～現在に至る	福岡県八女市子ども子育て会議 委員会	会長
3.	2018 年 8 月～現在に至る	福岡県保育士等キャリアアップ 研修	幼児教育分野担当講師
4.	2018 年 8 月～現在に至る	九州保育団体合同研究会	4・5 歳児保育分科会運営委員
5.	2019 年 6 月～現在に至る	福岡県八女市子育て支援員講座	講師（3 講座担当）
6.	2020 年 9 月～現在に至る	特定非営利活動法人体験教育研 究会ドングリ（NPO ドングリ）	研究部会、研究・実践担当 「保育者体験講座」の実施

7.	2023 年 5 月	日本保育学会第 76 回研究大会	ポスター発表 PA8 会場・座長
8.	2023 年 5 月	日本保育学会第 76 回研究大会	研究奨励賞推薦委員
9.	2023 年 7 月	福岡県みやま市保育協会	研修部会研修担当講師
10.	2023 年 7 月	福岡県八女市公立保育支部会	リスクマネジメント研修担当講師
11.	2023 年 10 月	日本生活体験学習学会第 23 回研究大会	自由研究発表分科会・司会者
12.	2023 年 12 月	みやま市上庄ひいらぎこども園	研修会講師
13.	2023 年 12 月～現在に至る	みやま市上庄ひいらぎこども園	保育活動アドバイザー
14.	2024 年 2 月～現在に至る	北九州市子ども・子育て会議	専門委員(認定こども園・確認部会員)
15.	2023 年 9 月～2024 年 3 月	西南女学院教職員組合	副執行委員長

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2020 年 4 月～現在に至る	保育科	学科長
2.	2020 年 4 月～現在に至る	人事委員会	委員・副委員長として出席 人事選考委員会の開催
3.	2020 年 4 月～現在に至る	入試会議	保育科学科長として出席・不定期
4.	2020 年 4 月～現在に至る	運営会議	保育科学科長として出席・毎月
5.	2020 年 4 月～現在に至る	点検評価改善会議	保育科学科長として出席・不定期
6.	2020 年 4 月～現在に至る	保育科学科会議	保育科学科長として進行・毎月
7.	2023 年 1 月～現在に至る	教学マネジメント会議	保育科学科長として出席・不定期
8.	2022 年 4 月～現在に至る	西南女学院将来計画委員会	委員として出席・不定期
9.	2018 年 4 月～現在に至る	西南女学院大学短期大学部附属 シオン山幼稚園幼稚園運営委員	委員・保育科学科長として出席・ 不定期
10.	2020 年 4 月～現在に至る	非常勤候補者選考会議	委員・保育科学科長として出席・ 不定期
11.	2020 年 4 月～現在に至る	学生総合支援室運営連絡協議会	委員・保育科学科長として出席・ 不定期
12.	2017 年 4 月～現在に至る	学生アドバイザー	保育科 1・2 年生のアドバイザー として学生支援を行う
13.	2022 年 4 月～現在に至る	学生募集活動・保育科の広報	インスタグラムの更新
14.	2023 年 4 月	全国保育士養成協議会九州プロ ック協議会	学科長として総会(Web)へ出席

15.	2023 年 5 月	西南女学院高校との高大連携講座	「保育科について」 学科長として 5 年生へ講義
16.	2023 年 5 月	保育科 1 年生、附属幼稚園見学実習	実習担当者として実習の引率指導
17.	2023 年 6 月	保育科保護者懇談会	学科長挨拶・保護者面談
18.	2023 年 6 月	入学者選抜説明会	短期大学部保育科の紹介
19.	2023 年 6 月	保育科 2 年生「教育実習Ⅱ」訪問指導	幼稚園へ来訪し現地指導
20.	2023 年 5-6 月	高校訪問	担当高校（北九州・筑豊地区）の訪問
21.	2023 年 7 月	若松高校進路ガイダンス	幼稚園教諭の仕事について説明
22.	2023 年 7 月	直方高校大学見学会	保育科の紹介
23.	2023 年 7 月	保育科同窓会「要の会」役員会	役員会議への出席
24.	2023 年 8-9 月	保育科 2 年生「保育所実習Ⅱ」「施設実習Ⅰ」「施設実習Ⅱ」訪問指導	保育所、児童福祉施設へ来訪し 現地指導
25.	2023 年 6-8 月	オープンキャンパス、各回	保育科・学科の説明
26.	2023 年 9-10 月	大学短期大学部認証評価業務	質問回答・実地調査への対応
27.	2023 年 9-10 月	保育科 2 年生「教育実習Ⅲ」訪問指導	幼稚園へ来訪し現地指導
28.	2023 年 10 月	折尾愛真高校進路ガイダンス	保育・幼児教育分野の講義
29.	2023 年 10 月	入学者選抜・特待生入試	入試業務（面接など）
30.	2023 年 10 月	保育科 1 年生「教育実習Ⅰ」訪問指導	幼稚園へ来訪し現地指導
31.	2023 年 11 月	北九州市保育研修大会	学科長として式典出席
32.	2023 年 11 月	保育科同窓会「要の会」同窓会	学科教員として式典出席
33.	2023 年 11-12 月	入学者選抜・推薦入試	入試業務（面接など）
34.	2023 年 12 月	北九州市私立幼稚園連盟主催、養成校との意見交換会	実習担当者・学科長として出席
35.	2024 年 1 月	北九州市私立幼稚園連盟主催、新年会	学科長として式典出席
36.	2024 年 1 月	西南女学院大学短期大学附属シオン山幼稚園	園だより 1 月号巻頭言執筆
37.	2024 年 1-2 月	入学者選抜・一般/社会人入試	入試業務（面接など）
38.	2024 年 12-3 月	入学者選抜・総合型選抜	入試業務（面談など）
39.	2024 年 2 月	保育科 1 年生「保育所実習Ⅰ」訪問指導	保育所へ来訪し現地指導
40.	2024 年 2 月	保育科教育実習、実習園打ち合わせ（教育実習Ⅰ実習園）	実習担当者として出席

41.	2024 年 3 月	嘉穂総合高校大山分校進路ガイダンス	保育分野の講義
42.	2024 年 3 月	保育科学生募集停止についての関係団体への説明	学科長として主に北九州市内の保育・幼児教育関係団体の代表者へ説明訪問

特別契約Ⅲ教授
戸田 由美

■ 学歴

1. 関西学院大学大学院

■ 学位

1. 文学修士

■ 研究分野

1. 日本近代文学
2. 日本古典文学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 見立て
2. 東洋的見地・西洋的見地
3. 意外性の発露

■ 研究課題

1. 夏目漱石文芸における不思議さの究極に在るものの究明
2. ファンタジー文学における本質と人とのかかわりについて

■ 担当授業科目

1. 文学
2. 日本語表現法
3. 子どもと言葉
4. 子どもと絵本
5. 北九州の技と文化
6. 北九州の過去・現在・未来
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|--|
| 1. | 授業科目名【文学】 |
| | 文字離れの進んでいる学生に文学理解の懸け橋として、物事の視点をどこに納めるかという観点を |

	見出すためにまず、社会学的考察をしながら、文学が実学であることを共に学ぶ。社会学的考察がなぜ重要かという、人の心・背景・時代・言葉・表現すべてが含まれていることを認識できるから、おのずと文学の本質にせまることができるので工夫しながら講義を進めた。
2.	授業科目名【日本語表現法】 小論文の作成、わかりやすい表現、敬語、接客の仕方等々、豊かで的を射た表現が出来るように座学だけではなく、マンツーマン方式の添削指導を取り入れながら講義を進めた。
3.	授業科目名【子どもと言葉】 言葉が育つ環境の在り方を、実例を挙げながら講義を進めた。言葉の育ちを支える保育者の援助についての理解を深めるべく努力した。
4.	授業科目名【子どもと絵本】 現代の管理社会や教育環境の中で、自分のアイデンティティを確認するためには、なにか架空の世界、絵本文学というものがある。非常に重要な意味を持ってくるので、もう一度自分の生きてきた道をフィードバックすることにより、将来の保育職に就くために求められる大切な知識、意義を理解させるべく基礎能力を養うことに力を注いだ。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1983 年	日本文芸学会	
2.	1983 年	日本キリスト教文学会	
3.	1985 年	日本近代文学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					

2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2010年～2023年	北九州市子ども・子育て会議	北九州市子ども・子育て会議 専門委員
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	～2024年3月31日	大学短期大学部	短期大学部長
2.	～2024年3月31日	大学短期大学部附属シオン山幼稚園	幼稚園長
3.			

特任教授

村上 里絵

■ 学歴

1. 福岡教育大学大学院教育学研究科心理学専攻修士課程

■ 学位

1. 教育学修士

■ 研究分野

1. 子どもの言語発達
2. 応答的保育
3. 子どもの遊び

■ 研究キーワード

1. 応答性
2. 言語的応答性
3. 子どもの遊び

■ 研究課題

1. 子どもの発達理解と遊び
2. 子どもの発達と応答的保育

■ 担当授業科目

1. 保育内容総論
2. 教育実習Ⅰ
3. 教育実習Ⅱ
4. 保育の計画と評価（教育課程を含む）
5. 子どもの発達理解と遊び
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|--|
| 1. | 授業科目名【保育内容総論】
保育現場に必要な、子どもの関わりと子どもの心に寄り添う考え方について理解できるように、実践 |
|----|--|

	事例を用いてわかりやすく説明する。また、各学生の実習中の事例をグループで出し合い、問題点や課題解決に向けたセッションをし、保育現場で実践できるスキルを身につけられるようにする。
2.	授業科目名【子どもの発達理解と遊び】 保育現場における「遊び」と言われる遊びを、実際に行いながら援助のポイントを押さえる。学生自身が「楽しい」と感じる遊びが、実際に子どもと共に行うことが必要だと感じられるようにする。また、遊びの中での発達を視点にした援助の方法についても説明を加える。
3.	授業科目名【教育実習指導】 幼稚園実習の後の振り返りを中心に、面談形式で保育の大切さに気付けるようにする。学生自身の自己評価と幼稚園での評価のズレについて、共に検討し、実習で感じた生の体験を大切に、本人の自信に繋がるような面談にするように心がけている。
4.	授業科目名【保育の計画と評価】 まず、カリキュラムマネジメントについて丁寧に説明をし、理解を促すようにする。自己評価後に「action＝改善」を行うためには、計画が必要であることに気づけるように説明する。また、保育の計画には、長期計画と短期計画があることを伝え、それぞれの具体的内容について理解が深まるようにする。主要な計画については、保育所（園）では「全体的な計画」と言い、幼稚園は「教育課程」と言い、内容も異なることに理解が出来るようにしている。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1985 年 4 月	日本保育学会	
2.	1993 年 4 月	九州心理学会 1999 年迄	
3.			

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.	なし				
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	なし				
2.					
3.					
（翻訳）					
1.	なし				
2.					
3.					

(学会発表)					
1.	なし				
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	なし			
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	なし			
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2012年4月～2016年3月	北九州市立幼稚園連盟教育研究委員会	
2.	2012年4月～至る現在	北九州市児童福祉施設第三者評価委員	決定部会副会長
3.	2022年4月～至る現在	北九州市立幼稚園連盟経営委員会	

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	なし		
2.			
3.			

准教授

笠 修彰

■ 学歴

1. 2007 年 西九州大学大学院健康福祉学研究科健康福祉学専攻修士課程修了

■ 学位

1. 修士（健康福祉学）

■ 研究分野

1. 社会福祉学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 精神保健福祉
2. 障害者福祉
3. ソーシャルワーク

■ 研究課題

1. 精神障害者の地域移行や地域定着支援に関する研究
2. 子育て不安等を抱える保護者のメンタルヘルスに関する研究
3. 保育者養成校、保育所・児童福祉施設、地域が連携する研修プログラムの構築に関する研究

■ 担当授業科目

1. 子ども家庭福祉（前期）必須
2. 社会的養護Ⅰ（前期）選択
3. 子ども家庭支援論（前期）選択
4. 社会福祉（後期）選択
5. 社会的養護Ⅱ（後期）選択
6. 保育実習指導Ⅰ（通年）選択
7. 保育実習指導Ⅲ（通年）選択
8. 子ども学基礎演習（通年）必須
9. 子ども学特別演習（通年）必須
10. 施設実習Ⅰ（学外実習）
11. 施設実習Ⅱ（学外実習）
12. 精神障害リハビリテーション論（前期）（福祉学科）選択
13. ソーシャルワークの理論と方法（専門）B（後期）（福祉学科）選択
ソーシャルワーク演習（専門）B（通年）（福祉学科）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【子ども家庭福祉】 保育科 1 年前期に開講される科目である。入学当初は、保育者が福祉を学ぶ必要性を理解できずにいる学生も少なくないため、保育者が福祉を学ぶ意義等について繰り返し説明するなどして、受講の動機づけを行うよう心掛けた。また、学生の学修準備性を高めること、学習状況を確認することを目的に、予習プリントの配布と小テストを実施した。
2.	授業科目名【社会的養護Ⅰ】 社会的養護に関する制度・施策、子どもの人権擁護や自立支援、社会的養護の現状と課題など、社会的養護の担い手である保育士に求められる知識の獲得を目指し授業を行った。また、社会的養護への意欲関心を高めるとともに、社会的養護の実践を具体的にイメージできるよう、適宜事例等を用いた授業展開を心掛けた。学生の学習状況を把握するため、適宜小テストを行い、授業理解度の低い学生については必要に応じて個別対応を行った。
3.	授業科目名【子ども家庭支援論】 授業では、毎回教員が作成したレジュメを配布し、重要なキーワード等を穴埋め方式にすることでポイントが押さえられるよう工夫した。また、講義内容を実践に引き付けて理解することができるように、適宜事例を紹介し、支援方法等を検討する機会を設けた。学生の理解度の把握と予復習を促すため、單元ごとに小テストを実施した。
4.	授業科目名【社会福祉】 社会福祉が私たちの生活に密接にかかわるものであることの理解を促すとともに、福祉の専門職である保育士に求められる知識の獲得に向けて、適宜、具体的な事例を用い、現場実践に引き付けて学びを得ることができるよう心掛けた。また授業開始時に小テストを実施し、予習、復習に対する意識の向上と学習状況の把握につとめた。
5.	授業科目名【社会的養護Ⅱ】 社会的養護の担い手である保育士に求められる基本的な知識の獲得を目指すとともに、授業での学びをできるだけ実践と関連付けて考えることができるよう、事例検討の機会を多く取り入れるなどの工夫をした。
6.	授業科目名【保育実習指導Ⅰ】 保育士資格取得に必要な実習に向けて、様々な児童福祉施設の特徴を理解すること、授業で学んだことを実際の実習現場で活用できること等を目指し、授業を行った。また、自己課題シートや自己課題振り返りシートを用いることで、実習を通して自分の課題に気づき、次の実習に向けた改善ができるよう工夫した。
7.	授業科目名【保育実習指導Ⅲ】 施設実習の実施に向けて、自らの課題を明確にし、課題解決に向けて具体的な取り組みができるよう自己課題シートや自己課題振り返りシートを活用した。また、学生自身が自らの課題を多面的に捉え解決に向けられるよう、学生同士のグループディスカッションの実施や実習事後面談でのフィードバック等を行った。
8.	授業科目名【子ども学基礎演習】

	子ども学基礎演習では、子どもや保育に対する理解を体験を通して深め、将来の保育者としての実践力を身に付けることを目的としている。保育者に必要とされる基本的な力を養うため、丁寧な個別対応を心掛けた。また、学生が主体的に考え行動できるよう意識的な働きかけを行った。
9.	授業科目名【子ども学特別演習】 保育と福祉の関連や保育者に必要な福祉的視点を養うことをねらいとして、福祉に関する知識を深めるための講義、障害児向けのレクリエーション教材の作成、卒業生による職業理解講座等を行った。また、学生自身が責任感をもち、能動的に活動できるよう学生主体のゼミ運営を心掛けた。
10.	授業科目名【精神障害リハビリテーション論】 精神保健福祉士国家試験受験資格にかかる科目であるため、授業では、国家試験の出題傾向を踏まえつつ、できるだけ養成テキストに沿った内容で進めた。また、必要に応じて実践事例を紹介することで、授業内容の実践的理解が深まるよう努めた。学生の授業理解度を把握するため、適宜リアクションペーパーを活用し、質問については、次回の授業時に解説したり、補足資料を配布したりするなどしてフィードバックを行った。
11.	授業科目名【ソーシャルワークの理論と方法（専門）B】 精神保健福祉士国家試験受験資格にかかる科目であるため、国家試験の出題傾向を踏まえつつ、できるだけ養成テキストに沿った内容で進めることを心掛けた。また、適宜、事例を紹介するなどして、精神保健福祉士の役割や精神保健福祉領域におけるソーシャルワークの展開について実践的理解が深まるよう工夫した。学生の授業理解度を把握するため、適宜リアクションペーパーを活用し、質問については、次回の授業時に解説したり、補足資料を配布したりするなどしてフィードバックを行った。
12.	授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）B】 精神障害者の生活や生活上の困難を把握し、精神保健福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術を実践的に習得することができるよう、事例検討を中心とした演習を行った。また、事例検討を行うにあたって、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れ、学生同士、さまざまな視点で事例を捉え、協働性を意識して取り組むことができるよう工夫した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2008年7月～現在に至る	日本社会福祉学会	会員
2.	2016年9月～現在に至る	日本保育学会	会員
3.			

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）					
1.					
2.					

3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2008 年 4 月～現在に至る	日本精神保健福祉士協会	会員
2.	2009 年 6 月～現在に至る	福岡県精神保健福祉士協会	理事
3.	2015 年 4 月～現在に至る	北九州地区精神保健福祉士協会	会員
4.	2016 年 4 月～現在に至る	「保育福祉小六法」(株) みらい	編集委員
5.	2017 年 9 月～現在に至る	日本社会福祉士会	会員

6.	2017 年 9 月～現在に至る	福岡県社会福祉士会	会員
----	------------------	-----------	----

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日	学生募集委員会	副委員長
2.	2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日	教育経費予算配分委員会	委員長
3.	2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日	キャンパス・ハラスメント相談 員	相談員

准教授
篠木 賢一

■ 学歴

1. 2001 年 鹿屋体育大学修士課程 修了

■ 学位

1. 2001 年 修士（体育学）

■ 研究分野

1. 体育方法学
2. 幼児体育
- 3.

■ 研究キーワード

1. バレーボールの戦術
2. 幼児の運動能力
- 3.

■ 研究課題

1. 幼児の喫食上の問題行動に関わる要因を、咀嚼能力・運動能力との関連について考察。
- 2.

■ 担当授業科目

1. スポーツ実技（通年）
2. 子どもの運動遊び（前期）
3. 子どもと健康（前期）
4. 運動と健康（前期）
5. 子ども学基礎演習（通年）
6. 子ども学特別演習（通年）
7. 保育・教職実践演習（後期）
8. 保育実習指導Ⅰ・Ⅱ（通年）
9. 保育所実習Ⅰ・Ⅱ
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|---|
| 1. | 授業科目名【子どもの運動あそび】 |
| | 子どもたちのあそびを実際に行うことによって、体験的に運動発達の理解を促している。また、 |

	運動あそびの果たしている役割を理解し、「あそぶ力」と「あそびを発展していく力」を身につけるために、指導・補助のポイントや安全管理について解説し、グループワークを通して実践力の向上を図っている。
2.	授業科目名【子どもと健康】 子どもが自らの体や健康に関心を持ち健やかに成長していくために、幼児期の体の諸機能の発達や生活習慣の形成を、幼稚園教育要領・保育所保育指針に沿って解説した。また、生活習慣の獲得を促す環境や援助方法について、事例をもとに学生が自ら考えられるように授業を進めた。
3.	授業科目名【子ども学特別演習】 子どもの運動あそびや健康を中心としたテーマを学生の興味・関心に沿って決定し、実践に生かせる研究活動を行っている。まとめた研究結果はオープンキャンパスで展示し、公表する機会を設けている。
4.	授業科目名【保育・教職実践演習】 様々な角度から保育をとらえる視点が育まれるように、現場保育者の実践事例検討を行った。また、模擬保育では、これまで授業や実習を通して学んだことを活かしながら、2人1組で指導計画を作成し、準備・実践までを行った。子ども役は保育者が要求する年齢の子どもを演じるために、子どもの姿を表現することが必要になる。観察者は客観的に保育全体を観ることが必要になる。これらを通して、学生に保育者としての意識が高まるように配慮した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1997年～現在に至る	九州・体育スポーツ学会	会員
2.	2012年～現在に至る	日本保育学会	会員
3.	2013年～現在に至る	日本バレーボール学会	会員

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					

3.					
(学会発表)					
1.	2024. 3	地方学連選抜の短期間のチームづくりに関する実践報告	共	日本バレーボール学会第 29 回大会（ポスター発表）	2023 年度第 24 回西日本大学バレーボール学連女子選抜対抗戦において準優勝した九州選抜チームのチームづくりに関して、短期間にどのようなチームづくりを行ったかという実践報告。 チームが設定した攻撃指針とトータルディフェンスの戦略において、ゲームパフォーマンスの分析から、双方で明確な成果が見られた。短期間でのチーム形成においては、具体的かつ明確な方針の設定とそれに基づく準備が不可欠であることが再認識された。
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2006 年～現在に至る	九州大学バレーボール連盟	女子強化委員
2.	2021 年～現在に至る		女子強化委員長

3.	2013 年～現在に至る	付属シオン山幼稚園「運動遊び」	講師
----	--------------	-----------------	----

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2017 年度～現在に至る	大学キャンパス・ハラスメント 防止・対策委員	副委員長
2.	2021 年度～現在に至る	学生委員	副委員長
3.	2014 年度～現在に至る	排球部	顧問

大学・短期大学部宗教主事／短期大学部保育科准教授

東 彩子

■ 学歴

1. 2006 年 Fuller Theological Seminary (フラー神学大学院) 卒業

■ 学位

1. 2006 年 MA in Intercultural studies (修士：国際文化学)

■ 研究分野

1. キリスト教学
2. キリスト教教育、キリスト教女子教育

■ 研究キーワード

1. キリスト教と身体表現
2. Mystery Plays (神秘劇)
3. Worship Dance (ワーシップダンス)

■ 研究課題

1. 聖書解釈と教育実践の両面から、キリスト教と演劇・ダンスに関わる研究を進める。

■ 担当授業科目

1. キリスト教学 I
2. キリスト教学 II
3. キリスト教保育
4. キリスト教学 (旧約聖書)
5. キリスト教学 (新約聖書)
6. キリスト教と西南女学院のあゆみ
7. キリスト教と文化
8. キリスト教と生命倫理

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【キリスト教学 I・II】 紙芝居・絵本などに学生自らが触れる体験型授業を展開し、視聴覚教材を取り入れる等、学生の興味を引き出すための工夫をした。チャペル出席や教会訪問を評価に取り入れ授業内外での学習を促した。
2.	授業科目名【キリスト教保育】 即興ダンスを取り入れた子どもの賛美の学び、聖書の劇制作により表現の学びを伴う聖書理解を促す

	学びなど、保育現場をイメージした体験的・実践的な授業となるよう、工夫した。
3.	授業科目名【キリスト教学（旧約・新約）】 聖書の主たる登場人物を中心に解説し、視聴覚教材を取り入れる工夫をした。後半は学生の興味に応じたプレゼンを行い、学生自らの関心に応じて学びを深め、互いに意見交換できる環境を工夫した。
4.	授業科目名【キリスト教と西南女学院のあゆみ】 オムニバスで行う本科目では、主に、西南女学院のあゆみに多大な貢献をした Kathleen Mallory について担当し、歴史と人物の紹介を通して、キリスト教女子教育の意義を伝えた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2010 年～現在	日本キリスト教教育学会	
2.	2010 年～現在	日本基督教学会	
3.	2014 年～現在	日本キリスト教史学会	
4.	2017 年～現在	日本宣教会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等 の名称	単著・ 共著の別	発行所、発 表雑誌等又 は発表学会 等の名称	概 要
（著書）					
1.					
（学術論文）					
1.					
（翻訳）					
1.					
（学会発表）					
1.	2023.5	WMU (Woman's Missionary Union) 総主事 Kathleen Mallory のリーダーシップ -日本におけるキリスト教女子教育への貢献	単	日本キリスト教教育学会	WMU 総主事を 36 年間務めたマロリーは、“Sweet Heart of Southern Baptist”として、SBC では稀有な女性リーダーであるが、彼女と日本を繋ぐ研究は見られず、福岡県北九州市小倉にある西南女学院本部兼礼拝堂について「マロリーホール」という名が残されるに留まっている。本論では、マロリーに関する文献や資料から、彼女の生涯における信仰の軌跡を辿り、日本におけるキリスト教女子教育への貢献に関する事項をまとめた。

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2018年～現在	キリスト教学校教育同盟全国新任教員研修	実行委員
2.	2020年～現在	日本バプテスト宣教団	Associate Staff
3.	2023年～現在	日本バプテスト豊前キリスト教会	総務執事
4.	2010年～現在	ワールド・ビジョン・ジャパン	会員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2020～現在	西南女学院キリスト教センター	西南女学院キリスト教センター長
2.	2020～現在	西南女学院大学・短期大学部	宗教主事
3.	2020～現在	西南女学院大学宗教委員会	委員長
4.	2023～現在	西南女学院大学国際交流委員会	副委員長
5.	2023～現在	西南女学院大学入試委員会	委員
6.	2023～現在	西南女学院将来計画委員会	委員
7.	2023～現在	シオン山幼稚園保護者「聖書の会」	講師

准教授

藤田 稔子

■ 学歴

1. 2005 年 神戸市看護大学大学院看護研究科実践看護学小児看護学専攻博士前期課程 修了

■ 学位

1. 2005 年 修士（看護学）

■ 研究分野

1. 小児看護学

■ 研究キーワード

1. 子どもの感染症（感染症対策、予防接種）
2. 小児ぜんそく
3. 医療保育

■ 研究課題

1. 医療保育専門士と小児病棟看護師との協働の在り方について→特に、子どもの理解が乏しい新人看護師に対して、保育の専門性を有効的に活用した取り組みついでの実施と考察する。（医療保育士との共同研究）
2. 新型コロナウイルスの流行を体験したことによって、子ども達がどのように感染症予防対策への行動が変容したか、また、意識の変化について考察する。（医療保育士との共同研究）

■ 担当授業科目

1. 子ども学基礎演習（通年） 必修
2. 子ども学特別演習（通年） 必修
3. 初年次セミナー（前期） 必修
4. 保育内容「健康」の指導法（前期） 選択
5. 子どもの健康と安全（後期） 選択
6. 子どもの保健（後期） 選択
7. 在宅保育（後期） 選択
8. 子ども音楽療育実習（後期） 選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|--|
| 1. | 授業科目名【初年次セミナー】 |
| | 大学人文学部観光文化学科の高橋ゼミ3年生と4年生と、MOTENA-Seaプロジェクトの「子ども対象イベント企画」を立案するまでのプロセスを一緒に進めていきました。その過程で、上級生のプ |

	レゼンテーションを目にすることによって、「良き手本」として受講生達が学んでくれました。また、グループワークにおいては、担当教員だけではなく3・4年生が関わってくれたおかげで、よりきめ細やかな助言が可能となりました。結果として3・4年生がTAの任を担ってくれ本科目の内容が充実しました。また、門司港へのフィールドワークも取り入れることができたため、地元関門地区の理解を深めただけでなく、学生同士の交流を深めることにもつながりました。
2.	授業科目名【保育内容「健康」の指導法】 例年は、附属シオン山幼稚園の前の公園で「外あそびの環境」を学ぶワークをしていましたが、今年度は、勝山公園へ出向いて、「園外保育を考える」学外授業を取り入れました。当日は、悪天候ではありましたが、受講生達の希望もあり傘をさしながら演習となりました。ワークでは、地図にメモを取りながら、グループによっては写真を撮りながら進めていました。提出されたワークシートは、細かい視点でとらえている記述も多く、実際にその場で感じ学ぶことの大切さを改めて感じ、次年度も内容をブラッシュアップして演習を展開していきたいと考えています。
3.	授業科目名【子どもの健康と安全】 本科目の最も重要な「応急処置法」の演習は、看護学科のご協力の元、基礎看護実習室で2コマ続きで実施することができました。本科目の演習のほとんどが、1コマで全員実技指導することに毎年困難を感じており、現場での子ども達の生死にかかわる重要な内容は、休講補講を駆使して連続コマで実施するように工夫しています。しかしながら、本科目の特性がなかなか理解されず、授業時間の変更がスムーズにできないことが今後の課題ではありますが、できる限り、現場で評価の高い「西女卒業生の確かな保健的知識と技術」を今後も保持し送り出せるよう教育していきたいと思っています。
4.	授業科目名【在宅保育】 認定ベビーシッター資格取得のための必修科目のため、できる限り実際の様子を伝えながら、「使える」知識と技術の教授に努めました。また、「学ぶ楽しさ」を感じてもらいながら、自ら調べ、考えてグループでの課題を決めたり、ゲーム感覚で知識を得たり、演習の方法を工夫しました。受講生達は、スマホを駆使しながら、疑問に思ったことはすぐに検索し、学びを広げている姿が常にありました。そのためか、例年同じような難易度の小テストを実施していますが、今年度の小テスト点数は今までより高得点でした。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2000年4月～現在に至る	日本小児保健協会	
2.	2005年4月～現在に至る	日本小児看護学会	
3.	2010年4月～現在に至る	日本医療保育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					

(学術論文)					
1.					
(翻訳)					
1.					
(学会発表)					
1.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2018年～現在に至る	北九州市私立保育園連盟	理事
2.	2019年～現在に至る	社会法人 真祐会	評議員
3.	2023年度	日本高等教育評価機構	評価員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2010年4月～現在に至る	倫理委員会	副委員長
2.	2016年4月～現在に至る	就職委員会	副委員長
3.	2019年4月～現在に至る	FD委員会	
4.	2023年4月～現在に至る	公開講座委員会	委員長
5.	2023年4月～現在に至る		短期大学部宗教主事補
6.	2023年4月～現在に至る	書道部	顧問

特任講師

池田 佐輪子

■ 学歴

1. 2014 年 北九州市立大学大学院社会システム研究科地域コミュニティ専攻（修士課程）修了

■ 学位

1. 2014 年 修士（人間関係学）

■ 研究分野

1. 人間関係学（臨床教育学）
2. 保育学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 代替的愛着、自我・社会性の発達、行動制御システム、内的作業モデル
2. 代替的愛着、自我・社会性の発達、養育者支援、就学支援
- 3.

■ 研究課題

1. 臨床教育学に関して、保育所保育士による代替的愛着形成と発達支援を中心に考察する。特に、養育者との愛着に歪みを感じられる虐待的環境にある子ども、発達に偏りを感じられる子どもの育ちを保障するための保育士の関わりについて考察する。
2. 保育所での3歳未満児に対する代替的愛着関係が、養育者と子どもとの愛着の修復に有効であること、その愛着関係を基盤に就学までの養育者支援として応用していく方向を検討・考察する。

■ 担当授業科目

1. 保育実習指導Ⅰ（通年） 選択
2. 保育実習指導Ⅱ（通年） 選択
3. 保育実習指導Ⅲ（通年） 選択
4. 乳児保育Ⅰ（後期） 選択
5. 乳児保育Ⅱ（前期） 選択
6. 保育者論（前期） 必修
7. 子ども文化（前期） 必修
8. 女性とマナー（前期） 選択
9. 保育・教職実践演習（幼稚園）（後期） 選択
10. 在宅保育（後期） 選択
11. 保育総合表現（後期） 選択（不開講）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【保育実習指導Ⅰ】 新型コロナウイルス感染症の影響による実習の制約が解けてきたが、引き続き実習先の理解と協力によって感染症に留意しながら子どもたちを守り育てるための実習に向けた指導を行った。様々な児童福祉施設の特色を理解したうえで、授業で学んだことが実際の保育実習現場で活かせるように、また実習を通して自分の課題に気付いて次の実習に向けた改善ができるように、それぞれのねらいを明確にする自己課題シートや自己振り返りシートを活用した演習を行った。
2.	授業科目名【保育実習指導Ⅱ】 自己課題振り返りシートを用いて保育実習Ⅰでの課題を明確にすることで、次の実習で課題の解決に向けた具体的取り組みができるようにしていった。特に日誌の記述については、観察力、洞察力が身につくように留意しながら、指導計画については保育活動のねらいを明確にしたうえで、保育実践ができるように指導を行った。
3.	授業科目名【保育実習指導Ⅲ】 自己課題振り返りシートを用いて保育実習Ⅰでの課題を明確にすることで、次の実習で課題の解決に向けた具体的取り組みができるようにしていった。またお互いの課題の情報交換をすることで課題を多面的に捉えて解決に向けられるようにしていった。
4.	授業科目名【乳児保育Ⅰ】 まずは保育所実習で3歳未満児と関わることを念頭に、3歳未満児のイメージがもちやすいように、写真や実践例が多用されているテキストを用い、基本的な3歳未満児の発達とその発達を促す望ましい関わりとその留意点について講義を行った。また講義授業ではあったが保育所実習を見通し、保育人形を使って、着替え、おむつ交換、授乳、ふれあい遊びなどの演習も取り入れ、具体的に関わり方の基礎が学べるようにした。
5.	授業科目名【乳児保育Ⅱ】 1年生での保育所実習も振り返りながら、乳児保育Ⅰでの学びの知識に加えて現場での事例を交え、より現場での保育のイメージがしやすいように説明をしていった。また学んだ知識を応用しながら実習及び現場での実践につながるように指導計画を立てて検討し、保育所実習Ⅱで活用できるようにした。演習用の人形や教材を使って演習も行い、具体的に実践につなげるようにしていった。
6.	授業科目名【保育者論】 テキスト、参考書等を使って、専門職である保育士、幼稚園教諭等の資格を取得するために必要な基本的な知識・技能、倫理観をもれなく学べるように心がけた。また実務家教員として保育現場での実践を踏まえ、具体的な事例を織り交ぜて説明することで、社会に求められる望ましい保育者についての理解を促した。入学時に学生が思い描いた個々の理想の保育者像を最大限生かしつつ、社会に求められ得る保育者像を構築できるよう考慮しながら課題を事前に提示し、個別に考えをまとめたうえで発表を行うことで、自分の意見を持ち、他者と意見交換することで多面的な思考ができるようにした。
7.	授業科目名【子ども文化】 具体的な子ども文化財の資料を活用して説明し、まず教員が資料を用いてデモンストレーションを行うことで、実践のイメージがもちやすいようにした。また、学生が各自で実際に制作したものを

	おはなし会の形式で発表することで実践力を身につけると共に、他者の様子も見て学ぶこともねらいとした。さらにお互いの評価点や改善点を伝え合うことで、より工夫した作品を作り、実践する意欲が高まるように心掛けた。特に認定絵本士の取得を視野に、外部講師の協力等も求めて絵本に関する知識、技術が身につくようにした。
8.	授業科目名【女性とマナー】 社会人として、また保育学生として必要なマナーについての知識を学び、身につけることができるように、コミュニケーションや人材コンサルティングの専門性を有する外部、内部の講師の協力も得ながら、ロールプレイやディスカッションなどアクティブラーニングの手法を活用した授業を行った。
9.	授業科目名【保育・教職実践演習（幼稚園）】 保育現場で必要な実践的な内容について確認したのち、実際に保育指導計画を作成して対面授業で模擬保育を行うことで、保育の実践力を養った。また、全員で保育を振り返り、様々な意見を出し合うことで、多面的な視点をもって課題解決に向けた関わりができるようにしていった。
10.	授業科目名【在宅保育】 基本となる保育士としての知識・技能・倫理観等に加え、居宅訪問型保育に対応できる実践力・応用力を身に付けることを重視し、講義で理論の説明をしたうえで、演習において身近にあるペットボトルや牛乳パックなどを利用した玩具作り、子どもの発達に応じた遊びの展開等、学生が主体的に考え、意見を交換しながら保育内容を検討していけるよう配慮した。また子どもの発達や家庭状況に応じた保護者の子育て支援についても事例を取り上げながら検討した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2018年5月～現在に至る	保育学会	
2.			
3.			

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
1.	2024.10 発行予定	イラスト乳 児保育	共	東京教学社	① 保育士の資格取得のために必要な保育の理論、実践の内容について整理し、教科書として編まれたものである。内容は、理論に加えて乳幼児の発達に応じた関わり方についても分かりやすく解説し、保育実践につなげられるように構成されている。
2.					

3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2009年4月～2015年3月 2015年4月～現在に至る	・コラボキャンパスネットワーク親子ふれあいルーム (親子の遊び場の提供と子育て支援についてのアドバイス)	実行委員 オブザーバー

2.	2013 年 3 月～現在に至る	・ 特別非営利活動法人 チャイルドライン北九州 (子どもの電話相談)	理事
3.	2023 年 4 月～現在に至る	・ 北九州市教育委員会 幼児教育センター (市内の幼稚園の保育に関する 訪問相談、就学支援講座)	幼児教育アドバイザー
4.	2023 年 8 月 19 日、11 月 4 日	・ NPO 法人福岡県子ども アドボカシーセンター (「子ども意見表明等支援員 養成講座」)	講師
5.	2023 年 9 月 20 日	・ 北九州市社会福祉研究所 (令和 4 年幼児教育研修 保育 士等キャリアアップ研修分野 ②幼児教育)	講師
6.	2024 年 1 月 21 日	・ 北九州市立子育て交流ふれあ いプラザ「元気のもり」 (子どもを支える大人のコミュ ニケーション講座)	講師
7.	2024 年 3 月 12 日	・ 北九州市小倉南区 親子ふれあいルーム (絵本講座)	講師

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.			
2.			
3.			

講師
櫻井 裕介

■ 学歴

1. 2013 年 学校法人中村学園中村学園大学大学院人間発達学研究科修士課程修了

■ 学位

1. 2013 年 修士（人間発達学）

■ 研究分野

1. 保育学
2. 幼児教育学

■ 研究キーワード

1. 保育
2. 幼児教育
3. 熟達化

■ 研究課題

1. 保育者の成長プロセス
2. 保育活動における保育者の役割

■ 担当授業科目

※該当なし（2024 年度入職）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※該当なし（2024 年度入職）

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2011 年～	日本保育学会	
2.	2016 年～	保育者養成教育学会	広報委員（2021 年～現在に至る）
3.			

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					

1.	2016.2	保育表現技術の実践ワーク「かんじる・かんがえる・つくる・つたえる	分担執筆	保育出版社	保育士養成課程に所属する学生向けテキストを執筆した。保育における表現援助技術を身に付けていくことを目標に、①学生の能動的な学びを引き出す。②学生同士の評価や実践を取り入れる。③学生の自発性を重要視する。④ワークブック形式により、学生と教員がともに成長する。以上の4点を視点に、実践例やエピソードを取り入れた保育内容に関するテキストである。(編著：今井真理，共著者：長谷川恭子，麓洋介，新関伸也， <u>櫻井裕介</u> ，福井一尊他16名，担当執筆部分：第2章3項
2.	2017.12	新教育課程総論ワークブックー平成30年保育所保育指針・幼稚園教育要領対応ー	単著	権歌書房	改定保育所保育指針・改訂幼稚園教育要領に対応した全体的な計画及び教育課程の授業理解を深めるための書き込み式ワークブックである。
3.	2020.3	保育所における自己評価ガイドライン研修テキスト	分担執筆	厚生労働省	保育所における自己評価ガイドラインとハンドブックの解説書である。その後の同省研修テキストの執筆と研修講師を行った。(石井章仁、遠藤純子、田澤里喜、 <u>櫻井裕介</u> 他)
4.	2020.3	ワークシートで学ぶ保育所実習	分担執筆	同文書院	保育所実習テキストであり、P62-65、93-94、保育環境と実習課題についての内容である。(那須伸樹、相浦雅子、原孝成、 <u>櫻井裕介</u> 他)
(学術論文)					
1.	2012.4	保育実践における協同活動を活性化させる足場づくりの在り方	単著	福岡こども短期大学研究紀要(福岡こども短期大学研究紀要編集委員会)，第23号, 39-44.	造形活動を通し協同性を育むための保育計画、保育者の援助について保育実践をもとに考察した。子どもが主体的な活動を創造し、協同活動の中で成長していくための保育者の足場づくりについてヴィゴツキーによる社会文化的アプローチの視点から捉えた。保育者は子どもが他者を理解し、自分を調整して目的に向かって協同活動が進むような援助を行う必要があり、保育実践例から活動内

					容と指導計画の実際と留意点を考察した。
2.	2013.4	保育者を志望する短期大学生の2年間におけるこどもイメージの変化に関する縦断的研究	単著	福岡こども短期大学研究紀要（福岡こども短期大学研究紀要編集委員会），第24号, 25-28.	福岡こども短期大学研究紀要（福岡こども短期大学研究紀要編集委員会），第24号, 25-28.
3.	2014.4	保育者を志望する短期大学生の2年間における保育者効力感の変化に関する縦断的研究	単著	福岡こども短期大学研究紀要（福岡こども短期大学研究紀要編集委員会），第25号, 57-61.	保育者を志望する学生90名を対象に保育者効力感について質問紙調査を行った。量的分析とともに4ステップコーディング（SCAT）による質的分析を行い、量的には表れない学生の内面の変化を質的に考察した。学生は専門的知識や技術を学ぶ中で困難や不安に直面する。その困難を課題として受け止めるか、学習意欲の低下につながるのかという岐路に授業理解度が影響していることが解った。櫻井（2013）のこどもイメージとの関連からも、実習体験の受け取り方に授業の受け取り方、授業理解度が影響していることを読み取ることができた。
4.	2015.3	保育者の専門性研究の動向と課題	単著	道都大学紀要社会福祉学部（道都大学図書紀要編集委員会），第40号, 89-96.	平成23年度の保育士養成課程改正により、保育原理と保育者論が細分化された。これまでも多くの保育者専門性研究が行われきているが、保育者の専門性とし内容を明示しているものはない。テキストや先行研究を精査し8つの共通するキーワードを捉えた。子どもの実態を把握し、発達や生活援助ができること。先を見通した保育計画を立て、それに基づいた環境を構成し保育者間の人間関係を構築でき、積極的に保育に取り組めること。また保護者や地域との良好な関係構築ができるという保育者像である。
5.	2015.3	大学生の児童虐待への意識変化－	共著	道都大学紀要社会福祉学部（道都大学図書紀要	児童虐待防止活動の一環として学生によるオレンジリボン活動を行った。児童虐待についての講義、グループワーク、

		オレンジリボン活動の調査からー		編集委員会），第 40 号，1-7.	リボンや掲示物の作成を行い学園祭で発表を行った。また北広島市保健福祉部とも連携し市が主催する講演会でも発表を行った。その活動を通して学生の意識変化と成長の軌跡を実践報告としてまとめたものである。(飯浜浩幸, 小早川俊哉, <u>櫻井裕介</u> , 他 5 名, pp.1-7. 共同研究により抽出不可能)
6.	2016.3	幼稚園教育要領改訂に向けた教育課程の予備的考察	単著	中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要, 第 49 号, 193-199. (査読有)	平成 30 年実施予定の幼稚園教育要領改訂、保育所保育指針改定による、教育課程と保育課程（全体的な計画）の改訂・改定点を考察したものである。1956 年から実施された幼稚園教育要領の概ね 10 年毎の改訂による、教育課程に関する箇所とこれまでの文部科学省中央教育審議会や厚生労働省社会保障審議会などの報告書をもとに今後の教育課程、全体的な計画の方向性を予備的に考察した。
7.	2018.2	幼稚園における園長による主任保育者選定プロセスの TEM 分析	単著	中村学園大学発達支援センター研究紀要, 第 9 号, 51-57. (査読有)	幼稚園における園長による主任選定プロセスを質的に分析した。現在キャリアパス研修などが行われているが、実際の保育・幼児教育実践の営みの中で求められる主任力を明らかにすることで保育者の成長過程を明らかにすることを目的としている。保育所でも同様の調査を行っている。今後調査件数を増やし、主任に求められる力を明らかにすることで、現職者研修内容の構築と保育者のリカレント教育などにつなげる研究である。
8.	2018.3	学外実習における言語表現教材の実践状況についての調査研究Ⅱー保育者養成課程における全 5 実習の比較を中	共著	中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要, 第 50 号, 29-36. (査読有)	幼稚園教育実習と保育所実習の各初回の比較を行った。学生も実習準備を行い、指導通りに言語表現教材を持参した経験は少なくはなかった。しかし、実習先での指導に差があることが明らかになった。今後、学内の実習担当者と実習先での担当者との関係を密にし、実習指導内容についての相互理解を深める重要性が示唆された。(松尾智則、増田隆、永渕美香子、川俣沙織、 <u>櫻井裕介</u>) デー

		心にー			タ入力分・析担当
9.	2019.3	D 保育所における園長による主任保育者選定プロセスの TEM 分析	単著	D 保育所における園長による主任保育者選定プロセスの TEM 分析	D 保育所における主任選定プロセスを質的研究によって明らかにした。D 保育所では保育所の方針の理解とその実践を体現できる保育者であること。また、それらを実践のみでなく伝えられる力が必要と考えていることが分かった
10.	2019.3	幼稚園教育実習に関する幼稚園の意識	共著	中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要, 第 51 号, 17-31. (査読有)	幼稚園教育実習における、学生の実習体験内容について、幼稚園側の準備する経験内容について調査したものである。これらをもとに学内実習指導内容の精査と幼稚園と大学の要望の差異を明らかにした。(松尾智則、古賀和博、永渕美香子、 <u>櫻井裕介</u>) データ分析担当。
11.	2020.3	幼稚園教育実習に関する幼稚園の意識 2 -佐賀県・大分県調査-	共著	中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要, 第 52 号, 11-27. (査読有)	平成 30 年に行った同調査について、地域差があるのではないかと範囲を広げ再調査、分析を行った。 有意な差異は見られなかったことにより、幼稚園教育実習としての本学科の実習指導に誤りがなかったことが確認できた。
12.	2020.3	保育原理と他科目の架橋を通した学生の理解を深める取り組み	単著	中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要, 第 52 号, 147-151. (査読有)	保育原理を制度や思想家の暗記科目と捉える学生がいることを感じ、教育課程総論、保育内容総論との往還を通じて理解深化に努めた。暗記ではなく、保育者になる者として知っておかなければならない歴史、考え方、制度という捉え方がみられた。
13.	2020.3	E 幼稚園における園長による主任保育者選定の視点 - TEM 分析を通して	単著	中村学園大学発達支援センター研究紀要, 第 11 号, 13-18. (査読有)	E 幼稚園における主任教諭選定プロセスを質的分析で明らかにした。E 幼稚園では、基本的には年功序列での職位決定を基本としていた。経歴が同じ場合は、生活環境を加味して無理なく仕事に取り組める職場環境づくりに注力していた。
14.	2021.3	学外実習の代替となる学内実習の概要と展開 : ICT を	共著	中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要, 第 53 号, 157-165. (査読有)	突然のコロナ禍に見舞われ、保育実習の中断や中止が相次いだ。その折に WEB ツールを用いた保育現場との中継や園長とのリアルタイムのやり取りなど実習単位と同等の時間と学びを確保可能

		活用した保育現場との協働による学内実習プログラムの構築		有)	な計画と実践について報告したものである。(山下雅佳実、永渕美香子、 <u>櫻井裕介</u> 、川俣沙織、井上聡)
15.	2021.3	主任保育者に求められる能力の調査-先行研究を中心に-	単著	中村学園大学発達支援センター研究紀要, 第12号, 9-14. (査読有)	各種研修や先行研究を中心に、主任保育者に求められる能力についてキーワードのように端的に言葉を抽出した。今後の自身の研究の基礎的な部分となる。
16.	2022.3	幼稚園教育実習に関する幼稚園の意識4: 九州7県調査結果	共著	中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要, 第54号, 7-24. (査読有)	継続研究であり、これまでの幼稚園実習に関する幼稚園側の実習、実習生に対する意識調査である。養成校側からの実習の意義、内容について説明や丁寧な文書での案内の必要性が明らかになった。 (松尾智則、宮坂明、永渕美香子、 <u>櫻井裕介</u>) データ分析担当。
17.	2022.12	先行研究からみる保育の質	単著	中村学園大学発達支援センター研究紀要, 第14号, 55-59. (査読有)	先行研究から保育の質について考察したものである。制度的な質、サービスの側面と事例研究を中心とした実質的な保育の質、また各種評価を基にした基準から捉える保育。子どもにとっての保育の質を考えるための基礎的資料となった。
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2019.3	園長による主任保育者選定の視点-H 保育所,D 保育所,C 幼稚園の事例-	単	日本保育者養成教育学会 第3回研究大会 口頭発表	主任保育士を選定する園長の視点を研究していたものを整理した。これまでの質的研究で得た内容をキーワード的にまとめたものである。
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1.	児童養護施設入所児童とメンタルヘルス問題のある親との家族再統合に関する研究	科研費	○飯浜浩幸（星槎道都大学） 杉本 大輔（星槎道都大学） 上原 正希（星槎道都大学） 福富 律（星槎道都大学） 佐々木智城（星槎道都大学） 大島 康雄（星槎道都大学） 吉江 幸子（星槎道都大学）	1,560 千円
2.	食育プログラムに重点をおいた保幼小接続期のスタートカリキュラムの開発と実践	科研費	○田中るみこ（中村学園大学） 新井しのぶ（中村学園大学） 井手 友美（九州大学）	2,990 千円

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等
1.	2018～2022	社会福祉法人和聖会 みらい保育園 園内研修	研修講師
2.	2018.8	教員免許更新講習講師	研修講師
3.	2018～2021	保育士等キャリアアップ研修 北九州市福祉事業団	研修講師
4.	2018～2019	保育士等キャリアアップ研修 久留米市保育協会	研修講師
5.	2021～現在に至る	社会福祉法人吉野福祉会 園内 研修講師	研修講師
6.	2022.11	宗像市保幼小連携研修	研修講師

7.	2019～2020	保育所における自己評価ガイドライン【改訂版】（試案）の試行検証に関する調査研究事業 厚生労働省	調査協力委員
8.	2020～2021	保育所における自己評価ガイドライン周知・広報事業 全国研修講師 厚生労働省	研修講師
9.	2022～現在に至る	北九州市児童福祉施設等第三者評価専門委員	第三者委員
10.	2022～現在に至る	北九州市児童福祉施設等第三者評価 評価項目検討委員	検討委員
11.	2024～	NPO 法人光楽園 保育アドバイザー	外部アドバイザー
12.	2023～	中村学園大学発達支援センター 学外研究委員	学外研究員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

※該当なし（2024 年度入職）

講師

山路 麻佳

■ 学歴

1. 2013 年 国立福岡教育大学大学院修了

■ 学位

1. 2013 年 修士（教育学）

■ 研究分野

1. ピアノ演奏学
2. 音楽表現
3. リトミック

■ 研究キーワード

1. ピアノ演奏表現
2. 音楽教育
3. 幼児の音楽表現
4. リトミック
5. アンサンブル
6. 保育者養成ピアノ教育

■ 研究課題

1. 保育者養成のためのピアノ教育において、ピアノの経験がない初心者への効率的な指導法を弾き歌い伴奏を中心に、幼児の音楽表現と関連させながら考察する。
2. 幼児の音楽表現に関して、リトミックや器楽アンサンブル(合奏)を中心に考察する。
3. ピアノ演奏表現について、ピアノ作品の作曲家や時代背景を中心にして演奏解釈を考察し表現を深める。

■ 担当授業科目

学校法人西南女学院 西南女学院大学短期大学部 保育科

1. 子どものためのピアノⅠ（前期）選択
2. 子どものうたと伴奏法Ⅰ（前期）選択
3. 音楽の基礎（前期）（1年生）選択
4. 保育内容「表現」の指導法(音楽・身体)（前期）選択
5. 子どものためのピアノⅡ（後期）選択
6. 子どものうたと伴奏法Ⅱ（後期）選択
7. 子ども学特別演習（通年）選択

1. 子どもの音楽Ⅱ（前期）選択
2. 子どもの音楽表現Ⅰ（後期）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【子どものためのピアノⅠ】 ピアノの基礎的な演奏技能を学んでいく上で、学生に応じた進度で技術を向上していけるようグループに分けて個人レッスン形式で進めた。個人レッスン以外に、科目担当者のもとで1人2回ずつ中間発表・グループレッスンの機会を設けた。これにより実践を意識してピアノ演奏に取り組むだけでなく、お互いに意見交換をすることで他者の表現を感じ受け止め言葉で伝える大切さや自身の演奏を見つめ直す機会を設けた。
2.	授業科目名【子どものうたと伴奏法Ⅰ】 保育者として音楽を楽しんで表現することができるよう、学生が曲のイメージを広げ、曲に合った伴奏をつくり弾きうたいの演奏ができるよう個々に応じた指導ができるよう授業を展開した。個人レッスン以外に1人2回ずつ中間発表・グループレッスンの機会を設けることで、人前で弾くことに慣れるだけでなく、実践に即した形(保育者(弾き手)・子ども役(歌い手))で発表を行い、それぞれ感想を伝え合うことで保育者に必要なピアノ演奏技術について理解を深められるよう心がけた。2年次になり実習や就職試験など授業外でピアノが課せられることが増え、学生がより実践の場で力を発揮していくことができるよう、課題とは別に実習先や就職試験で求められる曲の指導もしていくよう配慮した。
3.	授業科目名【音楽の基礎】 6つの段階に分けたソルフェージュ教材を準備し、毎回の授業後半に取り組むことでリズム感や基本的な発声について演習を通して理解が深まるようにした。講義の際は机間指導を適宜行いながら進めることで学生から質問を受ける機会を設け、全体の状況を把握できるよう配慮した。これまでの音楽経験から既に音楽の知識をもっている学生と、これから初めて学ぶ学生と様々な経験値の学生がいるため、单元ごとに小テストを行うことでそれぞれの学習状況を把握するとともに復習への意識を高めた。
4.	授業科目名【保育内容「表現」の指導法】 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「表現」についての理解を深めた上で様々な表現活動を行い、楽しみながら音楽的技能や表現力が習得できるよう授業を展開した。 授業の後半では、グループごとに指導案を作成し、模擬保育を行うことで表現への理解を深め実践力を高めることができるようにした。
5.	授業科目名【子どものためのピアノⅡ】 個人レッスンを進めながら、科目担当者のもとで1人2回ずつ中間発表・グループレッスンの機会を設けた。これにより実践を意識してピアノ演奏に取り組むだけでなく、お互いに意見交換をすることで他者の表現を感じ受け止め言葉で伝える大切さや自身の演奏を見つめ直す機会を設けた。 弾き歌いの課題ではコード伴奏を用いた課題を入れることで、前期で履修した「音楽の基礎」での学

	びを踏まえて、知識に加えて演奏を通して理解を深めることで、より実践的なピアノ技能を高められるよう進めた。
6.	授業科目名【子どものうたと伴奏法Ⅱ】 これまでに習得したピアノ演奏技術をもとに、学生の習得状況に応じた個々に合わせた課題を準備し授業を進めた。ピアノ演奏に不安がある学生に対しては、自信をもって現場で演奏していくことができるよう個々の技能に応じた簡易伴奏法を教授した。
7.	授業科目名【子ども学特別演習】 卒業年次のゼミ活動のため、何をテーマに学びを深めたいか学生たちが主体的に考えることができるよう話し合いの機会を多く設けるよう配慮した。 今年度は楽器についての理解を深め、アンサンブルを中心とした活動に取り組んだ。 後期には学生たちがクリスマスコンサートを企画し、本科目を通して新しく習得した楽器を使った様々なプログラムをたて発表を行った。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2018 年 4 月～現在に至る	日本保育学会	会員
2.	2019 年 4 月～現在に至る	九州公私立音楽学会	会員

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
（学術論文）					
1.					
（翻訳）					
1.					
（学会発表）					
1.					
（演奏）					
1.	2023.4.16	北九州オペラシティ音楽祭 2023	ピアノ演奏	シンフォニー合唱団運営委員会	マイスター祝祭管弦楽団とラフマニノフ作曲「ピアノ協奏曲第 2 番 第 1 楽章」を演奏 場所：北九州ソレイユホール
2.	2023.7.30	ファミリーコンサート	ピアノ演奏	福岡青年音楽家協会	ファミリーコンサートにてピアノ独奏・ぐるぐるピアノ連弾を演奏 場所：福岡市早良区市民センターホール
3.	2023.8.3	NHK 全国学	ピアノ伴	NHK	NHK 全国学校音楽コンクール福岡県大

		校音楽コンクール	奏		会において、折尾中学校の伴奏 場所：福岡市民会館
4.	2023.8.6	九州合唱コンクール	ピアノ伴奏	全日本合唱連盟	九州合唱コンクール福岡県大会において、折尾中学校の伴奏 場所：ユメニティのおがた
5.	2023.9.2	わたせせいぞうサイン会	ピアノ演奏	株式会社アップルファーム	わたせせいぞうサイン会においてピアノ演奏 場所：博多大丸
6.	2023.11.3	音団連コンサート	ピアノ演奏	福岡音楽団体連絡会	音団連コンサートにてピアノ演奏 場所：アクロス福岡 円形ホール
7.	2023.12.13	「第九」コンサートむなかた 2023	ピアノ伴奏	むなかた「第九」合唱団	「第九」コンサートむなかた 2023 に向けたピアノ伴奏 場所：宗像ユリックス イベントホール
8.	2024.1.14	八尋 祐子 記念リサイタル	ピアノ伴奏	ホテル日航福岡	ホテル日航福岡新館開業 25 周年記念シリーズ第 1 回目となる八尋祐子氏の記念リサイタルにおけるピアノ伴奏 場所：ホテル日航福岡チャペルプリエール
9.	2024.1.21	北九州音楽協会フェスタ 2024	ピアノ伴奏	北九州音楽協会	北九州音楽協会主催のコンサートにおけるピアノ伴奏 場所：ウエル戸畑 中ホール
10.	2024.2.11	2024 年福岡地区音楽教室発表会	ピアノ伴奏	島村楽器店	島村楽器店主催の音楽教室発表会におけるピアノ伴奏 場所：サンレイクかすや さくらホール
11.	2024.2.23	2024 年福岡地区音楽教室発表会	ピアノ伴奏	島村楽器店	島村楽器店主催の音楽教室発表会におけるピアノ伴奏 場所：福岡市科学館 サイエンスホール
(資格取得)					
1.	2024 年 3 月	リトミック指導資格(上級)		特定非営利活動法人リトミック研究センター	リトミック指導者養成コースにおいて、2 歳児に向けた指導法を習得し指導者として認定された。

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2014 年度～現在に至る	北九州音楽協会	会員
2.	2014 年度～現在に至る	福岡青年音楽家協会	企画委員役員
3.	2023.7.28	九州・山口音楽協会 (第 36 回九州・山口ジュニアピアノコンクール)	審査員
4.	2023.9.17	むなかた第九合唱団 (「さわやかむなかたの森」訪問演奏)	ピアノ伴奏
5.	2023.10.14	第 45 回宮松公民館文化祭 招待演奏	ピアノ演奏
6.	2023.11.12	むなかた第九合唱団 (自由ヶ丘コミュニティセンター芸能祭)	ピアノ伴奏

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年度	学生募集委員	
2.	2023 年度	図書委員	
3.	2023 年度	職員研修委員	
4.	2023 年度	キャンパス・ハラスメント相談員	
5.	2018 年度～現在に至る	大学・短期大学部チャペルアワーにおける奏楽	
6.	2018 年度～現在に至る	入学式・卒業式における奏楽	
7.	2018 年度～現在に至る	クリスマス礼拝における奏楽	
8.	2018 年度～現在に至る	ハンドベルクワイヤーにおける指導指揮	
9.	2023.6.8	ガイダンス(西日本総合展示場)	
10.	2023.6.13	西南女学院高校との高大連携講	

		座	
11.	2023.7.21	直方高校見学会	
12.	2023.11.8	筑豊高校への出張模擬授業	
13.	2023.12.23	シャボン玉石けん株式会社 (家族クリスマス会での招待演奏において、ハンドベルクワイヤーの指揮)	
14.	2023.8.18 2023.12.18 2024.1.12 2024.2.9	ミニオープンキャンパス対応	
15.	2023.12.19 2024.1.13 2024.1.25	Web・来場型個別相談会対応	
16.		高校訪問、Instagram 運営等の学生募集活動	